

「未知への挑戦」とくしま行動計画
～徳島版「SDGs（持続可能な開発目標）」の実装に向けて～

目 次

頁

第1章 計画の基本的な事項

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の基本理念	1
3 計画の性格	1
4 計画の構成	2

第2章 長期ビジョン編（2060年頃の目指すべき将来像）

1 時代の潮流（世界～日本～徳島）	3
（1）人口移動・人材獲得競争時代の到来	3
（2）地球環境問題の深刻化と高まる自然災害リスク	5
（3）加速する「Society5.0」の実装	7
（4）加速するグローバル化・ボーダレス化	8
（5）「東京2020オリンピック・パラリンピック」レガシーの創造	10
（6）世界が共有「持続可能な社会」の実現	11
2 将来ビジョン（2060年頃の姿）	13
（1）未知なる社会へ挑戦「かがやく とくしま」	13
（2）未知なる課題を超越「しなやか とくしま」	14
（3）未知なる魅力を創造「ときめく とくしま」	17

第3章 中期プラン編（手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」）

1 目指すべき姿（10年程度先）と施策の方向性	19
I 「安全実感！強靱とくしま」の実現	20
II 「多様性実感！共生とくしま」の実現	43
III 「魅力実感！輝きとくしま」の実現	58

第4章 行動計画編（今後4年間で取り組む重点施策）

1 「5つのターゲット」と重点戦略	67
2 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」とSDGs	68
3 工程表（「ターゲット」ごとの主な施策と目標）	70
ターゲット1「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	71
ターゲット2「強靱とくしま・安全安心」の実装	99
ターゲット3「発展とくしま・革新創造」の実装	129
ターゲット4「躍動とくしま・感動宝島」の実装	163
ターゲット5「循環とくしま・持続社会」の実装	177
4 計画の進行管理と見直し	197

【参考資料編】

1 徳島県の現状と課題（データで見る徳島）	199
2 県民意見の反映	218
（1）パブリックコメント	218
（2）若者からのご意見・ご提言	218

■凡例（工程表に記載中の部局名）■

<危機>	危機管理部
<政策>	政策創造部
<経営>	経営戦略部
<県民>	県民環境部
<保健>	保健福祉部
<商工>	商工労働観光部
<農林>	農林水産部
<県土>	県土整備部
<監察>	監察局
<出納>	出納局
<南部>	南部総合県民局
<西部>	西部総合県民局
<企業>	企業局
<病院>	病院局
<教育>	教育委員会
<警察>	警察本部

第1章 計画の基本的な事項

1 計画策定の趣旨

- 徳島県では、平成27年度から平成30年度までの4年間の県政運営指針として、平成27年7月、「一歩先の未来」の具現化を掲げた「新未来『創造』とくしま行動計画」を策定しました。
- この間、地方創生の先導役として、消費者庁等の「消費者行政新未来創造オフィス」の本県への開設や新次元の消費者行政・消費者教育の展開、大都市圏からの人の流れを生み出す「とくしま回帰」の加速、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した情報通信関連企業やサテライトオフィスの集積、LEDを基軸とする産業振興や6次産業化のさらなる推進など、全国のモデルとなる各種施策に取り組み、「一歩先の未来」を着実に具現化してきました。
- 我が国が、「人口減少」と「災害列島」という国難とも呼べる課題に直面し、第4次産業革命の進展や巨大経済圏の形成をはじめ、国内外の社会環境が劇的な変化を見せるなど、これまでの常識が通用しない「未知の世界」が眼前に広がる時代を迎え、「地方創生の旗手」と呼ばれた徳島こそが「未知の世界」に挑戦し、「地方創生」から「日本創生」を成し遂げ、日本全体を「持続可能な社会」へと導くことが期待されています。
- 「平成」から「令和」へと元号が変わり、新しい時代の幕が開ける中、徳島ならではの「知恵と工夫」に一層の磨きをかけ、こうした期待に応える道標として、本県が目指すべき将来の姿と、その実現に向けて今後4年間で取り組む施策を示す

『未知への挑戦』とくしま行動計画 ～徳島版『SDGs（持続可能な開発目標）』の実装に向けて～

を策定するものです。

2 計画の基本理念

- 基本理念は、「**国難打破！未知の世界の羅針盤・とくしまの実現**」です。
- 「一歩先の未来」を具現化し、「地方創生の旗手」と呼ばれた徳島こそが国難を打破し、日本全体を「持続可能な社会」へと導いていく、「未知の世界の羅針盤・とくしま」づくりを進めます。

3 計画の性格

- 『**未知への挑戦**』とくしま行動計画は、県政運営指針として、県が進める政策の基本的な方向をまとめたものであり、「徳島県版・総合戦略[※]」をはじめとする個々の計画に対し、最上位の総合的な計画として、毎年度の予算編成や事業の立案などの基本となるものです。

4 計画の構成

- 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』では、
 - ・本格的な人口減少社会の到来やグローバル化・ボーダレス化の加速など、本県を取り巻く環境が大きく変化する中、長期的な視野に立って、本県の現状や今後の課題を的確に把握したうえで、県民と共有する「徳島の目指すべき将来像」を示す「**長期ビジョン編**」
 - ・「長期ビジョン編」を踏まえ、手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」である「**中期プラン編**」
 - ・「中期プラン編」を達成するために今後4年間で取り組む重点施策を、具体的な数値目標や達成年度などの工程で明示した「**行動計画編**」

の**三層構造**からなり、今後の県政を計画的に推進していくための基本となります。

【計画の構成イメージ図】



第2章 長期ビジョン編 (2060年頃の目指すべき将来像)

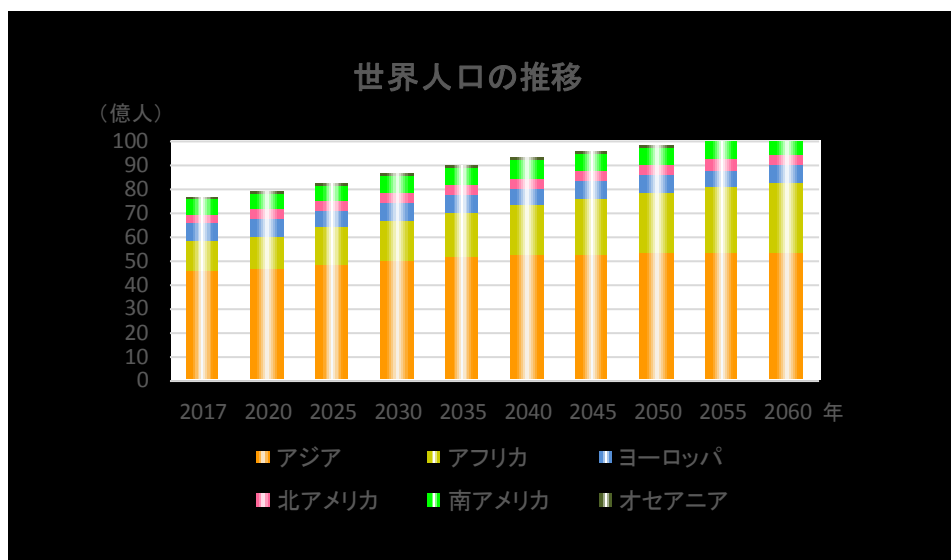
1 時代の潮流 (世界～日本～徳島)

(1) 人口移動・人材獲得競争時代の到来

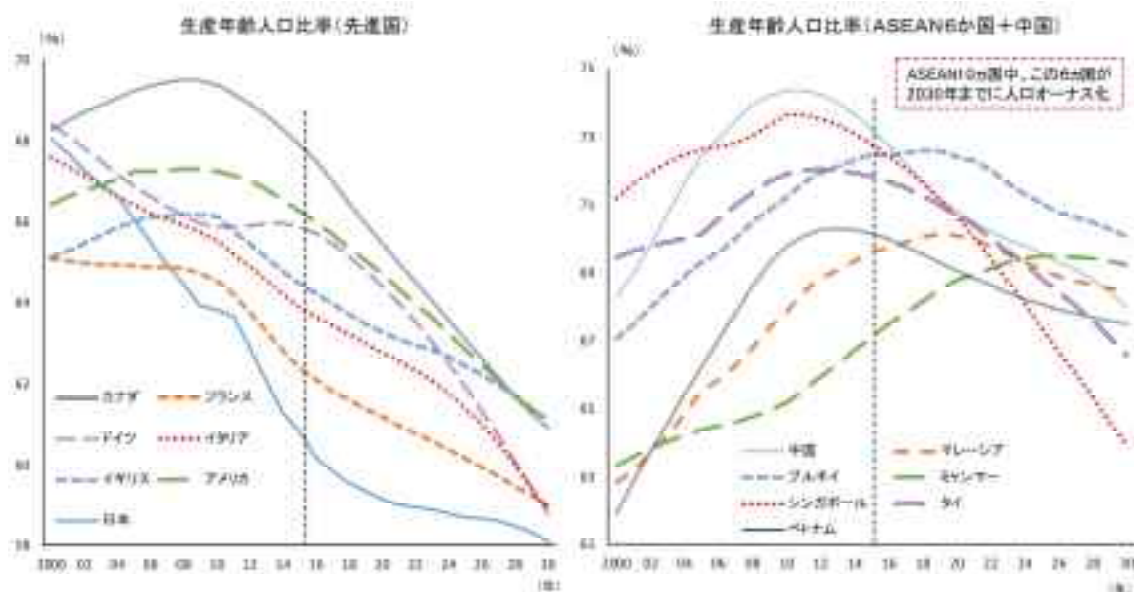
世界人口は2060年に100億人を突破する一方、高齢化が進行

世界の人口は、アジア・アフリカを中心に爆発的に増加し、2017年の約75.5億人から、2030年に約85.5億人、2055年には100億人を突破し、2060年には102.2億人にまで達すると予測されています。

一方で、日本をはじめ、欧米先進国や中国では、既に生産年齢人口(15～64歳)比率の低下が継続する状態「人口オーナス期」に入っており、2030年までには、ASEAN(東南アジア諸国連合)の多くの国々でも同様にオーナス期入りすると見込まれ、経済のグローバル化・ボーダレス化が一層進む中、世界的な人材獲得競争の激化が予想されています。



世界各国の人口オーナス期入り



(出典) 経済財政諮問会議「2030年展望と改革タスクフォース報告書」

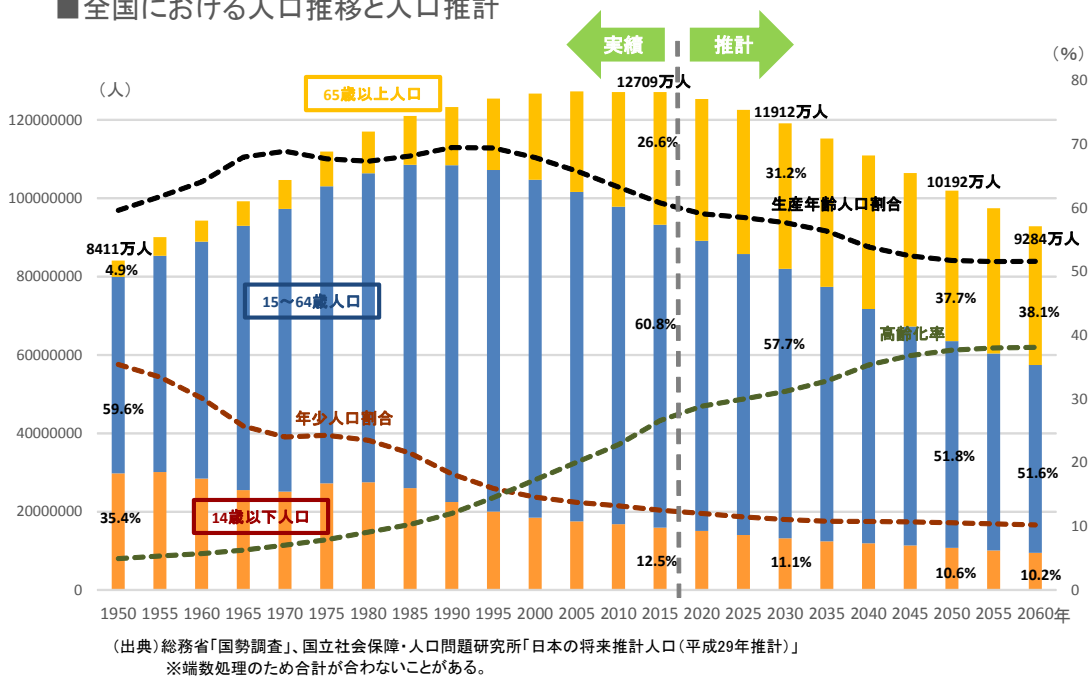
我が国人口は1億人を割り込み、生産年齢人口はさらに減少

我が国は、世界に例を見ない速さで人口減少と高齢化が進み、人口は2015年の約1億2千7百万人から、2030年に約1億1千9百万人、2053年には約9千9百万人と1億人を割り込み、2060年には、約9千2百万人にまで減少すると予測されています。

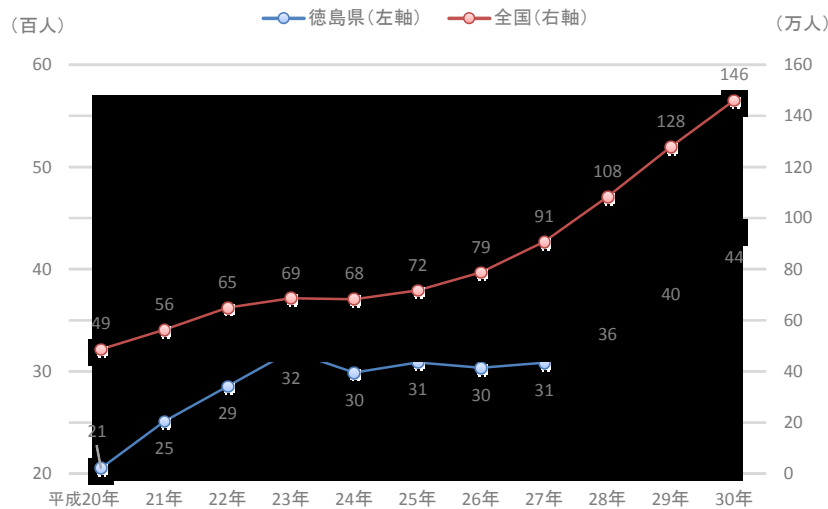
年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少の一途をたどり、老年人口（65歳以上）は、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入った後の2042年に約3千9百万人でピークを迎え、その後は一貫して減少に転じ、2050年に約3千8百万人（37.7%）、2060年には約3千5百万人（38.1%）と、全人口の約4割が65歳以上となる見込みです。

一方、国内の外国人労働者は徐々に増加してきており、2008年に約49万人であったものが、2018年には約146万人と、10年間で約3倍の増加となっています。国においては、今後ますます深刻化する人手不足に対応するため、外国人材の受入れ拡大に向けた取組みが進められています。

■全国における人口推移と人口推計



外国人労働者数の推移(全国・徳島県)



(出典) 厚生労働省『「外国人雇用状況」の届出状況まとめ(各年10月末現在)』

エイジレス、ダイバーシティ社会「とくしま」の実現へ

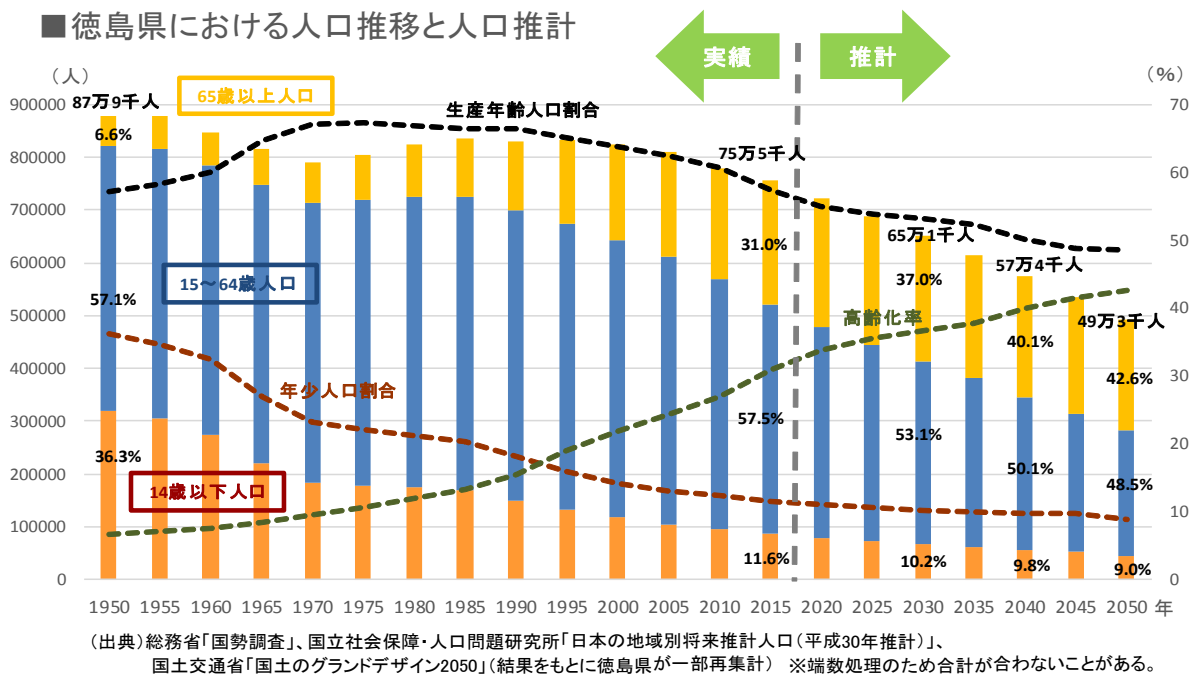
本県では、全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2015年の約76万人が、2030年に約65万人、2045年には約54万人にまで減少すると予測されており、2050年には50万人を割り込むとの試算（493千人：「国土のグランドデザイン2050」）もあります。

年少人口（0～14歳）は減少が続き、2015年の約9万人（11.6%）が、2030年には約7万人（10.2%）、2045年には約5万人（9.8%）となる見込みです。

生産年齢人口（15～64歳）も同様に減少を続け、2015年の約43万人（57.5%）が、2030年には約35万人（53.1%）、2045年には約26万人（48.8%）にまで減少します。

老年人口（65歳以上）は、2015年の約23万人（31.0%）が、2030年に約24万人（36.7%）、2045年には約22万人（41.5%）となる見込みです。

人口減少、少子高齢化、労働力不足といった課題を抱える一方、さらなる平均寿命の延伸も予測されています。「人生100年時代」を見据え、すべての世代の人々が意欲・能力を活かして活躍することができる「エイジレス社会」、また、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もがいきいきと暮らすことができる「ダイバーシティ社会」の実現が求められています。



(2) 地球環境問題の深刻化と高まる自然災害リスク

地球環境問題の深刻化、世界に広がる「脱炭素社会」へのシフト

人類に生活の利便性や豊かさをもたらした世界規模での工業化の進展は、一方で、エネルギー消費の増大による地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少といった深刻な地球環境問題を引き起こしています。

とりわけ、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、豪雨や猛暑などの異常気象の頻発といった自然災害リスクの増大が差し迫った課題として憂慮されているほか、世界的な人口増加や新興国の経済成長などと相まって、水不足や食料不足なども懸念されています。また、海面上昇による居住地域の減少や、熱中症・感染症の増加などの影響が生じつつあり、温室効果ガスの削減は、人類共通の喫緊の課題となっています。

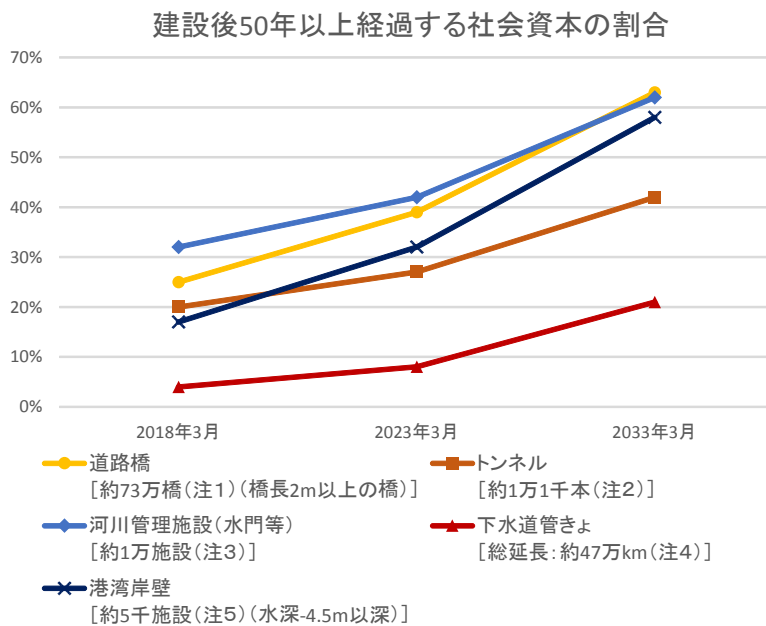
2015年12月に採択されたパリ協定は、国際的な気候変動への対応として、『世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること』として、世界の多くの国々が「脱炭素社会」の実現に向けた取組みを加速させています。

高まる自然災害リスクと確実に迫り来る巨大地震

近年、異常気象や大きな自然災害が頻発している我が国でも、今世紀末頃には、20世紀末頃と比べて年平均気温が2.5～3.5℃上昇し、短時間に降る大雨が増加するといった予測（気象庁「異常気象レポート2014」〈平成27年3月20日公表〉）もあり、今後、自然災害の危険性が更に高まることが危惧されます。

また、今後30年以内に、首都直下地震（M7クラス）が70%程度（中央防災会議「首都直下地震対策検討WG最終報告」〈平成25年12月19日公表〉）、南海トラフ地震（M8～9クラス）が70～80%程度（地震調査研究推進本部「活断層及び海溝型地震の長期評価」〈平成31年2月26日公表〉）の確率で発生するとの予測が公表されており、巨大地震発生への社会的な備えが急務となっています。

特に、高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾などの社会インフラについては、今後、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高まっていくと想定されています。地球温暖化防止につながる自然エネルギーの最大限の導入や森林吸収源対策とともに、大規模自然災害に耐えうる強靱な国づくりが喫緊の課題となっています。



注) 1 道路橋約73万橋のうち、建設年度不明橋梁の約23万橋については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)
 2 トンネル約1万1千本のうち、建設年度不明トンネルの約400本については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)
 3 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,000施設を含む。(50年以内に整備された施設については概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)(2017年度集計)
 4 建設年度が不明な約2万kmを含む。(30年以内に布設された管きよについては、概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)(2017年度集計)
 5 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)

(出典)国土交通省「国土交通白書2018」

徳島ならではの気候変動対策と地震災害への備えを加速へ

本県では、南海トラフ地震はもとより、近年、大型化する台風や線状降水帯により頻発化・激甚化する豪雨災害、複数の自然現象が同時又は連続して発生する「複合災害」などに対して、「事前復興」の考え方を基本に、事前防災・減災対策の強化や速やかな復旧・復興に向けた取組みを推進しています。

また、気候変動対策に寄与する「脱炭素社会の実現」を掲げた条例を全国で初めて制定するなど、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、既に現れている影響や中長期的に避けられない影響に対して、被害を回避・軽減する「適応策」を両輪とした取組みを展開しており、さらに強化していく必要があります。

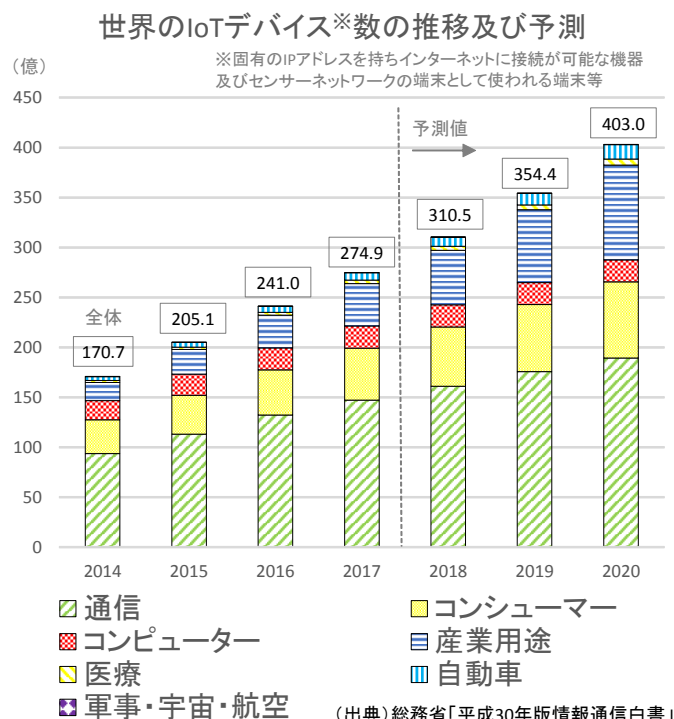
さらに、南海トラフ地震の発生確率が高まる中、東日本大震災をはじめ、過去の地震災害の教訓を踏まえた、「死者ゼロ」を目指す取組みを一層加速させ、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を備えた「県土の強靱化」を実現することが求められています。

(3) 加速する「Society5.0」の実装

「第4次産業革命」がもたらす大変革

現在、世界の国々では、ICT機器の爆発的な普及とともに、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技術がけん引する「第4次産業革命」が急激な進展を見せており、様々な製品、サービスの開発や社会実装が次々と進み、生活のあり方に大きな変化をもたらしています。

5G（第5世代移動通信システム）サービスも開始され、革新技術によるイノベーションは、今後さらに進展すると考えられており、生産や販売、消費といった経済活動に加え、健康や医療、公共サービス、さらには人々の働き方などを根底から変えていくとともに、国連の「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）」に代表される人類共通の課題解決や世界全体の持続的発展に寄与することが期待されています。



経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」の実現

我が国は、急速に進む人口減少・少子高齢化や地球環境・エネルギー問題への対応など、様々な社会の課題に直面する「課題先進国」ですが、優れた技術力や研究開発力、潜在能力の高い人材層などの強みを合わせ持っています。

革新技术を生み出し、社会実装を進めることにより、労働力不足の解消や生産性の向上を図り、経済成長や健康長寿社会の形成につなげるなど、世界を先導する変革モデルを実現できる大きな可能性を有しています。

こうした背景のもと、革新技术をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と同時に、様々な社会的課題の解決を図り、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を享受できる未来社会「Society 5.0」の実現を目指すこととしています。今後、我が国の潜在成長率を大幅に引き上げ、国民所得や国際競争力の向上に大きく寄与すると考えられています。

「超スマート社会・とくしま」の具現化へ

本県では、全国に先行して人口減少、高齢化・過疎化が進む一方、全国屈指の光ブロードバンド環境を活かした情報通信関連産業や人材の育成・集積が図られるなど、革新技术の社会実装フィールドとして適した環境にあります。

本格的な5G時代の到来を見据え、産業、防災、福祉をはじめ行政に至るまで、社会のあらゆる分野において、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなど革新技术の社会実装を加速させ、地域が直面する諸課題を解決する、徳島ならではの「超スマート社会」を具現化する取り組みを展開し、我が国が目指す「Society 5.0」の実現をリードしていくことが期待されます。

(4) 加速するグローバル化・ボーダレス化

経済活動の自由化の加速、ボーダレス化の拡大

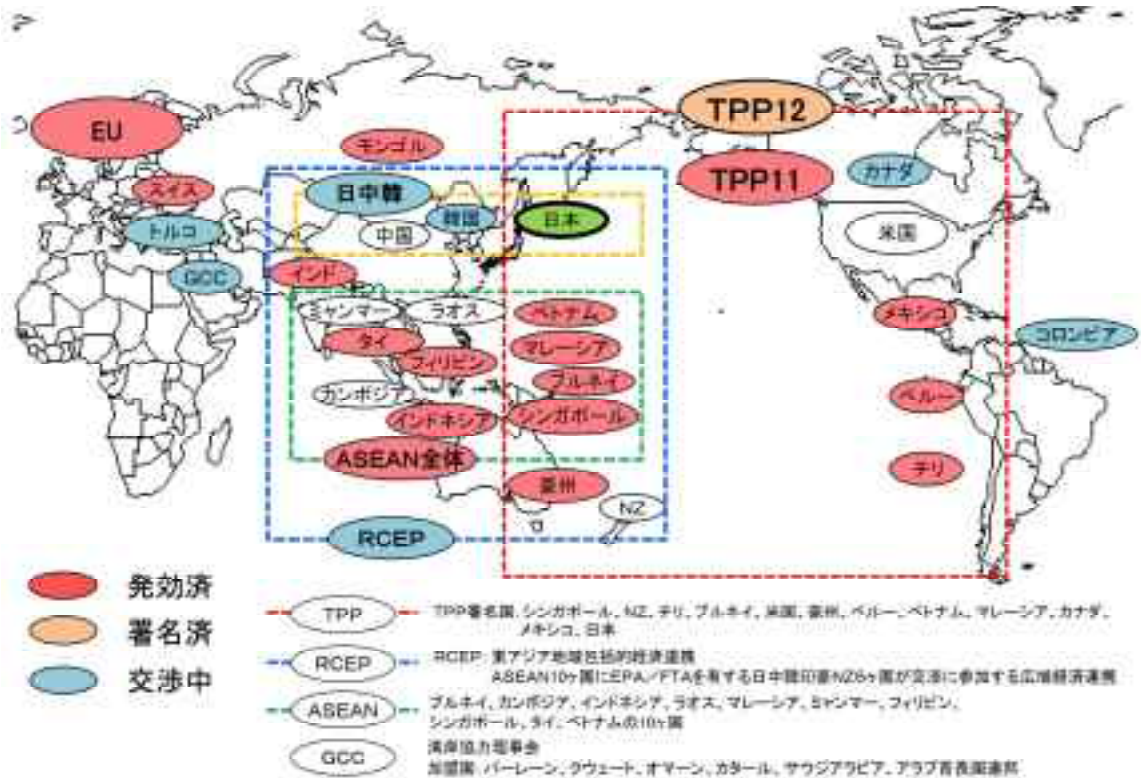
世界規模での経済的な相互依存の深まりや、近年のICTの劇的な進歩などにより、ヒト・モノ・カネ・情報の流動性が一層高まるとともに、グローバル化・ボーダレス化の流れが一段と加速しており、あらゆる面において、国家・都市間の競争が激化しています。

国際的な自由貿易の流れが広がり、二国間・多国間でのFTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協定）などの地域貿易協定によって、経済連携を図る動きが活発化しています。

また、インターネット利用者の拡大や電子決済手段の多様化が世界的に進む中、インターネットを介し国境を越えて商品・サービスを売買する電子商取引（EC）が急速に拡大しており、世界の越境EC利用者数は、2020年には9億人を超え、市場規模は約1兆ドルにまで拡大する見込みです。

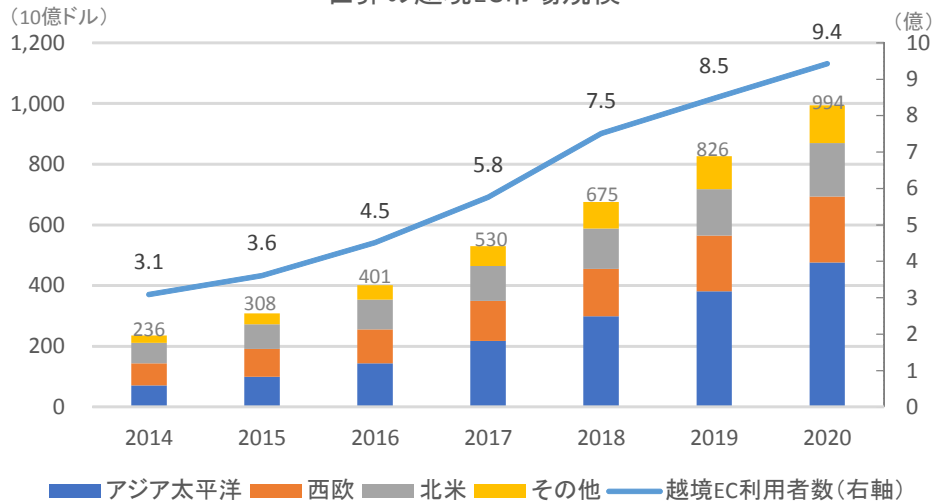
さらに、ECの拡大を支えるITプラットフォームを提供する企業が存在感を増しており、インターネットを介したシェアリングサービスの展開、膨大なビッグデータを活用した自動運転技術の開発やヘルスケア産業への進出といった既存の事業モデルを覆す新しいビジネスモデルを誕生させるなど、ボーダレスな経済活動は今後ますます広がると見込まれます。

我が国の経済連携交渉の状況



(出典) 農林水産省資料「経済連携交渉の状況について (平成 31 年 4 月)」

世界の越境EC市場規模



(出典) 経済産業省「通商白書 2018」

TPP11等の巨大経済圏の形成、「インバウンド新時代」の到来

我が国では、人口減少による国内市場の縮小が見込まれる中、自由貿易の拡大や経済連携の推進を通商政策の柱に据え、成長著しいアジア地域、カナダ、メキシコ、オーストラリアなど、11カ国間でモノ、サービス、投資等の自由化を定めるTPP11や、EU28カ国との経済連携協定となる日EU・EPAなど、地球規模での経済圏を拡大し、経済成長を促していくこととしています。

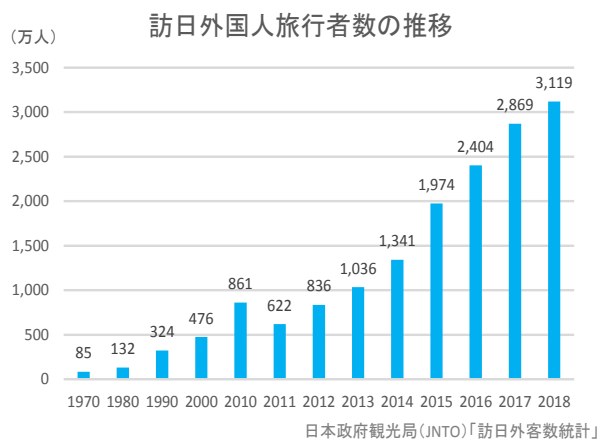
また、インバウンド誘客を成長戦略や地方創生の柱と位置づけ、「東京2020オリンピック・パラ

リンピック」が開催される『2020年・4千万人』、さらに『2030年・6千万人』との目標を掲げ、観光を我が国の基幹産業へと成長させる取組みを加速させています。

世界の成長力を取り込み、徳島経済の飛躍へ

グローバル化・ボーダレス化の進展に伴い、世界規模で競争が激化する中、本県では、県内産業の競争力強化や、海外での販路拡大、インバウンド誘客を積極的に進めるとともに、国際的な視野を持ち様々な分野で活躍する若者をはじめ、本県の未来を担う人材育成に取り組んでいます。

今後、世界的なEC市場のさらなる拡大や、電子決済の普及によるキャッシュレス社会の進展を見据えた取組みを推進するとともに、東京2020大会や2025年大阪・関西万博を契機として、一層の増加が期待されるインバウンド誘客に向け、本県の自然・歴史・文化・食などの魅力あふれる観光資源を活用したコンテンツに磨きをかけ、世界の成長力を取り込み、本県のさらなる経済飛躍につなげていくことが求められています。



(5)「東京2020オリンピック・パラリンピック」レガシーの創造

社会の進歩に向けたスポーツの持つ重要な価値

世界各国のスポーツのあるべき指針、ユネスコ「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」において、「体育・身体活動・スポーツ」の実践は、すべての人の基本的権利とし、スポーツは教育や健康増進だけでなく、困難に直面した人に生きがいを与え、社会的連携を強化し、自然災害からの復興や国際社会の平和構築に大きな役割を果たすものとされています。

特に、オリンピック・パラリンピック競技大会は、開催国の人々や社会に様々な有形無形の“良い影響(レガシー)”をもたらしてきた歴史があり、近年はオリンピックムーブメントの一環としてレガシーが重視されるようになっていきます。

国際社会においては、社会・経済の発展はもとより、SDGsの達成にもつながるものとして、オリンピックをはじめ、スポーツが持つ価値への関心が高まっています。

世界中から注目が集まる「日本」

我が国では、ラグビーワールドカップ2019を皮切りに、夏期五輪として56年ぶりの日本開催となる東京2020大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西と、3年連続で国際スポーツ大会が開催されることとなっており、世界中から大きな注目を集めています。

国際スポーツ大会の開催を契機として、国や世代を超えたスポーツ交流を活発にし、“スポーツ

立国・日本”を実現するとともに、文化の祭典でもある東京 2020 大会においては、日本の多様な文化・伝統などの価値を“ジャパンプランド”として世界に発信することにより、外国人旅行者を呼び込むなど、地方創生につなげていくこととしています。

徳島ならではの文化・スポーツレガシーの創造へ

世界最大の“スポーツ・文化の祭典”である東京 2020 大会では、公式エンブレムの「組市松紋」に「ジャパンプルー・藍色」が採用され、県民が“あわ文化”の魅力を再認識する機会になるとともに、東京 2020 大会などの事前キャンプの県内実施や、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の競技種目の本県開催により、県民がスポーツに取り組む気運が高まっています。

こうした大会で得られるノウハウや人脈、大会にあわせて機能を拡充したスポーツ施設を最大限活用し、国内外からのスポーツ大会の誘致、トップアスリートの輩出、県民誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりにつなげていくとともに、本県が誇る“あわ文化 4 大モチーフ”である「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン・第九」に一層磨きをかけ、国内外に強力に発信するなど、徳島ならではの文化・スポーツレガシーを創造していくことが求められています。

(6) 世界が共有「持続可能な社会」の実現

「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進

2015 年 9 月の国連総会で、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。2030 年までの「持続可能な開発目標（SDGs）」として、17 のゴール（目標）と 169 のターゲットが掲げられ、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」社会の実現を目指し、国連に加盟するすべての国が、あらゆる形態の貧困や飢餓の撲滅、質の高い教育の確保、気候変動やその影響の軽減などに取り組むこととしています。

日本の「SDGs」の確立

我が国においては、国を挙げて SDGs を推進する司令塔として、内閣総理大臣を本部長とした「SDGs 推進本部」が設置され、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンとして、「あらゆる人々の活躍の推進」や「省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会」など、特に注力すべき 8 つの優先課題を中心に、SDGs 達成のための幅広い取組みを進めています。

「SDGs」の理念を具現化する「徳島モデル」を全国・世界へ

本県では、地球規模の喫緊の課題である環境問題に対し、「緩和策」と「適応策」を両輪とする気候変動対策への取組みや、脱炭素社会の実現に向けた水素エネルギーや自然エネルギーの積極的な利用、また、環境、人、社会、地域などに配慮した「エシカル消費」の推進など、持続可能な社会を構築するため、SDGs の理念にも通じる各種の取組みを全国に先んじて進めています。

その取組みは、まさに地方創生の実現にも資するものであり、経済、社会、環境の調和する持続可能な社会を実現するため、一層加速させていくことが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2 将来ビジョン（2060年頃の姿）

（1）未知なる社会へ挑戦「かがやく とくしま」

一人ひとりが夢や希望を持ち、その実現に向かって、
誰もが輝くことのできる徳島

【人生100年時代、元気な高齢者が地域で活躍するエイジレス社会が実現している】

- ・最先端の医療サービスや健康経営・予防の取組みにより、健康寿命は大きく伸び、豊かな自然や食に恵まれ、保健・医療・介護をはじめとする暮らしのサポートが充実した徳島では、多くの県民が年を重ねながら住み慣れた地域で元気に暮らし、人生を楽しむことのできる「人生100年時代」を迎えています。
- ・県民誰もが、年齢に関わりなく、培ってきた知識や経験、技能を活かし、仕事や社会活動などを通じて、地域でいつまでも活躍し続けられる「エイジレス（生涯現役）社会」が実現しています。

【子どもたちの笑顔が地域にあふれ、未来を切り拓くたくましい若者が育まれている】

- ・「子どもは宝」という意識が社会全体に浸透し、若い世代が希望をもって働くことができ、安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる社会経済環境が実現しています。
- ・ICTの飛躍的な進展により、テレワークなどの柔軟で多様な働き方が一層広まり、ライフスタイルに応じた子育て環境の選択が可能になるとともに、多彩な幼児教育・保育サービスの提供や、経験豊富な高齢者による育児支援といった地域ぐるみで支える子育て環境が充実しています。
- ・学校、家庭及び地域の連携や特色ある教育により、生きる力を支える学力や多様な価値観を身に付け、郷土への理解や愛着を深めた多くの若者が、「ふるさと徳島」への誇りを抱き、社会へ巣立っています。
- ・IoTやAIの活用により、どこに住んでいても多様な学習の機会や学びの環境が整えられ、障がいのある子どもも障がいのない子どもも、希望する場所で習熟度に応じたきめ細やかな教育を受けながら、個性や能力を最大限に伸ばしています。
- ・英語教育や留学、異文化体験を通じた人材の育成や、産業界・地域と連携したキャリア教育が、VR（バーチャルリアリティ）による体験学習なども活用しながら、子どもの発達段階に応じて体系的に行われ、幅広い視野や勤労観・職業観を身に付けた、未来を創造するたくましい若者が世界を舞台に活躍しています。

【誰もが健康的で質の高い生活を送ることのできる社会が実現している】

- ・幼少期からの食育や「地産地消」の推進により、バランスのとれた食生活や、適度な運動や健康づくりを楽しむ習慣が浸透し、生涯健康を保ち、生活の質（QOL）の高い暮らしが実現しています。
- ・医師の「地域偏在」や「診療科偏在」が解消し、広域救急医療体制が更に充実するとともに、遠隔医療システムや機能補助スーツ・ロボットによるサポート、医療・福祉・介護の包括的な連携・充実が図られ、県民誰もが住み慣れた場所で安心して暮らせる地域社会が実現しています。

- ・VRや歩行支援ロボット、コミュニケーション支援技術の進展により、障がいのある人もない人も、若者から高齢者まですべての人がともに様々なスポーツやレジャーを楽しんでいます。
- ・産学金官の連携や県民意識の醸成など県を挙げた取組みにより、世界的な課題であった糖尿病を克服するとともに、世界レベルの研究開発臨床拠点として国内外から製薬企業や研究開発機関が集積し、IoTやAIを活用した高度な医療研究が進められ、研究成果をもとに幅広い分野で新たな医療・サービスが生み出されるなど、世界の健康長寿にも貢献しています。

【誰もがいきいきと暮らし、学び、働き、活躍することのできる“ダイバーシティ徳島”が創り出されている】

- ・年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての人が安心して暮らし、自立しながら支え合い、個性や能力を発揮して自己実現できる「ダイバーシティ徳島」が実現しています。
- ・性別に関わらず、様々な分野での活躍やキャリアアップが可能となり、また、育児や介護に携わることが当たり前になるなど、男女が互いに尊重し合いながら社会の中で充実した人生を送っています。
- ・誰もがライフステージや年齢に関わらず、人生をより充実させるための学び直し「リカレント教育」を受けることができ、柔軟な職場復帰や転職などができる労働環境が整っています。
- ・ICTの飛躍的な進展により、テレワークをはじめとする多様な働き方が一層進化し、ワーク・ライフ・バランスが図られ、長時間労働や過労死が根絶され、働く時間や場所に縛られず、いつでも、どこでも働くことのできる環境が整い、一人ひとりが“働き方を選ぶ”社会が実現しています。

【人と人、人と地域のつながりの和が広がっている】

- ・「共助・共生」の意識が浸透し、福祉や教育、環境保全、まちづくりなど、生活を取り巻くあらゆる領域で、住民やNPO、企業をはじめとする多様な主体による活動が地域を支えています。
- ・地域のキーパーソンが中心となり、代々受け継いできた地域資源をベースに多様な人材や異文化との連携により、地域活性化や環境活動などの社会的課題の解決を図るソーシャルビジネスなどが活発に取り組まれています。
- ・行政サービスと地域の共助活動が融合し、住民サービスが、住民主体のシェアリングエコノミーとして提供されるなど、「新たな公共私」の協力関係が構築されています。
- ・阿波おどりや人形浄瑠璃などの伝統文化や県人会活動などを通じて、全国に暮らす徳島と関わりを持つ人々との「新たなつながり」が生まれ、徳島の「ファン」が広がり、「人の絆」の力で地域課題の解決が図られ、持続可能で魅力ある地域社会が形成されています。

(2) 未知なる課題を超越「しなやか とくしま」

いかなる困難もしなやかに乗り越え

強靱で、経済や環境とも調和した持続可能な社会・徳島

【自然災害に強いまち・地域・人づくりが進んでいる】

- ・あらゆる災害から県民の生命、財産、経済活動を守り、また速やかな復旧・復興につなげるため、「事前復興」の考え方を基本に、ハード・ソフト両面から県土の強靱化が図られています。
- ・公共施設や民間建築物の耐震化をはじめ、避難施設や緊急輸送道路の整備、集中豪雨や大型化する台風の襲来に備えた治水・土砂災害対策などの事前防災・減災対策が進むとともに、IoTやAI等を活用したインフラの戦略的・効率的な維持管理がなされ、災害に強くしなやかな県土が広がっています。
- ・県内全域において、自助・共助・公助の連携や、自主防災組織による取組みが活発に行われるなど、地域ぐるみの防災力が向上しています。
- ・幼少期からの防災教育等により、県民一人ひとりに防災意識が定着し、地域防災リーダーを中心に事前復興計画の策定や主体的な避難行動につながる防災訓練が行われるなど、自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれています。

【安全・安心な暮らしと豊かな自然が息づいている】

- ・本県が取り組んできた「ライフステージに応じた消費者教育」やSDGsを見据えたエシカル消費の普及、高齢者や障がい者等の消費者被害防止のための「見守りネットワークの構築」などの取組みが全国のスタンダードとなり、「徳島スタイル」の消費社会が定着しています。
- ・安全・安心な農産物などの県産食品の供給や、幼少期からの食育、地産地消の浸透、食品の表示適正化などの取組みにより、安全で安心な食生活や豊かな食文化が継承されています。
- ・地域住民と警察・行政等が一体となった交通安全運動や防犯活動の広まりにより、交通事故が減少し、特殊詐欺やDV、ストーカー、薬物乱用といった日常生活を脅かす犯罪等が根絶された社会が実現しています。
- ・適切な污水处理などにより清潔で快適な生活環境が確保され、豊かな水辺空間を求めて子どもから高齢者まで多くの人々が訪れ、楽しんでいます。
- ・ブナ林などの貴重な自然林が大切に守られるとともに、生態系バランスの崩壊や農林水産業被害を招く野生鳥獣の適正管理が的確に行われ、本県の恵み豊かで魅力ある自然が将来世代に引き継がれています。
- ・農山漁村や中山間地域では、自然環境と調和した美しい景観を活かした地域づくりが定着するとともに、伝統的な農林水産業の文化的価値が世界的に認められた「にし阿波の傾斜地農耕システム」をはじめ、徳島ならではの豊かな自然と潤いのあるふるさとの風景が新たな価値を生み出しています。

【環境・経済・社会の調和する持続可能な社会が創り出されている】

- ・県民一人ひとりから社会全体にいたるまで、自然との共生や資源の有限性、地球規模の環境問題など、社会的課題への意識がさらに高まり、環境にやさしいライフスタイルや社会経済システムが選択され、環境・経済・社会の調和する持続可能な社会が創出されています。
- ・エコカーなどの環境に配慮した製品・サービスの購入や、プラスチックごみや食品ロスの削減、モノの所有から必要なときに必要な量だけ利用する「共有（シェア）」への意識転換など、持続可能なライフスタイルが広がっています。
- ・「電気」、「燃料電池（FC）」利用のモビリティシステムが普及するなど、環境にやさしいヒトやモノの移動スタイルが確立しています。

- ・自然エネルギーが主力電源となり、県内各地において、まちづくりや景観と調和した太陽光発電をはじめ、小水力発電、豊富な森林資源を活用した木質バイオマス発電やその熱利用が広まり、地域分散型のエネルギーシステムが確立され、「エネルギーの地産地消」が実現しています。
- ・公有林化が進んだ森林は、間伐や広葉樹林化により多様な生物が生息する豊かな森へと生まれ変わり、水資源の確保や土砂災害の防止、カーボン・オフセットを活用した温暖化対策の推進など、県民生活に様々な恩恵をもたらしています。
- ・地球温暖化による気候変動に対しても、農産物の品種改良や企業のビジネスモデルの転換などの「適応策」が社会経済システムの中に浸透し、強靱でしなやかな県民生活が確立されています。

【すべてのヒト・モノ・地域がつながる“超スマート社会”が実現し、誰もが豊かな暮らしを享受できる社会が実現している】

- ・IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技術が県民生活のあらゆる場面に実装され、すべてのヒト・モノ・地域がつながり、様々な知識や情報が共有され、県民誰もが必要な時に、必要な情報・モノ・サービスを受けることができる「超スマート社会」が実現しています。
- ・産業活動において生産性の向上や新たなサービス・付加価値が生み出されるとともに、くらしの面では、時間・場所に縛られない多様な働き方・学び方や、AIやロボットによる子育て・介護サービスなどが実現し、地域においては、自動運転によるモビリティサービスや現金を必要としないキャッシュレス社会が実現するなど、革新技術によってあらゆる分野に“変革”がもたらされ、県民誰もが豊かな暮らしを享受しています。

【革新技術が幅広くあらゆる産業に取り入れられ、生産性の向上や新たな付加価値を生み出している】

- ・あらゆる産業に革新技術が取り入れられ、これまで分散していた情報やテクノロジーの融合が生まれ、資源・エネルギー使用の効率化や労働力不足への対応などの社会的課題の解決や、新たな価値の創造につながっています。
- ・ものづくり分野では、AI、ロボットによる生産管理の自動化・効率化が進むとともに、消費者ニーズをリアルタイムできめ細かくとらえ、個々のニーズに応じた製品・サービスを提供する新たなビジネスモデルが構築されています。
- ・農林水産業では、栽培管理等に革新技術の活用が進むことで、生産性が飛躍的に高まり、高い付加価値を生み出す成長産業へと進化を遂げています。
- ・道路、河川、上下水道、学校などの社会インフラの維持管理においては、ドローンやIoTによる状況把握、AIによる損傷診断、ロボットによる危険箇所点検など、高精度かつ効率的な管理が可能となり、安全安心な社会インフラが保たれています。
- ・進化したVRや3次元映像などにより、本場・徳島の阿波おどりが放つ熱気や高揚感が世界中にリアルに伝わり、“阿波おどりの聖地・徳島”を訪れるインバウンド客が増え続けています。
- ・AIやARによる多言語に対応した自動翻訳や情報提供サービスが普及し、世界各国から来県するインバウンド客は県内のどこでも円滑なコミュニケーションが可能となり、旅行者は県民との交流を深め、徳島の旅を楽しんでいます。

【3】未知なる魅力を創造「ときめく とくしま」

未来を切り拓くひとが育ち・集い・輝くことで、ひとを惹きつける
新たな価値や魅力を創造する徳島

【地域の強みとイノベーションが結びつき新産業が創り出されている】

- ・世界最先端のイノベーション創出環境を求めて、多くのベンチャー企業や研究開発機関が集まり、次世代LEDをはじめ光関連分野、ICTや環境・エネルギー、医療・健康分野、CNF（セルロースナノファイバー）などの高機能素材分野において、多様な産業・人材集積を活かした新産業・新サービスの創出やグローバル展開が図られています。
- ・徳島が誇る2つのブルー「LED」と「藍」によって織りなされる製品や、優れた機能・デザインが人気を集めている木工家具など、徳島の産業の粋を集めた“MADE IN TOKUSHIMA”が世界中で愛されています。
- ・徳島の風土によって育まれた「安全・安心」、「高品質」を誇る徳島の農林水産物が世界で認められ、海外輸出が飛躍的に増大するとともに、6次産業化やECによる販路拡大が図られるなど、本県の農林水産業が、国内外の「食」を支えています。
- ・豊かで良質な森林資源とドローンやICTを活用した適切な森林管理、優れた木材加工技術を背景に、県産材製品の販路が国内外に広がるとともに、“川上”から“川下”まで、森林資源による持続可能な循環型経済システムが確立され、林業アカデミーの卒業生が徳島の森でいきいきと活躍しています。

【未来を創る人財が育ち・集い・新たな価値が生まれている】

- ・AIやロボットが多く職業に取り入れられる中、徳島ならではの人づくり・人財育成の取り組みによって、創造性やコミュニケーション、情報・ICTリテラシーといった「21世紀型スキル」はもとより、相手（ひと）の立場や気持ちを思いやる心、未知の事象に対しても主体的に解決していく“人（ひと）ならではの力を身につけた“未来を創り出す人財”が育っています。
- ・世界最高水準のICTインフラと革新技術がいち早く社会実装され、豊かな自然を満喫できる快適な居住環境や地域ぐるみの受入れ態勢が整った徳島は、世界をリードする多くのクリエイティブ人財を惹きつけ、徳島の若者たちと刺激し合いながら、「新たな価値」が創造・発信されており、クリエイティブ産業が本県の主要産業に成長しています。

【徳島ならではの文化・スポーツが継承・創造され魅力を増している】

- ・東京2020大会などの数々の国際スポーツ大会や、本県でのキャンプ開催を通じて積み重ねられた世界各国のトップアスリートとの交流が“レガシー”として継承され、若者は、様々な競技種目のトップレベルのパフォーマンスを間近に体感できる恵まれた環境の中で、夢や高いモチベーションを抱きながら指導を受け、徳島から多くのトップアスリートが世界に羽ばたいています。
- ・東京2020大会などを通じて世界に発信された「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン・第九」をはじめとする「あわ文化」は、多くの人々の心に強く刻みこまれ、国内外との交流が拡大するとともに、多様な担い手によって、様々な文化や価値観との融合が図られ、「新たな価値」を創造しながら進化を続けています。

- ・ V Rをはじめ I C Tの進展によって、より多くの子どもたちが「あわ文化」や国内外の一流の文化芸術を見て、さらに自ら演じる機会が一層広がり、「ふるさと徳島」への誇りを胸に多くのアーティストが世界を舞台に活躍しています。
- ・ 我が国が誇る世界遺産「四国八十八箇所霊場と遍路道」での心のこもった“おもてなし”や、世界遺産「鳴門の渦潮」をはじめとした自然景観、また、歴史や風土、人々の暮らしの中で育まれてきたまちの景観、さらには雄大な河川やバラエティに富んだ海岸でのラフティング・サーフィンといった体験型スポーツ、アニメやeスポーツなどを取り入れた徳島発のイベントなど、徳島の歴史・自然・文化を活かした観光資源が地域の魅力として輝きを放ち、世界中から旅行者を惹きつけ、リピーターを増やしています。

【未来につながるインフラ整備により徳島のポテンシャルが増している】

- ・ 災害時のリダンダンシーの確保にも寄与する「四国8の字ネットワーク」や四国新幹線などの高速交通ネットワーク、世界とつながる空港・港湾への国際定期便の運航やクルーズ船の寄港を通じて、国内はもとより世界との交流が飛躍的に拡大するなど、徳島の有するポテンシャルがさらに高まっています。

【革新技術を活用した地域課題の解決や地域づくりが進んでいる】

- ・ 革新技術が地域社会に実装されることにより、ものづくりや農林水産業、医療、介護などの地域の担い手・労働力不足といった地域課題の解決が図られ、地域の暮らしに豊かさやゆとりが創出されています。
- ・ I C Tインフラと革新技術の進展によって、どこに住んでいても様々な職業を選択することが可能となり、若者は地元に住居しながら世界の第一線で活躍し、都市部から地域への移住も増えています。
- ・ 自動運転バスや、需給に応じて配車が行われるシェア型モビリティが県内各地で運行され、移動サービスのネットワークが構築されるとともに、ドローンや自動運転トラックによる買い物支援・物流サービスが提供され、移動手段や買い物に困ることのない地域社会が実現しています。
- ・ I C Tや自動運転技術が進展する中においても、人々がフェイスtoフェイスで出会い、対話の生まれる拠点づくり・ユニバーサルなまちづくりが進み、多様な移動サービスによって拠点と拠点が結ばれ、子どもから高齢者まで多くの人々の笑顔であふれています。
- ・ 県や市町村など地方自治体は、A Iやロボティクスなどが積極的に導入されるとともに、様々な情報システムが標準化・共通化された「スマート自治体」へと転換し、持続可能な形で行政サービスが提供されています。

1 目指すべき姿（10年程度先）と施策の方向性

計画の基本理念に基づき将来ビジョンを実現するために、手の届く未来である「10年程度先」（2030年頃）を見据えた3つの「目指すべき方向性」の実現を目指します。

3つの目指すべき方向性

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

- 1 「地方創生先導・とくしまづくり」
- 2 「笑顔で子育て・とくしまづくり」
- 3 「安全強靱・とくしまづくり」
- 4 「健康長寿・とくしまづくり」
- 5 「くらし安心・とくしまづくり」
- 6 「脱炭素実現・とくしまづくり」
- 7 「循環共生・とくしまづくり」

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

- 1 「未来人材育成・とくしまづくり」
- 2 「誰もが活躍・とくしまづくり」
- 3 「広がるダイバーシティ・とくしまづくり」
- 4 「革新実装・とくしまづくり」
- 5 「ブランド進化・とくしまづくり」
- 6 「経済好循環・とくしまづくり」
- 7 「いきいき働く・とくしまづくり」

III 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

- 1 「誘客万来・とくしまづくり」
- 2 「近未来創造・とくしまづくり」
- 3 「あわ文化創造・とくしまづくり」
- 4 「スポーツ王国・とくしまづくり」
- 5 「障がい者カルスポ・とくしまづくり」
- 6 「スポーツレガシー・とくしまづくり」
- 7 「文化レガシー・とくしまづくり」

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

「とくしま回帰」を加速する魅力ある地域づくり

- ◆ 本県が持つ多様な地域特性や魅力が発揮され、移住者の増加や若者世代の定住・Uターンの促進、さらには、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」の増加により、地域の担い手が確保され、暮らしやすい地域づくりが進んでいます。
- ◆ 照明・ディスプレイ分野でのLEDの普及拡大と、医療・農業等様々な分野での新用途開発が進捗するとともに、次世代LEDをはじめとする新たな光源開発・光応用技術の普及が進むなど、県内経済に大きな波及効果をもたらし、本県の基幹産業として地域経済を牽引しています。
- ◆ 全国屈指の「光ブロードバンド環境」や、「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により創出されたビジネスにより、地域は活気にあふれ、国内外からの移住希望者が増えるとともに、コミュニティ内の子供や若者たちが早い段階からビジネス感覚を養い、地域に定住してビジネスを継承しようとしています。
- ◆ AIやビッグデータなどの「第4次産業革命」関連企業や4K・8K^{*}の高精細な映像技術を活用した、放送、医療、教育等に関連したサテライトオフィス等の事業所開設や本社機能の移転が進み、新たな雇用の場が創出され、若者が夢を持てる地域づくりが進んでいます。
- ◆ 農山漁村では、伝統的な食材や郷土料理などの地域に根ざした食文化や伝統芸能、景観など魅力ある地域資源の情報発信がなされるとともに、体験や学習の場として活用され、都市と農山漁村との交流が図られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 市町村それぞれの「地域特性や魅力」を活かした移住交流を支援し、県全体の受入態勢の底上げを図るとともに、若者から高齢者まで、各世代において多様化する「移住希望者」のニーズにきめ細やかに対応できるよう、「情報発信」から「移住実現」に至るまでの「切れ目ないサポート」を官民連携・オールとくしまで推進します。
- ◎ 都市部に暮らしながら地域課題の解決等に継続的に関わるきっかけを提供することにより、「徳島ファン」の創出・拡大を図ります。
- ◎ 産学官連携により、幅広い分野で可能性を持つ次世代LEDの研究や応用製品開発を積極的に推進するとともに、光関連産業の振興に取り組みます。
- ◎ 経営資源を活かした新たな事業活動を促進するため、「柔軟な組織づくり」のノウハウを総合的かつ身近に学べる研修プログラムを提供し、企業の人財育成を支援するとともに、県内中小企業の経営の安定化を図り、積極的な事業展開が可能となるよう資金繰りの円滑化を図ります。
- ◎ 全国屈指の光ブロードバンド環境や全国トップクラスの企業立地優遇制度など、本県の強みを最大限に活かし、AIやビッグデータなど情報通信関連企業の誘致を推進します。
- ◎ 農山漁村における将来ビジョンを明確にし、その実現に向けて地域住民、行政が各々の役割に応じて行動する仕組みを構築することにより、地域のすてきな未来を創造する取組みを推進します。また、農山漁村での生活や農林漁業体験ができる「とくしま農林漁家民宿」や体験型交流施設などによる、都市住民やインバウンドとの交流を積極的に推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

次世代型の公共交通とまちづくり

- ◆ 人口減少・高齢化が進むなか、公共交通と連携し、快適で効率的な生活環境を重視した、持続可能な市街地の形成が図られています。
- ◆ 次世代地域公共交通ビジョンを羅針盤とし、県内の様々な地域において、交通資源が最適化され、既存の鉄道などと密接に連携したバス路線、世界初の本格営業運行となるDMVや自動運転など多様な移動手段の連携による交通ネットワークが構築されています。
- ◆ 誰もが利用しやすく、乗り継ぎしやすい環境が整備され、スムーズに移動できることで公共交通の利用者が増加し、利便性が向上していく好循環が生み出されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 住民の生活利便性の維持・向上に向け、地域の実情に応じて、快適で効率的な生活環境を重視した、持続可能な市街地の形成が図られるよう、都市計画区域マスタープランを見直すとともに、市町による立地適正化計画の策定を支援します。
- ◎ 地域の実情に応じた多様な交通機関の連携によるモーダル・ミックスを推進するため、地域の拠点駅・拠点施設を中心とした乗り継ぎネットワークの構築や、デマンドバス、スクールバスの活用など地域の実情に応じた運行形態の導入、さらには配車システムの活用などによる新たな公共交通システムの構築を支援します。
- ◎ 既存施設を活用した交通結節点の環境整備などにより、バスや鉄道の乗り継ぎ利便性を向上させるとともに、訪日外国人をはじめとする観光客を対象とした企画乗車券の販売や公共交通をみんなで支えていく意識の醸成に努めるなど、公共交通の利用促進を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

地域が主役の新しい社会

- ◆ 全国を先導する政策が実装された徳島からの政策提言が、国の新たな制度や施策に反映されることで、地方がリードする地域の実情に即した「日本創生」が進んでいます。
- ◆ 政府機関の関西移転等をきっかけに、政治や経済の核が関西にも形成され、関西広域連合が行政の核となって「国土の双眼構造」への転換が実現しているとともに、関西広域連合のスケールメリットや知名度を活かした施策が充実し、徳島県が広域連合に参加している意義を県民が実感しています。
- ◆ 人口減少により自治体において労働力が不足する中、新たな行政運営手法としてA Iやロボット等を活用したスマート自治体への転換が進むとともに、市町村が連携した圏域単位の行政や県・市町村連携による行政が展開されています。
- ◆ 公共私協力関係が構築され、それぞれが地域運営に参画するとともに、I o T、A I等の革新技术により生活交通の維持や医療の確保及び産業の創出など集落活性化に向けた様々なサービスや技術が導入され、住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりが展開されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 地方の創意工夫を盛り込んだ徳島ならではの「処方箋」が、「地方創生」から「日本創生」へとつながるよう、国に対して積極的な政策提言を実施します。
- ◎ 全国で唯一の県域を越えた意思決定機関である関西広域連合に徳島県が参加していることのメリットを、県民に実感してもらう「広域プロジェクト（取組）」を推進します。
- ◎ 政府機関等の地方移転の実現や、地方分権改革の突破口を開き、「国と地方の役割分担の見直し」、「国から地方への事務・権限移譲」など「平成の新しい国づくり」をリードするために、国への提言や要請を「全国知事会」や「四国知事会」、「関西広域連合」等から積極的に展開します。
- ◎ 県、市町村及び民間が連携して情報共有を行い、スマート自治体の実現に向けた革新技术の導入を進めるとともに、圏域単位や県・市町村連携による行政について課題抽出や対応策の検討を進め、国への政策提言を実施します。
- ◎ 人口減少による担い手不足や集落の維持など様々な地域課題の解決に向け、市町村や地域運営組織、さらにはN P O等民間と連携を図りながら、地域の実情に応じた「新たな公共私」の連携・協力関係を構築するとともに、I o T、A I等の革新技术を活用した「課題解決モデル」を創出し、地域の維持・活性化を推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

地域活力みなぎる共助社会

- ◆ 様々な分野において、行政とNPO・地域住民等の多様な主体が連携・協働し、共に助け合い、支え合う「共助社会」が地域に定着しています。県民・企業等は、社会貢献への「志」を実現するため、活発な寄附により、本県の多様な社会貢献活動を支えるとともに、身近な社会資本の維持管理をはじめ、様々な活動に積極的に参加しています。
- ◆ NPO等の社会貢献活動団体は、財政面で自立した団体として継続的に事業を展開し、地域社会の課題解決に取り組んでいます。また、地域の人を雇用し、収益を上げ、その収益を社会貢献活動に充てる事業型NPOの取組みが活性化しています。
- ◆ 農山漁村では、企業、NPO等の多様な主体が美しいふるさとを守るため、地域住民と「協働」で農作業や保全活動等を行っており、相互の交流が進み、強い絆で結ばれるとともに、美しいふるさとが守られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ これまで培われてきたボランティア活動を継承、発展させ、共助社会づくりを加速させるため、次代を担う若者のボランティア活動への参画を促進する仕組みを整えるなど、ボランティア人口の拡大に向けた機運醸成と裾野拡大に取り組めます。
- ◎ 「とくしま県民活動プラザ」において、クラウドファンディングをはじめ、公務員等が自らの専門知識や技術を活かして社会貢献するプロボノ活動等により、NPO法人等の自立を促進するとともに、「ゆめバンクとくしま」のPRなどを通して、本県の寄附文化の更なる醸成を図ります。
- ◎ 地域の課題解決に向けた即戦力となるNPO法人等を育成するため、ソーシャルビジネスの手法を用い、事業型NPOの活動の普及・拡大に向けた施策を展開し、地方創生の加速化を図ります。
- ◎ これまでの道路、河川などにおけるアドプトプログラム^{*}や、地域でのボランティア活動の取組みをさらに発展させ、社会資本の維持管理等に地域住民等の多様な主体が参加できる仕組みを整えます。
- ◎ 活力と魅力あふれる農山漁村を創出するため、社会貢献に積極的な都市部の組織や住民と、応援を求める農山漁村を結びつけ、多様な主体による協働活動を契機とした交流を促進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

1 地方創生先導・とくしまづくり⑤

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

◆ 不断の行財政改革と県民主役の県政

- ◆ 不断の行財政改革により、持続可能な組織体制及び強靱でしなやかな財政基盤が確立し、「県民目線」・「現場主義」に立った「政策創造」と、県政の基盤となる「健全財政」の両立が図られています。
- ◆ 県政に関する県民の知る権利が尊重され、情報公開の総合的な推進により、県民参加による公正で開かれた県政が実現しています。
- ◆ 県民をはじめ、国内外の方との双方向コミュニケーションが活発に行われ、即時性に富んだ魅力的な情報発信により、本県の注目度の向上や交流人口の拡大が図られています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021関西などの国際大会のレガシーとして、幅広い視点を備えた職員が、「創造力・実行力・発信力」を発揮し、知恵と工夫を凝らした施策を積極的に展開しています。
- ◆ 役割を終えた社会インフラや空き家などが、「にぎわいづくり」の拠点等に活用され、交流人口の拡大や地域の活性化に大きく寄与しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 人口減少や大規模自然災害をはじめ、直面する行政課題に的確に対応することのできる組織体制を構築するため、行財政改革のさらなる推進を図ります。
- ◎ 持続可能な財政運営に向けて、「公債費」・「県債残高」の適正な管理とともに、必要な「財政調整基金」の規模確保を図ります。
- ◎ 質の高い行政サービスを提供するため、統計データなどの客観的な証拠に基づく政策立案（EBPM）を推進します。
- ◎ 時代に即した利便性の高い広報媒体や最先端技術を効果的に活用し、魅力的かつきめ細やかな情報発信を行うとともに、県民からの提言を積極的に県政に反映していきます。
- ◎ 世界を見据えた「広い視野を持つ人財」を戦略的に養成するため、研修の充実強化、国や海外の機関等への職員派遣など、新たな行政課題に対応できる「人財育成」を強かに推進します。
- ◎ 役割を終えた公共施設、旧道敷などのマイナス資本である「リタイアインフラ」について、新たな価値を創造することにより、地域の「にぎわいづくり」を進める有用コンテンツとして活用・展開します。
- ◎ 空き家を貴重な地域資源としてとらえ、「徳島ファン」の本県への来訪や移住交流の推進に向け有効な利活用を促進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

2 笑顔で子育て・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

みんなで子育て協働支援社会

- ◆ 誰もが子育ての喜びを実感できる社会の実現に向け、アクティブシニアをはじめ様々な主体が参加し、地域全体で子育てを支援する「子育て協働支援社会」の構築が着実に進行しています。
- ◆ 在宅で子育てをする家庭の心理的負担が軽減され、希望する誰もが幼児教育・保育サービスを受けることができるとともに、子どもたちは放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行っています。
- ◆ 結婚や出産の希望が叶い、ライフステージに応じた柔軟な働き方が可能となるなど、子育てと仕事の両立ができ、充実した生活を送ることのできる社会環境が整っています。
- ◆ 希望出生率が1.8を超え、移住・定住希望者に「徳島」が選ばれています。
- ◆ すべての子どもたちが社会から孤立することなく大切に生まれ、将来に夢や希望をもって健やかに成長できる社会づくりが進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 誰もが安心して子育てできるよう、職場や地域、子育て支援団体、行政など地域全体で協働して子育てを支援し、子どもを温かく見守る「子育て協働支援社会」の実現を目指します。
- ◎ すべての子どもに、適切な保育や必要な幼児教育を提供するとともに、放課後の安全・安心な子どもの生活の場と、多様な体験・活動を行う機会の確保を図ります。
- ◎ 妊産婦のメンタルヘルスクケアや乳幼児等の病気の早期発見・早期治療の充実、子育て家庭の経済的負担の軽減など、妊娠期から安心して、子どもを生み育てることのできる社会を実現します。
- ◎ 子育て支援サービスの更なる充実や利用しやすい環境づくりなど子育て支援に係る基盤を強化し、出産や育児における多様なニーズをトータルにサポートすることにより、子育ての不安感や負担感の解消を図ります。
- ◎ 県の結婚支援拠点「マリッサとくしま」において、結婚を希望する独身者に出逢いの場を提供し、サポーターによるきめ細やかな支援を行います。
- ◎ 出産や子育てなどのライフステージに応じた柔軟な働き方や、男性の育児参加ができるような職場環境の整備に取り組みます。
- ◎ 次代を担う子どもたちが、社会から決して孤立することないよう、地域が一体となり子どもたちを育む「子どもの居場所づくり」を推進します。
- ◎ 関係機関等が連携して児童の支援・保護を行う「市町村要保護児童対策地域協議会」の活動を支援するとともに、児童相談所の体制強化や専門性向上を図り、児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に努めます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

3 安全強靱・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

充実・強化する危機管理体制と防災教育

- ◆ 県、市町村をはじめ、関係機関等の連携により、災害や危機事象に的確に対応できる危機管理体制が整っています。
- ◆ 消防の連携体制の強化や消防団の活性化により、県民が安心して暮らせる消防力が整備されています。
- ◆ 学校と地域の連携のもと、防災士の養成や防災クラブの活動、児童・生徒の発達段階に応じた防災教育が行われ、防災力を身につけた若者が、地域や事業所の防災リーダーとして活躍しています。
- ◆ 住民の防災意識が高まり、自主防災組織を核とした住民中心の防災活動が活発に行われ、災害発生時の避難や救出救助活動、住民主体の避難所運営などが円滑に行えるようになっています。
- ◆ 口蹄疫や豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザなどの危機管理対策が強化されており、安全・安心な畜産物が消費者に提供されています。



<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 総合防災訓練や国民保護共同訓練等を実施し、県、市町村はもとより、自衛隊・警察・消防等の関係機関、医療・福祉・ライフライン事業者等との連携強化を図るなど、災害や危機事象への対応能力の向上を図ります。
- ◎ 消防本部の連携・協力、消防常備化等の広域化や、消防広域応援体制の強化を図るとともに、女性や若者など多様な人材の活用や事業所の協力により、消防団活動を地域ぐるみで支える環境づくりを推進します。
- ◎ 各学校では、地域と連携した防災教育を推進し、地域全体で防災教育に取り組む体制づくりや、防災を担う人材育成に取り組めます。
- ◎ 市町村をはじめ、大学や企業との連携による研修や講座を開催し、防災リーダーの養成や自主防災組織の能力向上を図るなど、防災活動の担い手育成を図ります。
- ◎ 家畜伝染病を予防し、畜産物の安全性を確保するため、家畜の所有者に対し、飼養衛生管理基準の遵守の指導・助言を行います。また、早期発見・通報体制を構築するとともに、発生した場合に備え、防疫資材の備蓄や関係機関との協力体制の整備を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

3 安全強靱・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

向上する地域防災力

- ◆ 自主防災組織や防災リーダー等が主体的に地域の防災活動に取り組み、県全体の地域防災力が強化されています。
- ◆ 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害の発生を見据え、あらかじめ被害の最小化につながるまちづくりが着実に進められています。
- ◆ 県域を越えた災害応援などの取り組みにより、南海トラフ巨大地震はもとより、複数の災害が同時または時間をかけて発生する複合災害など、広域的な災害に対応する体制が整備されています。
- ◆ 災害関連死などの「防ぎ得た死」をなくすため、平時から医療や防災関係者だけでなく、住民・企業など地域ぐるみのシームレスな保健医療提供体制が構築され、要配慮者をはじめとする被災者の安全・安心に寄与しています。また、避難所等における被災住民の良好な生活を確保できる環境が整備されています。
- ◆ 地域の良質な社会資本の整備や維持・更新をはじめ、災害時には救援活動や応急復旧活動を担う建設産業が、中長期的な担い手の育成及び確保などにより健全に発展し、地域の防災力の向上が図られています。
- ◆ 国、地方自治体、民間事業者が一体となった災害廃棄物処理体制（広域処理）が確立されています。
- ◆ 多くの県内企業で、大規模災害時の「被害軽減」と「早期の事業再開」、さらには、「共助・相互扶助」を実践するための、実効性の高い企業BCP[※]の策定が進み、「災害に強い徳島企業ブランド」が確立し、地域全体として、取引先や市場からの信用・評価が高まっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県民総ぐるみで防災意識の向上に向けた取り組みや防災訓練を実施し、FCP（家族継続計画）[※]の普及をはじめとする自助・共助の取組強化といった防災対策を推進するとともに、自主防災組織の活動活性化や、地域や企業における防災リーダーの養成・活動支援に取り組み、災害ボランティアの活動環境の整備を促進します。
- ◎ 持続可能な地域社会を実現するために、関係団体間の相互連携、補完体制を構築するとともに、ハード・ソフト両面から事前復興の取組みや自然エネルギーによる「自立・分散型電源」を活用した防災対策を推進します。
- ◎ 広域的な大規模災害に備え、関西広域連合及び中国四国ブロックとの連携強化に努め、災害対応能力の向上を図るとともに、同時被災の可能性が低い鳥取県との強固な協力体制を構築します。
- ◎ 「戦略的災害医療プロジェクト『基本戦略』」に基づき、「DMAT」、「災害時コーディネーター」「DPAT」、「DHEAT」等の災害時の保健医療に携わる人材の育成や、災害支援の国際基準の導入等による避難所における生活の質の向上、福祉避難所をはじめとする要配慮者への支援体制の充実に積極的に取り組むとともに、病院BCPの策定支援等を推進し、保健医療提供体制の確立を図ります。
- ◎ 地域を支える建設産業の健全な発展を図り、地域防災力が維持されるよう、担い手の確保・育成を推進するとともに、未来の担い手に向けて、建設産業の魅力とやりがいを発信します。
- ◎ 南海トラフ巨大地震や集中豪雨等で発生する災害廃棄物の処理に迅速に対応するため、「災害廃棄物処理計画」に基づき、広域処理の確立など、官民一体となった様々な対策を進めます。
- ◎ 業種業態に応じた実効性の高い企業BCP策定や、策定後の継続的な見直し・訓練を推進するため、より実践的な研修や専門家派遣による指導など、積極的な支援を行うとともに、企業が安定的に操業できる環境づくりに取り組みます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

3 安全強靱・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

県土強靱化の進展

- ◆ あらゆる大規模自然災害の脅威から、「県民の命や財産、生業を守る強さ」と「速やかに適応できるしなやかさ」を備えた「県土強靱化」が図られています。
- ◆ 木造住宅や民間建築物、公共施設や病院などの耐震化の進展により、安全・安心な住生活環境の確保や、災害時の防災拠点としての整備がなされ、「地震に強いとくしま」が実現しています。
- ◆ 気候変動に伴い頻発化・激甚化する豪雨災害や切迫する大規模地震などの大規模災害に対し、河川・海岸・砂防・治山・道路や農業用ため池などのハード整備に加え、ソフト対策が着実に推進されるとともに、既存インフラについては、I o T、A I等の革新技術も活用し、必要な機能が維持され、県民の安全・安心が確保されています。
- ◆ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合にも、各自治体が必要な防災対応を速やかに実施できる体制が整っています。
- ◆ 災害時の危険箇所が事前周知されるとともに、雨量や河川水位、避難情報などの防災情報がきめ細やかに、またリアルタイムに県民に届くことで、迅速な初動対応が可能となり、人命に関わる被害の軽減が図られています。
- ◆ 災害に強い情報化の進展に応じた防災情報提供体制の整備に加え、速やかな農業・漁業の再開が可能となる体制整備や、必要最低限のライフラインの供給確保、早期復旧を可能とする対策が進むなど、本県の業務継続性の確保はもとより、災害からの迅速な復旧・復興が可能となる態勢が整っています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「徳島県国土強靱化地域計画」に基づき、ハード・ソフトを組み合わせた効果的な施策を展開します。
- ◎ 切迫する大規模地震に対し、木造住宅の「耐震診断・改修」支援に加え、河川・海岸の地震・津波対策や事前復興の取組み等を進めるとともに、気候変動により頻発化・激甚化する豪雨災害に対しては河川改修の重点的な実施や砂防・治山・地すべり防止施設、農業用ため池等の整備を進めます。
- ◎ 円滑な救急救命・防災活動等が行えるよう、「命の道」となる四国横断自動車道や阿南安芸自動車道の整備促進、徳島自動車道における暫定2車線区間の4車線化や津波避難施設の設置といった高速道路を賢く使う取組みに加え、異常気象時における事前通行規制区間解消に向けた取組みや集落孤立防止のための道路整備、更には鉄道高架事業や四国新幹線実現に向けた取組みを推進します。
- ◎ 既存インフラについては、長寿命化計画等に基づく計画的な老朽化対策を進めるとともに、I o T、A I等の革新技術の積極的な活用による効率的・効果的な維持管理を進めます。
- ◎ 気象庁が発表する「南海トラフ地震臨時情報」に備え、市町村と連携のもと、人命に関わる被害軽減に向け、住民が安全に事前避難できる体制づくりを推進します。
- ◎ 「土砂災害警戒区域」の指定・周知や、きめ細やかな河川水位・雨量・避難情報の伝達など、住民避難の実効性向上に向けた取組みにより、防災意識の更なる向上や警戒避難体制の強化を図るとともに、山地防災ヘルパーによる山地災害危険地区の調査・点検パトロールの推進や山地災害の情報収集の強化に向けた体制強化を推進します。
- ◎ インターネットや携帯メールなど多様なツールによる県民への情報発信機能の充実に加え、関係機関における災害対応に必要な情報を共有する通信手段等の確保・充実を図ります。
また、電気・工業用水・水道の耐震化、工業用水道管路のダブルルート化など、ライフライン施設の強靱化に加え、迅速な復旧・復興を図るため、地籍調査の加速、農業版BCPや漁業版BCPによる現場対応力の強化を推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

生涯現役！伸びゆく健康寿命

- ◆ 「健康寿命先進県」として、県民一人ひとりが健康に関心を持つとともに、主体的に健康づくりに取り組み、適切な生活習慣が定着することにより、糖尿病をはじめとする生活習慣病にかかる人が減少し、健康寿命の延伸が図られています。
- ◆ すべての県民が生涯を通じた歯・口腔の健康づくりに取り組む環境が整っています。
- ◆ 子どもたちが、積極的に運動に親しむ習慣や、郷土の食材を生かした望ましい食習慣を身に付け、「健やかな体」で生き活きと活動しています。
- ◆ 食への関心がより高まり、エシカル消費の推進を通じて、県産野菜をはじめ地元の農林水産物を活用した健全な食生活が定着することにより、健康増進が図られています。また、和食や郷土食、行事食などの食文化や豊かな自然環境に対する理解と関心が深まっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ バランスのとれた食生活や適度な運動習慣など、生活習慣の改善に取り組みやすい、ライフステージに応じた社会環境の整備を図るとともに、医療機関等の関係機関と連携し、糖尿病をはじめとする生活習慣病の発症予防・重症化予防を推進します。
- ◎ 県民自らの日常生活における歯と口腔の健康づくりに係る取組みを促進するとともに、ライフステージ等に応じた歯科保健医療を受けることができる環境整備を推進します。
- ◎ 全ての小・中学校で食に関する授業を実施し、地域の特色を活かした食育の展開と、学校給食への地場産物の活用を推進します。
- ◎ 児童生徒の健康課題改善のため、学校・家庭・地域が連携して、運動機会を増やす環境づくりや地域の特色を活かした食育の推進、望ましい生活習慣の定着を図ります。
- ◎ 豊かな自然環境の中で育まれた多様な食材に恵まれ、生産者と消費者の距離が近いという本県の特性を活かし、関係者が一体となって、野菜摂取の啓発をはじめとする県民運動としての食育を推進します。
- ◎ 県内で生産された農林水産物や、県産品を原料とした加工食品の「地産地消」やエシカル消費を推進し、健康で豊かな食生活と県産品の需要拡大を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

心豊かな長寿社会

- ◆ すべての県民が安心して高齢期を迎えられ、生涯にわたり健康で生きがいを持ち続けながら、安心して暮らせる長寿社会が実現しています。
- ◆ アクティブシニア（元気な高齢者）が増え、それまでに培ってきた「知識」、「経験」、「能力」を活かし、「地域を支える主役」として生涯現役で活躍しており、「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。
- ◆ 医療、介護、生活支援などの地域ぐるみの支援が充実し、介護ロボット、A I、自動運転技術等も活用することにより、高齢者は可能な限り、住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを続けることができます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 価値観の多様化や社会状況の変化に対応し、高齢者が新たな知識・技術の習得ができるよう、多様な学習機会を創出します。
- ◎ アクティブシニアが、社会貢献活動や就労など、多様な形で「地域を支える主役」となり、「生涯現役」で活躍していただくための支援を行います。
- ◎ 高齢期を迎えても生活の質を維持できるよう、要介護状態となる前段階での「フレイル予防」をはじめ介護予防に重点を置いた取組みを推進します。
- ◎ 高齢者が住み慣れた地域で可能な限り、自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が、各地域で一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の更なる深化・推進を目指して、市町村の実情に応じた取組みを支援します。
- ◎ 介護保険施設において、運動習慣の定着化を目指した取組みを推進する、身近で地域に開かれた「健康にぎわいの場」を創出し、糖尿病をはじめとした生活習慣病発症予防や、健康づくりを推進します。
- ◎ 「徳島県版『介護助手』制度」の実装や介護ロボット・A I等の活用により介護業務の効率化を推進し、介護職員の負担軽減や更なる処遇改善、職場環境改善の促進を図ります。また、イメージアップ戦略の展開により、介護人材の育成・確保を図るとともに、質の高い介護サービスを提供するため、介護サービス従事者の専門性や介護技術の向上を図ります。さらには、外国人介護人材の活躍を促進します。
- ◎ 教育委員会及び関係団体等と連携し、小中高生が介護の大切さを理解し、介護ロボットを活用した「体験学習」ができる機会の提供を行います。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

いつでもどこでも安心医療

- ◆ 徳島大学医学部の「地域枠[※]」で養成された多くの医師が第一線で活躍しており、医師の地域偏在や診療科偏在といった課題が解消されています。
- ◆ 全ての県民が住み慣れた地域で安心して暮らせる、多様なニーズに対応した質の高い保健・医療・介護サービスが提供されています。
- ◆ 24時間365日、救急患者を受け入れできる救急医療体制を守り、夜間・休日における子どもの急病などにも迅速に対応できる環境が拡充されています。
- ◆ 広域的なドクターヘリの運航及び近隣府県との連携により、県下全域を二重・三重にカバーする体制が拡充され、救命救急センター等で高度な医療を受けることができるようになっています。
- ◆ 母と子どもの命を支える産科や小児科の医療体制が連携し、安心して出産や育児を行うことができる地域が増えています。
- ◆ 国民皆保険を支える重要な基盤となる「国民健康保険制度」の安定的な運営が図られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 医師の地域偏在や診療科偏在を解消するため、地域医療に貢献する医師の養成に努めるとともに、医師派遣・医師のキャリア形成支援の拠点として、「地域医療支援センター」の機能を強化します。
- ◎ 医療や介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、医療と介護が連携した切れ目のない在宅医療・介護サービスの整備を行います。
- ◎ 24時間365日対応可能な小児救急医療、夜間・休日の電話相談などの体制の充実を図ります。
- ◎ 関西広域連合広域医療局の事務局として、広域的なドクターヘリの一体的運航に加え、近隣府県におけるドクターヘリとの相互応援など「二重・三重のセーフティネット」のさらなる充実に取り組み、本県をはじめ関西全体に「安全・安心の輪」を広げていきます。
- ◎ 「総合周産期母子医療センター」において、妊産婦及び新生児等に対し、高度で専門的な医療を提供するとともに、「地域周産期母子医療センター」や産科医療機関との連携を強化することにより、周産期医療の充実を図ります。
- ◎ 国民健康保険の財政運営の責任主体として、安定的な財政運営や効率的な事業の確保を図るとともに、市町村、関係機関と連携し、被保険者の健康増進や、ポリファーマシー（多剤併用）による重複投薬や残薬等の課題に対応するなど、医療費の適正化に取り組みます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

4 健康長寿・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

疾病に応じた適切な医療体制

- ◆ がん患者が尊厳を持って自分らしく生きることのできる社会が構築されるとともに、難病患者への医療提供体制の充実強化が図られ、地域で安心して療養できる体制が構築されています。
- ◆ いずれの地域においても、高度ながん医療が提供されるとともに、身体的・精神的な苦痛を緩和する体制整備が進み、がん患者及びその家族の生活の質の向上が図られています。
- ◆ 新たな感染症の流行に備えた、情報の収集・提供体制や検査体制の確立などが図られ、感染症危機管理体制が整備されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 科学的な根拠に基づくがん検診の普及や受診率向上に加え、がんに関する正しい知識の普及啓発、徳島がん対策センター等を中心とした相談支援や情報提供の充実等を図り、がん理解のある社会づくりを推進します。
- ◎ 県下各医療圏内のがん診療連携拠点病院等の機能強化と地域医療機関との連携を図り、より高度で専門的ながん医療を提供するとともに、診断時からの緩和ケアの充実を図ることにより、がん患者やその家族の支援を推進します。
- ◎ 難病患者への医療提供体制の充実強化を図るため、難病指定医療機関数の拡大を進めるとともに、在宅人工呼吸器患者への自家発電機導入を進め、災害時の安心確保の整備を推進します。
- ◎ 感染症のまん延を防止するため、感染症の発生動向を早期かつ的確に把握、分析し、地域に情報発信を行うとともに、適切な医療を行うための体制整備を進めます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

5 暮らし安心・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

新次元の消費者行政と食の安全安心確保

- ◆ 新次元の消費者行政施策及びライフステージに応じた消費者教育が定着し、全ての県民が消費者として合理的な意思決定を行い、消費者トラブルを回避し、被害に遭った場合にも適切に対処できる社会が実現しています。また、持続可能な社会の実現にも通じるエシカル消費が県民生活に定着するなど、徳島ならではのSDGsが実装されています。
- ◆ 各学校では、発達段階に応じた系統的・体系的な消費者教育が充実し、消費者市民社会の一員として、積極的に行動できる人材が育成されています。
- ◆ 食品の製造から販売に至る各段階における、HACCPに沿った自主衛生管理の向上と監視指導等の強化により、食の安全安心が確保されるとともに、消費者教育が推進され、誰もが適切に食品を選択し、豊かで健康な暮らしのできる社会が実現しています。
- ◆ 人と環境に配慮した持続可能性の高い農業が営まれ、「とくしまエシカル農産物^{*}」が消費者へ提供されるとともに、エシカル農産物について消費者の理解を高めることにより、生産から消費に至るまでの、食の安全・安心が確保されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県内全市町村に設置された見守りネットワークが実効性のある活動を継続するための取組みや、エシカル消費、消費者志向経営を推進するとともに、若年者の消費者教育の充実を図ります。また、消費生活相談員の育成及び市町村の消費生活センター相談員の資質向上に向けた支援を行い、相談体制の強化を図ります。
- ◎ 成年年齢の引下げを見据え、自立した消費者の育成に向けて、幼児期からの各学校段階に応じた消費者教育の充実に取り組むとともに、地域の特性や地域の資源を活かした、学校・地域が一体となった実践的な消費者教育を推進します。
- ◎ 食品の監視指導の強化や、徳島県HACCP認証の普及、HACCPアドバイザー育成による事業者の自主衛生管理の向上を図るとともに、事業者への食品表示適正化支援の取組み、リスクコミュニケーション^{*}の深化により、県民の食に対する安全安心の確保を図ります。
- ◎ GAP認証の取得支援やエコファーマー^{*}の育成、有機農業の推進等に取り組む、人と環境に配慮した持続可能性の高い農業により生産された「とくしまエシカル農産物」の消費者への認知度向上と生産・販路の拡大を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

5 暮らし安心・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

心通いあう温かな地域

- ◆ 地域の住民どうしが、お互いを大切な存在として、助け合いながら「地域づくり」を行うことで、「地域の絆」が一層深まり、ひとり暮らしの高齢者や認知症高齢者、障がい者等が、住み慣れた地域でより安心して生活をしています。
- ◆ 地域における多様な支え手により、自殺対策が「生きることの包括的な支援」として実施され、自殺者数が減少しています。
- ◆ 県民一人ひとりの動物愛護と適正飼養に関する意識が向上し、人と動物がともに暮らせる、うるおいと喜びのある地域が実現しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 誰もが共に支え合い、安心して暮らせる地域共生社会を実現するため、「徳島県地域福祉支援計画」に基づき、市町村、地域住民、事業者、社会福祉法人等の福祉活動団体と連携しながら地域福祉の推進を図ります。
- ◎ 地域社会から孤立しがちなひとり暮らし高齢者等が、住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、日常的な見守り体制の充実強化を図るとともに、地域住民が認知症について理解し、地域全体で認知症高齢者を支えていくための支援の充実を図ります。
- ◎ 認知症高齢者や知的障がい者等、判断能力が十分でない方の日常生活の自立支援や権利擁護を推進します。
- ◎ 生活保護受給者をはじめ生活困窮者の自立を促進するため、ハローワーク等関係機関と連携して就労支援を推進します。
- ◎ 自殺対策に関する啓発活動における連携拡大や自殺予防サポーターの養成を通じ、自殺は「誰にでも起こり得る危機」という認識を社会で共有するとともに、多様な支え手による相談・支援体制の充実を図るなど、県民総ぐるみによる自殺対策を推進します。
- ◎ 譲渡交流拠点施設「きずなの里」を活動拠点として関係団体・ボランティアと一体となり、「助けられる犬・猫殺処分ゼロ」を目指し、飼い主への返還や新しい飼い主への譲渡及び不妊去勢手術を推進します。また、ふれあい活動等を通じ、県民の適正飼養と動物愛護の意識の向上を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

5 くらし安心・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

体感治安向上と交通マナー先進県

- ◆ 街頭での警察官やパトカーによるパトロール活動等の頻度が増えるとともに、地域における治安維持の活動拠点である警察施設（警察署、交番及び駐在所等）の再編・整備が進むことにより、体制が強化され、県民の体感治安が向上しています。
- ◆ 県民一人ひとりの防犯意識が高まるとともに、交通安全意識・交通マナーの向上と自動運転技術の確立に伴い、交通事故が低減し、幼児から高齢者まで安全で安心して暮らすことができる地域社会が実現しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 犯罪の未然防止、県民の体感治安の更なる向上を図るため、パトロールや立番など、「県民から見える警察活動」の強化に取り組むとともに、県民の理解を得ながら、治安情勢、社会環境の変化や災害リスクに対応した警察署、交番及び駐在所等の再編・整備を進めます。
- ◎ 街頭犯罪^{*}等の発生状況を分析し、効果的な抑止対策を実施するとともに、県民の犯罪に対する抵抗力の向上を図るため、積極的な情報発信を行うなど、安全で安心なまちづくりを推進します。
- ◎ 「交通マナー先進県」を目指して、県民一体となった交通安全思想の浸透を図り、交通マナーの向上と交通ルール遵守に向けた運動を展開するとともに、高齢者を交通事故から守るため、関係機関と連携しながら、総合的な高齢者交通事故防止対策を推進します。
- ◎ 全ての人々が安全に安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策を推進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

6 脱炭素実現・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

持続可能な未来に向かう社会

- ◆ 「すだちくん未来の地球条例」の理念が社会の隅々にまで浸透し、県民や事業者をはじめとするあらゆる主体がSDGsや「脱炭素社会」の実現に向けて、気候変動対策の推進役を担っています。
- ◆ 気候変動対策の必要性が県民に浸透し、「緩和策」及び「適応策」の実践拡大が推進されています。
- ◆ 子どもから高齢者まで、環境問題への理解力と実践力が養成される環境が整い、「環境首都とくしま・未来創造憲章」に基づく環境にやさしいライフスタイルが確立されるとともに、それぞれの役割・責任に応じた環境活動に主体的に取り組むことで、幸福感、充実感を味わっています。
- ◆ 学校を拠点に、地域と連携した環境学習が積極的に行われることにより、環境問題・環境保全について関心を持ち、様々な課題解決に向け実践力を身に付けた子どもたちが育つとともに、家庭や地域においては、持続可能な社会の構築に向けた環境意識が浸透しています。
- ◆ SDGsの実現に向けて、環境に配慮したエシカル消費の認知度が高まり、県民一人ひとりが思いやりのある消費行動や事業活動を行い、持続可能な社会が構築されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 脱炭素社会の実現に向けて、県が率先して節電・省エネに取り組むとともに、「徳島夏・冬のエコスタイル」等の展開を通じ、県民・事業者等に「賢い省エネ」・省資源の取組みの定着を広く呼びかけ、さらに一歩進んだ「ライフスタイル（ビジネススタイル）の転換」を推進していきます。
- ◎ 「徳島県地球温暖化対策推進計画」に基づき、県民、事業者、行政が、互いに連携、協働し、主体的に各種施策に取り組み、各分野において温室効果ガス排出量を削減します。
- ◎ 気候変動の影響について理解を深め、「適応策」へとつながるよう、日常生活や事業活動への影響について、県民への情報提供や普及啓発を推進するとともに、異常気象に対応した防災対策や温暖化に適応した農林水産物の新たなブランドの創出など、高等教育機関や関係団体等と連携し、具体的な取組みを加速します。
- ◎ 誰もが、自主的、主体的に環境活動に取り組むことができるよう、「エコみらいとくしま（環境首都とくしま創造センター）」を拠点に講座や学習会を実施し、環境活動の「わ」が広がる人づくり、地域づくりを進め、指針となる「環境首都とくしま・未来創造憲章」の普及を図ります。
- ◎ 学校施設において、内装の木質化、節水や省エネ器具の導入などを進め、すべての学校を地域の環境教育の拠点とすることにより、地域全体で取り組む環境保全活動の充実を図ります。
- ◎ 学校・家庭・地域の連携で広げるエコプロジェクトとして、「新学校版環境ISO^{*}」の取組みを充実・発展させ、学校・家庭・地域がより一層連携した環境学習の取組みを進めます。
- ◎ 県民に身近な環境課題である食品ロスやプラスチックごみの削減について、県民一人ひとりの消費行動の実践につながる講座等の啓発活動を実施します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

6 脱炭素実現・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

地域のポテンシャルを活用し、安定的にエネルギーが供給される社会

- ◆ 地域で賄え、温室効果ガスをほとんど出さない「自然エネルギー」が、様々な分野で「主力電源」として最大限活用され、エネルギーの安定供給や地球温暖化対策が進んでいます。
- ◆ 自然エネルギーの活用による地域の活性化、地元雇用の創出により、SDGsの理念に基づく持続可能な社会の構築が進んでいます。
- ◆ 「災害に強い」自然エネルギーの特性を活かした「自立・分散型電源」の導入が進み、AIやIoTで電力変動に対応できる柔軟なエネルギーシステムが確立されています。
- ◆ 水素ステーションの普及拡大とともに、燃料電池自動車・バスをはじめ多様な水素モビリティの社会実装が進むなど、水素社会の実現が着実に進展しています。
- ◆ 県内市町村において、「バイオマス活用推進計画」に基づき、各種バイオマス資源が有効に活用され、環境関連技術を活かした地域づくりが進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、「エネルギーの地産地消」や「災害に強いまちづくり」に向け、県民、事業者、行政等が一体となって、様々な取り組みを行い、自然エネルギーの導入を促進します。
- ◎ 地域資源を活かした「エネルギーの地産地消」の推進に向け、小水力発電やバイオマスの導入を促進するとともに、地域協働型の自然エネルギー導入を実践し、環境とビジネスの両立を目指す人材の育成を図ります。
- ◎ 農業水利施設等を活用した小水力、太陽光、風力などの自然エネルギーの利活用や木質バイオマスなどの未利用資源の有効利用により、施設の維持管理費の軽減や農山漁村の振興を図ります。
- ◎ 環境分野における国際交流を推進し、先進的な自然エネルギーの導入事例や電力変動に対応するエネルギーシステムについて意見交換等を行い、「自立・分散型電源」による災害に強い社会を構築します。
- ◎ 水素社会の早期実現に向け、国補助金等を活用し、水素ステーションの整備や多様な水素モビリティの社会実装の促進など、需要・供給両面での取り組み拡大を支援します。
- ◎ 産学官金連携によるビジネスプラットフォームにより、水素ビジネスに参入する事業者を支援します。
- ◎ 本県の特性を活かし、未利用木質資源や家畜排せつ物などバイオマスの生産・利用を推進し、環境関連技術を活かした地域づくりに取り組みます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

6 脱炭素実現・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

もり 未来につなぐ豊かな森林づくり

- ◆ 間伐による森林の整備や、伐採・再造林による更新が進み、水資源のかん養、山地災害の軽減、二酸化炭素吸収量の増加など、公益的機能の高い健全な森林が増加しています。
- ◆ 「森林環境税・森林環境譲与税」を活用した「新たな森林管理システム」の円滑な運用により、多様な森林の管理形態が展開され、森林が放置されることなく適正な管理が継続し、豊かな森林がしっかりと引き継がれています。
- ◆ 森林の重要性が再認識され、森林資源の活用や、環境財としての保全活動が活発に行われるなど、生活の端々に再び森林が取り入れられています。
- ◆ 林道や林業専用道、森林作業道などの路網が効率的に森林内に整備されており、森林が健全な状態で維持・管理され、持続的な林業経営が行われています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「徳島県豊かな森林を守る条例」に則し、県・市町村・林業関係者、さらには、県民や企業・NPOなどと協働した体制のもと、森林保全に向けて、県民総ぐるみの取組みを推進します。
- ◎ 多様で健全な森林を育成するため、「新たな森林管理システム」を円滑に運用し、人工林の適切な間伐や針広混交林への誘導による適正な森林整備とともに、資源を循環利用するための伐採・再造林を進めるなど、計画的な森づくりを推進します。
- ◎ 私有林の割合が高い本県にあって、個人のみでは管理することが難しくなった森林について、所有者と事業者をつなぐ「とくしま森林バンク（仮称）」を創設し、公有林化をはじめとした公的機関が主導する森林管理を推進するとともに、個人の所有森林を経営管理できる林業経営体を育成します。
- ◎ 森林の有する水資源及び県土の保全機能の維持増進を図り、適切に管理・保全していくため、「とくしま県版保安林」と保安林の指定による森林の公的管理を加速します。
- ◎ 山地に起因する災害から、県民共通の財産である豊かな森林を守るため、治山事業や間伐等の森林整備を推進します。
- ◎ 豊かな森林を継承するため、カーボン・オフセットの仕組みを導入した企業・県民との協働の森づくりをはじめとする、多様な森林の管理を推進します。
- ◎ 県営水力発電所の水源地域において、公有林化及び間伐等の森林整備を支援します。
- ◎ 森林の適正管理と木材増産の担い手となる人材の育成・確保を図るため、小中高・大学生からシニア層までの幅広い年代や技術力に合わせた学びの場を創設します。
- ◎ 森林資源の循環利用を推進できるよう、植林から木材生産までの森林サイクルを確保するとともに、複合的な林内路網の整備を加速することにより、森林施業の効率的な実施と生産性の向上を促進します。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

生物多様性の確保

- ◆ 生物多様性という地域資源を活かしたコンパクトな循環型社会を実現するため、地域が一体となった取組みが県内各地で行われ、豊かな生物多様性の恵みが未来へと引き継がれています。
- ◆ 自然エネルギーの導入を促進し、地球温暖化による自然環境への負荷を減らすため、土地利用と生物多様性や生態系の保全との両立が実現しています。
- ◆ 希少野生生物のうち絶滅が危惧されていた種について、県民の熱意ある保護活動により、生息数が増加に転じています。
- ◆ 本県の特色である豊かな自然が保全され、「鳴門公園」をはじめとした本県の優れた自然景観を楽しむ利用者が増えています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 県民との協働により「生物多様性とくしま戦略」を推進し、本県の豊かな生物多様性を保全することで、その地域資源の持続可能な利用に努めます。
- ◎ 生物多様性の考え方を広く浸透させるため、普及啓発や保全活動の担い手の中心となる人材を育成します。
- ◎ 「コウノトリ里親センター（仮称）」を設立し、コウノトリを県内生物多様性のシンボルとして普及啓発の取組みを推進します。
- ◎ 本県の優れた自然景観等を有する自然公園については、その景観に配慮した安全・安心な整備を進めるとともに、トイレの洋式化の推進など、利用者の受入環境の整備に努めます。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

鳥獣適正管理と利活用

- ◆ 野生鳥獣の適正管理を担う事業者や若手狩猟者が増え、積極的な捕獲により個体数が減少、生息域が縮小するとともに、ジビエとしての利活用も進み、農林水産物の被害低減による農林水産業の活性化や、自然植生の回復が図られています。
- ◆ 「阿波地美栄」が徳島の食文化として定着し、ジビエ料理が県内各地で一年を通じて味わえるなど、ジビエを地域資源とする新たな産業が創出され、中山間地域が活性化しています。
- ◆ 「処理加工施設」が県内にバランスよく整備されるとともに、「徳島型養鹿システム」を活用した「ハラル対応シカ肉」の安定供給・輸出体制が整い、「阿波地美栄」がイスラム圏の人気食材となっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 人と野生鳥獣との適切な関係を構築するため、「特定鳥獣管理計画」に基づく加害鳥獣の積極的な捕獲を推進します。
- ◎ 若年層や女性などを対象に、狩猟や捕獲鳥獣の利活用に必要な知識や技術を習得するための講座を開催し、次世代の鳥獣適正管理の担い手を育成します。
- ◎ 農林水産業の生産活動促進や農山漁村の活性化を図るため、シカ、イノシシ、サル、カワウなどの鳥獣被害防止対策を関係機関等と連携して総合的・広域的に実施します。
- ◎ 「ジビエ産業の創出」を実現するため、捕獲鳥獣の安定供給体制の構築をはじめ、処理加工から流通販売、消費までの一貫した取組みを強化するとともに、「阿波地美栄サミット（仮称）」を開催するなど日本ジビエサミットのレガシーを創出します。
- ◎ 空白地帯となっている東部圏域における処理加工施設の整備を促進し、「阿波地美栄」の供給体制を強化します。
- ◎ 大学等との連携により、シカの「一時飼養システム」を構築するとともに、県内全域の処理加工施設への普及展開を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

進む循環型社会への転換

- ◆ 県民誰もが「環境にやさしい生活」を心がけ、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、環境負荷が低減された循環型社会へとライフスタイルが転換しています。
- ◆ 県民や事業者の環境意識やモラルが醸成され、3Rや使用抑制の意識^{*}が浸透することにより、使い捨てプラスチックや食品ロスの削減などによる廃棄物の排出抑制や適正処理及び様々なリサイクルシステムの導入が進み、廃棄物ゼロ社会が実現しています。
- ◆ 各種リサイクル制度が改善され、軌道に乗るとともに、プラスチック資源循環体制や太陽電池モジュールのリサイクルなどが確立され、循環を基調とする健全な社会が実現しています。
- ◆ 環境に配慮した持続的な農林水産業が営まれており、新たな付加価値のある「安全・安心な農林水産物」が県内外の消費者などに提供されるとともに、耕畜連携の進展に伴う家畜排せつ物の有機資源としての利用拡大や、鶏糞のエネルギー資源としての熱利用など、循環型農業の推進が図られています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「ゴミゼロの日」キャンペーンなど環境美化の取り組みを、産学民官の連携、協働により推進し、すべての県民に対し「ゴミを出さない、捨てない」という意識の定着を図るとともに、使い捨てプラスチックの削減やA IをはじめI C Tを活用した食品ロス削減等の環境活動を推進します。
- ◎ 県民や事業者に3Rや使用抑制の意識の浸透を図るとともに、各種リサイクル制度を推進し、廃棄物のリサイクルを進めます。
- ◎ 廃棄物の適正処理を推進するため、不法投棄等の監視活動を強化するとともに、県民との協働により、きめ細やかな対策を進めます。
- ◎ 有機質資源を循環利用した土づくりによる有機農業といった、環境に配慮した持続可能な農林水産業を推進し、家畜排せつ物などについては、適正な管理・処理はもとより、バイオマス資源としての利活用を推進し、農村地域の環境保全や資源の有効利用を図ります。

I 「安全実感！強靱とくしま」の実現

7 循環共生・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

美しく快適な生活環境

- ◆ 事業者による環境配慮への自主的な取組みが進み、事業活動等によって生じる環境負荷の低減が図られ、本県の良好な環境が保全されています。
- ◆ 汚水処理人口の増加や、工場・家庭等からの排水処理対策の徹底により、海、川の水質が向上し、清潔・快適な生活環境や、全国トップクラスの安全で豊かな水環境が維持されています。
- ◆ 工場等からのばい煙や自動車からの排出ガス削減への効果的な取組みが進み、健康に暮らせる、さわやかな大気環境が守られています。
- ◆ 地域住民の景観に対する意識が高まり、自然や歴史・文化に根ざした良好な景観が形成され、豊かな自然環境のもと、美しく快適な生活環境を備えた、個性的で魅力的な地域が県下に広がっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 大気、水、土壌環境の機動的・効率的な監視を実施し、適切に情報を発信するとともに、事業者の自主管理や地域社会での取組みを推進します。
- ◎ 下水道や合併処理浄化槽等の整備など地域の実情に合わせた汚水処理施設の整備を推進することにより、汚水処理人口普及率の向上を図ります。また、きれいな水環境の創造に向け、下水道への接続率の向上や浄化槽の適切な維持管理の実施に向けた普及啓発活動を行います。
- ◎ 工場等からの化学物質の排出による周辺環境への影響を最小化するため、事業者による化学物質の排出削減と適切な自己管理の取組みを促します。
- ◎ 豊かな自然環境や歴史・文化と調和した良好な地域景観づくりに向け、新たな担い手の育成や官民協働による景観に配慮したまちづくりを進めます。
- ◎ 美しい景観の形成や生物の多様性・生産性が確保された「豊かな海（里海）」を創生し、次世代へと継承していくため、地域活動を主体的に行う人材の育成を図ります。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

1 未来人材育成・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

特色と魅力のある教育環境

- ◆ 電子黒板・タブレット端末等のICT機器や、高速ブロードバンドを活かした教育環境が整い、これらを活用した多様な学習活動の展開や個に応じた指導の充実が図られ、全ての子どもたちが、情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力を育んでいます。
- ◆ 専門的な教育や、高度な産業教育を受けることができる学習環境が整い、産業界において即戦力となる優秀な人材や、大学においてさらに専門性を探究する人材が育成されるとともに、少子高齢化の進行やグローバル化の進展等、社会状況の変化に対応した教育が、県内各地で総合的に展開されています。
- ◆ 各高等学校が「地域の教育・文化の創造拠点」となって、魅力ある学校づくりの推進や地域との連携強化が図られており、全国、そして世界で通用する将来のリーダーを育成しています。
- ◆ 学校と家庭、地域、関係機関の連携が深まり、災害安全（防災）・交通安全・生活安全（防犯）に向けた取組みが総合的かつ効果的に行われ、それぞれの地域で子どもの笑顔があふれています。
- ◆ 義務教育の学び直しを希望する方や外国籍の方などに対し、「多様な学びを支える」安心感に満ちた教育環境が整っています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ テレビ会議システムでの遠隔授業の実施や、タブレット端末を取り入れた特色ある指導方法の確立など、ICTを効果的に活用した教育の多様化と効率化を推進します。また、ビッグデータ等の新しい技術を活用した個に応じた指導を始め、プログラミング的思考や情報モラル等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。
- ◎ すべての小・中学校において、少人数学級編制や少人数指導を推進するとともに、小学校英語専科教員の配置を進めることなどにより、教育の質を高め、児童生徒に対するきめ細やかな教育を推進します。
- ◎ 中等教育学校の開校をはじめ、一貫した学習環境のもとで学ぶ機会を選択できる中高一貫教育のさらなる充実とともに、「チェーンスクール」「パッケージスクール」など、小・中学校が連携した教育の展開により、児童生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育活動のより一層の充実を図ります。
- ◎ 活力と魅力ある教育活動を展開するため、グローバル教育や、地域資源を活用した教育を行うとともに、技術革新の進展や産業構造の変化を見据え、産業教育の活性化と6次産業化に対応した教育を展開し、高等学校の特色化・魅力化を図ります。
- ◎ 科学オリンピックへのチャレンジなど、全国、さらに世界を目指す取組みや研究活動を展開することにより、特色ある教育活動のレベルアップを図ります。
- ◎ 学籍を異動させずに学校の行き来が可能となる「新しい学校のかたち」を制度化するため、本県発「デュアルスクール」のモデル事例を積み重ね、その意義を県内外に発信します。
- ◎ 地域住民の参画により学校安全を総合的に支援する体制を整備し、子どもの安全・安心の確保を図ります。
- ◎ 全国初となる県立夜間中学を開校し、学齢期を経過した方に対し、義務教育を受ける機会を実質的に確保します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

1 未来人材育成・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

郷土愛に満ちた若者の活躍

- ◆ 学校・家庭・地域の連携により地域の教育力が高まっている中、子どもたちは、優れた芸術や伝統芸能などにふれたり体験したりすることで、郷土への愛着が生まれ、「ふるさと徳島」への誇りを胸に豊かに学び、主体的に夢や希望を見つけることができる環境が整っています。
- ◆ 規範意識や公共の精神、思いやりなどの心とともに、「ふるさと徳島」への誇りと愛着を併せ持った、地域の活性化・発展に貢献する人材が育っています。
- ◆ 英語等によるコミュニケーション能力を身に付け、「ふるさと徳島」への誇りを胸に、多様な価値観への理解と国際的な視野を持ち、主体的に行動できるグローバル人材が育っています。
- ◆ 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた、発達段階に応じたキャリア教育の推進により、すべての子どもたちが、自分自身の将来を見据えたキャリア形成を図ることができ、徳島や日本の未来を創る人材が育っています。
- ◆ 将来の夢を育むために必要な知識・経験を得ることができる活動や交流の場が身近にあり、青少年が自らのアイデアや感性を活かし、主体的に活動しています。また、若者が社会に積極的に参画し、その意見が政策に活かされています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 地域住民やNPO法人、地元で活躍する音楽家や芸術家など多様な人的資源を活用した地域の教育支援体制づくりを進めるとともに、地域の自然や伝統芸能を体験する機会を充実させることにより、子どもたちの夢を育み、郷土を愛する心を育てます。
- ◎ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が連携し、人、社会、自然との関わりを生かして、児童生徒の豊かな心を育成します。
- ◎ 英語教育のさらなる充実と、児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域の特色を生かした外国人との交流などの体験的学習を通して、国際的な視野を養い、自ら積極的に行動できる児童生徒を育成します。
- ◎ 学校・家庭・地域が連携し、職場見学や職場体験、インターンシップや地域行事への参加等、体験的活動の充実をはじめ、児童生徒自身が学びを振り返り、自らの将来とキャリア形成を考える機会を設けるなど、教育活動全体を通じたキャリア教育を推進し、持続可能な社会の担い手の育成を図ります。
- ◎ 若者が世代や職種を超えた幅広い層の人々と交流し対話することによって、社会参画への意欲向上を図るとともに、課題解決のアイデアを創出する地方創生の若手リーダー育成に取り組みます。
- ◎ 公募制の活用などにより県審議会等委員への若者の登用を推進し、政策方針決定過程への参画を促します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

1 未来人材育成・とくしまづくり③

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

個性がひらく特別支援教育

- ◆ 特別支援学校では、障がいのある生徒の職業技能や就労意欲が向上し、社会参加や地域貢献活動が推進されるとともに、企業の障がい者雇用への理解が進むことにより、生徒の働きたい想いが実現し、それぞれの個性を輝かせ社会で活躍しています。
- ◆ 幼・小・中学校では、肯定的で適切な行動を促す「ポジティブな行動支援」が浸透し、障がいのある子どももいない子どもも、自発的に学ぶことができている。また、高等学校では発達障がい等のある生徒への支援が充実し、生徒の就労や自己実現につながっている。
- ◆ すべての学校において、教員の特別支援教育についての専門性が向上し、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ「インクルーシブ教育システム^{*}」による「多様な学びの場」において、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援が行われています。
- ◆ 特別支援学校間で、それぞれの専門性を相互に提供し、補完し合うことにより、障がいに応じた指導、職業指導、文化・スポーツ活動など、幼児児童生徒一人ひとりの多様な教育的ニーズに対応した質の高い専門的な教育がすべての特別支援学校で行われています。

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 特別支援学校の幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進することにより、生徒の職業技能や就労意欲の向上や、福祉、教育、医療、労働等の関係機関の連携の強化を図るとともに、企業の障がい者雇用への理解を促進することで、特別支援学校生徒の働きたい想いに応える就労支援をさらに充実します。
- ◎ 幼・小・中学校において「ポジティブな行動支援」に取り組むとともに、高等学校では発達障がい等のある生徒の支援の充実を図るため、将来の社会的自立にむけた教育を推進します。
- ◎ すべての学校の教員が、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援ができるよう、ICTを活用したe-ラーニング教材や特別支援教育の最新の知見に基づいた研修を実施し、教員の特別支援教育に関する専門性向上に取り組めます。
- ◎ 特別支援学校間で、専門性を高めるための研修や、職業指導、文化・スポーツ活動などの合同実施や、ICTを活用した情報連携を図ることにより、それぞれの特別支援学校の専門性を共有し、幼児児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた質の高い専門的な教育を展開します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

2 誰もが活躍・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

ニーズを捉える生涯学習・リカレント教育

- ◆ 県民ニーズを捉えた講座等の充実に加え、人生の多様な時期に多彩な方法で学習可能な環境が整備されており、学んだ成果が講師やボランティア活動等を通じて積極的に地域社会に還元され、さらなる生きがいづくりや地域活性化につながっています。
- ◆ 技術革新の進展に対応したスキルアップや能力開発を図り、県民自らがキャリア形成を行うとともに、人口減少、超高齢社会の中で「多様な人生の再設計」が可能となる、ライフステージに応じたリカレント教育など生涯を通じた学習機会が充実し、誰もが活躍することのできる「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、高等教育機関や企業、NPO、市町村等の関係機関との連携を一層推進し、生涯学習情報のワンストップでの提供や、県民ニーズや社会潮流を捉えた講座の充実により、あらゆる世代の学び直しをはじめ、県民の生涯学習を支援します。
- ◎ 関係団体とのネットワークづくりを行うとともに、多岐にわたる各種講座やイベントの情報をタイムリーに発信し、誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができる機会を提供します。
- ◎ 高等教育機関や産業界等と連携して、専門的・実践的なリカレント教育の充実を図ります。
- ◎ 勤労者のキャリアアップや学び直しを促進するため、協調融資制度等を通じ、経済的負担の軽減を図ります。
- ◎ 子供の頃から技能の面白さや大切さを身近に感じる機会を設け、興味関心を喚起するとともに、職業訓練施設などにおいて、学卒者、子育て中の女性や外国人材など多様な人材に対するリカレント教育を実施し、職業能力開発を促進します。
- ◎ 産業界のニーズに応じた高度な人材を育成するため、実践的な知識・技術の習得に資する機会の提供や支援策の充実を図ります。
- ◎ 農林水産業における多様な人材の育成・確保を図るため、リカレント教育の推進による女性やアクティブシニアなどの活躍を支援します。さらに、生産を支える労働力確保に向け、農福連携の推進による障がい者の活躍や外国人材の活用を促進するための支援に取り組みます。
- ◎ 建設産業の担い手の確保・育成を推進するため、建設産業従事者の技能・経験に応じたスキルアップを支援します。さらに事故を防ぐ安全教育や体力づくりを実施し、アクティブシニアの活用を支援します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

障がいのある人もない人もいきいきと暮らせる社会

- ◆ すべての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、障がいのある人とない人が、お互いに支え合って交流・活動するなど、地域で共に安心して、いきいきと暮らせる「共生社会」が実現しています。
- ◆ 障がい者が、自らの能力や障がい特性に応じて働く場を確保できるとともに、自らが選んだ地域で安全・安心に暮らし、社会の中で自立して生活することができるよう、就労支援、地域移行・地域生活支援等の必要なサービス提供体制が整備されています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、スポーツ・芸術文化などを通じた交流が進み、障がい者が地域の一員として、いきいきと活躍できるなど、障がい者の自立と社会参加が実現し、「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。
- ◆ 県民のすべてが「発達障がい」を正しく理解し、発達障がい者が自立し、日々充実した暮らしを送っています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「障害者差別解消法」や「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」に基づき、障がいについての理解を深めるとともに、障がい者への差別や偏見を取り除くため、県民一人ひとりの「心のバリアフリー」を促進します。また、手話や要約筆記等の専門的知識・技能を有する人材の育成や、障がいの特性に応じた意思疎通支援等に取り組み、障がいの有無にかかわらず、全ての県民が互いに人格や個性を尊重し、いきいきと暮らせる徳島づくりを目指します。
- ◎ 障がい者の地域移行を促進するとともに、地域での生活をより一層安心できるものとするため、平時は地域住民の交流拠点、災害時は要配慮者の防災拠点としての機能を併せ持つ「地域生活支援拠点」の整備を進め、地域全体で障がい者を支える「地域包括ケアシステム」を推進します。
- ◎ 障がい者を総合的に支援できる実践力の高い人材を養成するため、相談支援専門員等の段階的な研修や、より効果的な実地研修を組み込むことにより、障がい福祉サービスの充実を図ります。
- ◎ 障がい者の職業的自立を支援するため、事業主をはじめ県民への意識啓発や、就労の場を確保するとともに、障がい者の多様な特性を活かし、地域貢献などのさらなる活躍の機会を創出します。
- ◎ 障がい者が地域社会において自立し、いきいきとした生活が営めるよう、授産製品のブランド力を強化するとともに、インターネット等を通じた販路拡大、就労施設で栽培した農産物の生産から販売までの一体的なシステムの構築により、障がい者就労支援施設利用者の工賃アップを図ります。
- ◎ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、障がい者のスポーツ・芸術文化活動等への参加を一層促進し、障がい者の生活を豊かにするとともに、障がい者の自立と社会参加の促進を図ります。
- ◎ 発達障がい者（児）が、地域の実状に応じたきめ細やかな支援を受けられるよう、地域や関係機関と連携したネットワークづくりを推進するなど、支援体制の充実を図ります。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

男女共同参画とDV・性暴力のない社会

- ◆ 「男女共同参画社会の形成は、男女を問わずすべての人にとって、より暮らしやすくなるものである」という理解が浸透しています。また、性別により差別されることがなく、個性や能力を發揮できる「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。
- ◆ 多様な生き方を選択できる環境が整い、男女とも仕事と家庭生活、地域活動が両立可能となることで地域が活性化するなど、ますます女性の活躍が促進され、地域における重要な方針や計画等を決定する場においても、男女が共同して積極的に参画し活躍しています。
- ◆ DVや性暴力のない社会が実現し、住み慣れた地域で安心して生活することができています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「ときわプラザ（男女共同参画交流センター）」において、女性活躍に向けたワンストップサービスの提供や、民間団体とも連携した「フレアキャンパス講座」の開催等により、男女共同参画についての相談・情報発信機能や啓発・学習効果を拡げます。
- ◎ 政策・方針決定過程をはじめ、多様な分野に女性が参画できるよう、「とくしまフューチャーアカデミー」による人材育成や、男女協調月間における啓発フェスティバルの開催等により、社会全体の意識改革を進めます。
- ◎ DVや性暴力による被害者の相談に的確に対応するとともに、支援体制の充実のため、関係機関等との連携強化や支援者、民間支援団体の育成に取り組みます。また、将来にわたる被害・加害を防ぐため、若年層を対象とした啓発事業等を推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

多文化共生のまちづくり

- ◆ 「多文化共生のまちづくり」が実現し、言語や文化の違いを踏まえた外国人への温かい「お接待の心」による対応で外国人とのコミュニケーション能力が優れた県、「ダイバーシティ徳島」として、国内外から評価されています。
- ◆ 多くの外国人が仕事や留学目的で徳島に訪問・在住し、生活情報や観光情報をはじめとする様々な情報が多言語で提供されるとともに、語学力を備えた人材による支援や災害に備えた外国人支援体制が充実しています。
- ◆ 本県と友好交流を提携する多くの国や地域との間で、行政のみならず民間においても、観光や経済、学術、文化・スポーツなど幅広い分野で交流が行われ、世界中で「徳島」に親しみを持つ人々が増えています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 徳島県国際交流協会や民間団体と連携し、小中学校・高等学校や地域の国際交流事業に、在住外国人や外国での生活経験がある方々を派遣して、県民の幅広い外国文化に触れる機会を充実し、県民の多文化共生意識の醸成を図ります。
- ◎ 外国人支援ネットワークを充実し、県内の国際版ワンストップ情報受発信拠点である「とくしま国際戦略センター」を核として、多言語による相談窓口の充実や災害時に備えた在住外国人支援体制の整備、支援にあたる各種ボランティアの育成を図るとともに、在住外国人の日本語能力の向上等に向け支援体制の強化を図ります。
- ◎ すだちくんハローワークにおいて外国人の労働に関する相談対応を行う窓口を設置し、相談体制の充実強化を図ります。
- ◎ 友好交流提携を行っているドイツ・ニーダーザクセン州、中国・湖南省、ブラジル・サンパウロ州をはじめ、多くの国、地域と相互に利益を感じられる県・民間レベルの友好交流を推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

3 広がるダイバーシティ・とくしまづくり④

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

すべての人の人権が尊重される社会

- ◆ 県民一人ひとりが、生命の尊さや人間の尊厳を認識し、「自分がかげがえのない存在であるとともに、他人もかけがえのない存在である」という人権尊重の理念が定着するとともに、性別や国籍の違い、障がいの有無など、多様性（ダイバーシティ）に関する理解が県民の間で幅広く浸透し、「すべての人々の人権が尊重される社会」が実現しています。
- ◆ 学校・家庭・地域が連携し、日常生活の様々な機会を通じ、一人ひとりが主体的に参画する交流学習・体験活動が行われ、社会の変化に対応した、差別解消に向けた取組みや多様性を認め合う人権教育が充実し、人と人のつながりを大切にする人権尊重社会が実現しています。
- ◆ 児童生徒一人ひとりが、安心して登校し、自信と目標をもっていきいきと活動する学校づくりが行われています。
- ◆ 障がいの有無、年齢・国籍等を問わず、誰もが自由に社会参加できる「ユニバーサルなまちづくり」が進み、安全・安心で快適な施設整備が促進されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「多様性（ダイバーシティ）が受容される共生社会」の実現に向け、「とくしま共に生きるフェスタ（仮称）」を開催するとともに、「人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）」を中心に、様々な人権啓発事業を推進します。
- ◎ インターネット上の悪質な差別書込等に対するモニタリングを県民と共に実施することにより差別書込等の抑止・削減を図ります。
- ◎ 「徳島県人権教育推進方針」に基づき、それぞれのライフステージに対応した、計画的・系統的な人権教育の推進・充実を図るとともに、差別解消と人権確立の視点に立ち、すべての人の共生と自己実現を図る学習機会の提供に取り組めます。
- ◎ 学校・家庭・地域の強固な結びつきと、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家との協働により、児童生徒のよりよい人間関係を構築し、いじめ問題の解決に向けた主体的な取組みを推進します。
- ◎ 「徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例」に基づき、県民、事業者、行政の各主体が緊密に連携・協働し、それぞれの役割に応じて、歩道等の整備や交通安全対策の推進、誰もが利用しやすい公共交通機関の実現など、ユニバーサルデザインによるまちづくりに向けた取組みを実践します。（一部再掲）

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

4 革新実装・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

「とくしまインダストリー4.0」の実現

- ◆ IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等の革新技术により、少子高齢化や人口減少、産業構造の変化、地球規模での環境問題、風水害や地震災害などの様々な地域課題の解決を図る「とくしまインダストリー4.0」が実現し、安全・安心で活力あふれる地域が創造されています。
- ◆ 県内の高速ブロードバンド網が、全域で光ファイバー化され、4K・8K・VRなどの大容量ネットワークを必要とするサービスが充実するとともに、5Gネットワークが構築され、高精細映像の遠隔医療・警備分野への活用や無人自動運転技術の確立など、より便利で快適な生活が実現しています。
- ◆ マイナンバーカードが、安全安心なデジタル社会の基盤となり、生活に身近な官民のオンラインサービスが提供されるとともに、地域のキャッシュレス化にも利活用され、利便性が向上し、地域経済が活性化しています。
- ◆ 地域資源を活かしたロボットテクノロジーの実用化により、介護・農林水産・防災分野など様々な場面でロボット技術やAI等を効果的に活用し、社会的課題の解決が図られるとともに、ロボット市場への新規参入や様々な産業で最先端技術を活用したスマート化が進展しています。
- ◆ 業界をリードする多くのクリエイティブ関連企業やクリエイターが集積し、絶えず創造と変革を起こしており、最先端のデジタルコンテンツ・デジタルアートの発信地として広く知られる「クリエイティブ産業先進県」となっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ IoT等の革新技术をはじめICTを課題解決ツールとして利活用するための指針「ICTとくしま創造戦略」を着実に推進し、「とくしまインダストリー4.0」の実現を目指します。
- ◎ 官民データ活用による地域課題解決を目指す「とくしま新未来データ活用推進戦略」を着実に推進し、市町村や県民・企業等の連携によりデータ利活用を促進します。また、行政手続きの簡素化やオンライン対応、AI、RPA等の革新技术を活用した「スマート県庁」を実装し、県民の利便性向上を図ります。
- ◎ マイナンバーカードを活用した自治体ポイントの利用を促進し、地域経済の好循環を創出します。
- ◎ AI等の革新技术を活用し産学官連携によるロボット技術開発を進め、本県ものづくり産業の高度化を支援します。また、生産性向上につながる設備等の導入を支援するため、中小企業向け融資制度を活用し、資金調達の円滑化を図ります。
- ◎ AI、ビッグデータ等の新技術の活用に向け、国内外のICT技術者と県内企業のマッチングを推進し、ICT人材の確保を図ります。
- ◎ 農林水産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学や民間事業者との連携により、気候変動にも対応した新たな品種やIoT、ビッグデータ、AIなどの革新技术を活用した超省力・低コスト化技術の開発・普及を推進します。
- ◎ 地域を支える建設産業の担い手の確保・育成と健全な発展を目指し、i-Construction（建設現場の生産性向上）を推進します。また、IoT、AI等の革新技术を積極的に活用し、効率的・効果的なインフラの維持管理を進めます。
- ◎ 産学官が連携した人材育成、企業誘致、創業等を推進することにより、国内外からクリエイティブ関連企業やクリエイターの集積を図るとともに、県内企業とクリエイターの連携による洗練された商品・サービスの創造や、既存商品等との差別化・高付加価値化（ブランディング）、地域をフィールドとした創作活動などを推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

5 ブランド進化・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

世界に広がる「徳島ブランド」

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックや2025年大阪・関西万博の開催を契機に、本県産業が「徳島ならではの」強みを活かして世界の成長力を取り込み、国際競争力が強化されています。
- ◆ 照明・ディスプレイ分野でのLEDの普及拡大と、医療・農業等様々な分野での新用途開発が進展するとともに、次世代LEDをはじめとする新たな光源開発・光応用技術の普及が進むなど、県内経済に大きな波及効果をもたらし、本県の基幹産業として地域経済を牽引しています。（再掲）
- ◆ 機械金属、木工、加工食品等の各分野の中小企業において、地域の視点とグローバル感覚を兼ね備えた社員が中心となって、製品のグローバル化展開を推し進めており、IoT、AIを駆使した流通網の発達を追い風に県内の商社や流通業者などを介して、世界各地で本県ブランドの販売量が増大しています。
- ◆ 徳島は「美食の街」というイメージが浸透し、国内外から徳島の食を目当てに多くの人々が訪れる「阿波ふうどツーリズム」が形成されています。
- ◆ 県産農林水産物・食品が海外で高く評価され、アジアから欧米まで年間を通じて輸出されるとともに、「ハラール^{*}マーケット」において、「徳島生まれのハラール商品」が輝きを放っているなど、「海外輸出」が、本県農林水産業を牽引する役割を果たしています。
- ◆ 人と環境に配慮した持続可能性の高い農業が営まれ、「とくしまエシカル農産物^{*}」が消費者へ提供されるとともに、エシカル農産物について消費者の理解を高めることにより、生産から消費に至るまでの、食の安全・安心が確保されています。（再掲）

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 本県の「農林水産物」、「自然や観光資源」、「伝統・文化・産業」など、世界にも通用する多くの「徳島ならではの」強みを活かし、県を挙げて、県内産業の競争力強化、輸出促進による海外展開などの「攻め」の「グローバル対策」を推進します。
- ◎ 産学官連携により、幅広い分野で可能性を持つ次世代LEDの研究や応用製品開発を積極的に推進するとともに、光関連産業の振興に取り組みます。（再掲）
- ◎ 県内企業や農林漁業者がワンストップで海外ビジネスに取り組めるよう、組織体制の強化、国際人材の養成、製品開発・改良などの支援に加え、企業と市場を結ぶ地域商社^{*}・流通・卸業等のグローバル化を促進する施策の強化とともに、海外市場における本県製品の浸透及び新市場への販路開拓の支援策を充実させます。
- ◎ 高品質な食材、レベルの高い料理人、特徴的な郷土食・文化などに支えられる徳島の豊かな食「阿波ふうど」に関わる全ての人達がいきいきと活躍し、国内外から「食べに行きたい」と思われる「美食の街・徳島」を目指します。
- ◎ 輸出国・地域、輸出品目の重点化、新規市場の開拓による輸出量の拡大や「輸出型産地形成^{*}」などの施策を強力に推進するとともに、「GAP」「HACCP」「ハラール」等の認証取得支援や、地理的表示保護制度（GI）の活用により、意欲ある農林漁業者等の海外展開を促進します。
- ◎ GAP認証の取得支援やエコファーマー^{*}の育成、有機農業の推進等に取り組み、人と環境に配慮した持続可能性の高い農業により生産された「とくしまエシカル農産物」の消費者への認知度向上と生産・販路の拡大を図ります。（再掲）

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

5 ブランド進化・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

もうかる農林水産業の進化

- ◆ 経営感覚に優れた意欲ある多様な担い手により、魅力ある農林水産業経営が行われ、農山漁村地域が活気に満ち溢れています。
- ◆ I o T、A I、ロボット等の革新技术を活用したスマート農林水産業の実現により、生産性が飛躍的に向上するとともに、多様化する国内需要や海外ニーズにも対応したグローバル産地が形成されています。
- ◆ 地球温暖化をはじめとする気候変動に対応した品種の導入や、高い生産力と消費者ニーズを捉えた商品づくりや販売戦略などにより、「とくしまブランド」がより一層消費者に浸透するとともに、輸出や6次産業化の推進により、県産農林水産物や加工品の需要が国内外に広がっています。
- ◆ 多様化する消費者等のニーズにも対応した、マーケットイン型の産地づくりが進むとともに、産地の構造改革や生産基盤の整備により、品質の高い徳島のブランド農林水産物を、より効率的、安定的に消費者に供給することができ、農林水産業が地域経済を支える基幹産業として発展しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 産学官連携による新規就業者の養成に加え、女性やアクティブシニアなどのリカレント教育を推進する「とくしま農林水産未来人材スクール（仮称）」を新たに開講し、キャリア形成・スキルアップを支援するとともに、インターンシップ等による大学生等の農林水産現場への受入を進め、就業の促進を図ります。
- ◎ 農林水産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学や民間事業者との連携により、気候変動にも対応した新たな品種やI o T、ビッグデータ、A Iなどの革新技术を活用した超省力・低コスト化技術の開発・普及を推進します。（再掲）
- ◎ 大学や民間事業者との連携やオープンラボ機能を有する「六次産業化研究施設」を活用し、6次産業化人材の育成、地場産業との連携による6次産業化ビジネスモデルの創出を支援します。
- ◎ 搾乳ロボット等の省力化機械の導入やI C Tの活用など、生産性向上の取組みを支援するとともに、世界市場からの輸入品に対する守りの強化と「畜産G A P」・「農場H A C C P」の認証取得などの環境整備を促進し、安全安心な県産畜産物の輸出を支援します。
- ◎ 県産材の増産に向け、主伐に適した効率的な林業機械の活用と、林道・作業道等の路網整備を組み合わせることにより、効率的な事業の実施を進めるとともに、林業事業者に対する経営コンサルティング等を通じて林業事業者の体質強化を図ります。
- ◎ 水産業の成長産業化に向け、「環境変動に適応した漁業・養殖業の推進」や「大学や民間企業等と連携した新品種養殖の推進」など、マーケティングを意識した産地づくりに取り組みます。
- ◎ 「とくしまブランド推進機構」による、マーケットイン型の産地づくりや、販売振興、「TurnT able」での情報発信、「PR車両」による攻めのプロモーションなどにより、本県の豊かな食「阿波ふうど」の認知度向上と販売拡大に取り組みます。
- ◎ 本県の特徴ある農産物の生産性や農作業の効率性をより高めるため、区画整理や農業用水のパイプライン化、排水路の整備や既存施設の長寿命化を推進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現

5 ブランド進化・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

生産倍増・消費拡大「林業プロジェクト」

- ◆ これまで取り組んできた先進的な林業機械の導入や効率的な路網の整備、高い技術を有する担い手の育成に加え、森林経営管理法により、市町村から「意欲と能力のある林業経営体」に森林経営が委託されることによって、林業の生産規模が拡大し、より効率的な木材生産が展開されています。
- ◆ 主伐による生産を中心に県産材の増産が進むとともに、コンテナ苗^{*}等の活用により、季節を問わない効率的な再生林が行われ、森林資源の循環利用と持続的な林業経営が行われています。
- ◆ 中・大規模建築物にも多くの県産材が使われるようになり、地場産業である木材産業が大きく発展しています。
- ◆ 木造建築物をはじめ、内装材や家具など、身のまわりのあらゆるところで県産材製品の利用が進み、製材端材や林地残材も木質バイオマス資源として無駄なく利用されています。
- ◆ 県産材がその品質の高さから市場での評価が高まり、首都圏やアジアをはじめとする海外へ販路が拡大しています。
- ◆ 木材利用の意義、木材に関する知識などを知ってもらう「木育」を推進することにより、徳島ならではの「木づかい」が未来を担う子供たちに引き継がれています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 主伐に適した効率的な林業機械の活用と、林道・作業道等の路網整備を組み合わせることにより、県産材の増産を推進します。また、様々なライフステージに合わせた体験・研修の実施や個人のキャリアに応じた学びの支援により、担い手となる人材の確保を図るとともに、林業事業者に対する経営コンサルティング等を通じて林業事業者の体質強化を図ります。（一部再掲）
- ◎ 主伐後の再生林を進めるため、コンテナ苗などを活用した低コスト造林技術を確立・普及を図るとともに、シカ被害防除技術の普及による計画的で確実な再生林の支援を行います。
- ◎ 教育・福祉施設などの地域社会に必要な建築物への県産材の利用を進め、需要を増やすことによって、中山間地域における雇用の創出と定住化を進めます。
- ◎ 県産材製品の品質向上や商品開発の促進、森林認証材及びJAS材の普及により、首都圏をはじめとする大消費地を中心に、県産材の国内需要の拡大を図ります。
- ◎ 木材需要旺盛なアジア圏を中心に、構造材だけでなく、床板・壁材などの内装材から家具・建具まで「住宅に必要な県産材製品」と大工等の「技術者」をあわせた「まるごと木材輸出システム」による海外輸出を拡大します。
- ◎ 県産材の消費を拡大させるため、関係団体によるネットワークを構築し、県産材についての情報発信や木育活動を一元的に実施します。また、未来を担う子供たちを中心とした幅広い世代に「木育」を推進するため、木育拠点施設を開設します。

II 「多様性実感！共生とくしま」の実現

6 経済好循環・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

力強い「経済成長」の実現

- ◆ 全国屈指の「光ブロードバンド環境」や、「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により創出されたビジネスにより、地域は活気にあふれ、国内外からの移住希望者が増えるとともに、コミュニティ内の子供や若者たちが早い段階からビジネス感覚を養い、地域に定住してビジネスを継承しようとしています。（再掲）
- ◆ 時代をリードする企業経営者の育成や経営改善のスキルアップを図ることにより、中小企業・小規模事業者の“強み”や“経営資源”を活かした新たな取組みが行われており、地域経済が持続的に発展しています。
- ◆ たゆまぬ研究開発や新商品開発により形成された「地域ブランド」が、新技術や埋もれた技術の採用、充実した産業間の連携によって、さらに新しい「地域ブランド」を創出し、ものづくり企業の製造品出荷額は増加を続けています。
- ◆ 新たな商品の開発・生産システムの導入、農工商連携など地域の多様な事業者によるアグリビジネスの促進により、6次産業化が飛躍的に進展しています。
- ◆ 「阿波藍」を根幹とした藍産業の基盤が構築され、「阿波しじら織」などの様々な藍染製品の創出や「阿波和紙」、「大谷焼」をはじめとする伝統工芸品への応用によって、新たな「MADE IN TOKUSHIMA」の魅力が創造され、価値や評価が高まり、日本を代表する世界ブランドとして一定の地位を確立しています。
- ◆ 事業主の高齢化に対応するため、早期に社内に後継者を確保する動きや、承継案件のオープン化、さらには県外の企業や移住者への承継PRが活発化しており、優れた技術や経営ノウハウが伝承され、円滑に事業継承が進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 経営資源を活かした新たな事業活動を促進するため、「柔軟な組織づくり」のノウハウを総合的かつ身近に学べる研修プログラムを提供し、企業の人財育成を支援するとともに、県内中小企業の経営の安定化を図り、積極的な事業展開が可能となるよう資金繰りの円滑化を図ります。（再掲）
- ◎ 独自の技術や経験等を活かして、県内で新たに創業する者等を対象にセミナーの開催や事業計画の策定支援、専門家による経営アドバイスを実施するなど創業を支援します。
- ◎ 県内企業への優先発注に努め、受注機会を確保するとともに、県が率先購入した製品の成果を実証することにより販路開拓や商品力の向上を支援します。
- ◎ 「ものづくり企業」の製品や本県が誇る伝統工芸品の販路開拓を図るため、ビジネスマッチングや販路情報の収集・提供などに加え、他業種とのコラボレーションの促進や国内外における展示商談会への出展支援、ICTを利用した情報発信に取り組みます。
- ◎ 「とくしま経済飛躍ファンド^{*}」を活用し、徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新商品開発、販路開拓など、中小企業の意欲的な取組みを支援し、創造的な事業活動を促進します。
- ◎ 産官学金民で構成された「阿波藍魅力創造発信プロジェクト」により、藍産業の組織化、葉藍の生産振興、新製品の開発、販路の拡大、体験型観光の推進など入口から出口まで一体的に取り組み、100年先を見据えた藍産業の基盤構築を図ります。
- ◎ 「事業承継ネットワーク」と「事業引継ぎ支援センター」が連携し、事業譲渡希望者と事業譲受希望者のマッチングを促進します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現 7 いきいき働く・とくしまづくり①

＜目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿＞

新たな「成長モデル」による雇用創出

- ◆ 大都市圏等からの本社機能の移転や、外資系企業の立地により、「第4次産業革命」や、「グリーンイノベーション」、「ライフイノベーション」分野などの成長産業が集積し、新たな雇用が創出され、地域経済が活性化しています。
- ◆ 徳島に世界的な「糖尿病臨床研究開発拠点」が形成され、世界的課題である糖尿病に対する課題解決モデルが構築されるとともに、健康・医療関連企業の集積によりイノベーションが促進され“徳島発”の健康・医療関連産業が次々と創出される環境が構築されています。
- ◆ 地域資源を活かしたロボットテクノロジーの実用化により、介護・農林水産・防災分野など様々な場面でロボット技術やAI等を効果的に活用し、社会的課題の解決が図られるとともに、ロボット市場への新規参入や様々な産業で最先端技術を活用したスマート化が進展しています。（再掲）

＜実現のための主な施策の方向性＞

- ◎ 全国屈指の光ブロードバンド環境や本県独自の「オーダーメイド型立地優遇制度」を活かし、大都市圏からの成長分野関連企業、情報通信関連産業、本社機能移転や外資系企業の誘致を推進し、本県経済の活性化及び雇用の確保を図ります。
- ◎ 産学官が連携した先進的な糖尿病研究開発と成果の事業化を促進するとともに、健康・医療関連産業の創出に向けた産学官連携体制の基盤を構築・拡大します。
- ◎ 「リチウムイオン電池」や高機能素材である「CFRP（炭素繊維強化プラスチック）」や「CNF（セルロースナノファイバー）」など、本県の強みであるものづくり技術や、AI等の革新技術を活用し、産学官連携によるロボット技術開発を進め、本県ものづくり産業の高度化を支援します。

Ⅱ 「多様性実感！共生とくしま」の実現 7 いきいき働く・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

産業人材の育成・確保と「多様な働き方」の実装

- ◆ キャリア形成に向けて、技術革新の進展や企業ニーズに対応した多様な知識や技術を習得できる環境が充実し、誰もが意欲・能力を活かして活躍することができる社会が実現しています。
- ◆ テレワークをはじめ、徳島発の「多様な働き方」が飛躍的に浸透し、仕事と生活の調和がとれた安定的な働き方ができる社会が実現しています。
- ◆ 徳島で創業や起業を実現するための支援や、女性や移住者が創業しやすい環境づくり、創業後のフォローアップなどの取組みにより、新たなビジネスが次々と生まれています。
- ◆ アクティブシニア（元気な高齢者）が増え、それまでに培ってきた「知識」、「経験」、「能力」を活かし、「地域を支える主役」として生涯現役で活躍しています。（再掲）

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 若年者やU I Jターン希望者等に対する相談体制充実など、県内で就職しやすい環境を整備します。
- ◎ 産業界のニーズに応じた高度な人材を育成するため、実践的な知識・技術の習得に資する機会の提供や支援策の充実を図ります。（再掲）
- ◎ 子供の頃から技能の面白さや大切さを身近に感じる機会を設け、興味関心を喚起するとともに、職業訓練施設などにおいて、学卒者、子育て中の女性や外国人材など多様な人材に対するリカレント教育を実施し、職業能力開発を促進します。（再掲）
- ◎ 女性が能力を十分に発揮でき、男女ともに働きやすい職場づくりを推進するため、企業等に対する、仕事と家庭の両立支援に関する情報提供や普及活動を充実させるとともに、働く女性の活躍推進に向け、施策の充実を図ります。
- ◎ 企業における在宅勤務や、モバイルワーク^{*}の導入などの多様な働き方を推進するとともに、誰もがテレワークにより仕事ができるICT環境の実現を図ります。
- ◎ 潜在的労働力である女性のスキルや特技を活かした創業を支援するため、女性目線でのセミナー開催のほか、先輩女性起業家や様々な支援機関との横連携を強化します。
- ◎ アクティブシニアが、社会貢献活動や就労など、多様な形で「地域を支える主役」となり、「生涯現役」で活躍していただくための支援を行います。（再掲）

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

1 誘客万来・とくしまづくり①

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

おもてなしの心豊かな観光立県

- ◆ 徳島の豊かな自然・文化・食などをテーマとしたニューツーリズムが続々と創出され、その魅力がSNSや世界的な旅行雑誌を通じ全世界に発信されることで、世界から「ぜひ訪れたい観光地」としての認知が広がり、多くの観光客で溢れています。
- ◆ 四季折々繰り広げられる「本場の阿波おどり」を体感するため、世界中からの来県者で街が賑わうとともに、世界各地に「阿波おどり連」が結成され、広く親しまれ、阿波おどりの文化が世界に根付いています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックや2025年大阪・関西万博の開催を契機として、アジアをはじめ欧米豪から、本県の伝統文化、郷土食、自然景観や「心温まるお接待文化」に惹きつけられた多くの訪日外国人が繰り返し訪れ、地域の人々との交流で賑わっています。
- ◆ 「とくしま特選ブランド」が世界から認知され、県産品を扱う販路が飛躍的に拡大されるとともに、「県産品」をテーマに地域の特色を活かした様々な「ツーリズム」が盛んに行われています。
- ◆ 国際会議、学術会議、大規模スポーツ大会などのコンベンション（C）が数多く開催されるとともに、企業のミーティング（M）、報奨旅行（I）、文化やスポーツイベント（E）といったMICEの開催地として国内外から選ばれ、宿泊を伴う多くの参加者が訪れることで、観光関連産業が活性化しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 新たな観光資源を発掘するとともに県内DMOを中心に体験型旅行商品の創出支援に取り組み、魅力ある旬の観光コンテンツを「阿波ナビ」やSNSなど多様なチャンネルで発信し、県内の「誘客力強化」を図ります。また、創意と工夫を凝らした観光キャンペーンや観光商談会による県外からの「送客力強化」、及び阿波おどりの通年化などを通じた県内の「観光消費額の増加」に官民一体で取り組みます。
- ◎ 国内外からの招へい等による「阿波おどり連」の派遣により「本場の阿波おどり」で世界を魅了するとともに、「春・夏・秋・冬」と趣向を凝らした阿波おどりイベントの魅力を活かし、年間を通じた魅力ある観光地域づくりに取り組みます。
- ◎ 着実に宿泊者数が伸びている東アジアを重点国・地域とし、東南アジアや欧米豪などもターゲットに据え、現地旅行会社、メディア、航空会社などと連携した効果的な誘客プロモーションを官民一体で展開するとともに、電子決済システムやWi-Fi環境、ニューツーリズムなど体験型旅行商品の充実を図り、観光消費額の拡大を推進します。
- ◎ 訪日外国人旅行者や海外市場もターゲットに、広く県産品を販売できる体制を官民一体で整備するとともに、世界市場から求められる県産品、食べに行きたい郷土料理の開発支援や国内外のアンテナショップやウェブサイト、SNSによる口コミなどを活用し、販路開拓を強化します。
- ◎ 産官学金民で構成された「阿波藍魅力創造発信プロジェクト」により、藍産業の組織化、葉藍の生産振興、新製品の開発、販路の拡大、体験型観光の推進など入口から出口まで一体的に取り組み、100年先を見据えた藍産業の基盤構築を図ります。（再掲）
- ◎ 多くの集客交流が見込まれ経済波及効果の高いコンベンションの誘致に加え、報奨旅行やナイトイベントなど新たな宿泊客の獲得に向け、支援制度の充実、主催者への個別訪問や知恵と工夫を凝らした商談会の開催など、積極的なプロモーションに取り組みます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

1 誘客万来・とくしまづくり②

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

「徳島ならではの」を実感・体感！

- ◆ 「とくしまマラソン」やアニメイベント「マチ★アソビ」が、「徳島ならではの」のイベントとして国内外から注目を集め、多くの参加者が繰り返し徳島を訪れるとともに、にぎわいが周辺地域や県内全域へと広がっています。
- ◆ 県南部圏域では、海・山・川が揃う「豊かな自然」やその自然を活かした「アクティビティ」、魅力ある「食」、地域色豊かな祭りや農村舞台での阿波人形浄瑠璃などの「伝統文化」を求めて、国内外から多くの人々が訪れ、地域が活性化しています。
- ◆ 県西部圏域（にし阿波）では、大歩危・祖谷などの景勝地をはじめ、「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定された食や伝統文化、ラフティングやウェイクボードなど、様々なコンテンツが多く外国人を魅了しています。
- ◆ 映画やドラマ、アニメなどの映像を通して徳島県に興味を持った多くの観光客が本県を訪れ、ロケ地をはじめとした県内各地の観光スポットが賑わっています。
- ◆ 県内各地で伝統芸能・文化、スポーツなど様々な要素からなる「ナイトイベント」が開催され、飲食と共に夜の観光を楽しむ多くの観光客で賑わっています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 「とくしまマラソン」については、国内外の多くのランナーから支持されるよう受入態勢の充実を図るとともに、沿道の応援者やボランティアによる「おもてなしの心」あふれる「徳島ならではの」の大会運営を目指します。
- ◎ アニメイベントについては、これまで支持されてきた“ファンと出演者が共に楽しむ”特徴を大切にしつつ、時代の最先端コンテンツとも融合を図ることにより、「驚きや感動を体験できる」イベントへと進化を図ります。
- ◎ 県南部圏域の持続可能な観光地域づくりを推進するため、DMO「四国の右下観光局」を核として、「自然」、「アクティビティ」、「食」、「伝統文化」などの地域の魅力を盛り込んだ「体験型観光」をはじめとする「ニューツーリズム」を推進し、地域が一体となって国内外からのさらなる誘客に取り組みます。
- ◎ 県西部圏域（にし阿波）へのインバウンド誘客を進めるため、DMO「そのの郷」を核に、戦略的なプロモーションを展開します。また、祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどの観光資源に、世界農業遺産やアクティビティなどを織り交ぜ、長期間滞在できる観光地域づくりを推進します。
- ◎ 徳島県を舞台とした映画やドラマ等の映像作品がたくさん撮影されるよう、情報提供や現地アテンド、エキストラ募集などロケーションサービスの充実を図るとともに、関係団体と連携した誘致活動を積極的に展開します。
- ◎ 集客力のある「ナイトタイムイベント」を企画する民間事業者等への支援を行うことにより、県内外からの観光誘客の促進と観光消費額の拡大を目指します。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

1 誘客万来・とくしまづくり③

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

交流ひろがる快適交通ネットワーク

- ◆ 徳島阿波おどり空港においては、東京便、福岡便、札幌便に次ぐ地域の拠点となる空港への航空路線が開設されるとともに、国際線の充実がなされており、LCC（格安航空会社）も就航するなど、利便性が向上し、観光やビジネスでの利用が拡大しています。
- ◆ 瀬戸内海の東の玄関口である徳島小松島港は、クルーズ客船の寄港地として定着し、毎年多くの国内外クルーズ客船が寄港し、港のにぎわい創出や地域経済の活性化が図られています。
- ◆ 四国横断自動車道（鳴門～阿南間）が開通するとともに、阿南安芸自動車道の整備や徳島自動車道の四車線化の促進により、都市間をはじめ、徳島阿波おどり空港や徳島小松島港など、拠点施設へのアクセスが飛躍的に向上し、経済・産業の発展や観光振興による活力ある地域づくりが進んでいます。
- ◆ 県内の高規格幹線道路、地域高規格道路及びその周辺道路の整備や機能の強化が進み、空港や港湾との連携によって多様な輸送形態が生まれることで、本県の生産性の向上が図られ、物流コスト削減に伴う産業競争力の強化により企業立地が進むとともに、観光客が大幅に増加しています。
- ◆ 放射・環状道路などの整備が進むとともに、鉄道高架事業とまちづくりが一体となって進み、交通の円滑化が図られ、都市部での交通渋滞が大幅に緩和されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 2025年大阪・関西万博等の国際的なイベントを視野に入れ、より多様な地域との相互交流が可能となるよう、国内外の拠点となる空港への新規路線就航に向け、効果的なエアポートセールスを展開し、航空ネットワークを拡充します。
- ◎ 徳島小松島港へのクルーズ客船寄港の継続・拡大を図るため、関係団体等が連携し、国内外での積極的な誘致活動や受入態勢の充実強化に取り組みます。
- ◎ 高速交通ネットワークの充実を図るため、四国横断自動車道、阿南安芸自動車道及びその周辺道路の整備とともに、徳島自動車道の四車線化の促進に取り組みます。（再掲）
- ◎ 「徳島小松島港津田地区活性化計画」に基づき、四国横断自動車道とのアクセスが強化された利点を活かし、大きな潜在能力を持つ「津田地区」のリノベーションに取り組みます。
- ◎ 本県産業の国際化と経済活性化を図るため、国際貿易の拠点である「徳島小松島港コンテナターミナル」の利用促進に向けた効果的な物流支援策に取り組むとともに、「地域産業から生まれたローカル貨物の獲得」、「企業活動を支える物流基盤の充実・強化」を図り、徳島小松島港の活性化に取り組みます。
- ◎ 徳島市中心部へ集まる交通量の分散や、交通容量の拡大を図る放射・環状道路などの道路網の整備を進めるとともに、踏切の除去によって道路交通の円滑化を図る鉄道高架事業を、徳島市のまちづくりと一体となって推進することにより、都市部での交通渋滞の解消や交流促進に努めます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

2 近未来創造・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

夢と希望の新交通ネットワークの構築

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックなどの機会を通じ、本県の魅力は国内外へと広く発信され、2025年大阪・関西万博の開催によって、さらに発信力が増えています。
- ◆ 大阪・関西万博を契機として、本県と関西を結ぶ高速交通ネットワークの充実が図られ、大阪湾ベイエリアはもとより、関西圏から首都圏へ跨がる巨大都市圏「スーパーメガリージョン」にも直結し、インバウンドをはじめ、人・モノ・資金・情報が世界から関西、そして徳島へと大きく対流しています。
- ◆ 鉄道と道路をシームレスに走行し、車両自体が観光資源となるDMVの運行により利用者にとってさらに利便性の高い地域公共交通ネットワークが形成されるとともに、新たな人の流れが生まれ、地域が活性化しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 本県、関西さらには日本全体の発展に繋がる「広域プロジェクト（取組）」について、関西広域連合の一員として、本県が先導役となり、主体的に推進します。
- ◎ 関西地域で連続開催される世界的なイベントを、本県の魅力・活力を世界にアピールする契機とするため、今後、本県が実施する各種施策やプロジェクトをこれらのイベントに連動させるなど、グローバルな視点で戦略的に取り組みます。
- ◎ 2025年大阪・関西万博等の国際イベントを視野に入れ、「関西国際空港」や「徳島阿波おどり空港」をはじめ、大阪湾ベイエリア内の5空港7滑走路の有機的連携によるストック効果の発揮に向け、「四国新幹線」に挑戦するとともに海上交通の導入を研究します。
- ◎ DMVの阿佐東線での安全運行を基に、DMVを活用した観光商品の開発を進め、運行エリアの拡大に取り組みます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現 3 あわ文化創造・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

人と地域がともに輝く「あわ文化」

- ◆ 「あわ文化」創造の努力がたゆみなく続けられ、阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどりなどの伝統文化や音楽をはじめとする芸術文化が息づく魅力ある地域が育まれるとともに、すべての県民が、徳島ならではの文化資源の豊かさを実感し、誇りを持って暮らせる社会が創造されています。
- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催を契機に、「あわ文化」の魅力が国内外に認知され、多くの人々が継続的に本県を訪れ、その魅力と感動を県民とともに共有しています。
- ◆ 本県ならではの文化や貴重な文化財の魅力が国内外で認知され、観光をはじめ、活力あるまちづくりに活かされ「文化と経済の好循環」が創出されるとともに、県内各地において、多くの県民の参画により文化財の継承が進んでいます。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどり、ベートーヴェン「第九」の「あわ文化4大モチーフ」、邦楽、クラシック、ジャズの「あわ三大音楽」を中心に、芸術文化が息づくまちづくりを推進し、国内外に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図るとともに、東京への一極集中を解消させる先進モデルを創出します。
- ◎ 「あわ文化」の次代を担う人材の育成を図るとともに、県民が文化活動を鑑賞・体感したり発表する機会の一層の充実により県民主役の「あわ文化」を推進します。また、年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰もが参加できる「eスポーツ」の振興を図ります。
- ◎ アニメイベントについては、これまで支持されてきた“ファンと出演者が共に楽しむ”特徴を大切にしつつ、時代の最先端コンテンツとも融合を図ることにより、「驚きや感動を体験できる」イベントへと進化を図ります。（再掲）
- ◎ 「伝統文化」と「メディア芸術」の融合など新たな「あわ文化」の価値を創造するとともに、「あわ文化」の力を、観光誘客や商品開発に活用し、経済の活性化と文化芸術の振興を図ります。
- ◎ 地域の資源である文化財の保存と活用による地域振興を図るとともに、埋蔵文化財をはじめとする様々な文化財を活用した体験学習や講演会の開催、中学生「あわっ子文化大使」による魅力発信などにより、あわ文化教育の充実に取り組みます。
- ◎ 本県が誇る「板東俘虜収容所」の歴史を世界へ発信するため、徳島県、鳴門市、ドイツの連携により、「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録に向けた取組みを推進します。
- ◎ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録への課題となっている構成資産の文化財的価値付けを加速させ、その魅力を国内外へ発信するとともに、産学民官が一体となって四国遍路文化の保存と継承を推進し、文化資源を活かした活力ある地域づくりに取り組みます。
- ◎ 徳島・兵庫の産学民官が一体となって、世界遺産登録に向けて、「鳴門の渦潮」の自然的・文化的価値とその魅力を国内外に発信していくことにより、気運の醸成を図るとともに、地域の活性化につなげていきます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

4 スポーツ王国・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

みんなが誇れるスポーツ王国

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会を契機に創出された「スポーツレガシー」を継承し、スポーツ大会や交流が活発に行われ、県民が国内外のアスリートのプレーを体感することで「夢と感動」があふれています。また、交流人口の拡大につながっており、地域社会が活性化しています。
- ◆ 国際スポーツ大会を契機として、スポーツ参画への機運が高まり、県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」が実現しています。
- ◆ ジュニア層の発掘・育成・強化から、競技スポーツの基盤となる高等学校における指導・強化等へと、一貫した指導強化体制が構築され、継続して競技力を向上させた本県代表選手が、全国大会や国際大会等で活躍しています。また、高等学校を卒業した本県出身の選手が、トップアスリートとして、大学や企業、プロスポーツで活躍しています。
- ◆ ヴォルティスがJ1で活躍するとともに、インディゴソックスが毎年NPB^{*}に選手を輩出する常勝球団として注目されるなど、両チームが徳島の誇りとなり、プロを目指す子どもたちや地元チームを応援する人たちで、スタジアム内外がにぎわいにあふれています。
- ◆ 国際スポーツ大会を契機に創出された「安全安心なフードレガシー」を継承し、県内の産地では、国際水準GAPが実践され、世界の消費者に認められた、安全安心で持続可能性の高い農畜水産物が生産されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 2019年から3年連続で開催される国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西^{**}）における事前キャンプや競技大会の本県開催、さらにその拠点となる競技施設の環境整備により「スポーツレガシー」を創出し、スポーツ参画の機運を高め、本県のスポーツ振興や国際交流促進、地域活性化を推進します。
- ◎ 国際スポーツ大会の開催による、県民のスポーツ参画への機運の高まりを一過性のものとすることなく、県民の誰もがスポーツに親しむことができる機会・環境の創出を図り、生涯スポーツの一層の普及促進に取り組みます。
- ◎ 県内のサイクリングコースを活用したライドイベントの実施や魅力発信等により、サイクルスポーツの普及・促進に取り組むとともに、四国各県との連携による「サイクリングアイランド四国」の推進や大鳴門橋サイクリングロード構想（仮称）等の展開等により「自転車王国とくしま」の充実を図ります。
- ◎ ジュニア期からの一貫指導体制の充実・強化及び指導者の育成に努めるとともに、ふるさと選手会の活用や県内企業、大学等のスポーツ強化事業への支援、さらには元オリンピック選手等とふれあえる機会の創出により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の競技力向上を推進します。
- ◎ プロスポーツの楽しさ・素晴らしさを、より多くの県民に知ってもらい、身近に感じてもらうことにより、地域の一体感や誇りの醸成とともに、スポーツの振興やにぎわいの創出を図ります。
- ◎ 持続可能性が高く、世界に求められる産地を目指し、国際水準GAPの実践に向けたステップアップフォーラムを開催するとともに、国際スポーツ大会や万国博覧会等、世界から外国人客が集まるイベントに、県産食材を用いて、世界各国の食文化を取り入れたメニューを提供するなど、エシカル農産物等の認知度向上を図ります。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

5 障がい者カルスポ・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

個性が輝く障がい者スポーツ・芸術文化活動

- ◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、スポーツ・芸術文化などを通じた交流が進み、障がい者が地域の一員として、いきいきと活躍できるなど、障がい者の自立と社会参加が実現し、「ダイバーシティ徳島」が着実に進展しています。（再掲）
- ◆ 障がいのある人が、身近な地域で継続的にスポーツに取り組める環境が整い、障がい者スポーツの裾野が拡大するとともに、本県出身選手が国際大会や全国大会で活躍しており、障がい者のスポーツ活動の活性化が一層加速しています。
- ◆ 障がい者の芸術文化活動への参加を一層促進し、障がい者の生活を豊かにするとともに、障がいへの理解と認識が深まり、誰もがいきいきと暮らすことのできる共生社会が実現しています。
- ◆ 特別支援学校における芸術文化・スポーツ活動においては、子どもたちの多様な教育ニーズに合った個々の能力や才能を育む教育が進められるとともに、地域の障がいのある子どもたちの芸術文化・スポーツ活動の核となる学校づくりが行われています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機とし、障がい者のスポーツ・芸術文化活動等への参加を一層促進し、障がい者の生活を豊かにするとともに、障がい者の自立と社会参加の促進を図ります。（再掲）
- ◎ 誰もが運動やスポーツに取り組める環境づくりのため、指導・サポート体制の充実や障がい特性に応じた運動プログラムの作成を行い、障がい者スポーツの裾野の拡大を図ります。また、次世代パラアスリートの発掘・育成のため、子どもたちを対象としたスポーツ教室の開講や専門指導者による実技指導を行い、県内選手の競技力の向上を目指します。
- ◎ 障がい者の芸術文化活動を支える人材の育成や、障がい者が多様な芸術文化活動に参加できる機会を提供することにより、障がい者の芸術文化活動を一貫して支援する体制を整えます。
- ◎ 特別支援学校間の教員の連携や外部専門家による指導、積極的な地域との交流活動等により、子どもたちの芸術文化・スポーツ活動における才能開花や能力向上を目指すとともに、その成果を地域に発信することで、特別支援教育の理解啓発を図ります。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現

6 スポーツレガシー・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

■ 新次元スポーツ環境の創造

- ◆ 国際規格に改修された県内スポーツ施設で、スポーツ合宿や大規模大会が開催されるとともに、プロスポーツや各種イベントが通年開催され、県民のみならず、国内外から多くの人々が徳島を訪れ、交流人口が拡大しています。
- ◆ 子育て世代、高齢者、障がい者など、あらゆる人々が新たな複合型スポーツ施設において様々なスポーツやイベントを安全・快適に楽しむとともに、地域のにぎわいが創出され、まち全体が活性化しています。
- ◆ 大勢のアスリートや指導者が、最先端の医科学サポート体制のもと、医科学的知見やデータに基づく効果的なトレーニングや指導に取り組むことで、県内競技スポーツのレベルが飛躍的に向上し、多くの県人選手がプロ選手やオリンピックとして活躍しています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 2022年に四国で開催される全国高校総合体育大会の拠点となる鳴門・大塚スポーツパークの陸上競技場トラック等を国際規格に改修し、本県で世界記録の承認が可能となる環境を整え、競技力の向上を図ります。
- ◎ 高等学校において、全国大会の開催、合宿等の誘致や一般競技者との交流ができる競技施設を整備します。
- ◎ 「ドイツカヌー代表チーム」の「東京2020オリンピック事前キャンプ」が決定した川口ダム湖畔において、カヌー・SUPの拠点整備や周辺親水護岸の再整備、さらには湖畔の景観保全を行うとともに、スマート回廊や那賀町の他地域と連携したカヌー・SUPの体験型ツアーをはじめ、地域に根ざしたニューツーリズムを創出します。
- ◎ 少子高齢化や地球温暖化、防災など様々な課題に適応し、子育て世代、高齢者、障がい者など誰もが様々なスポーツやイベントを楽しむことができる複合型スポーツ施設の整備により、地方都市としての賑わいを創造し、まちの活性化につなげる本県ならではの「未来型スポーツ環境創造プロジェクト」を推進します。
- ◎ 医科学的知見に基づく最先端の医科学サポートに関するノウハウを積極的に導入し、アスリート・医科学サポート体制を強化することにより、本県の競技力向上につなげます。

Ⅲ 「魅力実感！輝きとくしま」の実現 7 文化レガシー・とくしまづくり

<目指すべき10年程度先（2030年頃）の姿>

新たな文化レガシーの創出

- ◆ 文化の森総合公園では、VRや4K8Kなどを駆使した体験型の博物館や、誰もが参加できるユニバーサルミュージアムを展開する近代美術館などに多くの人々が訪れています。また、野外劇場「すだちくん森のシアター」では、国内外から注目を集めるイベントが開催されています。
- ◆ 県内各地に眠る埋蔵文化財の発掘・保存・調査研究が進み、地域文化財の活用によって「徳島の魅力」が輝きを増しています。また、埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」を拠点として、本県が所蔵する「我が国を代表する出土品」や重要文化財の魅力が日本全国に発信されています。

<実現のための主な施策の方向性>

- ◎ 文化の森総合公園では、知の拠点となる博物館のグランドオープンや全館をあげてのデジタルアーカイブ構築による文化施設のグレードアップを図ります。
また、恐竜化石含有層発掘調査の本格実施に取り組むほか、自然災害関係古文書等のデジタル化により、温故知新をキーワードとした「開園30周年記念事業」を実施するとともに、「博物館60周年記念展」、「ドイツ・ニーダーザクセン州友好展覧会」「屋外彫刻展」等の魅力あふれるイベントを開催します。
- ◎ 阿南市「加茂宮ノ前遺跡」から出土した、国内最古級の「水銀朱関連遺物」をはじめ、県内各地から出土した重要遺物の再整理・調査研究を進め、本県を代表する埋蔵文化財として未来への継承を図るとともに、「レキシルとくしま」での埋蔵文化財速報展「発掘とくしま」や特別展を開催し、県民への公開はもとより、広く県内外への情報発信を推進します。

第4章 行動計画編（今後4年間で取り組む重点施策）

1 「5つのターゲット」と重点戦略

目指すべき方向性（10年程度先）の実現に向け、「5つのターゲット」を掲げ、重点戦略を展開します。

「5つのターゲット」と「重点戦略」

1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

- 1 移住交流拡大！深化する地方創生
- 2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開
- 3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開
- 4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進
- 5 次代へつなぐ！少子化対策の推進

2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装

- 1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進
- 2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ
- 3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化
- 4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進
- 5 野生鳥獣との共生！適正な関係構築と利活用の推進

3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

- 1 全国を先導！第4次産業革命の実装
- 2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客
- 3 世界へ雄飛！深化する徳島ブランドの展開
- 4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造
- 5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ

4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装

- 1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承
- 2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化
- 3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承
- 4 共生社会の実現！障がい者スポーツ・芸術文化の深化
- 5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開

5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

- 1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進
- 2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装
- 3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開
- 4 徳島発！持続可能な行政手法の発信
- 5 近未来とくしま！「東京オリパラ」から「大阪・関西万博」へ

2 「『未知への挑戦』とくしま行動計画」とSDGs

持続可能な環境や社会の実現に向け、2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献するため、当計画に掲げた重点施策とSDGsとの対応関係を明らかにし、徳島ならではの取組みを着実に推進します。

◆SDGsの17の目標

- ①あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- ②飢餓を終わらせ、食料安全保障と栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- ③あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- ④すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- ⑤ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
- ⑥すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- ⑦すべての人々の安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- ⑧包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
- ⑨強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- ⑩各国内及び各国間の不平等を是正する
- ⑪包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- ⑫持続可能な生産消費形態を確保する
- ⑬気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- ⑭持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- ⑮陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- ⑯持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- ⑰持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



「行動計画編(今後4年間で取り組む重点施策)」とSDGsの対応関係

「行動計画編」に掲げる重点施策		SDGsの17の目標																	
5つのターゲット	重点戦略	① 貧困	② 飢餓	③ 保健	④ 教育	⑤ ジェンダー	⑥ 水・衛生	⑦ エネルギー	⑧ 経済成長と雇用	⑨ イノベーション	⑩ 不平等	⑪ 都市	⑫ 生産・消費	⑬ 気候変動	⑭ 海洋資源	⑮ 陸上資源	⑯ 平和	⑰ 実施手段	
1 未来へ雄飛！ 「笑顔とくしま・ 県民活躍」の実装	1 移住交流拡大！深化する地方創生		●	●	●				●	●	●	●	●			●	●		
	2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開			●	●	●			●			●							
	3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開		●	●	●				●										
	4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進			●	●	●			●		●	●	●					●	●
	5 次代へつなぐ！少子化対策の推進	●		●	●				●										●
2 未来へ加速！ 「強靱とくしま・ 安全安心」の実装	1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進			●	●	●		●	●	●		●	●	●				●	●
	2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ		●				●		●		●		●			●			
	3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化			●								●							
	4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進	●	●	●	●				●		●	●	●	●				●	
	5 野生鳥獣との共生！適正な関係構築と利活用の推進												●				●		●
3 未来へ挑戦！ 「発展とくしま・ 革新創造」の実装	1 全国を先導！第4次産業革命の実装				●				●	●		●		●				●	
	2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客				●		●	●	●		●	●				●			
	3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開		●		●		●	●	●		●	●	●	●	●				
	4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造	●		●	●				●		●	●						●	●
	5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ	●			●	●			●	●		●	●	●	●				
4 未来へ発信！ 「躍動とくしま・ 感動宝島」の実装	1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承				●				●	●		●						●	
	2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化		●	●	●	●			●			●	●					●	
	3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承			●	●			●	●					●				●	
	4 共生社会の実現！障がい者スポーツ・芸術文化の深化			●	●						●								
	5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開				●	●			●			●							
5 未来へ継承！ 「循環とくしま・ 持続社会」の実装	1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進		●		●		●	●	●	●		●	●	●	●	●			
	2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装							●	●	●			●	●					
	3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開		●	●	●		●	●	●			●	●	●	●	●			●
	4 徳島発！持続可能な行政手法の発信			●	●			●	●	●		●	●					●	●
	5 近未来とくしま！「東京オリパラ」から「大阪・関西万博」へ								●		●	●							

3 工程表（「ターゲット」ごとの主な施策と目標）

「行動計画編」本文（主要事業実施工程表）の見方

<記載例>

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 若者に魅力ある「しごと」づくり				
主要指標 ○光関連産業の雇用創出数（累計） 13,500人				
● 地方大学・地域産業創生事業により、次世代LED等を活用した新製品を開発し、県内の光関連産業の活性化を図ることで雇用創出を推進します。＜政策・商工＞	推進			
○光関連産業の雇用創出数（累計） (‘17) 11,200人→(‘22) 13,500人	12,000人	12,500人	13,000人	13,500人

「主要施策」：重点戦略を進める上で主要となる施策。

「主要指標」：主要施策に掲げた個々の数値目標の中で、その施策の達成度合を示す主な指標。

●は、具体的な主要事業の概要と担当部局を<>で記載。
 <政策> 政策創造部

○は、計画期間4年間（2019年から2022年まで）における数値目標。
 (‘17)は基準値として2017年度（末時点）の実績を表記。

各年度毎の数値目標を表記

ターゲット 1

未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

若者の「とくしま回帰」や「消費者庁等徳島移転」の推進をはじめ地方創生をさらに深化させるとともに、生涯を通じた学び直しや活躍を支援し、年齢や性別、障がいの有無、国籍に関係なく、個性を発揮して自己実現できる「ダイバーシティとくしま」を推進するなど、県民誰もが輝くことができる「笑顔とくしま・県民活躍」の実装に向け、5つの重点戦略を展開します。

5つの重点戦略（主な「主要指標」）

主要指標	現状値('17値)	目標値('22値)
◆重点戦略1 移住交流拡大！深化する地方創生		
○移住者数	1,200人	1,800人
○光関連産業の雇用創出数(累計)	11,200人	13,500人
○本県への本社機能誘致(累計)	4社	12社
◆重点戦略2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開		
○(まなびーあ徳島)主催講座受講者数	96,668人* *過去4年平均	100,000人
○県内でテレワークを実施する事業所数(累計)	52事業所	120事業所
◆重点戦略3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開		
○健康寿命(暦年)	('16)男性71.34歳 (16)女性74.04歳	延伸
○「シルバー人材センター」の派遣従事者の割合	12.2%	14%
○主任介護支援専門員フォローアップ研修受講者数(累計)	39人	240人
◆重点戦略4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進		
○パーキングP-ミット利用可能駐車台数	1,117台	1,240台
○(障がい者)施設利用者の平均工賃全国順位	全国2位	全国1位
○県内大学等への留学生受入数	399人	500人
◆重点戦略5 次代へつなぐ！少子化対策の推進		
○結婚支援拠点が管理する男女の出会いの場等への参加者数(累計)	2,310人	10,000人
○待機児童数	94人	('21)ゼロ

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

【重点戦略1】

移住交流拡大！深化する地方創生

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 若者「とくしま回帰」魅力ある地域づくり				
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">主要指標</div> ○移住者数 1,800人				
● 「とくしま回帰」を加速するため、市町村との連携を強化し、きめ細やかな移住相談対応を行います。また、移住コーディネーターの育成により、移住者受入れ体制の整備を強化します。さらに、「若者目線」での情報発信による若者の定着・Uターンを促進します。＜政策＞	推進			→
○移住者数 ('17) 1,200人→('22) 1,800人				1,800人
○移住相談件数 ('17) 1,754件→('22) 2,400件	2,100件	2,200件	2,300件	2,400件
○移住交流支援センター設置数 ('17) 16市町村→('22) 24市町村	20市町村	22市町村	23市町村	24市町村
○とくしまで住み隊会員数 ('17) 699人→('22) 1,500人	1,000人	1,200人	1,400人	1,500人
○とくしま移住コーディネーター認定者数 ('17) 54人→('22) 150人	90人	110人	130人	150人
○「とくしま若者回帰アンバサダー（仮称）」委嘱者数 ('17) →→('22) 100人	25人	50人	75人	100人
● 少子高齢化による地域の担い手不足を解消し、新たな「とくしま回帰」の流れを加速させるため、東京本部・大阪本部の拠点機能や、県人会等との人的ネットワークを生かすとともに、「地域」と「徳島に興味を持つ方」とのマッチング支援の充実を図るなど、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」を創出します。＜政策＞	推進			→
○課題解決に取り組む地域における「協働実践活動」への県外参加者数（累計） ('17) →→('22) 210人	30人	70人	130人	210人
○「徳島ファン・バンク（仮称）」の創設 ('19) 創設				
○「徳島ファン・ドラフト会議（仮称）」の開催 ('19) 開催				
○「“まるごと徳島”体感フェス（仮称）」の開催 ('19) 東京圏開催				
○「徳島ファンのつどいin関西（仮称）」の開催 ('19) 開催				
● 市町村や民間、あるいは両者が連携・協働して実施する、地域の課題解決に向けた先導的な取組みを支援し、「徳島ならではの地方創生モデル」として全国へ発信します。＜政策＞	推進			→
○地方創生につながる取組み事例数（累計） ('17) →→('22) 50事例	12事例	25事例	37事例	50事例

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 地方と都市、双方のよさを体験することで、地方居住者と都市居住者の双方の視点に立った考え方のできる人材を育成する「デュアルスクール」のモデル化に取り組みます。<教育></p> <p>○「デュアルスクール」モデル試行実施回数（累計） （'17）7回→（'22）36回</p>	推進			
<p>○「デュアルスクール」モデル試行実施回数（累計） （'17）7回→（'22）36回</p>	18回	24回	30回	36回
<p>● インターンシップの活用により、就職支援協定締結先をはじめとする県内外大学等の学生に、県内企業の魅力を認識してもらうことで、県内就職を促進します。<商工></p> <p>○インターンシップ実施企業数（県HP掲載） （'17）56社→（'22）100社</p>	促進			
<p>○インターンシップ実施企業数（県HP掲載） （'17）56社→（'22）100社</p>	70社	80社	90社	100社
<p>● 若者の地元定着を促進し、地域経済を支える産業人材を確保するため、県内事業所に一定期間就業した若者の奨学金の返還を支援し、とくしま回帰を促進します。<政策></p> <p>○奨学金返還支援制度を活用した県内就職者数 （'17）124人→（'22）200人</p>	推進			
<p>○奨学金返還支援制度を活用した県内就職者数 （'17）124人→（'22）200人</p>	130人	160人	200人	200人
<p>● 地域の資源や個性を活かした「魅力ある地域づくり」を推進するため、サテライトオフィスの取組みを支援するとともに、コワーキングスペースを核としたビジネス創出支援や人材育成により、多様な人材の集積と交流を促進します。<政策></p> <p>○コワーキングスペース利用者数の拡大 （'17）1,500人→（'22）3,000人</p>	推進			
<p>○コワーキングスペース利用者数の拡大 （'17）1,500人→（'22）3,000人</p>	1,900人	2,300人	2,700人	3,000人
<p>● 高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、「とくしま産学官連携プラットフォーム」を核として、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組みを推進します。<政策></p> <p>○プラットフォームを核として実施する事業数 （'17）→（'19）～（'22）年間8件</p>	推進			
<p>○プラットフォームを核として実施する事業数 （'17）→（'19）～（'22）年間8件</p>	8件	8件	8件	8件
<p>● 高大連携や地域・民間連携の拠点となる高校・大学・地元企業が一体化した阿南光高校新野キャンパスを創設し、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発に取り組むことにより、地方創生の原動力となる人材を育成します。<教育></p> <p>○大学・地域等との協働連携事業件数（累計） （'17）→（'22）5件</p>	推進			
<p>○大学・地域等との協働連携事業件数（累計） （'17）→（'22）5件</p>	2件	3件	4件	5件
<p>● 人口減少社会においても持続的発展が見込まれる農山漁村を創造するため、地域と行政が一体となり、農山漁村地域に存在する資源を活用した将来像の作成とその実現に向けて取り組みます。<農林></p> <p>○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成地区数（累計） （'17）9地区→（'22）24地区</p>	推進			
<p>○「未来ある農山漁村づくり」に向けたビジョンの作成地区数（累計） （'17）9地区→（'22）24地区</p>	15地区	18地区	21地区	24地区
<p>● 「とくしま回帰」の流れを加速させるため、「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターを核として、空き家に対する「意識啓発」「掘り起こし」「マッチング」「リノベーション」の各ステージに応じた支援を行い、空き家の有効活用を促進します。<県土></p>	推進			

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 若者に魅力ある「しごと」づくり				
主要指標 ○光関連産業の雇用創出数（累計）	13,500人			
● 地方大学・地域産業創生事業により、次世代LED等を活用した新製品を開発し、県内の光関連産業の活性化を図ることで雇用創出を推進します。＜政策・商工＞	推進			
○光関連産業の雇用創出数（累計） ('17) 11,200人→('22) 13,500人	12,000人	12,500人	13,000人	13,500人
○専門人材育成プログラムへの地元進学者数（累計） ('17) 20人→('22) 48人	27人	34人	40人	48人
● 本県の担い手不足解消や優れた技術・経営ノウハウの伝承、事業承継を契機とした新ビジネスの創出を図るため、商工団体や金融機関、行政等で構成する「とくしま移住×創業ネットワーク」と「徳島県事業承継ネットワーク」の連携のもと、本県への移住・就労・起業・事業承継を一体的に推進する体制を整備します。＜政策・商工＞	創設・推進			
○「移住・就労・起業・事業承継パッケージ」の創設 ('19) 創設				
○ふるさと起業家支援プロジェクト件数（累計） ('17) →('22) 15件	6件	9件	12件	15件
● 独自の技術や知識、能力、経験等を活かして県内で新たに創業する者を支援するため、創業支援機関等と連携して、事業計画等の策定支援や融資、フォローアップ等、各種支援を行います。また、女性の創業を促進するため、創業の段階に応じたきめ細やかな支援を行います。＜商工＞	推進			
○事業計画等の支援件数 ('17) 69件→('19) ~('22) 年間75件	75件	75件	75件	75件
○女性の創業に対する事業計画等の認定件数 ('17) 18件→('19) ~('22) 年間18件	18件	18件	18件	18件
○創業者に対する新規融資件数 ('17) 96件*→('19) ~('22) 年間95件 *過去3年平均	95件	95件	95件	95件
○「徳島のSOHO事業者サイト」登録事業者数 ('17) 105社→('22) 130社（累計）	115社	120社	125社	130社
● 独自の技術やサービスを活かし新たな事業活動に取り組む企業の経営革新の達成に向けた取組みを支援します。＜商工＞	実施			
○経営革新計画達成割合 ('17) 64.7%→('19) ~('22) 毎年60%	60%	60%	60%	60%
● 官公庁での受注実績をつくり新製品の販路開拓につなげるため、経営革新計画の承認企業等の新規性・独創性のある製品を県が購入することにより販路開拓を支援します。＜商工＞	充実			
○「お試し発注制度」の充実 （対象要件の見直し・拡大等）				
● 地域における仕事づくりや地域課題解決に繋げるため、地域のビジネスコミュニティを活用した起業支援を行い、地域発のビジネス創出を推進します。＜政策＞	推進			
○県内ワーキングスペースにおける新規事業へのチャレンジ数（累計） ('17) →('22) 35件	5件	15件	25件	35件

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 海部郡の特産である「施設キュウリ」等を核とした施設園芸の振興を図るため、「きゅうりタウン構想」を推進し、移住促進による担い手確保や新規就農者の拡大に取り組みます。<南部>	推進			
○JAかいふの「交流拠点施設」を核とする 体験交流ツアーや視察受入れ等の参加者数（累計） ('17) →('22) 1,000人	400人	600人	800人	1,000人
○施設キュウリ栽培における新規就農者数（累計） ('17) 9人→('22) 32人	20人	24人	28人	32人
● 地域ならではの新しいビジネスの創出を図るため、サテライトオフィスや大学等国内外の企業関係者を県西部圏域（にし阿波）に呼び込み、地元企業をはじめとした多様な主体との連携によるビジネスマッチングを推進します。<西部>	推進			
○にし阿波ならではの新しいビジネス等の創出件数 ('17) 年間1件→('19) ~('22) 年間1件以上	1件	1件	1件	1件
● 県西部圏域（にし阿波）が、日本の農業の原点である「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定されたことを契機に、持続力のある地域経済を実現するため、伝統食材を活用した「もうかる農業」への取り組みや農泊の活性化を推進します。<西部>	推進			
○「世界農業遺産ブランド」認証件数（累計） ('17) →('22) 50件	20件	30件	40件	50件
○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数（西部圏域） ('17) 2,265人→('22) 2,800人	2,500人	2,600人	2,700人	2,800人
○「世界農業遺産」戦略品目であるそば販売作付面積（累計） ('17) 28.7ha→('22) 33ha	30ha	31ha	32ha	33ha
○「世界農業遺産」戦略品目であるごうしゅいもを栽培する農林漁家民宿等の数（累計） ('17) 25戸→('22) 50戸	35戸	40戸	45戸	50戸
● 本県農林水産業の成長産業化を実現するため、徳島大学「生物資源産業学部」をはじめとする高等教育研究機関や産業界との連携強化により、「サイエンスゾーン」等を拠点とし、新技術の開発や人材の育成に一体的に取り組みます。<農林>	推進			
○新技術の開発に向けた 大学・企業との共同研究数 ('17) 12件→('19) ~('22) 年間12件	12件	12件	12件	12件
○農業系大学生等による インターンシップ参加者数 ('17) 176人→('19) ~('22) 年間180人	180人	180人	180人	180人
○新技術開発、人材育成等に向けた 新たな連携協定参画企業等数（累計） ('17) 2件→('22) 7件	4件	5件	6件	7件

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>3 「本省・本社機能」の移転推進</p> <p>主要指標 ○本県への本社機能誘致（累計） 12社</p>				
<p>● 地方創生の動きを更に加速させるため、全国屈指の光ブロードバンド環境や立地優遇制度を活かし、大都市圏等から、成長分野関連企業、情報通信関連産業、サテライトオフィス等の誘致や本社機能移転を推進し、本県経済の活性化及び雇用機会の確保を図ります。＜政策・商工・南部・西部＞</p>	推進			
○本県への本社機能誘致（累計） ('17) 4社→('22) 12社	8社	9社	10社	12社
○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数（累計） ('17) 69社→('22) 110社	92社	98社	104社	110社
<p>● 「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に基づき、消費者庁等による「新たな恒常的拠点」の発足に向けて全面的に協力するとともに、新たな拠点が、地方創生に資する新たなひとの流れを創出し、消費者行政の発展・創造のためにふさわしいものとなるよう、「機能の充実」と「規模の拡大」を目指すとともに、消費者庁が消費者行政を一元的に推進できる消費者省へと移行されるよう後押しする中で、本県への全面的移転につなげていきます。 また、「公益社団法人消費者関連専門家会議（ACAP）」との連携強化を図り、本県における「消費者行政・消費者教育」の取組みを県内外企業等にも浸透させることにより、「消費者志向経営」や「エンカル消費」を推進する首都圏企業等を対象とした本社機能移転を促進します。 ＜危機・政策＞</p>				
○消費者庁等機能移転 ('17) 試験移転→('22) 全面的移転				
○OG20消費者政策国際会合の徳島開催 ('19) 開催				
<p>4 新たな地域の担い手「徳島ファン」の創出</p> <p>主要指標 ○課題解決に取り組む地域における「協働実践活動」への県外参加者数（累計） 210人</p>				
<p>● 少子高齢化による地域の担い手不足を解消し、新たな「とくしま回帰」の流れを加速させるため、東京本部・大阪本部の拠点機能や、県人会等との人的ネットワークを生かすとともに、「地域」と「徳島に興味を持つ方」とのマッチング支援の充実を図るなど、徳島に想いを寄せて活動する「徳島ファン」を創出します。（再掲）＜政策＞</p>	推進			
○課題解決に取り組む地域における「協働実践活動」への県外参加者数（累計） ('17) →('22) 210人	30人	70人	130人	210人
○「徳島ファン・バンク（仮称）」の創設 ('19) 創設				
○「徳島ファン・ドラフト会議（仮称）」の開催 ('19) 開催				
○「“まるごと徳島”体感フェス（仮称）」の開催 ('19) 東京圏開催				
○「徳島ファンのつどいin関西（仮称）」の開催 ('19) 開催				

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 徳島ファンの輪を広げるため、「ふるさと納税制度」や「企業版ふるさと納税制度」を通じて、県内外に「ふるさと徳島」の魅力をより積極的にアピールするとともに、県出身者など本県ゆかりの方々や企業との連携を一層強化し、活力と魅力あふれる徳島づくりを進めます。また、クラウドファンディングを活用し、事業の明確化を図り、新たな寄附者の開拓に取り組みます。＜政策＞</p>	推進			→
<p>○クラウドファンディング型ふるさと納税の活用事業数（累計） （'17）→（'22）20件</p>	8件	12件	16件	20件
<p>● 徳島県が打ち出した共通コンセプト「vs東京」の実践に向けて、その情報発信の核として、豊かな自然や文化の魅力から、多くのクリエイターを惹きつけるという本県の存在感を打ち出すために、世界の映像クリエイターにとって魅力のある地域となることを目指した「実践の場」として、「徳島国際映画祭」を開催します。＜政策＞</p>	推進			→
<p>○徳島国際映画祭ゆかりの作品の県内外イベント等での上映 （'17）4回→（'22）8回</p>	5回	6回	7回	8回
<p>● 地方と都市、双方のよさを体験することで、地方居住者と都市居住者の双方の視点に立った考え方のできる人材を育成する「デュアルスクール」のモデル化に取り組みます。（再掲）＜教育＞</p>	推進			→
<p>○「デュアルスクール」モデル試行実施回数（累計） （'17）7回→（'22）36回</p>	18回	24回	30回	36回
<p>● 夏の阿波おどりはもとより、春、秋の「阿波おどり」の更なる充実や、冬の「阿波おどり」の定着、有名連の練習風景の観光資源化など、阿波おどりの通年活用に取り組むとともに、本場徳島をPRする「世界阿波おどりサミット（仮称）」を開催し、世界に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図り、国内外から本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。＜商工＞</p>	推進			→
<p>○「世界阿波おどりサミット（仮称）」の開催 （'19）開催</p>				
<p>○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演及び指導者派遣回数（累計） （'17）4回→（'22）30回</p>	15回	20回	25回	30回
<p>● 「阿波ふうど」の認知度向上及び県産食材の興味・関心を持つ人の増加を図るため、徳島の食を応援する「阿波ふうどスペシャリスト」の登録を推進します。 また、「阿波ふうど」の魅力や価値を発信し、食を目当てに、国内外から多くの観光客が本県を訪れる「阿波ふうどツーリズム」を形成するとともに「美食の街・徳島」づくりを推進します。＜農林＞</p>	推進			→
<p>○阿波ふうどメニューフェア飲食者数 （'17）→（'22）5千人</p>	2千人	3千人	4千人	5千人
<p>○阿波ふうどスペシャリスト登録数 （'17）175件→（'22）500件</p>	250件	350件	450件	500件
<p>○「阿波ふうど」に関する＃（ハッシュタグ）投稿件数 （'17）214件→（'22）1,000件</p>	300件	450件	700件	1,000件

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
●「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「4大モチーフ」をはじめとする「あわ文化」の継承・発展に向けた取組みを進めるとともに、積極的に観光資源としても活用し、「あわ文化」の魅力を広く発信します。＜県民＞	推進			
○徳島版「カルチュラルオリンピアド（仮称）」の開催 （'19）～（'21）開催				
○「シャパンブルー展示会（仮称）」の開催 （'19）開催				
○阿波人形浄瑠璃「人形座」の海外派遣 （'19）派遣				
○阿波人形浄瑠璃公演等入場者数 （'17）36,343人→（'22）38,000人	36,500人	37,000人	37,500人	38,000人
●3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるよう、国内外からのスポーツ大会誘致や国際スポーツ交流を実施します。＜県民＞	推進			
○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数（累計） （'17）→（'22）20件	5件	10件	15件	20件
5 持続可能な地域公共交通とまちづくり				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>○地域公共交通網形成計画など地域における公共交通に関する計画策定数（累計） 5地域</div> </div>				
●次世代地域公共交通ビジョンの策定をはじめ、バス路線の新規開設や新たな技術を活用し、モーダルミックスの推進等に取り組む市町村を支援するなど、地域の実情に応じた公共交通ネットワークの形成を促進します。＜県土＞	推進			
○次世代地域公共交通ビジョンの策定 （'19）策定				
○地域公共交通網形成計画など地域における公共交通に関する計画策定数（累計） （'17）3地域→（'22）5地域				5地域
○ビジョンの具現化に向けた市町村支援数（累計） （'17）1市町村→（'22）6市町村	3市町村	4市町村	5市町村	6市町村
○交通結節点の整備実施箇所数（累計） （'17）4箇所→（'22）10箇所	7箇所	8箇所	9箇所	10箇所
●バスなどの公共交通が失われた中山間地域において、免許を返納した高齢者をはじめ地域住民の生活に欠かせない移動手段としての「新たな公共交通システム」の構築にチャレンジします。＜県土＞	推進			
○「新たな公共交通システム」の構築 （'20）実装				
●路線バスにノンステップバスを導入することにより、公共交通の利便性、快適性の向上を図ります。＜県土＞	促進			
○ノンステップバス（路線バス）の割合 （'17）65%→（'22）77%	71%	73%	75%	77%

主要事業実施工程表（1-1 移住交流拡大！深化する地方創生）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 路線バス、鉄道、フェリー等公共交通事業者や関係機関と連携し、外国人旅行客などを対象とした企画乗車券の発行やノーカーデーをはじめ、各種キャンペーンの開催などにより、公共交通の利用を促進します。＜県土＞	促進			
● 阿佐東地域における住民の移動手段確保や観光交流の促進を図るため、阿佐東線において、DMVの導入を推進します。＜県土＞	推進			
○阿佐東線へのDMV導入 ('20) 導入				
● 都市計画区域において、徳島東部等の都市計画区域マスタープランの見直しにより、安全で快適に暮らせる効率的な都市形成を推進します。＜県土＞	推進			
○徳島東部及び西部圏域等の都市計画区域マスタープランの見直し数（累計） ('17) →('22) 5区域			4区域	5区域
● 住民の生活利便性の維持・向上に向け、市町による立地適正化計画の策定等を支援し、持続可能な市街地の形成を促進します。＜県土＞	促進			
● 全ての人々が安全・安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策の整備を推進します。＜県土＞	推進			
○歩道等の整備延長 ('17) 2km→('19) ~('22) 年間2km以上を整備	2.0km	2.0km	2.0km	2.0km
○第4次社会資本整備重点計画(2015~2020)に基づく事故危険箇所における安全対策の実施箇所数（累計） ('17) 7箇所→('20) 24箇所	18箇所	24箇所		
○無電柱化した県内の道路の延長（累計） ('17) 31.4km→('22) 34.4km	33.9km	34.0km	34.0km	34.4km
● 高架下道路空間や道路予定地を、まちづくりや賑わい等の観点から、有効活用を図ります。＜県土＞	推進			

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

【重点戦略2】

学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開

主要事業実施工程表（1-2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 人生100年時代・学びの充実				
主要指標 ○主催講座受講者数 100,000人				
●「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、生涯学習に関するワンストップでの情報提供や、県民ニーズや社会情勢を捉えた講座の充実により、ライフステージに応じたリカレント教育をはじめ、県民の生涯学習の一層の充実・強化を図ります。＜政策＞	推進			
○主催講座受講者数 ('17) 96,668人*→('22) 100,000人 *過去4年平均	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人
○「とくしまリカレント教育支援センター（仮称）」の設置 ('19) 設置				
○高等教育機関と連携して開発するリカレント教育プログラム数 ('17) →('22) 14件（累計）	8件	10件	12件	14件
●県内の講座情報や各種生涯学習情報をインターネットによって提供します。＜教育＞	拡充			
○徳島県生涯学習情報システムへのアクセス件数 ('17) 99,666件→('22) 104,000件	101,000件	102,000件	103,000件	104,000件
●勤労者向け協調融資制度において、子育てを行う勤労者の教育資金や、リカレント応援資金等の低利融資を行うことにより、経済的負担の軽減を図ります。＜商工＞	充実・強化			
○リカレント応援資金の創設 ('19) 創設				
●次代の農林水産業を担う新規就業人材の育成・確保はもとより、リカレント教育の推進による多様な担い手の育成強化を図るため、農林水産3分野のサイエンスゾーンを核に、産学官金連携による相乗効果を発揮させ、各分野のアカデミー再構築による「とくしま農林水産未来人材スクール（仮称）」を新たに開設し、学生をはじめとする若者、女性、障がい者、アクティブシニア等のキャリア形成・スキルアップを支援します。＜農林＞	推進			
○農林水産業新規就業者数（累計） ('17) 879人→('22) 2,280人	1,490人	1,760人	2,020人	2,280人
○農林水産業リカレント教育修了者数（累計） ('17) 152人→('22) 1,230人	540人	770人	1,000人	1,230人

主要事業実施工程表（1-2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 建設産業の担い手確保・育成に向け、建設産業の魅力発信を行うとともに、若年者や女性雇用の取組みを拡充することにより建設業への入職の促進を図ります。また、就業者の定着を図るため、技術者等のためのセミナー等を開催します。＜県土＞</p> <p>○「建設産業スキルアップ講座（仮称）」の開設 ('20) 開設</p>	推進			→
<p>● 船員の減少と高齢化が進む海運業において、次世代人材の確保に向けた取組みを推進します。＜県土＞</p> <p>○次世代船員の資格取得支援制度の創設 ('19) 創設</p>	推進			→
<p>● 高齢者の生きがいつくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。＜保健＞</p> <p>○モデル事業による「介護助手」雇用施設数（累計） ('17) 12施設→('22) 125施設</p>	推進			→
<p>● 保育士の業務負担の軽減や保育の質の向上を図るため、意欲のある高齢者の人材育成を行うとともに、保育現場への就労を支援する県版「保育助手」制度を創設し、アクティブシニアの保育現場での就業を促進します。＜県民＞</p> <p>○支援制度を活用した「保育助手」雇用施設数（累計） ('17) →('22) 50施設</p>	推進			→
<p>● 県立夜間中学を設置することにより、学び直しを必要とする者や外国籍の者など学校における就学の機会の提供を希望する者に対し、義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保を図ります。＜教育＞</p> <p>○全国初の県立夜間中学の開校 ('21) 開校</p>	推進			→
<p>2 多様な「働き方」の実装</p> <p>主要指標 ○県内でテレワークを実施する事業所数（トライアル実施を含む）（累計） 120事業所</p>				
<p>● 多様な「働き方」の実装のため、企業等におけるテレワーク導入に向けた施策を展開するとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進や子育て支援の取組みを促進することにより、「働き方改革」好循環モデルの展開を図ります。＜商工＞</p> <p>○県内でテレワークを実施する事業所数（トライアル実施を含む）（累計） ('17) 52事業所→('22) 120事業所</p> <p>○「はぐくみ支援企業」認証事業所数 ('17) 250事業所→('22) 350事業所</p>	推進			→
<p>● 子育て中の従業員の働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業・団体を表彰するほか、企業・団体向けの研修会の開催、アドバイザーの派遣等を行うことにより、子育てしやすい職場づくりを推進します。＜県民＞</p> <p>○アドバイザー派遣先や研修受講者の意識変容率 ('17) →('19) ~('22) 70%以上</p>	推進			→
	100事業所	110事業所	115事業所	120事業所
	285事業所	310事業所	330事業所	350事業所
	70%	70%	70%	70%

主要事業実施工程表（1-2 学び直しを支援！「リカレント教育」本格展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 県内企業における労働力確保、仕事と子育ての両立支援のため、施設設置アドバイザーのきめ細かな支援による「企業主導型保育施設（事業所内保育所）」の設置促進を図ります。＜商工＞</p>	推進			→
<p>○施設設置アドバイザー活用による 企業主導型保育施設設置数（累計） ('17) ー→('22) 9施設</p>	6施設	7施設	8施設	9施設
<p>● 働く意欲を持つ高齢者にその経験と能力を活かした就業の機会の確保・提供を行い、高齢者の生きがいを高めるとともに、シルバー人材センターを活用し、アクティブシニアの多様な働き方の支援と周知・広報に努めることにより、地域社会の活性化を図ります。＜商工＞</p>	順次 拡大			→
<p>○「シルバー人材センター」の派遣従事者の割合 ('17) 12.2%→('22) 14%</p>	11%	12%	13%	14%
<p>● 出産・育児等により離職せざるを得なかった女性の再就職準備や就労を支援するため、就職に関する情報の提供やスキルアップに向けた講座等を実施するとともに、管理職や起業を目指す女性などを対象に、キャリアアップに向けたセミナーや県内大学と連携した「ウーマンビジネススクール」を開催します。＜商工＞</p>	推進			→
<p>○女性の再就職や就労を支援する講座等における就業率 ('17) 32%→('22) 60%以上</p>	45%	50%	55%	60%
<p>○「ウーマンビジネススクール」の参加者数（累計） ('17) 20人→('22) 70人</p>	40人	50人	60人	70人
<p>● 女性従事者の増える建設現場の職場環境改善を進めるとともに、災害時における避難所の環境改善を図るため、快適トイレ（洋式トイレのうち防臭対策・施錠の強化などが実施された女性が利用しやすい仮設トイレ）の普及を支援します。＜県土＞</p>	推進			→
<p>○県補助による快適トイレ導入基数（累計） ('17) 95基→('20) 215基</p>	165基	215基		

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

【重点戦略3】

人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 健康寿命の延伸				
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">主要指標</div> ○健康寿命（暦年） 延伸				
● 「すべての県民が共に支え合い、心身ともに健康で幸せに暮らせる徳島づくり」を実現するため、適切な生活習慣の定着促進や、糖尿病患者が効果的・効率的な治療・指導を円滑に受けられる体制整備の充実を図り、糖尿病をはじめとする生活習慣病対策を推進します。＜保健＞	推進			
○健康寿命（暦年） ('16) 男性：71.34歳 女性：74.04歳 →('22) 延伸				
○糖尿病粗死亡率（暦年） ('17) 全国最下位→('22) 全国最下位からの脱出				
○糖尿病の診療を行っている医療施設（327施設）のうち、「糖尿病連携手帳」を活用している施設数 ('17) 202施設→('22) 225施設	210施設	215施設	220施設	225施設
○肺年齢測定器による肺年齢チェック実施者数（累計） ('17) 2,700人→('22) 10,200人	5,700人	7,200人	8,700人	10,200人
○スマホアプリ活用「健康ポイント」の創設 ('19) 創設				
○スマホアプリ参加者数 ('17) →('22) 25,000人		15,000人	20,000人	25,000人
● 人生100年時代をリードする「健康寿命先進県」の実装を図るため、県民総ぐるみによる「フレイル予防作戦」を展開するとともに、アクティブシニアが主役となる「集いの場」の創出を推進します。＜保健＞	推進			
○「フレイル予防プログラム（仮称）」の作成 ('20) 作成				
○「フレイルサポーター」養成数（累計） ('17) →('22) 200人	50人	100人	150人	200人
○「フレイルトレーナー」養成数（累計） ('17) →('22) 40人	10人	20人	30人	40人
○介護保険施設における「健康にぎわいの場」実施施設数（累計） ('17) →('22) 16施設	4施設	8施設	12施設	16施設

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>●「元氣なあわっ子憲章」のもと、子どもたちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組むことにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。さらに、地場産物を活用した学校給食の推進や、食に関する指導の充実のために、栄養教諭の配置を拡充し、徳島の産物や食文化への理解を深めるなど、徳島ならではの魅力ある食育を推進します。＜教育＞</p>	推進			
○肥満傾向の児童生徒数（小中学校） ('17) 4,979人→('22) 2017年度比6%減	1.5%減	3%減	4.5%減	6%減
○学校給食に地場産物を活用する割合 ('17) 35%→('22) 35%	35%	35%	35%	35%
○小中学校への栄養教諭の配置人数 ('17) 57人→('22) 64人	61人	62人	63人	64人
<p>●食の安全・安心に関する正しい知識の習得や食と健康の関係性の理解を深め、健全な食生活の実践と定着を促進するため、県民運動としての食育を推進します。また、和食や郷土料理、行事食などの食文化の継承・保護や農林水産業への関心と理解を深めるために、地産地消の意識促進を図ります。＜農林＞</p>	推進			
○食育に関心を持っている人の割合 ('17) 84%→('22) 95%	90%	95%	95%	95%
○「主食・主菜・副菜」を基本とするなど食事のバランスに配慮した食生活を実践している人の割合 ('17) 59%→('22) 70%	65%	70%	70%	70%
○普段の買物や食事の際に地産地消を意識している人の割合 ('17) 80%→('22) 90%	85%	90%	90%	90%
<p>●県民の健康な歯と口腔を保つため、「笑顔が踊るとくしま歯と口腔の健康づくり推進条例」に基づき「徳島県歯科口腔保健推進計画」を推進し、県民自らの日常生活における歯と口腔の健康づくりに係る取組みを促進するとともに、生涯にわたる充実した生活に向け、健康寿命の延伸を図るために、ライフステージに応じた歯科保健対策を推進します。＜保健＞</p>	推進			
○80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の増加 ('16) 36.7%→('20) 50.0%		50.0%		
○3歳児でう蝕のない者の増加 ('17) 82.9%→('22) 88.6%	84.2%	85.8%	87.2%	88.6%
<p>●高齢者の口腔機能の向上を図るため、高齢者施設等で活用できるマニュアルを作成し、介護職員等の人材育成を実施します。＜保健＞</p>	推進			
○「口腔機能向上マニュアル（仮称）」の作成 ('19) 作成				
○研修会受講者数（累計） ('17) →('22) 360人	90人	180人	270人	360人

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>●「健康・防災」のリバーシブルな役割を担う西部健康防災公園を「健康づくりの拠点」とするため、障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを推進するとともに、防災や健康意識の醸成に向けた講座を積極的に開催するなど、公園の利活用拡大を図ります。＜西部＞</p>	推進			→
○「西部健康防災公園」を活用したスポーツやレクリエーションでの利用者数 ('17) 91,772人→('19) ~('22) 年間10万人以上	10万人	10万人	10万人	10万人
○「西部健康防災公園」を活用した障がい者スポーツ交流会等への参加者数 ('17) →('19) ~('22) 年間100人以上	100人	100人	100人	100人
○「防災」及び「健康増進」講座の実施回数 ('17) →('19) ~('22) 年間45回以上	45回	45回	45回	45回
●介護予防に重点を置いた健康づくりを推進するため、介護予防リーダーの継続的な養成を図るとともに、「通いの場」の創設など介護予防リーダーの活動の場づくりを推進します。＜保健＞	推進			→
○「介護予防リーダー」が活動している「通いの場」の数（累計） ('17) 35箇所→('22) 140箇所	80箇所	100箇所	120箇所	140箇所
<p>2 アクティブシニアの活躍推進</p> <p>主要指標 ○「シルバー人材センター」の派遣従事者の割合 14%</p>				
●働く意欲を持つ高齢者にその経験と能力を活かした就業の機会の確保・提供を行い、高齢者の生きがいを高めるとともに、シルバー人材センターを活用し、アクティブシニアの多様な働き方の支援と周知・広報に努めることにより、地域社会の活性化を図ります。（再掲）＜商工＞	順次 拡大			→
○「シルバー人材センター」の派遣従事者の割合 ('17) 12.2%→('22) 14%	11%	12%	13%	14%
●高齢者の生きがいづくりと介護現場の負担軽減を図るため、現役職員と元気高齢者が業務をシェアする「徳島県版『介護助手』制度」の普及・定着を図ります。（再掲）＜保健＞	推進			→
○モデル事業による「介護助手」雇用施設数（累計） ('17) 12施設→('22) 125施設	50施設	75施設	100施設	125施設
●保育士の業務負担の軽減や保育の質の向上を図るため、意欲のある高齢者の人材育成を行うとともに、保育現場への就労を支援する県版「保育助手」制度を創設し、アクティブシニアの保育現場での就業を促進します。（再掲）＜県民＞	推進			→
○支援制度を活用した「保育助手」雇用施設数（累計） ('17) →('22) 50施設	10施設	25施設	40施設	50施設

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、生涯学習に関するワンストップでの情報提供や、県民ニーズや社会情勢を捉えた講座の充実により、ライフステージに応じたリカレント教育をはじめ、県民の生涯学習の一層の充実・強化を図ります。（再掲）＜政策＞</p>	推進			
○主催講座受講者数 ('17) 96,668人*→('22) 100,000人 *過去4年平均	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人
○とくしまリカレント教育支援センター（仮称）の設置 ('19) 設置				
○高等教育機関と連携して開発するリカレント教育プログラム数 ('17) →('22) 14件（累計）	8件	10件	12件	14件
<p>● 高齢者自身が生きがいを持って豊かな高齢期を創造できるようにするため、生きがいづくり及び活動の場づくりを支援するとともに、地域福祉を推進するリーダーを養成します。＜保健＞</p>	推進			
○生きがいづくり推進員の活動延べ人数 ('17) 2,084人→('22) 2,150人	2,000人	2,050人	2,100人	2,150人
○シルバー大学校大学院における資格取得者数（累計） ('17) 1,363人→('22) 1,760人	1,460人	1,560人	1,660人	1,760人
<p>● 高齢者のスポーツ及び文化活動の推進を図るため、関係団体と連携し、県健康福祉祭等の開催や全国健康福祉祭、関西シニアマスタース大会等への参加を推進します。＜保健＞</p>	推進			
○県健康福祉祭等のスポーツ及び文化交流大会等の参加者数 ('17) 4,184人→('22) 5,000人	4,800人	4,870人	4,940人	5,000人
<p>● 本県ゆかりの高齢者の移住を促進するため、地域の多世代の住民と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる「生涯活躍のまち」の推進に取り組みます。＜保健＞</p>	推進			
<p>3 介護サービスの質の向上</p> <p>主要指標 ○主任介護支援専門員フォローアップ研修受講者数（累計） 240人</p>				
<p>● 質の高い介護サービスを適正に提供するため、十分な研修の機会を確保することにより、介護サービス従事者の育成・確保や専門性の向上を推進します。＜保健＞</p>	推進			
○介護に関する入門的研修全課程(2課程)修了者数（累計） ('17) →('22) 80人	20人	40人	60人	80人
○主任介護支援専門員フォローアップ研修受講者数（累計） ('17) 39人→('22) 240人	120人	160人	200人	240人
<p>● 高齢化の進行に伴い、今後必要となる介護サービスの提供体制を整えるため、キャリアアップの仕組みの構築や職場環境の改善への取組みを評価した介護職員処遇改善加算の周知と取得促進を図ることにより、介護人材の確保を図ります。＜保健＞</p>	推進			
○介護保険サービス事業所の介護職員処遇改善加算取得率 ('17) 83.2%→('22) 92%	89%	90%	91%	92%

主要事業実施工程表（1-3 人生100年時代！健康寿命延伸へ「フレイル対策」展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 地域における高齢者支援の充実を図るため、認知症サポーターの拡大や介護予防リーダーの活躍の場づくりを推進します。＜保健＞	推進			→
○認知症サポーター数 ('17) 75,949人→('22) 110,000人	93,500人	99,000人	104,500人	110,000人
○「介護予防リーダー」が活動している「通いの場」の数（累計）（再掲） ('17) 35箇所→('22) 140箇所	80箇所	100箇所	120箇所	140箇所
● 若者の高齢者介護の理解を深めるため、小中高生等が介護の知識を学び、「介護体験」ができる講座を実施することにより、介護のイメージアップを推進します。＜保健＞	推進			→
○小中高生のための「介護教室」実施回数 ('17) 13回→('22) 24回	16回	19回	21回	24回

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

【重点戦略4】

県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>1 ユニバーサルデザインによるまちづくり</p> <p>主要指標 ○パーキングパーミット利用可能駐車台数 1,240台</p>				
<p>● パーキングパーミット（身体障がい者等用駐車場利用証）制度の一層の促進を図り、障がい者はもとより、高齢者や妊産婦を含めた歩行に配慮を必要とする方々のための環境づくりを推進するとともに、他府県との利用証の相互利用を促進します。＜保健＞</p>	推進			→
<p>○パーキングパーミット利用可能駐車台数 ('17) 1,117台→('22) 1,240台</p>	1,210台	1,220台	1,230台	1,240台
<p>● 路線バスにノンステップバスを導入することにより、公共交通の利便性、快適性の向上を図ります。 （再掲）＜県土＞</p>	促進			→
<p>○ノンステップバス（路線バス）の割合 ('17) 65%→('22) 77%</p>	71%	73%	75%	77%
<p>● 「徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例」及び「障がいのある人も暮らしやすい徳島づくり条例」に基づき、障がいの有無、年齢、性別等にかかわらず、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もがいきいきと暮らすことのできる共生社会の実現を推進します。＜保健＞</p>	推進			→
<p>○「心のバリアフリー☆アンバサダー」研修認定者数 ('17) →('22) 年間60人</p>	60人	60人	60人	60人
<p>● 県庁舎を訪れるすべての人が、不自由さを感じることなく、安心して利用できる快適な空間づくりを進めるため、県庁舎におけるユニバーサルデザインへの対応をより一層推進します。＜経営＞</p>	推進			→
<p>○視覚障がい者の立場により配慮した点字ブロックの整備 ('19) 着手</p>				
<p>● 「とくしま公共事業ユニバーサルデザイン推進ガイドライン」に基づき、ユニバーサルデザインによるまちづくりを推進します。＜県土＞</p>	推進			→
<p>2 障がい者の自立と社会参加の促進</p> <p>主要指標 ○施設利用者の平均工賃全国順位 全国1位</p>				
<p>● 「徳島県障がい者の雇用の促進等に関する条例」や「とくしま障がい者雇用促進行動計画（第5期）」に基づき、教育・福祉などの関係機関はもとより、企業や業界団体との協働による「障がい者雇用」の促進や、職場訓練や就業生活支援などの「職場定着」に向けた取組みを充実します。＜商工＞</p>	推進			→
<p>○民間企業の障がい者雇用率 ('17) 2.17%→('22) 2.30%</p>	2.20%	2.23%	2.26%	2.30%

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 障がい者の働く意欲と障がい特性に応じて働ける社会づくりを推進するため、就労支援事業所の生産品の販路拡大による事業所経営への支援等により、施設利用者の工賃のアップを図ります。〈保健〉</p>	推進			➤
○施設利用者の工賃（月額） （'17）21,465円→（'22）23,300円 （全国（'17）15,603円）	22,300円	22,500円	22,900円	23,300円
○施設利用者の平均工賃全国順位 （'17）全国2位→（'22）全国1位				全国1位
<p>● 農福連携による障がい者の就農を促進するため、就労施設で栽培した農産物の生産から販売までの一体的なシステムの構築を図ります。〈保健〉</p>				➤ 構築
○「農福連携ネットワークシステム」の構築 （'22）構築				
<p>● 障がい者が高齢者に対し、日用品等の移動販売や見守り活動を行うことにより、働く意欲と特性に応じ活躍できる場を創出し、地域に貢献する活動の推進を図ります。〈保健〉</p>	推進			➤
○実施市町村数 （'17）10市町村→（'22）15市町村	12市町村	13市町村	14市町村	15市町村
<p>● 地域の絆を深め、互いに支え合う地域共生社会の実現を図るため、平時は地域住民の交流拠点、災害時は要配慮者の福祉避難所としての機能を実装する「地域生活支援拠点」を整備します。〈保健〉</p>	推進			➤
○福祉避難所機能を有する「地域生活支援拠点」の施設数 （'17）→（'22）3箇所		1施設	2施設	3施設
<p>● 優れた技術・技能を有する障がい者を「徳島県障がい者マイスター」として認定・表彰することで、さらなる意欲の向上と就労・社会参加の一層の促進を図ります。〈保健〉</p>	推進			➤
○障がい者マイスター認定者数（累計） （'17）14人→（'22）29人	20人	23人	26人	29人
<p>● 県西部圏域（にし阿波）において、障がい者の就労意欲の向上と地域農業の活性化を図るため、地元企業や地域住民と連携して障がい者が農作物の作付けを行う「にし阿波型チャレンジドファーム」の拡大や農産物を加工する6次産業化を推進することにより、農業分野における障がい者の就労を促進します。〈西部〉</p>	促進			➤
○「にし阿波型チャレンジドファーム」における障がい者就労者数 （'17）18人→（'22）40人	25人	30人	35人	40人
<p>● 障がい福祉サービスを充実するための人材を養成します。〈保健〉</p>	推進			➤
○サービス管理責任者研修の修了者数（累計） （'17）2,039人→（'22）2,600人	2,300人	2,400人	2,500人	2,600人
○相談支援従事者研修の修了者数（累計） （'17）2,823人→（'22）3,600人	3,300人	3,400人	3,500人	3,600人

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 障がい者が住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、障がい特性に応じて日常生活をサポートし、自立と社会参加を促進するため、県登録意思疎通支援者を育成し、障がい者のコミュニケーション手段等の確保を図ります。 ＜保健＞</p> <p>○県登録意思疎通支援者数 ('17) 146人→('22) 184人</p>	推進			
<p>● 「発達障がい者総合支援センターハナミズキ」及び「発達障がい者総合支援センターアイリス」を拠点とし、県下全域で発達障がい者（児）とその家族が抱える「不安の軽減」及び発達障がい者の「自立と社会参加」の促進のため、医療・福祉・教育・就労の各関係機関が連携しきめ細やかな発達障がい者（児）の支援を推進します。 ＜保健＞</p> <p>○「発達障がい者総合支援センター」の関係機関への助言件数 ('17) 61件→('22) 年間70件</p> <p>○「発達障がい者総合支援センター」の外部機関や地域住民への研修、啓発件数 ('17) 89件→('22) 年間110件</p>	推進			
<p>○「発達障がい者総合支援センター」の関係機関への助言件数 ('17) 61件→('22) 年間70件</p>	65件	65件	70件	70件
<p>○「発達障がい者総合支援センター」の外部機関や地域住民への研修、啓発件数 ('17) 89件→('22) 年間110件</p>	95件	100件	105件	110件
<p>● 特別支援学校（肢体不自由）の生徒の社会的・職業的自立を図るため、テレワークによる就労体験を導入し、新たな就労モデルの構築を推進します。＜教育＞</p> <p>○テレワーク就労体験に取り組む県立特別支援学校（肢体不自由）数 ('17) →('19) 3校</p>	推進			
<p>○テレワーク就労体験に取り組む県立特別支援学校（肢体不自由）数 ('17) →('19) 3校</p>	3校	3校	3校	3校
<p>3 国籍を問わず共に暮らしやすい地域づくり</p> <p>主要指標 ○県内大学等への留学生受入数 500人</p>				
<p>● 多様な外国人材が集う徳島の実現のため、県内在住や定住を希望する外国人に対する、就労支援、労働相談窓口の設置等、きめ細かな支援体制の整備を図ります。また、大学等の高等教育機関、産業界、県が一体となって外国人留学生の受入れ拡大を図るとともに、留学生等を対象とした企業説明会・マッチングフェアを開催するなど、県内定着支援の強化を図ります。＜政策・商工＞</p> <p>○定住外国人の就労を支援する講座等における就業率 ('17) 24%*→('22) 40%以上 *過去3年平均</p> <p>○すだちくんハローワーク「外国人労働相談窓口」の設置 ('20) 設置</p> <p>○県内大学等への留学生受入数 ('17) 399人→('22) 500人</p>	充実・実施			
<p>○定住外国人の就労を支援する講座等における就業率 ('17) 24%*→('22) 40%以上 *過去3年平均</p>	28%	32%	36%	40%
<p>○すだちくんハローワーク「外国人労働相談窓口」の設置 ('20) 設置</p>				
<p>○県内大学等への留学生受入数 ('17) 399人→('22) 500人</p>	425人	450人	475人	500人
<p>● 日本での生活を経験し、地域の実情にも精通したJETプログラム終了者等が、インバウンドや地元産品の輸出拡大、在留外国人の増加など、取り巻く環境の変化に対応しつつ、地域における多様な協力活動により、更なる活躍が可能となる、多文化共生社会の実現を推進します。 ＜政策＞</p> <p>○外国人地域おこし協力隊の県内定着数 ('17) →('22) 3人以上</p>	推進			
<p>○外国人地域おこし協力隊の県内定着数 ('17) →('22) 3人以上</p>				3人

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 相談窓口の充実、生活支援講座の開設、市町村等と連携した多言語による情報提供や、在県外国人に対する日本文化の紹介、災害時の通訳、生活相談への対応等を行う専門ボランティアの養成を行うとともに、ボランティア、支援団体、行政機関による外国人支援のためのネットワークを形成します。＜商工＞</p>	推進			>
○とくしま外国人支援ボランティア登録者数 ('17) 303人→('22) 390人	360人	370人	380人	390人
<p>● 日本人住民の異文化理解の一層の向上を図るとともに、多様な主体による交流イベント等の開催を支援し、国際化による多文化共生を推進します。＜商工＞</p>	推進			>
○国際理解支援講師派遣の件数 ('17) 66件→('22) 87件	75件	79件	83件	87件
<p>● 友好提携・友好交流先の地域と経済、文化、スポーツ、教育、観光等幅広い分野において、相互にメリットが享受できる国際交流を推進します。＜商工＞</p>	推進			>
<p>● 県内に住む外国人が増加するなか、地震、台風、豪雨などの災害に不慣れた外国人に対して、災害時の対処方法に関する研修会を実施し、防災に関する啓発を推進します。＜商工＞</p>	推進			>
○外国人向け防災研修会参加人数 ('17) 195人→('22) 245人	215人	225人	235人	245人
<p>● 多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」の活用や、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。＜監察＞</p>	推進			>
○県庁舎見学参加者数 ('17) 617名→('19) ~('22) 年間680名以上	680名	680名	680名	680名
○県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」 展示等件数 ('17) 40件→('19) ~('22) 年間50件以上	50件	50件	50件	50件
○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ（仮称）」の 開設 ('20) 開設				

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
4 人権教育・啓発の推進				
<p>主要指標 ○講演会等の参加により人権問題への関心・理解が深まった人の割合 80%以上</p>				
<p>●「すべての人々の人権が尊重され、相互に共存しうる平和で豊かな社会」を実現するため、「徳島県人権教育・啓発に関する基本計画」に基づき、国、市町村、関係団体等と連携を図りながら、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者など、様々な人権問題の解決をめざし、人権教育・啓発に係る諸施策を総合的かつ計画的に推進します。また、「あいぼーと徳島（人権教育啓発推進センター）」を拠点として、様々な人権課題について県民が気軽に学習や相談等ができる場を提供するとともに、県内各地域に積極的に出向いて、人権講演会や県民講座、啓発パネル展等を開催することにより、県民の人権意識の向上を図ります。〈県民〉</p>	推進			
<p>○講演会等の参加により人権問題への関心・理解が深まった人の割合 ('17) →('19) ~('22) 80%以上</p>	80%	80%	80%	80%
<p>●性別や国籍、障がいの有無など、お互いの違いを理解し、認め合うことのできる「共生社会」の実現に向け、県民の人権意識の高揚を図り、国際理解・多文化共生の取組みを推進するため、各種人権啓発事業を一体的・総合的に展開します。〈県民〉</p>	推進			
<p>○「とくしま共に生きるフェスタ（仮称）」の開催 ('19) ~('22) 開催</p>				
<p>●「徳島県人権教育推進方針」に基づき、学校教育及び社会教育において、学習者の発達段階に応じ、あらゆる機会や場を捉えて人権教育を推進するとともに、その具体実践化を図ります。また、命や心に関する作品の募集やその活用・展示を通して、県民の人権意識の高揚を図ります。〈教育〉</p>	推進・実践			
<p>○人権教育指定研究発表会への参加校（園）の割合 ('17) 70%→('22) 72%</p>	71%	71%	72%	72%
<p>○命や心に関する作品募集の応募作品数 ('17) 5,000点→('22) 5,100点</p>	5,000点	5,000点	5,100点	5,100点
<p>●インターネットによる人権侵害を予防するため、国等と連携しながら、プロバイダー等に対し、有害情報への適切な対応を促すとともに、インターネット上の差別書込等に対するモニタリングを県民と共に実施することにより、差別書込等の抑止・削減を図ります。〈政策・県民〉</p>	推進			
<p>○とくしま人権ネットモニター数（累計） ('17) →('22) 100人</p>	40人	60人	80人	100人
<p>●犯罪被害者やその家族等が受けた被害を回復し、再び平穏な生活を営むことができるよう支援するため、犯罪被害者等への対応を総合的に推進します。〈危機〉</p>	推進			

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
5 「男女共同参画立県とくしま」の飛躍				
主要指標 ○「県審議会等委員に占める女性」の割合 57.0%				
●「男女共同参画交流センター」を核として、社会情勢の変化や県民ニーズを踏まえた、講演会やセミナー、出前講座を開催するなど、総合的かつ計画的に男女共同参画を進めます。 また、さらなる女性活躍推進の加速化を図るため、「徳島県男女協調週間（7/7～13）」を、「徳島県男女協調月間（7月～8月）」に拡大させ、この期間に、女性も男性も対象とした「啓発の場」として、男女共同参画啓発フェスティバルの開催など、各種啓発事業を集中的に展開するとともに、政策・方針決定過程への参画拡大等に向けた「学びの場」である「とくしまフューチャアカデミー」により、女性活躍や次世代を担う人材の育成に取り組みます。 <県民>	推進			
○「フレアキャンパス」受講による実践的活動への参加意欲向上度 ('17) 72%→('19)～('22) 80%以上	80%	80%	80%	80%
○「とくしまフューチャアカデミー」修了者数（累計） ('17) →('22) 100人	40人	60人	80人	100人
●女性活躍推進法及び働き方改革関連法の施行や、第4次「徳島県男女共同参画基本計画」の策定を踏まえ、女性活躍や男女共同参画を強気に推進し、「男女共同参画交流センター（とさわプラザ）」の更なる支援機能の充実を図るため、「女性活躍ワンストップサービスセンター（仮称）」を設置します。<県民>	推進			
○「女性活躍ワンストップサービスセンター（仮称）」の設置 ('21) 設置				
●女性が一層能力を発揮することで、ますます複雑化・多様化する行政課題への効果的な処方箋を示し、実行していけるよう、やる気と能力のある女性職員を適切に課長補佐や係長等に登用するとともに、能力実証に基づく管理職への登用を推進します。<経営>	推進			
○女性管理職の割合 ('17) 10.2%→('22) 16.0%				16.0% (R5.4)
●政策・方針決定過程への女性の参画を促進するため、県審議会等委員への女性の登用を引き続き進めます。<県民>	推進			
○「県審議会等委員に占める女性」の割合 ('17) 54.6%→('22) 57.0%	56.4%	56.6%	56.8%	57.0%
●農村地域を支える女性農業者の意欲を高め、活躍の場を広げる施策を積極的に推進します。<農林>	推進			
○女性農業リーダー（指導・青年農業者、農業委員、JA役員等）の割合 ('17) 11.4%→('22) 20.0%	12.5%	15.0%	17.5%	20.0%

主要事業実施工程表（1-4 県民総自己実現！「ダイバーシティとくしま」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
6 DV・性暴力対策の推進				
主要指標 ○「デートDVサポーター」数（累計） 23,800人				
● 配偶者等からの暴力の防止の視点に立って、若年層を対象に、「デートDV防止セミナー」などの啓発を推進します。<県民>	推進			>
○「デートDVサポーター」数（累計） ('17) 12,549人→('22) 23,800人	17,200人	19,400人	21,600人	23,800人
● 配偶者等からの暴力の防止や被害者に対する相談・支援のため、研修等による職員の資質向上に努めるなど、「配偶者暴力相談支援センター（DV相談センター）」機能の充実を図るとともに、関係機関等との連携を強化します。また、民間団体の活動を支援し、協働して地域における支援活動の充実に取り組みます。<県民>	推進			>
○「DV被害者自立支援サポート事業」による助成件数（累計） ('17) 30件→('22) 45件	36件	39件	42件	45件
● 性暴力被害者のためのワンストップ支援センターである「性暴力被害者支援センター『よりそいの樹とくしま（中央・南部・西部）』」の運営について、研修等による相談員の資質向上に努めるとともに、関係機関との連携強化、支援者の養成によるすそ野拡大などにより、更なる支援体制の充実を図ります。<県民>	推進			>
○性暴力被害者回復支援に係る研修受講者数（累計） ('17) →('22) 170人	80人	110人	140人	170人

ターゲット1 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

【重点戦略5】

次代へつなく！少子化対策の推進

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなく！少子化対策の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>1 結婚支援の充実</p> <p>主要指標 ○結婚支援拠点が管理する男女の出逢いの場等への参加者数（累計） 10,000人</p>				
<p>●結婚したい独身者の希望を叶えるため、「マリッサとくしま」を拠点とし、ICTや縁結びボランティアを活用した、きめ細やかな支援を実施します。＜県民＞</p>	推進			➤
<p>○結婚支援拠点が管理する男女の出逢いの場等への参加者数（累計） ('17) 2,310人→('22) 10,000人</p>	5,000人	6,500人	8,000人	10,000人
<p>○婚活支援応援企業・団体登録数 ('17) 260社→('22) 400社</p>	300社	330社	360社	400社
<p>○男女の出逢いの場等におけるカップル成立数（累計） ('17) 355組→('22) 2,000組</p>	1,000組	1,300組	1,600組	2,000組
<p>○「個別相談会」の開催 ('19)～('22) 開催</p>				
<p>○企業・団体間交流イベントの開催 ('19)～('22) 開催</p>				
<p>2 子育てトータルサポートの展開</p> <p>主要指標 ○待機児童数 ゼロ</p>				
<p>●地域において妊娠、出産から新生児に至る高度専門的な医療を効果的に提供する、総合的な周産期医療体制を整備し、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの推進を図ります。＜保健＞</p>	推進			➤
<p>○周産期死亡率 ('17) 3.5（出産千対） →('22) 減少(全国平均以下)</p>				
<p>●不妊のある夫婦に対する助成を継続しつつ、若い世代に対して、妊娠・出産等の正しい知識の普及啓発を行います。＜保健＞</p>	推進			➤
<p>○研修会の参加人数 ('17) 190人→('22) 240人</p>	210人	220人	230人	240人
<p>●産前・産後の妊産婦の不安感の解消を図るため「交流イベント」を開催し、相談業務を強化します。＜県民＞</p>	推進			➤
<p>○交流イベントの参加組数（累計） ('17) 252組→('22) 1,360組</p>	700組	920組	1,140組	1,360組

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなく！少子化対策の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● すべての子どもに適切な保育を保障し、質の高い幼児教育を提供できる環境を整えます。〈県民〉	推進			→
○待機児童数 ('17) 94人→('21) ゼロ	60人	30人	0人	0人
○認定こども園設置数 ('17) 46箇所→('22) 75箇所	61箇所	68箇所	72箇所	75箇所
○子育て支援員の認定数（累計） ('17) 638人→('22) 1,600人	1,000人	1,200人	1,400人	1,600人
● 保育士の業務負担の軽減や保育の質の向上を図るため、意欲のある高齢者の人材育成を行うとともに保育現場への就労を支援する県版「保育助手」制度を創設し、アクティブシニアの保育現場での就業を促進します。 （再掲）〈県民〉	推進			→
○支援制度を活用した「保育助手」雇用施設数（累計） ('17) →('22) 50施設	10施設	25施設	40施設	50施設
● 昼間に保護者が家庭にいない児童に適切な遊びと生活の場を確保する放課後児童クラブの拡充を図るとともに、放課後児童クラブ利用料無料化制度を推進します。〈県民〉	推進			→
○放課後児童支援員の認定数 ('17) 485人→('22) 935人	725人	805人	875人	935人
○放課後児童クラブの登録児童数 ('17) 7,360人→('22) 9,000人	8,100人	8,400人	8,700人	9,000人
● 経済的負担を軽減するため、保育所・幼稚園等保育料無料化制度を推進します。〈県民〉	推進			→
● 児童福祉業務に携わる人材の育成を総合的に図ります。 〈県民〉	推進			→
○研修会受講者数 ('17) 4,276人→('22) 5,000人	4,850人	4,900人	4,950人	5,000人
● 地域における子育て力の向上を図るため、「子育て総合支援センターみらい」を中心として、市町村や関係団体と連携を深め、地域の子育て支援活動を支援します。〈県民〉	推進			→
● 育児や家庭について考える機運を高めるため、子育てを支える「家族」や「地域」の大切さをアピールする「いい育児の日」（11月19日）の普及を図るとともに、親子がふれあいを深める機会づくりを進めるため、妊婦や子育て世帯が施設や店舗で優遇サービスを受けられる子育て支援サポート事業を全国で展開します。〈県民〉	推進			→
○子育て支援パスポート事業協賛店舗数 ('17) 1,028店舗→('22) 1,240店舗	1,150店舗	1,180店舗	1,210店舗	1,240店舗
● 在宅で育児をしている家庭の負担感を軽減するため、子育て支援サービスが利用できるクーポンを交付する市町村の取組みを支援します。〈県民〉	推進			→
○クーポン利用率 ('17) →('22) 65%	50%	55%	60%	65%

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなく！少子化対策の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 地域の絆を深め、地域で支え合う環境の充実を図るため、子どもや高齢者、障がい者などが集う「ユニバーサルカフェ（多世代交流・多機能型）」の普及促進を図ります。〈県民・保健〉</p>	推進			→
○ユニバーサルカフェ（多世代交流・多機能型）認定箇所数（累計） ('17) 9箇所→('22) 20箇所	14箇所	16箇所	18箇所	20箇所
○子どもの未来応援コーディネーター養成研修終了者数（累計） ('17) 20人→('22) 110人	80人	90人	100人	110人
<p>● 乳幼児等の疾病の早期発見と早期治療を促進するとともに、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを推進するため、市町村が実施する乳幼児等医療費助成事業に対して助成します。〈保健〉</p>	推進			→
<p>● 小児医療電話相談事業（#8000）の利用促進のための周知を図り、活用していただくことで、保護者が安心して子育てができる環境整備を図ります。〈保健〉</p>	推進			→
○#8000の相談実績 ('17) 9,990件→('22) 11,300件	11,000件	11,100件	11,200件	11,300件
<p>● 子育て環境の多様なニーズに対応するため、病児・病後児預かりの受入れ体制の強化を促進します。〈県民〉</p>	推進			→
<p>● 子育て中の従業員の働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業・団体を表彰するほか、企業・団体向けの研修会の開催、アドバイザーの派遣等を行うことにより、子育てしやすい職場づくりを推進します。（再掲）〈県民〉</p>	推進			→
○アドバイザー派遣先や研修受講者の意識変容率 ('17) →('19) ~('22) 70%以上	70%	70%	70%	70%
<p>● 子育て家庭を地域全体で支える体制を整備するため、ファミリー・サポート・センターによる子育ての相互援助活動の取組みを推進するとともに、病児・病後児保育事業等と連携し、病児・病後児対応等の機能強化を図ります。〈商工〉</p>	推進			→
○病児・病後児対応に取り組むための講習修了者数 ('17) →('19) ~('22) 毎年30名	30名	30名	30名	30名
<p>3 困難を抱える子どもへの支援</p> <p>主要指標 ○子どもの未来応援コーディネーター養成研修終了者数（累計） 110人</p>				
<p>● 生まれ育った家庭の経済的な事情により進学を諦めたり、不安定な就労を余儀なくされたり、貧しい生活から抜け出せないという「貧困の連鎖」を断ち切り、次代を担う全ての子どもが、将来に夢と希望を持って成長できるよう、ひとり親家庭等に対する支援を充実させ、子どもの貧困対策を推進します。〈県民・教育〉</p>	推進			→
○「母子・父子自立支援プログラム」を活用した就職率 ('17) 56%→('19) ~('22) 56%以上	56%	56%	56%	56%
○子どもの未来応援コーディネーター養成研修終了者数（累計）（再掲） ('17) 20人→('22) 110人	80人	90人	100人	110人
○ホームフレンド派遣回数 ('17) 53回→('22) 100回	60回	70回	85回	100回
○スクールソーシャルワーカー配置数 ('17) 22人→('22) 24人	23人	23人	24人	24人

主要事業実施工程表（1-5 次代へつなく！少子化対策の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 児童相談所職員の専門的技術を高めるため、特に重要なスキルである家族面接技術、ケースマネジメント技術等に特化した研修を行うとともに、児童虐待予防のための保護者支援の取組みを強化します。〈県民〉</p>	推進			>
○研修受講者数（累計） ('17) 37人→('22) 180人	90人	120人	150人	180人
○保護者支援講座等の実施回数 ('17) 2回→('19)～('22) 年間15回	15回	15回	15回	15回
<p>● 要保護児童対策地域協議会を活用し、必要な支援を実施することにより、児童虐待の早期発見・早期対応を図るとともに、虐待防止に向けた普及啓発を図ります。〈県民〉</p>	推進			>
<p>● 様々な事情により家庭で育てられない子どもに対して、児童養護施設の専門性を生かした養育を活用するとともに、里親制度について、全国里親大会徳島開催を契機とした普及啓発活動や、国の新たなビジョンに基づく「県社会的養育推進計画」の策定・推進により、より家庭的な環境で児童が養育できるよう取り組みます。〈県民〉</p>	推進			>
○里親等委託率 ('17) 13.0%→('22) 16.8%	14.4%	15.2%	16.0%	16.8%
<p>● 様々な困難を抱える子ども・若者やその家族を支援するため、地域における支援者を養成し、関係機関相互の連携を促進します。〈県民〉</p>	推進			>
○地域協議会及び支援者養成講習参加者数 ('17) 211人→('19)～('22) 250人	250人	250人	250人	250人

ターゲット 2

未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装

平時から被災時の速やかな復旧・復興に備える「事前復興」の取組みを推進し、国土強靱化や県民の命と健康を守る取組みをさらに加速させるなど、未知なる災害や脅威に対して、県民の安全安心な暮らしをしなやかに守りぬく「強靱とくしま・安全安心」の実装に向け、5つの重点戦略を展開します。

5つの重点戦略（主な「主要指標」）

主要指標	現状値('17値)	目標値('22値)
◆重点戦略1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進		
○「防災士」登録者数(累計)	2,489人	3,800人
○DMATの体制整備	28チーム	32チーム
○「福祉避難所」指定施設数	167施設	250施設
◆重点戦略2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ		
○「臨時情報」を活用した「防災対応」の計画策定市町村数	－	('20)全市町村
○四国横断自動車道(徳島JCT～徳島東間)の整備	工事促進中	('21)供用
○吉野川上流無堤地区への事業着手	2箇所	5箇所
◆重点戦略3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化		
○「海部・那賀モデル」の実装	－	全県展開
○がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対) (暦年)	('16)73.3	減少
○難病医療機関数	1,030機関	1,442機関
◆重点戦略4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進		
○消費者庁等機能移転	試験移転	全面的移転
○自殺死亡率(人口10万人当たり自殺者数)	16.4	13.0以下
○助けられる犬・猫の殺処分数(暦年)	398頭	240頭
◆重点戦略5 野生鳥獣との共生！適正な関係構築と利活用の推進		
○野生鳥獣による農作物被害額	111百万円	82百万円

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

【重点戦略1】

未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>1 災害・危機管理体制の充実・強化</p> <p>主要指標 ○徳島県災害マネジメント総括支援員の登録者数（累計） 100人</p>				
<p>● 災害時において防災拠点等となる県施設等について、耐震化計画に基づき計画的に耐震化を進めます。＜危機＞</p>	推進			→
<p>○県有防災拠点施設等の耐震化率 ('17) 97%→('22) 100%に向けて推進</p>				100%
<p>● 消防学校・防災センター・南部防災館・西部防災館について、県庁災害対策本部の補完、支援物資の集配など、災害対策拠点としての機能の充実を図ります。また、防災センターにおける啓発及び地震体験車を活用した移動防災センターを通じて、県民の防災意識の向上を図ります。＜危機＞</p>	推進			→
<p>○防災センター利用者数（移動防災センター含む） ('17) 53,217人→('19) ~('22) 年間50,000人以上</p>	5万人	5万人	5万人	5万人
<p>● DV・ストーカー、児童虐待事案への対応をはじめとした平素の治安維持はもとより、大規模災害発生時の救出救助活動等や治安対策を的確に行うため、管轄区域の見直しや警察署及び交番・駐在所の再編・整備など組織体制の再構築を行うとともに、効率的な人員配置により、柔軟で強靱な組織基盤の確立を図ります。＜警察＞</p>	推進			→
<p>○新防災センター「徳島中央警察署」の整備 ('20) 供用</p>				
<p>○「地域警察の再構築に向けた中長期ビジョン」に基づく、交番・駐在所の更なる統合や管轄区域の見直し等に係る具体的計画の策定 ('19) 策定</p>				
<p>● 県西部圏域における防災拠点機能を強化するとともに、万代庁舎が被災した際、西部総合県民局・美馬庁舎に県災害対策本部を設置できるようにするため、会議室の拡張、OAフロア化や通信環境の改修等を実施し、美馬庁舎の即応体制の整備と受援体制の充実を図ります。＜西部＞</p>	設計	完成	→	
<p>○西部総合県民局・美馬庁舎の改修 ('20) 完成</p>				
<p>● 迅速かつ円滑な応急対応を行うため、「最新鋭のヘリサットシステム」を搭載した消防防災ヘリによる情報収集活動を実施します。また、ヘリの位置をリアルタイムで把握できる「動態管理システム」を運用することにより、安全な運行を推進します。＜危機＞</p>	推進			→
<p>● 大規模災害時における資金安定供給を図るため、官民連携による「大規模災害時資金安定供給連携協議会」が主体となり、災害時の相談にWeb上で24時間対応する「AI資金コンサルジュ」を実装し、関係機関が連携した資金供給体制を構築します。＜出納＞</p>	推進			→

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 地震や集中豪雨等による孤立集落の発生に備え、市町村と連携して「孤立可能性集落カルテ」を作成することで、集落ごとの情報を一元的に収集し、発災時の迅速かつ的確な支援へ繋がります。＜危機＞</p> <p>○孤立可能性集落カルテの作成 ('19) 作成</p>	作成	連携体制構築		
<p>● GIS（地理情報システム）を利用した「災害時情報共有システム」や「すだちくんメール」、「安心とくしまホームページ」などを活用し、情報提供の迅速化、関係者連携の高度化、被災状況や被災者ニーズ把握などの効率化を図ります。＜危機＞</p> <p>○すだちくんメール 登録者数（累計） ('17) 28,100人→('22) 51,000人</p> <p>○地域SNS登録数（累計） ('17) 1,227グループ→('22) 1,500グループ</p>	推進			
	42,000人	45,000人	48,000人	51,000人
	1,350グループ	1,400グループ	1,450グループ	1,500グループ
<p>● 県民生活を脅かす、あらゆる危機事象に対応するため、「徳島県危機管理対処指針」に基づき、全庁を挙げた危機管理対応を行うとともに、想定される危機事象ごとのマニュアルの整備を進めます。</p> <p>また、関係機関の連携により、人材育成や県民への広報活動などを行い、「とくしまを守る力」の向上を図るとともに、警察、防災関係機関、地域住民の連携による各種防災訓練など、より実践に即した訓練の実施や、訓練による課題を踏まえ、災害対策本部及び防災関係機関の応急対処能力の向上等を図るほか、防災体制の検証を行います。 ＜危機・警察＞</p> <p>○官民連携による各種防災訓練等の実施 ('17) 126回→('19) ~('22) 年間100回以上</p>	推進			
	100回	100回	100回	100回
<p>● 国民保護法に基づき、武力攻撃事態や緊急処理事態に迅速かつ的確に対応できるようするため、国や隣接府県、市町村、関係機関との共同訓練を実施します。＜危機＞</p>	実施			
<p>● 府県を越えた広域的な災害に対処する体制の強化や応援・受援体制の強化を図るために、「関西減災・防災プラン」等と整合性をとった地域防災計画の整備や関西広域連合等と一体となった訓練を実施・参加します。＜危機＞</p>	参加			
<p>● 鳥取県と締結している相互応援協定について、災害対応業務の標準化にかかる共同研究の実施等による内容拡充に努めることや、中四国における相互応援協定について、更なる連携強化を進めることで、広域的な連携体制の深化を図ります。 ＜危機＞</p>	推進			
<p>● 定期的な情報収集やサーベイランス、防疫資材の備蓄及び防疫演習を実施し、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等が発生した場合、家畜、家きん等の殺処分、移動制限等必要な防疫措置を的確かつ迅速に実施する体制の安定的維持を推進します。＜農林＞</p>	推進			
<p>● 人・動物への感染防止による「One Health（ワンヘルス）」実現を目指すため、動物由来感染症に関して、医療・獣医療機関や、近隣県、大学、研究機関との連携を強化し、動物の検査・診断体制を整備するとともに、情報共有を図り、「動物由来感染症ネットワーク・徳島モデル」を構築します。＜危機＞</p> <p>○動物由来感染症ネットワーク「徳島モデル」の構築 ('22) 構築</p>	推進			構築

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 国の人工衛星を利用して情報を全国に送る「全国瞬時警報システム（J-ALERT）」を活用し、県独自の情報伝達訓練や津波対応訓練等を実施します。＜危機＞</p>	訓練実施			
<p>○県、独自の情報伝達訓練の実施 ('17) 12回→('19)～('22) 年12回開催</p>	12回	12回	12回	12回
<p>● 大規模災害時に県外の自衛隊・警察・消防等が行う救助活動や医療、物資、燃料の支援などの応急対策が迅速かつ効果的に実施できるように定めた「広域防災活動計画」について、より具体的な内容を「要領」として定めることで、計画の実効性を高めます。＜危機＞</p>	推進			
<p>○「広域防災活動計画・要領」の策定 ('19) 策定</p>				
<p>● 複雑化・多様化・高度化する消防ニーズに適確に対応できる消防力の維持・強化を図るため、通信指令センターの共同運用等の「連携・協力」を含めた「消防の広域化」や「非常備消防の解消」を促進します。＜危機＞</p>	促進			
<p>● 消防職員の技術の向上や大規模災害時の効果的な部隊運用力の向上を促進します。＜危機＞</p>	促進			
<p>○緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練の開催・参加 ('20) 開催</p>				
<p>○中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練の開催・参加 ('22) 開催</p>				
<p>● 応援・受援体制の強化による県全体の災害対応力向上のため、被災市町村の災害マネジメントを支援する「徳島県災害マネジメント総括支援員」等を養成します。また、災害対応業務の「タイムライン化」や「可視化」に取り組みます。＜危機＞</p>	研修実施			
<p>○徳島県災害マネジメント総括支援員の登録者数（累計） ('17) →('22) 100人</p>	25人	50人	75人	100人
<p>○支援員の登録者数（累計） ('17) →('22) 400人</p>	100人	200人	300人	400人
<p>● 大規模災害発生時に罹災証明発行の前提となる、住家被害認定調査を円滑に実施するため、県・市町村の職員に対し実践的な研修を実施し、専門人材を養成します。＜危機＞</p>	研修実施			
<p>○住家被害認定調査職員登録者数 ('17) 214人→('22) 400人以上</p>	340人	400人	400人	400人
<p>● 南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害からの迅速かつ円滑な復旧・復興を図るため、復興対策手順を明確化した「徳島県復興指針」を策定し、県・市町村担当者、事業者等の事前復興（事前準備）の取組促進を図ります。また、県民意識の醸成を図るため、「事前復興」等をテーマとした分かりやすい動画を製作し、配信を通じ、事前復興の考え方や必要性の浸透を図ります。＜危機＞</p>	動画製作	推進		
<p>○YouTube動画再生回数 ('17) →('20)～('22) 年間5,000回以上</p>		5,000回	5,000回	5,000回

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 他府県との広域的な連携を図り、日頃からの訓練を通じて災害時における対処能力の向上に努めるとともに、大規模災害発生時には、県警察で構成する「徳島県警察災害派遣隊」を迅速に出動させ、被災地での的確な救出救助活動等を行います。＜警察＞</p> <p>○「中国四国管区広域緊急援助隊等合同訓練」の開催及び同訓練への参加 ('19)～('22)参加</p>	運用			
2 地域防災力の充実強化				
<p>主要指標</p> <p>○「防災士」登録者数（累計） 3,800人</p>				
<p>● 自助・共助の要となる地域防災リーダーとして「防災士」の資格取得を支援します。＜危機＞</p> <p>○「防災士」登録者数（累計） ('17) 2,489人→('22) 3,800人</p> <p>○「防災士」新規取得者数（人口10万人当たり） ('17) 全国4位→('19)～('22) 全国4位以内</p>	支援			
	2,900人	3,200人	3,500人	3,800人
	全国4位以内	全国4位以内	全国4位以内	全国4位以内
<p>● 児童生徒の防災対応能力の向上と地域防災の担い手の育成を図るため、小学校高学年を対象とした防災学習プログラム「あわっ子防災チャレンジ」を実施するほか、中学・高校生や教員の防災士を養成し、防災クラブを中心に実践的なボランティア活動等に取り組むなど、地域住民と連携した防災教育を推進します。＜教育＞</p> <p>○あわっ子防災チャレンジ実施人数（累計） ('17) →('22) 4,500人</p> <p>○教員防災士養成数（累計） ('17) 42人→('22) 165人</p> <p>○中学・高校生防災士養成数（累計） ('17) 373人→('22) 900人</p> <p>○県立学校への防災士資格を有する教職員の配置率 ('17) 100%→('22) 100%</p>	推進			
	1,500人	2,500人	3,500人	4,500人
	75人	105人	135人	165人
	600人	700人	800人	900人
	100%	100%	100%	100%
<p>● 消防団をはじめ、将来の地域防災の担い手となる人材の育成を図るため、本県で3回目となる「全国少年消防クラブ交流大会」を開催するとともに、継続的な本県開催を働きかけます。＜危機＞</p> <p>○全国大会の開催 ('19)開催</p>	開催	推進		
<p>● 地域防災力の中核となる消防団員を確保するとともに、その活動の活性化を図るため、イベントへのブース出展や消防団プロモーション動画の配信など、消防団のイメージアップを図る広報を実施します。また、多様な人材の活用による消防団活動の裾野を広げるため、学生、女性及び消防団OBの加入を促進します。さらに、消防団員の多くが被雇用者であることから、「消防団協力事業所表示制度」の導入の働きかけを行うとともに、「消防団応援の店」の登録を推進し、消防団員が活動しやすい環境づくりを促進します。＜危機＞</p> <p>○「消防団協力事業所表示制度」の導入市町村数 ('17) 19市町村→('22) 24市町村</p> <p>○「消防団応援の店」の登録店数（累計） ('17) 102店→('22) 300店</p> <p>○「機能別団員制度」の導入市町村数 ('17) 4市町村→('22) 20市町村</p>	推進			
	21市町村	22市町村	23市町村	24市町村
	150店	200店	250店	300店
	8市町村	12市町村	16市町村	20市町村

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 県消防操法大会において、実践に即した水出し操法を実施するなど、市町村と連携して、県下の消防団員の技術力、迅速・的確な行動、規律、士気の向上を図ります。＜危機＞</p>	推進			→
○消防操法大会の実施（隔年） ('20) ('22) 実施				
<p>● 女性消防団員の活動の活性化を図るため、広報・研修を実施するとともに、「全国女性消防団員活性化徳島大会」を誘致するなど、消防団活動における女性の活躍推進を図ります。＜危機＞</p>	誘致	開催	推進	→
○全国大会の開催 ('20) 開催				
<p>● 消防現場における女性の活躍を推進するため、女子学生を対象に消防の魅力を発信する職業説明会の開催や研修会を実施するとともに、女性の働きやすい環境づくりを促進します。＜危機＞</p>	推進			→
<p>● 津波や活断層地震などによるあらゆる被害を想定し、復興課題を把握するとともに「平時のまちづくり」と「復興まちづくり」を行える人材を各自治体に育成するため、「復興まちづくりイメージトレーニング」等を実施します。＜県土＞</p>	推進			→
○「復興イメージトレーニング」等の参加者数(累計) ('17) 118人→('22) 500人以上	240人	300人	400人	500人
<p>● 県南部圏域における次世代の防災活動の担い手を育成するため、南部防災館と連携し、管内の学校等への防災出前講座を行い、防災教育を推進します。＜南部＞</p>	推進			→
○小・中・高校生を対象にした防災講座等実施回数 ('17) 34回→('19) ~('22) 年間35回以上	35回	35回	35回	35回
<p>● 「防災・健康」のリバーシブルな役割を担う西部健康防災公園を「広域防災・後方支援の拠点」とするため、関係機関と連携した図上訓練や、西部防災館における地域住民を対象とした防災や健康に関する講座を開催するなど、公園の利活用拡大を図ります。＜西部＞</p>	推進			→
○「防災」及び「健康増進」講座の実施回数（再掲） ('17) →('19) ~('22) 年間45回以上	45回	45回	45回	45回
○西部健康防災公園を活用した物流・広域受援の現地訓練の実施回数 ('17) →('19) ~('22) 年間1回以上	1回	1回	1回	1回
<p>● 二次災害を軽減・防止し、住民の安全の確保を図るため、被災した宅地について、危険度判定を実施する被災宅地危険度判定士を育成し、確保します。＜県土＞</p>	推進			→
○被災宅地危険度判定士（確保人数） ('17) 610人→('19) ~('22) 毎年610人以上	610人	610人	610人	610人
<p>● 二次災害を軽減・防止し、住民の安全の確保を図るため、被災した建築物について、危険度判定を実施する被災建築物応急危険度判定士を育成し、発災時の判定業務を円滑に行えるよう、判定訓練などを実施します。＜県土＞</p>	推進			→
○被災建築物応急危険度判定士（確保人数） ('17) 542人→('22) 740人	680人	700人	720人	740人

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 市町村が実施する自主防災組織の結成促進と活動活性化の支援、避難所運営リーダーの養成、県民の「防災意識」の向上を目的とした防災出前講座の開催など、地域防災力の強化促進を図ります。＜危機＞</p>	推進			
<p>○「快適避難所運営リーダーカード」 交付者数（累計） （'17）224人→（'22）370人</p>	280人	310人	340人	370人
<p>○防災出前講座受講者数 （'17）26,384人* →（'19）～（'22）年間25,000人以上 *過去3年平均</p>	25,000人	25,000人	25,000人	25,000人
<p>○「防災啓発サポーター」活動回数 （'17）年間5回→（'19）～（'22）年間5回</p>	5回	5回	5回	5回
<p>● 県内企業等の事業継続力の向上を図るため、産学官連携による推進体制を通じて、トップランナーとなる「徳島県企業BCP認定」企業の育成・増加を促進するとともに、BCPの策定及び見直し改善のためのきめ細やかな支援により、県下全域でのBCPの普及促進を図ります。＜商工＞</p>	実施			
<p>○認定企業数（累計） （'17）11社→（'22）26社</p>	17社	20社	23社	26社
<p>● 大規模広域災害が発生した場合、単独組織だけでは対応が困難になることから、県内における事業継続計画（BCP）の充実に重要な役割を担う団体等が参画し、本県の地域継続に係る諸課題について検討を行うため、「徳島県地域継続推進協議会」を開催します。＜危機＞</p>	協議会 開催			
<p>● 自主防災組織の活性化、FCP（家族継続計画）の普及啓発、各種イベントの開催等を通じて、家庭や地域の防災活動の促進をはじめ、次代の防災を担う人材の育成を図るなど、住民主体の地域防災力の向上を目指します。＜危機＞</p>	推進			
<p>● 県民の防災意識に関する現状を把握・分析し、今後の防災対策に反映するため、3年ごとに地震・津波県民意識調査を実施します。＜危機＞</p>			実施	
<p>● 災害発生時のボランティア活動は極めて重要であることから、関係機関と連携して、災害ボランティアに対する啓発の実施や、ボランティアの力が効果的に発揮されるよう活動環境の整備を促進します。＜危機・保健＞</p>	推進			
<p>● 防災活動に資する情報収集を目的とした警察の災害情報協力員（防災ウオッチャー）に対する講習会等を実施し、効果的な運用を図ります。＜警察＞</p>	推進			
<p>● 県民の防災に対する機運の醸成を図るため、地域や自治体、防災関係機関それぞれが防災体制をチェックする「毎月1点検運動」を実施します。＜危機＞</p>	実施			

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
3 戦略的災害医療の展開 主要指標 ODMATの体制整備 32チーム				
● 災害派遣医療チーム（DMAT）、災害派遣精神医療チーム（DPAT）の養成や資質向上、要配慮者への支援の充実を図るとともに、病院BCPの策定を支援し、更なる災害医療体制の向上を図ります。＜保健＞	推進			
○ ODMATの体制整備 （'17）28チーム→（'22）32チーム	29チーム	30チーム	31チーム	32チーム
○ 「DPAT」（災害派遣精神医療チーム）の資質向上のための研修会の開催 （'17）2回→（'19）～（'22）2回以上	2回	2回	2回	2回
○ BCP策定病院数 （'17）20病院→（'22）40病院	25病院	30病院	35病院	40病院
● 戦略的災害医療プロジェクトの実効性を高めるため、「基本戦略」について、近年の災害から得られた知見や社会情勢の変化等を踏まえた見直しを行います。＜危機＞	見直し	運用		
○ 戦略的災害医療プロジェクト 基本戦略の見直し （'19）見直し				
● 大規模災害時に迅速かつ適切に医薬品が供給できるよう、「災害時おくすり供給車両」の導入や各災害医療圏域に「災害リーダー薬局」を設置し、医薬品供給調整体制の整備を促進します。＜保健＞	促進			
○ 災害リーダー薬局の認定数（累計） （'17）→（'19）20薬局	20薬局			
○ 「災害時おくすり供給車両（仮称）」の導入 （'19）導入				
4 快適な避難環境の整備 主要指標 ○「福祉避難所」指定施設数 250施設				
● 一定の地域をカバーする「拠点避難所」の指定を促進し、「拠点避難所」となる県立学校等の避難所機能の強化・充実を推進するとともに、県立学校体育館に「避難所施設となる体育館冷暖房設備モデル」を設置し、市町村への技術的支援に取り組みます。＜危機・教育＞	推進			
○ 避難所施設となる体育館トイレ洋式化率 （'17）28%→（'20）100%	75%	100%		
○ 避難所施設となる体育館への冷暖房設備モデル設置 （'20）モデル設置				
● 生活の質を重視した避難所運営や多様な避難環境の創出を促進し、災害時における避難環境の向上を図ります。＜危機・県土＞	推進			
○ 市町村における災害用トイレの備蓄率 （'17）→（'20）100%		100%		
○ 県補助による快適トイレ導入基数（累計）（再掲） （'17）95基→（'20）215基	165基	215基		
○ スフィア・プロジェクト研修の参加者数 （'17）63人→（'19）～（'22）年間100人	100人	100人	100人	100人

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 大規模災害時に、高齢者や障がい者等の要配慮者が、安心して避難生活を送るため、市町村における福祉施設、宿泊施設の「福祉避難所」への指定及び円滑な運営体制の整備を支援します。＜保健・商工＞</p>	推進			→
○「福祉避難所」指定施設数 ('17) 167施設→('22) 250施設	189施設	209施設	229施設	250施設
<p>● 地域の絆を深め、互いに支え合う地域共生社会の実現を図るため、平時は地域住民の交流拠点、災害時は要配慮者の福祉避難所としての機能を実装する「地域生活支援拠点」を整備します。（再掲）＜保健＞</p>	推進			→
○福祉避難所機能を有する「地域生活支援拠点」の施設数 ('17) 一→('22) 3箇所		1施設	2施設	3施設
<p>● 大規模災害発生後、速やかな応急仮設住宅供給のため、用地の確保等、事前準備を推進します。＜県土＞</p>	推進			→
<p>5 平時・災害時両面での自然エネルギーの利活用</p> <p>主要指標 ○「自立・分散型電源」導入支援制度の創設 創設</p>				
<p>● 「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、温室効果ガス排出削減や分散型エネルギーによる災害対策、地域の活性化等を目的として、「自然エネルギー」の導入を促進します。＜県民＞</p>	推進			→
○自然エネルギーによる電力自給率 ('17) 26.7%→('22) 30.5%	28.1%	28.9%	29.7%	30.5%
<p>● 地域防災力の向上を目指し、災害時の切り札となる自然エネルギーを活用した「自立・分散型電源」導入支援制度を創設します。＜県民＞</p>	推進			→
○「自立・分散型電源」導入支援制度の創設 ('19) 創設				
<p>● 地球温暖化対策や平時における電力の地産地消の推進、さらには災害時の非常電源として活用が期待できる水力発電の普及を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や、先導的モデルとなる小水力発電所の整備に取り組みます。これらの取組みや実験データを公表することによって、自然エネルギーの普及促進を図ります。＜企業＞</p>	推進			→
○自立・分散型エネルギーの普及拡大 ('19)～('22) 小水力発電所の整備・運用				
○自然エネルギー地産地消モデルの普及促進 ('19)～('21) ピコ水力発電機の実証実験(2箇所)・('22) 説明会の実施				
○自然エネルギー導入促進のための技術支援 ('19)～('22) 相談窓口による支援				
<p>● 水素社会の早期実現を目指し、「水素グリッド構想」の具現化を図るため、「燃料電池自動車（FCV）」や「燃料電池バス」をはじめ多様な水素モビリティの導入を促進するなど、地球温暖化対策の切り札となる「水素エネルギー」の普及拡大を推進します。＜県民＞</p>	推進			→
○「燃料電池バス」の本県導入 ('20) 導入				

主要事業実施工程表（2-1 未知なる災害を迎え撃つ！「事前復興」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 次世代エコカー（EV、FCV、PHV等）の優れた蓄電・発電機能が災害時の非常用電源として有効活用できることについて、広く県民の理解を深め、普及拡大に繋げるため、積極的な取組みの推進を図ります。〈県民〉</p>	推進			
<p>○ イベントにおけるエコカーを活用した給電に関する啓発活動の実施数（累計） ('17) 4件→('22) 30件</p>	15件	20件	25件	30件

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

【重点戦略2】

国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 地震・津波災害に強いまちづくり				
主要指標	○「臨時情報」を活用した「防災対応」の計画策定市町村数 全市町村			
●「南海トラフ巨大地震」や「中央構造線・活断層地震」、頻発化・激甚化する豪雨災害など、あらゆる大規模自然災害の脅威から「県民の命や財産、生業を守る強さ」と「速やかに適応できるしなやかさ」を備えた、「県土の強靱化」の推進を図るため、次期・国土強靱化地域計画の策定を行います。＜危機＞	策定	推進		
○次期・国土強靱化地域計画の策定（'19）策定				
●津波避難困難地域の解消を図るため、「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」に基づく津波避難対策を推進します。＜危機＞	推進			
○「津波避難対策緊急事業計画」策定率（対象8市町）（'17）75%→（'22）100%				100%
●地域の事前防災・減災体制の整備を推進するため、気象庁が発表する「南海トラフ地震臨時情報」を活用した、市町村における「防災対応」の計画策定を支援します。＜危機＞	推進			
○「臨時情報」を活用した「防災対応」の計画策定市町村数（'17）→（'20）全市町村（24市町村）		24市町村		
●工法の見直しやコスト縮減を図り、救命救急や防災活動等を支援する緊急輸送道路などのインフラ整備を推進します。＜農林・県土＞	推進			
○海岸・河川堤防等の地震・津波対策の実施箇所数（累計）（'17）19箇所→（'22）27箇所（全59箇所中）	23箇所	25箇所	26箇所	27箇所
○河川水門の耐震化実施箇所数（累計）（'17）8箇所→（'21）13箇所	11箇所	12箇所	13箇所	
○水門・樋門等の自動化・閉鎖率（'17）45%→（'22）50%	47%	48%	49%	50%
○緊急輸送道路における重点整備区間（35箇所）の改良率（'17）65%→（'22）75%	66%	67%	68%	75%
○緊急輸送道路における斜面对策の実施箇所数（累計）（'17）167箇所→（'22）183箇所	168箇所	173箇所	178箇所	183箇所
○緊急輸送道路等における橋梁（15m以上）の耐震化率（'17）85%→（'22）90%	87%	88%	89%	90%
○緊急輸送道路を補完する農林道の整備延長（累計）（'17）24km→（'22）29km	26km	27km	28km	29km

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 南海トラフ巨大地震等の地震災害をはじめ、土砂災害や浸水被害、長期間停電による水道施設の機能停止など危機事象の対策はもとより、安全・安心な「命の水」を供給し続けるためには、水道施設の強靱化と水道事業の経営基盤の強化が必要であり、県が推進役となって広域連携を推進します。＜危機・政策＞</p>	推進			
○「水道広域連携検討会（仮称）」の設置（'19）設置				
○水道事業者「広域連携セミナー（仮称）」の開催（'19）～（'22）開催				
<p>● 大規模地震等の災害時においても、工業用水の安定供給を確保するため、管路更新計画に基づき、管路の耐震化、老朽化対策の取組みを推進します。＜企業＞</p>	推進			
○第1次管路更新計画（2012～2021）に基づく整備率（更新優先度が高い管路L＝8.4 km）（'17）40%→（'21）100%	43%	63%	100%	
○第2次管路更新計画（2022～2031）に基づく継続した耐震化・老朽化対策（'21）第2次管路更新計画の策定（'22）優先度の高い管路更新の事業化				
<p>● 津波の河川遡上による被害を軽減するため、直轄管理河川において、堤防の嵩上げや液状化対策及び水門・樋門の耐震化を促進します。＜県土＞</p>	促進			
<p>● 南海トラフ・直下型地震に備え、「農業版BCP」の実効性向上を図るため、津波浸水区域や中央構造線活断層上にある基幹的水利施設を管理している土地改良区（24地区）のBCP策定を推進します。また、漁業の速やかな再開に向けた「漁協版BCP」の策定を推進します。＜農林＞</p>	推進			
○土地改良区BCPの策定数（累計）（'17）10地区→（'22）24地区	14地区	17地区	20地区	24地区
○漁協版BCPの策定数（累計）（'17）14計画→（'22）33計画	22計画	25計画	29計画	33計画
<p>● 津波避難困難地域の解消をはじめ、地域の安全性を確保するため、老朽化して危険な空き家・空き建築物の除却や市町村における空家等対策計画の策定を支援し、災害に強いまちづくりを進めます。＜危機・県土＞</p>	推進			
○老朽危険建築物（空き家等）除却戸数（累計）（'17）796戸→（'22）1,600戸	1,120戸	1,280戸	1,440戸	1,600戸
<p>● 高規格道路等の整備に併せて、津波避難困難地域の解消に向けた避難路や避難場所の整備を促進します。＜県土＞</p>	促進			
<p>● 踏切の除去による道路交通の円滑化及び津波浸水が想定される鉄道沿線地域において、避難路や救援路、一時避難場所などの機能確保を図るため、徳島市が実施するまちづくりと一体となって、鉄道高架事業を推進します。＜県土＞</p>	推進			
○鉄道高架事業の推進（'17）調査設計中→（'22）用地買収中				
<p>● 災害発生時の円滑な避難を確保するため、地域防災計画に位置づけられた避難路について土砂災害対策と併せた保全を推進します。＜県土＞</p>	推進			
○新たに保全された避難路の箇所数（累計）（'17）→（'22）12箇所	3箇所	6箇所	9箇所	12箇所

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 大規模地震発生時における「死者ゼロ」の実現へ向け、2020年度末の住宅の耐震化率100%を目標に、木造住宅の耐震化を促進します。〈県土〉	促進			>
○各種イベント等での耐震無料相談会の開催回数 ('17) 19回→('19) ~('22) 年25回以上	25回	25回	25回	25回
○耐震相談件数（累計） ('17) 3,313件→('22) 5,000件	3,900件	4,300件	4,700件	5,000件
○耐震性が不十分な木造住宅に対する フォローアップの実施戸数（累計） ('17) 5,127戸→('22) 17,000戸	14,000戸	15,000戸	16,000戸	17,000戸
● 民間建築物の耐震診断・耐震改修補助を行う市町村を支援します。〈県土〉	推進			>
● 沿岸地域における市町村の防災拠点施設の整備を促進します。〈危機・県土・南部〉	推進			>
○阿南安芸自動車道（海部野根道路）の整備と合わせた 穴喰地区地域防災公園やそのアクセス道路の整備 ('17) アクセス道路の調査設計中→('22) 工事推進中				
2 道路交通ネットワークの機能強化				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>○四国横断自動車道（徳島JCT～徳島東間）の整備 供用</div> </div>				
● 近畿及び四国内の交流基盤となる四国横断自動車道（徳島JCT～阿南間）の整備を促進します。〈県土〉	促進			>
○四国横断自動車道（徳島JCT～徳島東間）の整備 ('17) 工事促進中→('21) 供用				
○四国横断自動車道（徳島東～阿南間）の整備 ('17) 工事施工中→('22) 工事促進中 ('20) 部分供用 徳島東～津田間				
● 高速道路ネットワークの機能強化を図るため、津田地区及び立江・榑瀨地区への追加IC、阿南IC追加ランプを設置するとともに、徳島自動車道における暫定二車線区間の4車線化など、道路を賢く使う取組みを推進します。〈県土〉	推進			>
○津田地区への追加IC設置 ('17) 工事施工中→('20) 設置				
○阿南ICへの追加ランプ設置 ('17) 調査設計中→('22) 工事推進中				
○立江・榑瀨地区への追加IC設置 ('17) 調査設計中→('22) 用地買収推進中				
○徳島自動車道(阿波PA付近 延長7.5km)の 付加車線設置 ('17) 工事促進中→('20) 供用				
○徳島自動車道(脇町IC～美馬IC 延長4.8km)の 付加車線設置 ('17) →('19) 事業着手・('22) 工事促進中				

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 高規格幹線道路と一体となって高速交通ネットワークを形成する地域高規格道路について、徳島環状道路、阿南安芸自動車道の整備を促進します。〈県土〉</p>	促進			
○地域高規格道路徳島環状道路（延長22.1km）の整備（'17）工事施工中→（'22）工事促進中				
○地域高規格道路阿南安芸自動車道（桑野道路）の整備（'17）用地買収中→（'22）用地買収促進中				
○地域高規格道路阿南安芸自動車道（福井道路）の整備（'17）用地買収中→（'22）用地買収促進中				
○地域高規格道路阿南安芸自動車道（海部野根道路）の整備（'17）調査中→（'19）事業着手・（'22）調査設計促進中				
<p>● 交流の基盤を支える一般国道32号、一般国道55号バイパスなどの主要幹線道路の整備を促進します。〈県土〉</p>	促進			
○一般国道32号猪ノ鼻道路（延長8.4km）の整備（'17）工事施工中→（'20）供用				
○一般国道55号阿南道路（延長18.4km）の整備（'17）那賀川大橋周辺2.1kmの4車線化工事施工中→（'19）部分供用・（'22）一般国道195号から橋町青木（一般国道55号）調査設計促進中				
○一般国道55号牟岐バイパス（延長2.4km）の整備（'17）工事施工中→（'22）工事促進中				
<p>● 渋滞の著しい交差点の緩和・解消に努めるとともに、都市部の慢性的な渋滞を解消するため、徳島市中心部とその周辺地域における放射環状道路の整備を推進します。〈県土〉</p>	推進			
○徳島地区渋滞対策協議会で特定された主要渋滞箇所等の対策実施箇所数（累計）（'17）3箇所→（'22）7箇所	4箇所	5箇所	6箇所	7箇所
<p>● 災害時の交通途絶が発生しないよう、危険箇所の整備を推進します。〈県土〉</p>	推進			
○生命線道路の強化対策完了率（15箇所）（'17）59%→（'22）80%	65%	70%	75%	80%
<p>● 大雨など異常気象時による事前通行規制区間において、バイパスルートの整備を促進します。〈県土〉</p>	促進			
○一般国道32号猪ノ鼻道路（延長8.4km）の整備（再掲）（'17）工事施工中→（'20）供用				
○一般国道32号改築防災（大歩危工区延長2.5km）の整備（'17）調査設計中→（'22）調査設計促進中				
<p>● 孤立集落の発生を防ぐため、倒木対策協議会（2014年設置）等を通じ、生命線道路や緊急輸送道路等において、大雪等による倒木を防ぐ事前伐採を推進します。〈農林・県土〉</p>	推進			

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
3 洪水、高潮、土砂災害などによる被害軽減				
主要指標 ○吉野川上流無堤地区への事業着手 5箇所				
●「平成30年7月豪雨」をはじめ、全国で頻発・激甚化する水害から県民を守るため、治水事業を着実に進めます。＜県土＞	推進			>
○吉野川上流無堤地区への事業着手 ('17) 2箇所→('22) 5箇所				5箇所
○吉野川勝命地区の整備の促進 ('17) 工事施工中→('20) 完成				
○那賀川加茂地区、和食・土佐地区の整備の推進 ('17) 工事施工中→('20) 築堤完成				
○県管理河川（重点対策河川）の整備の推進 ('17) 68%→('22) 80%	71%	73%	76%	80%
○県管理ダム管理施設の改良 ('17) 工事施工中→('22) 福井ダム警報設備完成、 宮川内ダム情報処理施設完成				
●吉野川、那賀川の洪水・濁水被害の低減を図るため、既設ダムの治水・利水機能の向上・維持に資するダム改造事業を促進します。＜県土＞	促進			>
○早明浦ダムの放流設備の増設 ('18) 事業着手→('22) 工事促進中				
○長安ロダムの本体改造の促進 ('17) 工事施工中→('19) 完成				
○長安ロダムの長期的堆砂対策の促進 ('17) 事業着手→('22) 工事促進中				
●気候変動に伴う水害の頻発・激甚化に対して、住民の避難行動を促し、人的被害をなくすため、分かりやすい水位情報の発信や洪水浸水想定区域・洪水タイムラインの周知を推進します。＜県土＞	推進			>
○危機管理型水位計の整備 ('17) →('20) 50箇所	30箇所	50箇所		
○洪水浸水想定区域図の作成 ('17) →('19) 16河川	16河川			
○洪水タイムラインの作成 ('17) 1河川→('19) 16河川	16河川			
●「徳島県治水及び利水等流域における水管理条例」に基づき、流域における水管理を総合的かつ計画的に推進するため、2018年度策定の県下全域を対象とする「とくしま流域水管理計画」に続き、流域単位で「流域水管理行動計画」を策定し、計画的な施策の推進を図ります。＜県土＞	推進			>
○「流域水管理行動計画」の策定 ('22) 策定(2流域水管理行動計画)				
○「徳島県水防の日」関連行事の実施回数 ('17) 2回→('19) ~('22) 年間10回以上	10回	10回	10回	10回
○利水サポート団体の認定数（累計） ('17) 5団体→('22) 15団体	9団体	11団体	13団体	15団体
○水に関する出前講座・交流体験等への参加者数 ('17) 694人→('19) ~('22) 年間800人以上	800人	800人	800人	800人

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 決壊した場合に人的被害を与えるおそれがある「防災重点ため池」を対象に、緊急時の避難行動につなげる基礎的な情報を盛り込んだ「ため池マップ」を作成し、住民へ情報提供を行います。＜農林＞</p> <p>○全ての防災重点ため池を対象とした「ため池マップ」の作成 ('19) 作成・('20) 公表</p>	作成	公表	推進	
<p>● 土砂災害による被害から生命・財産を守るため、土砂災害警戒区域に関する情報を広く住民に周知し、同区域の指定を進めるとともに、砂防設備等による要配慮者利用施設等の重点的な保全を図るなど、ハード・ソフト一体となった整備を推進します。＜県土＞</p> <p>○土砂災害警戒区域の指定率 ('17) 56%→('19) 100%</p> <p>○市町村が作成する土砂災害防止法に基づくハザードマップの作成・公表率 ('17) 76%→('20) 100%</p> <p>○土砂災害の危険性のある要配慮者利用施設及び避難所の保全施設数（累計） ('17) 294施設→('22) 335施設</p> <p>○地域におけるきめ細やかな雨量情報を提供するIoT雨量計の設置数（累計） ('17) — →('21) 60箇所</p> <p>○祖谷川流域の直轄地すべり対策事業の推進（善徳地すべり防止区域） ('17) 工事施工中→('22) 工事促進中</p> <p>○吉野川水系直轄砂防事業の推進 ('17) 工事施工中→('22) 工事促進中</p>	推進			
<p>● 集中豪雨や局所的な大雨での土砂災害による被害から生命・財産を守るために必要な地すべり防止施設・治山施設等を整備するとともに、危険箇所の調査・点検を推進し、人的災害ゼロを目指します。＜農林＞</p> <p>○土砂災害の危険性のある人家の保全数（累計） ('17) 2,379戸→('22) 2,600戸</p> <p>○山地災害の危険性が高い箇所（山地災害危険地区）の調査・点検パトロール実施箇所数 ('17) 181箇所→('19) ~('22) 年間180箇所</p> <p>○山地防災ヘルパーの認定者数 ('17) 166人→('22) 200人</p>	推進			
<p>● 災害復旧・復興の迅速化を図るため、市町村が一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査し、境界の位置と面積を測量する地籍調査を促進します。＜農林＞</p> <p>○地籍調査事業の進捗率 ('17) 37%→('22) 42%</p>	推進			
<p>● 大規模災害時に、「救援物資の海上輸送」等の優先業務を行いながら、低下した物流機能を早期に回復できるよう、継続的に「港湾BCP」の検証を行うとともに、関係者相互の連携強化に向けた取組みを推進します。＜県土＞</p>	推進			
<p>● 高潮による被害の軽減を図るため、住民の円滑かつ迅速な避難に資する高潮浸水想定区域図の作成や、破堤防止のための堤防補強など、ソフト・ハードの両面から高潮対策を推進します。＜農林・県土＞</p>	推進			

主要事業実施工程表（2-2 国土強靱化を牽引！「災害列島」から「安全安心列島」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 津波・洪水時における船舶の流出による県民の生命・財産への被害を防ぐため、「徳島県放置艇削減計画」に基づき、「放置艇」の解消に向けた取組みを推進します。＜農林・県土＞	推進			→
● 河川の氾濫に伴う浸水被害に対し、県民の安全・安心を確保するため、公共事業による河道掘削に加えて、土砂の撤去から活用まで支援・管理する「河川安全・安心協働モデル」の取組みを推進します。＜県土＞	推進			→
● 洪水被害から住民の生命と財産を守るため、出水時の水防活動拠点、水防資機材の備蓄基地等となる「中島地区河川防災ステーション」の整備を促進します。＜県土＞	促進		→	
○中島地区河川防災ステーションの整備 ('17) 事業着手→('20) 完成				
4 「長寿命化プロジェクト」の推進				
主要指標	○施設類型毎の「個別施設計画（全17計画）」の策定 策定			
● 道路・河川施設をはじめとする、社会インフラの老朽化に備え、必要な機能を維持しつつ、将来の改良・更新コストを抑制するため、長寿命化計画に基づく老朽化対策を推進します。＜農林・県土＞	推進			→
○老朽化対策に着手した施設数（橋梁、トンネル、排水機場、都市公園、港湾施設、漁港施設等） （累計） ('17) 384施設→('22) 495施設	411施設	452施設	473施設	495施設
● 県が保有する全ての公共施設等について「徳島県公共施設等総合管理計画」に基づき「老朽施設の戦略的な長寿命化」を図ります。＜経営＞	推進			→
○施設類型毎の「個別施設計画（全17計画）」の策定 ('19) 策定				
● 学校施設を「よく・ながく」使い続けるために、計画的に長寿命化対策を推進します。＜教育＞	推進			→
○長寿命化対策に着手した県立学校数 ('17) →('22) 30校				30校
● 効率的かつ効果的にインフラのメンテナンスや活用を行うため、IoT・AI等の革新技術の積極的な実装を行います。＜県土＞	推進			→
○IoT・AI等の革新技術を導入したインフラ分野数（累計） ('17) →('22) 全12インフラ	4インフラ	6インフラ	9インフラ	12インフラ
● 道路インフラの老朽化対策を効果的に実施するため、関係機関と連携し、橋梁点検業務等の一括発注を行うなど、市町村が行う老朽化対策を支援します。＜県土＞	推進			→

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

【重点戦略3】

「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化

主要事業実施工程表（2-3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 安全・安心な地域医療体制の充実				
主要指標 ○「海部・那賀モデル」の実装 全県展開				
● 海部・那賀地域の医療提供体制を確保するため、医療従事者の相互交流の充実を図るなど、「海部・那賀モデル」を推進するとともに、医師少数区域である西部圏域にもモデルを展開します。＜保健＞	推進			全県展開
○「海部・那賀モデル」の実装 ('22) 全県展開				
● 県内における地域医療を守るための仕組みを検討するとともに、医師修学資金の貸付や夏期地域医療研修の開催などにより、地域医療を担う医師等の養成・確保を図ります。＜保健＞	推進			
○業務従事期間中の修学資金貸与医師数（累計） ('17) 29人→('22) 85人	47人	58人	72人	85人
● 入院医療機関と在宅医療に係る機関の連携等により、切れ目のない継続的な医療提供体制の構築を推進します。＜保健＞	推進			
○退院支援担当者を配置する医療機関の数 ('17) 93機関→('22) 128機関	107機関	114機関	121機関	128機関
○在宅療養支援診療所・病院数 ('17) 175機関→('22) 196機関	184機関	188機関	192機関	196機関
● 団塊の世代が後期高齢者となり、医療や介護の需要が大幅に増加すると見込まれる2025年に向けて、さらなる在宅医療を推進するため、看護師、薬剤師等の医療従事者の質の向上を図ります。＜保健＞	推進			
○特定行為研修を修了した看護師数（累計） ('17) 11人→('22) 34人	19人	24人	29人	34人
○在宅医療でのがん、緩和医療を担う薬剤師数（累計） ('17) ー→('22) 80人	20人	40人	60人	80人
● 地域包括ケアシステムにおける在宅医療を推進し、県内のどこでも療養者の状態に応じた訪問看護が提供できる体制を整備するため、ターミナルケアや重症度の高い療養者への支援などに取り組みます。＜保健・病院＞	推進			
○訪問看護ステーション「東部サテライト」ネットワーク構築 ('22) 構築				
○24時間対応型訪問看護ステーション数（機能強化型訪問看護ステーション数） ('17) 1箇所→('22) 6箇所	3箇所	4箇所	5箇所	6箇所
○病院事業における訪問看護の実施件数 ('17) 780件→('19) ～('22) 毎年800件以上 ('20) 三好病院で訪問看護開始	800件	800件	800件	800件

主要事業実施工程表（2-3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 少子高齢化が進むことから、血液製剤の安定供給の確保を図るため、これからの献血を支えていく若年層に対し、献血思想の普及を図ります。また、若年層に向けた各種啓発を実施し、献血者の増加を図ります。＜保健＞</p>	支援			→
○高校生の献血率 ('17) 2.5%→('22) 2.9%	2.6%	2.7%	2.8%	2.9%
○献血モバイル会員登録者数 ('17) →('22) 11,000人	9,500人	10,000人	10,500人	11,000人
<p>● 救急車の適正利用や救急医療機関の受診の適正化等を図るため、急な病気やけがをした際、すぐに救急車を呼ぶべきか、医療機関を受診すべきかなど専門家である医師や看護師から助言を受けることができる「徳島県救急安心センター事業」の運用を開始します。＜危機・保健＞</p>	運用開始			→
○徳島県救急安心センターの運用開始 ('19) 運用開始				
<p>● 小児医療電話相談事業（#8000）の利用促進のための周知を図り、活用していただくことで、保護者が安心して子育てができる環境整備を図ります。（再掲）＜保健＞</p>	推進			→
○#8000の相談実績 ('17) 9,990件→('22) 11,300件	11,000件	11,100件	11,200件	11,300件
<p>● 県下全域におけるドクターヘリの運航に加え、近隣県におけるドクターヘリとの相互応援や消防防災ヘリとの連携による、二重・三重のセーフティネットを充実し、救急患者の救命率の向上や後遺症の軽減を図ります。また、ドクターヘリに搭乗する医師・看護師増加や資質向上を図ります。＜保健＞</p>	運航			→
○フライトドクター・ナース延べ人数 ('17) 18人→('22) 22人	19人	20人	21人	22人
<p>● 緊急な医療を必要とする精神障がい者等が、迅速かつ適切な医療を受けられるよう、引き続き精神科救急医療体制の確保を図ります。＜保健＞</p>	推進			→
<p>● 県民のさらなる健康向上や医療費の抑制を図るため、患者の診療情報を各医療機関、介護事業所及び薬局で共有化する「阿波あいネット」の機能拡充を図ります。＜保健＞</p>	機能拡充		→	→
○阿波あいネットの機能拡充 ('20) 機能拡充				
<p>● 県民医療の発展と地域医療の再生をめざす医療拠点である「総合メディカルゾーン」については、隣接する県立中央病院と徳島大学病院を本部、県立三好病院を西部センター、県立海部病院を南部センターとし、それぞれ医療拠点としての充実強化を図るとともに、相互の連携を推進することにより、県下全域の医療の最適化に取り組みます。＜保健・病院＞</p>	推進			→
○中央病院における救急医療機能の強化のためのER棟（仮称）の整備 ('21) 着手				
<p>● 県立病院の運営において、「徳島県病院事業経営計画」を着実に推進し、県の中核病院としての機能充実、地域の医療水準の向上を図ります。＜病院＞</p>	推進	策定	推進	→
○次期「徳島県病院事業経営計画」の策定・推進 ('20) 策定				

主要事業実施工程表（2-3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 地方独立行政法人徳島県鳴門病院の運営において、中期計画を着実に推進し、県北部の中核病院としての機能充実、地域の医療水準の向上を図ります。＜保健＞	推進	策定	推進	
○次期「中期計画」の策定・推進（'20）策定				
○PET-CTの整備（'19）導入				
2 がん対策の充実強化				
主要指標 ○がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）（暦年） 減少				
● 避けられるがんを防ぐとともに、がんになっても尊厳を持って安心して暮らせる社会を構築するため、がん検診受診率の向上やがん診療連携拠点病院等における適切な医療の提供を図るとともに、相談支援及び情報提供、緩和ケアの充実を推進します。＜保健＞	推進			
○がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）（暦年）（'16）73.3→（'22）減少				
○がん検診受診率の向上（暦年）（'16）胃34.8%、肺41.2%、大腸33.5%、乳41.3%、子宮39.0%→（'22）48.3%	43.1%			48.3%
○拠点病院におけるがん診療に携わる医師の緩和ケア研修修了者の割合（'17）94.6%→（'22）98.6%	95.3%	96.4%	97.5%	98.6%
3 感染症対策の充実強化				
主要指標 ○新型インフルエンザ等感染症の対策訓練 毎年実施				
● 感染症の発生動向を早期かつ的確に把握、分析し、地域に情報発信することにより、感染症の発生及びまん延を防止します。＜保健＞	推進			
○感染症情報発信のためのメーリングリスト登録数（'17）850箇所→（'22）1,000箇所	925箇所	950箇所	975箇所	1,000箇所
● 新型インフルエンザ対策として、県民への迅速・的確な情報提供、診療体制の整備、抗インフルエンザ薬の確保、ワクチン接種対応等、年間を通じた対応を推進します。＜保健＞	推進			
○新型インフルエンザ等感染症の対策訓練（'17）実施→（'19）～（'22）毎年実施	1回	1回	1回	1回
● 徳島県肝炎対策協議会で肝炎対策について協議し、総合的な肝炎対策を推進します。また、ウイルス性肝炎の早期発見・早期治療のため、検査・治療体制の充実を図るなど、肝炎対策を推進します。＜保健＞	推進			

主要事業実施工程表（2-3 「命」と「健康」を守る！地域医療提供体制の充実強化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
4 難病対策の推進				
主要指標 ○難病医療機関数 1,442機関				
● 難病患者への医療提供体制の充実強化を図るため、「特定医療費（指定難病）受給者証」を使用することができる指定医療機関を拡大します。＜保健＞	推進			
○難病医療機関数 ('17) 1,030機関→('22) 1,442機関	1,188 機関	1,271 機関	1,354 機関	1,442 機関
● 難病患者に対する良質かつ適切な医療の確保と難病患者の療養の質の向上を図ることを目的に、難病医療・相談支援体制を推進します。また、難病患者が住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう、地域における支援体制を強化します。＜保健＞	推進			
○難病患者支援者等を対象とした研修会又は避難訓練の開催 ('17) →('19)～('22) 1回以上	1回	1回	1回	1回
● 災害時の停電等に備え、在宅において人工呼吸器療法を受けている難病患者の安心を確保するため、自家発電機導入支援制度を創設・支援します。＜保健＞	創設	支援		

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

【重点戦略4】

みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 新次元の消費者行政の展開				
<p>主要指標 ○消費者庁等機能移転 全面的移転</p>				
<p>●「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」に基づき、消費者庁等による「新たな恒常的拠点」の発足に向けて全面的に協力するとともに、新たな拠点が、地方創生に資する新たなひとの流れを創出し、消費者行政の発展・創造のためにふさわしいものとなるよう、「機能の充実」と「規模の拡大」を目指すとともに、消費者庁が消費者行政を一元的に推進できる消費者省へと移行されるよう後押しする中で、本県への全面的移転につなげていきます。また、「公益社団法人消費者関連専門家会議（ACAP）」との連携強化を図り、本県における「消費者行政・消費者教育」の取組みを県内外企業等にも浸透させることにより、「消費者志向経営」や「エシカル消費」を推進する首都圏企業等を対象とした本社機能移転を促進します。（再掲）＜危機・政策＞</p>	移転方針決定	恒常的拠点発足	推進	全面的移転
○消費者庁等機能移転 ('17) 試験移転→('22) 全面的移転				
OG20消費者政策国際会合の徳島開催 ('19) 開催				
<p>●消費者が身近な場所で質の高い相談が受けられるよう全市町村に設置された消費生活センターの相談体制を充実・強化するため、「消費生活相談員登録制度（仮称）」を創設し、消費生活相談員の確保を図ります。＜危機＞</p>	推進			
○「消費生活相談員登録制度（仮称）」登録者数（累計） ('17) →('22) 20人	5人	10人	15人	20人
<p>●地域で特に見守りが必要な高齢者、障がい者等の消費者被害を防止するため、全県域に設置された消費者安全確保地域協議会（見守りネットワーク）と連携し、実効性のある地域見守り体制の充実を図り、県民誰もが消費者被害に遭わない社会を目指します。＜危機＞</p>	推進			
<p>●民法改正による成年年齢下げに伴い、若年者の消費者教育の重要性が一層高まるなか、若年者が自立した消費者として主体的に判断し行動することができる消費者力を身につけられるよう、消費者教育の充実を図ります。＜危機＞</p>	推進			
○とくしま「消費者教育人材バンク」登録団体数 ('17) 27団体→('22) 50団体（個人を含む）	40団体	45団体	48団体	50団体
<p>●自らの消費行動が人や社会・環境に与える影響について理解し、持続可能な社会の実現に向けて、他者と協働して行動することができる力を育成するため、「徳島ならではの」社会を創る消費者教育を推進します。＜教育＞</p>	推進			
○公立高校における「エシカルクラブ」設置率 ('17) 33%→('19) ~('22) 100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 消費者が安心して住宅の新築やリフォームを行えるようにするため、専門家による相談の実施など、必要な環境を整備します。〈県土〉	推進			→
2 ひとに寄り添い支える体制づくり				
<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"> 主要指標 ○自殺死亡率（人口10万人当たり自殺者数） 13.0以下 </div>				
● 「徳島県自殺対策基本計画」に基づき、行政及び民間団体における相談機能の強化・連携体制の充実や、「徳島県自殺予防サポーター」（ゲートキーパー、傾聴ボランティアなど自殺予防、傾聴の研修受講者）の更なる養成に努めるなど、県民総ぐるみで地域における自殺対策の推進を図ります。〈保健〉	推進			→
○自殺死亡率（人口10万人当たり自殺者数） ('17) 16.4→('22) 13.0以下	13.0以下	13.0以下	13.0以下	13.0以下
○自殺予防サポーター数 ('17) 32,750人→('22) 53,000人	41千人	45千人	49千人	53千人
● 地域の絆を深め、地域で支え合う環境の充実を図るため、子どもや高齢者、障がい者などが集う「ユニバーサルカフェ（多世代交流・多機能型）」の普及促進を図ります。（再掲）〈保健〉	推進			→
○ユニバーサルカフェ（多世代交流・多機能型） 認定箇所数（累計） ('17) 9箇所→('22) 20箇所	14箇所	16箇所	18箇所	20箇所
● 地域における生活保護受給者等の生活困窮者の自立を促進するため、福祉事務所とハローワークが認識を共有し、より一体となって就労支援を推進します。〈保健〉	推進			→
○生活保護世帯のうち働くことのできる 「その他世帯率」 ('17) 9.3%→('22) 8.5%	8.9%	8.8%	8.7%	8.5%
● 認知症高齢者、知的障がいや精神障がいなどで判断能力が十分でない方々の財産管理と身上監護にも配慮した成年後見制度の利用を促進するため、市町村が実施する専門的助言や地域連携ネットワークのコーディネートを行う中核機関の設置などに対する支援を行い、関係団体等との連携・協働による権利擁護支援を総合的に推進します。〈保健〉	推進			→
● ひきこもり状態にある本人や家族の社会的参加を促進するために、医療、福祉、教育等専門職、大学院生等を対象とした「ひきこもり支援サポーター」を養成し、ひきこもりに関する相談業務や支援ネットワークの構築を図ります。〈保健〉	推進			→
○ひきこもり支援サポーター登録者数（累計） ('17) 83人→('22) 130人	100人	110人	120人	130人

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
3 人と動物がともに暮らせる地域づくり 主要指標 ○助けられる犬・猫の殺処分数（暦年） 240頭				
●「徳島県動物愛護管理推進計画」に基づき、譲渡交流拠点施設「さすなの里」を活用した譲渡動物に対する感染症対策や譲渡されるまでの健康管理の徹底と、広域譲渡を目的としたボランティア活動の場の拡大を図ることにより、譲渡を推進します。さらに、所有者明示措置による飼い主への返還率向上や引取り数削減に繋がる不妊去勢措置による繁殖抑制を推進し、助けられる犬猫の殺処分数ゼロを目指すとともに、動物愛護意識の向上を図り、人と動物がともに暮らせる、潤いと喜びのある地域づくりを目指します。 <危機>	推進			>
○助けられる犬・猫の殺処分数（暦年） ('17) 398頭→('22) 240頭	360頭	320頭	280頭	240頭
○県内で販売、譲渡される犬・猫等マイクロチップ装着率頭数（累計） ('17) →('22) 85%	70%	75%	80%	85%
○ボランティア団体と連携した犬・猫の県際間譲渡数 ('17) →('22) 100頭	100頭	100頭	100頭	100頭
○県市町村連携による犬猫不妊去勢手術頭数（累計） ('17) 838頭→('22) 1,000頭	900頭	930頭	970頭	1,000頭
●人・動物への感染防止による「One Health（ワンヘルス）」実現を目指すため、動物由来感染症に関して、医療・獣医療機関や、近隣県、大学、研究機関との連携を強化し、動物の検査・診断体制を整備するとともに、情報共有を図り、「動物由来感染症ネットワーク・徳島モデル」を構築します。（再掲）<危機>	推進			> 構築
○動物由来感染症ネットワーク「徳島モデル」の構築 ('22) 構築				
4 食の安全安心の確保 主要指標 ○農林水産省GAPガイドライン準拠以上の認定件数（累計） 70件				
●安全で安心な農産物の供給のため、農産物の安全、環境保全、労働安全について適正管理を行い、農林水産省のGAPガイドラインに準拠した「とくしま安 ² GAP認証制度（優秀認定）」等の取得を推進します。<農林>	推進			>
○農林水産省GAPガイドライン準拠以上の認定件数（累計） ('17) 35件→('22) 70件	50件	60件	65件	70件
○農作業における事故件数 ('17) 79件→('22) 40件	65件	50件	45件	40件

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 食品衛生管理の国際標準である「HACCP」について、「徳島県食の安全安心推進条例」に規定された「徳島県HACCP認証制度」に基づき、高度衛生管理基準適合施設の認証を推進するとともに、食品事業者の自主的な衛生管理の向上を支援し、県産食品の安全・安心ブランドを確立することにより、国内競争力の強化と輸出促進を図ります。＜危機＞</p>	推進			
○徳島県HACCP認証施設数（累計） ('17) 30件→('22) 60件	45件	50件	55件	60件
○HACCPアドバイザー育成人数 ('17) →('22) 100人	40名	60名	80名	100名
<p>● 消費者・事業者・行政が連携して、食の信頼関係を確保するため、消費者・事業者の自主的な取組みを支援するとともに、消費者庁や研究機関等と連携して、リスクコミュニケーションの養成や県民参加型の食の安全・安心を推進する事業を展開します。＜危機＞</p>	推進			
○リスクコミュニケーションとしての 意見交換会等参加者数 ('17) 804人*→('19) ~('22) 年間900人以上 *過去3年平均	900人	900人	900人	900人
<p>● 経済のグローバル化に柔軟かつ適切に対応し、本県畜産業の持続的発展を図るため、国内外から評価される安全安心な本県畜産物の輸出促進に向け、農場HACCP、JGAP家畜・畜産物等の認証取得を推進します。＜農林＞</p>	推進			
○農場HACCP認証等取得件数（累計） ('17) 6件→('22) 12件	9件	10件	11件	12件
<p>● 家畜伝染病の発生予防及び飼養衛生管理基準の徹底指導により、安全・安心な畜産物の供給を推進します。＜農林＞</p>	推進			
○畜産農家の立入検査の実施率 ('17) 100%→('19) ~('22) 毎年100%	100%	100%	100%	100%
<p>● 「鳴門わかめ」の産地偽装根絶に向け、「徳島県鳴門わかめ認証制度」の普及定着を推進します。 ＜危機・商工・農林＞</p>	推進			
○「鳴門わかめ認証制度」の認知度 ('17) 23%→('22) 40%	25%	28%	33%	40%
<p>● 地域の実情に即した適正な獣医療の提供を図り、安全・安心な畜産物の供給を推進します。＜農林＞</p>	推進			
○獣医療の提供率 ('17) 100%→('19) ~('22) 毎年100%	100%	100%	100%	100%
<p>● 食品の安全性確保や、家畜伝染病及び人獣共通感染症予防業務を推進するため、修学資金の貸与、県関係機関でのインターンシップを通じ、高度な専門知識を有する人材の確保を図ります。＜危機・農林＞</p>	推進			
○獣医学生のインターンシップ受入人数 ('17) 年間14人→('19) ~('22) 年間14人	14人	14人	14人	14人
○獣医師修学資金貸与者数 ('17) 年間3人→('19) ~('22) 年間4人	4人	4人	4人	4人

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 「食品表示の適正化等に関する条例」に基づき、県民の健康の保護並びに消費者に信頼される県産食品の生産及び供給の振興を図るため、産地偽装の抑止対策として科学的産地等判別分析を活用するなど、食品表示の適正化等に関する施策を計画的かつ総合的に推進します。 また、食品表示Gメンを増員するなど、監視体制の充実強化を図るとともに、食品表示に関する啓発を推進します。 <危機></p>	推進			>
○とくしま食品表示Gメンの立入検査件数 ('17) 年間3,190件→('19)～('22) 年間3,200件	3,200件	3,200件	3,200件	3,200件
○科学的産地等判別件数 ('17) 年間170件→('19)～('22) 年間170件	170件	170件	170件	170件
<p>● 食品関係事業者の食品表示責任者等に表示関連法令の啓発指導を行い、事業所における食品表示リーダーの養成を推進します。<危機></p>	推進			>
○食品表示責任者等講習会受講済数（累計） ('17) 1,952人→('22) 2,600人	2,300人	2,400人	2,500人	2,600人
<p>● 近年、複雑化する食品表示制度に対応するため、食に関する正しい知識を習得し、日常生活の中で食品表示の確認を行う「食品表示ウォッチャー」を養成し、モバイル端末を活用したウォッチャーシステムの利用による食品表示状況の幅広い情報収集及び監視活動の強化を図ります。併せて、消費者が適切に食品を選択できる自主的な活動を推進します。<危機></p>	推進			>
○食品表示ウォッチャー数 ('17) →('19)～('22) 年間160人	160人	160人	160人	160人
<p>● 食品による健康被害防止のため、「徳島県食品衛生監視指導計画」に基づき、食品の製造から販売までの各段階における監視指導の充実強化を行い、広域流通食品を含めた収去検査等により食品の安全性を確保します。<危機></p>	実施			>
○収去等検査検体数 ('17) →('19)～('22) 2,600検体	2,600 検体	2,600 検体	2,600 検体	2,600 検体
<p>5 犯罪抑止対策の推進</p> <p>主要指標 ○街頭犯罪発生件数 29年対比で抑止（減少）</p>				
<p>● 県民の防犯意識の高揚を図り、地域の犯罪抑止機能を強化するため、街頭犯罪等の発生状況や不審者情報の提供及び地域の犯罪情勢に即した効果的な抑止対策とともに、特殊詐欺の撲滅に向けた取組みを推進します。<警察></p>	推進			>
○街頭犯罪発生件数（暦年） ('17) 1,141件→('22) 2017年対比で抑止（減少）				
○特殊詐欺の被害額件数（暦年） ('17) 63件→('22) 2017年対比で抑止（減少）				

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● DV・ストーカー、児童虐待事案への対応をはじめとした平素の治安維持はもとより、大規模災害発生時の救出救助活動等や治安対策を的確に行うため、管轄区域の見直しや警察署及び交番・駐在所の再編・整備など組織体制の再構築を行うとともに、効率的な人員配置により、柔軟で強靱な組織基盤の確立を図ります。（再掲）＜警察＞</p>	推進			→
○新防災センター「徳島中央警察署」の整備（'20）供用				
○「地域警察の再構築に向けた中長期ビジョン」に基づき、交番・駐在所の更なる統合や管轄区域の見直し等に係る具体的計画の策定（'19）策定				
<p>● 社会全体で被害者を支え、被害者も加害者も出さない社会をつくるため、命の大切さを学ぶ教室、犯罪被害者等による講演などの各種広報啓発活動を実施します。また、県民の安全で平穏な生活を確保するため、「徳島県暴力団排除条例」に基づき関係機関、事業者等との相互連携による地域社会と一体となった暴力団の排除活動を推進します。＜警察＞</p>	推進			→
○「命の大切さを学ぶ教室」及び各種会合における犯罪被害者等による講演の実施回数（暦年）（'17）12回→（'19）～（'22）年間10回以上	10回	10回	10回	10回
○「暴力追放徳島県民大会」及び地域暴排会議の開催（暦年）（'17）8回→（'19）～（'22）年間8回以上	8回	8回	8回	8回
<p>● 犯罪被害者やその家族等が受けた被害を回復し、再び平穏な生活を営むことができるよう支援するため、犯罪被害者等への対応を総合的に推進します。（再掲）＜危機＞</p>	推進			→
<p>● 薬物乱用による健康被害等の未然防止を図り、青少年をはじめとする県民の健康や安全を守るため、「徳島県薬物の濫用の防止に関する条例」に基づき、規制・啓発を強化し、より一層の薬物乱用対策を推進します。＜保健＞</p>	推進			→
○大学生による薬物乱用防止指導員養成数（'17）20人→（'19）～（'22）年間30人	30人	30人	30人	30人

主要事業実施工程表（2-4 みんなで守り育てる！「安全安心な地域づくり」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
6 交通ルール遵守とマナーの向上				
<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"> 主要指標 ○交通事故による死者数 20人台前半 </div>				
<p>● 関係機関・団体と連携し、「交通マナーアップ推進月間（7月・8月）」を実施するほか、飲酒運転はもとより、近年、スマートフォンの画面を注視していたことに起因する交通事故が増加傾向にあり、いわゆる運転中の「ながらスマホ」が社会問題となっていることを踏まえ、日頃から、自動車、自転車等の危険な運転による交通事故の抑止に向け、県民の交通安全意識の高揚を目的とした各種交通安全活動を推進するなど、交通ルールの遵守と交通マナーの実践を習慣付けるための対策に、継続して取り組みます。また併せて、高齢化社会の到来に対応するため、高齢運転者等交通事故対策PTとの連携を図り、更なる高齢者の交通事故防止対策の徹底を図ります。＜危機・警察＞</p>	推進			
○交通事故による死者数（暦年） ('17) 34人→('22) 20人台前半	20人台前半	20人台前半	20人台前半	20人台前半
○高齢者の反射材用品の着用促進啓発事業 ('17) - →('19)～('22) 全警察署管内でモデル地区を定め重点実施	全警察署管内	全警察署管内	全警察署管内	全警察署管内
○高齢者運転免許自主返納者優遇店ガイドブックの協賛事業者の拡充 ('17) -→('22) 300事業者	210事業者	240事業者	270事業者	300事業者
<p>● 県南部・県西部の住民にも運転免許更新時における「即日交付」の利便性を拡充するため、阿南市及び阿波市に「運転免許センター」を整備します。＜警察＞</p>	整備	開設	推進	
○運転免許センター（阿南市、阿波市）の開設 ('20) 開設				
<p>● 全ての人々が安全・安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策の整備を推進します。（再掲）＜県土＞</p>	推進			
○歩道等の整備延長 ('17) 2.0km→('19)～('22) 年間2km以上を整備	2.0km	2.0km	2.0km	2.0km
○第4次社会資本整備重点計画(2015～2020)に基づく事故危険箇所における安全対策の実施箇所数（累計） ('17) 7箇所→('20) 24箇所	18箇所	24箇所		
○無電柱化した県内の道路の延長（累計） ('17) 31.4km→('22) 34.4km	33.9km	34.0km	34.0km	34.4km
<p>● 交差点の交通事故防止を図るため、ドライバーから見やすいLED式信号灯器の整備を進めます。＜警察＞</p>	順次整備			
○車両用LED式信号灯器の割合 ('17) 77.0%→('22) 87%	81.0%	83.0%	85.0%	87.0%
<p>● 自転車安全適正利用条例に基づき「自転車交通安全運動月間（4月・5月）」を定めるなど命を守る自転車の安全適正利用と交通マナーアップの県民運動を推進します。＜危機・教育・警察＞</p>	推進			

ターゲット2 「強靱とくしま・安全安心」の実装

【重点戦略5】

野生鳥獣との共生！適正な関係構築と利活用の推進

主要事業実施工程表（2-5 野生鳥獣との共生！適正な関係構築と利活用の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 鳥獣被害対策と利活用の推進				
主要指標 ○野生鳥獣による農作物被害額 82百万円				
● 農林水産業の生産活動を促進するため、サル・シカ・イノシシ・カワウなどの鳥獣被害対策を総合的に進めることにより、農林水産物被害の軽減を図ります。＜農林＞	推進			→
○野生鳥獣による農作物被害額 ('17) 111百万円→('22) 82百万円	97 百万円	92 百万円	87 百万円	82 百万円
○広域連携による 新たなカワウ被害防止対策の実施箇所数（累計） ('17) 6箇所→('22) 16箇所	10箇所	12箇所	14箇所	16箇所
● わな猟免許取得者の拡大や技術向上に向けた取組みを進め、ニホンジカやイノシシ等の捕獲数の増加を図るため、独自に開発した効率的なわなのアイデアコンテストや、県民参加型捕獲大会「わなりんピック（仮称）」を開催します。＜農林＞	推進			→
○「わなりんピック（仮称）」の開催 ('19) 開催				
● 狩猟者の減少と高齢化が進む地域社会において、暮らしや農林業に深刻な被害を及ぼす野生鳥獣の個体数管理を推進するため、「とくしまハンティングスクール」の開講等により、若手ハンターなど次世代の狩猟人材の育成確保を図ります。＜農林＞	推進			→
○「40歳未満」の狩猟免許取得者数（累計） ('17) 294人→('22) 325人	300人	305人	310人	315人
○とくしまハンティングスクールの受講者数 ('17) →→('19) ~('22) 年間5人以上	5人	5人	5人	5人
● 「徳島県特定鳥獣管理計画」に基づいた適正管理を推進するとともに、指定管理鳥獣（ニホンジカ、イノシシ）による被害を防止するため、県が主体となって積極的に指定管理鳥獣を捕獲します。＜農林＞	推進			→
○指定管理鳥獣捕獲等事業の実施地区数 ('17) →→('19) ~('22) 毎年5地区以上	5地区	5地区	5地区	5地区
○ニホンジカモニタリング調査 ②調査→('19) ~('22) 毎年調査				
● 剣山山系等におけるニホンジカによる生態系被害を縮小するため、ピンポイントでの集中的な捕獲を実施します。また、市街地に出没するイノシシによる生活環境被害や人身被害を予防するため、都市部における危険度調査を実施します。＜農林＞	推進			→
○剣山山系におけるニホンジカの年間捕獲数 ('17) 14頭→('22) 100頭	30頭	50頭	75頭	100頭
○都市部におけるイノシシの出没危険度調査の実施 ('17) →→('22) 5地区	1地区	2地区	3地区	5地区

主要事業実施工程表（2-5 野生鳥獣との共生！適正な関係構築と利活用の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 「阿波地美栄」の供給体制の強化や取扱店舗数の拡大を図るとともに、県民の食文化への定着をはじめ、ハラール対応シカ肉の国内外向けPR活動等を通じて消費拡大を図ります。＜農林＞	推進			→
○ 「阿波地美栄サミット（仮称）」の開催 ('19)～('22)開催				
○ 徳島型養鹿システムの導入箇所数 ('17) → ('22) 3箇所		1箇所	2箇所	3箇所
○ 東部圏域における処理加工施設 ('17) → ('20) 整備				
○ 「阿波地美栄」取扱店舗数 ('17) 35店舗 → ('22) 56店舗	44店舗	48店舗	52店舗	56店舗
● 特定外来生物（アルゼンチンアリ等）による生態系や農林水産業への被害を防止するため、地元市町村や地域住民、また、関係団体などと連携し特定外来生物についての普及啓発や駆除対策等を実施します。＜県民＞	推進			→

ターゲット 3

未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

I o T、ビッグデータ、A Iといった革新技術の社会実装を産業や暮らしのあらゆる分野で加速させるとともに、新産業の創出や県内企業・県産品のグローバル展開を推進し、未来を担う人材育成の取組みを深化させるなど、新たな価値創造によって未知なる社会を創り出す「発展とくしま・革新創造」の実装に向け、5つの重点戦略を展開します。

5つの重点戦略（主な「主要指標」）

主要指標	現状値('17値)	目標値('22値)
◆重点戦略1 全国を先導！第4次産業革命の実装		
○とくしまIoTプラットフォーム活用事例数(累計)	—	50件
○情報通信関連企業の奨励指定による集積数	38事業所	54事業所
○「とくしま丸ごとAIコカレッジ1(仮称)」の開設	—	('20)開設
◆重点戦略2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客		
○県内への外国人延べ宿泊者数(暦年)	102,810人	168,000人
○観光入込客数(暦年)	1,951万人	2,070万人
○クルーズ来県者数(直近4年の累計)	26,636人	70,000人
◆重点戦略3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開		
○LED応用製品開発支援件数(累計)	168件	290件
○農畜水産物産出額	1,224億円	1,330億円
○(中小企業分)徳島県の輸出額(暦年)	('16)175億円	249億円
◆重点戦略4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造		
○高校生の留学者数(7日以上)	174人	240人
○「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率(国語・算数<数学>)	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上
○県立特別支援学校高等部卒業生のうち、就職希望生徒の就職率	100%	100%
◆重点戦略5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ		
○とくしま経済飛躍ファンドにより支援した製品の売上額(累計)	6,717百万円	9,100百万円
○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数(累計)	69社	110社
○テカスクール訓練生の技能照査合格率	77.7%	81.0%

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

【重点戦略1】

全国を先導！第4次産業革命の実装

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 第4次産業革命の実装加速				
主要指標 ○とくしまIoTプラットフォーム活用事例数（累計） 50件				
● 産学官連携組織「とくしまIoT等推進ネットワーク」、データ基盤「とくしまIoTプラットフォーム」を活用し、効率的・効果的なデータの利活用や多様な主体が知恵を出し合い新たなソリューションを創出する等により、IoT等実装の加速化を図ります。＜政策＞	推進			→
○とくしまIoT等推進ネットワーク会員数（累計） ('17) →('22) 100者	70者	80者	90者	100者
○とくしまIoTプラットフォーム活用事例数（累計） ('17) →('22) 50件	20件	30件	40件	50件
● 地域の課題解決や産業の振興を図るため、第5世代移動通信システム（5G）によるイノベーションの創出や社会実装に向けた取組みを推進します。＜政策＞	推進			→
○5G活用事例数（累計） ('17) →('22) 4件	1件	2件	3件	4件
● Society5.0を支える社会インフラとなる「マイナンバーカード」の利便性を広く県民に周知するとともに、「自治体ポイント」を県下全域に広め、利用可能店舗やサービスの拡充を図ります。＜政策＞	推進			→
○マイナンバーカード交付率（累計） ('17) 8.8%→('22) 50%	20%	40%	45%	50%
● 県民の利便性向上等を図るため、市町村や民間の公的団体等とも連携しオープンデータポータルサイトの充実を図り、データの利活用を促進します。＜政策＞	推進			→
○オープンデータ数（累計） ('17) 921件→('22) 1,600件	1,200件	1,400件	1,500件	1,600件
● 常に危機管理の視点をもった情報セキュリティを確立するため、外部からの不正なアクセスや情報漏えいのリスク対策を行うなど、一層のセキュリティ対策に取り組めます。＜経営＞	推進			→

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 本県ものづくり企業の競争力を高めるため、徳島県の強みを活かし、産学官連携により、育児・介護分野を中心にロボットテクノロジーの実用化を推進するとともに、高機能素材などを活用した付加価値の高い製品開発を推進します。 ＜商工＞	推進			
○育児・介護現場でのAIロボットの技術開発 ('21) 技術開発				
○新素材活用の検討テーマ数 ('17) 3テーマ→('19)～('22) 毎年2テーマ	2テーマ	2テーマ	2テーマ	2テーマ
○高機能素材活用コンソーシアム参画企業の新規雇用者数 ('17) 2人→('22) 9人	6人	7人	8人	9人
○高機能素材活用製品の試作品数 ('17) 11個→('19)～('22) 毎年10個	10個	10個	10個	10個
○「とくしま高機能素材活用コンソーシアム」の新規参画機関数 ('17) 7機関→('19)～('22) 毎年5機関	5機関	5機関	5機関	5機関
● 新たな時代をリードする企業人の育成のため、第4次産業革命にも対応する「強い組織」づくりの核となる人材育成を推進します。＜商工＞	推進			
○企業人材育成研修の受講者数 ※平成長久館および長久館連携講座を合わせた受講者数 ('17) 6,355人→('22) 6,800人	6,500人	6,600人	6,700人	6,800人
○「第4次産業革命関連講座」の受講者数 ('17) 227人→('22) 350人	260人	290人	320人	350人
● 中小企業において常態化しつつある深刻な人手不足の解消や第4次産業革命への対応に向け、生産性向上につながる設備等の導入を支援するため、中小企業向け融資制度において「生産性革命応援資金（仮称）」を創設し、資金調達の円滑化を図ります。＜商工＞	推進			
○「生産性革命応援資金（仮称）」の創設 ('19) 創設				
● 本県農林水産業の競争力を強化し、成長産業化の実現を図るため、IoT、ビッグデータ、AIなどの革新技术を活用した超省力・低コスト化技術や気候変動にも対応した品種の開発を推進するとともに、新技术導入促進に向けた情報収集、実演会をはじめ情報提供により、現場への速やかな普及を図ります。＜農林＞	推進			
○若手農林漁業者への支援創設（スマート農林水産業） ('19) 創設				
○農林水産物の新品種・新技术の開発・導入数（累計） ('17) 12件→('22) 42件	24件	30件	36件	42件
○スマート化技術導入経営体数（累計） ('17) 10経営体→('22) 60経営体	30経営体	40経営体	50経営体	60経営体
● 長時間作業など藍生産現場等における農業者の課題を克服し、藍の生産拡大と藍製品開発の加速を図るため、藍の生産性向上に資するロボットの技術開発を推進します。 ＜商工＞	推進			
○省力化・生産力強化ロボットの開発 ('21) 市場投入				

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 建設現場の生産性向上のため、調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までのあらゆる建設生産プロセスにおいて、抜本的な生産性向上を目指す「i-Construction」の取組みを推進します。〈県土〉</p>	推進			
<p>○ICT活用実施率 ('17) 4%→('22) 20%</p>	8%	12%	16%	20%
<p>● 建設産業の担い手確保・育成に向け、建設産業の魅力発信を行うとともに、若年者や女性雇用の取組みを拡充することにより建設業への入職の促進を図ります。また、就業者の定着を図るため、技術者等のためのセミナー等を開催します。 （再掲）〈県土〉</p>	推進			
<p>○「第4次産業革命研修（仮称）」の開設 ('20) 開設</p>				
<p>● 効率的かつ効果的にインフラのメンテナンスや活用を行うため、IoT・AI等の革新技術の積極的な実装を行います。 （再掲）〈県土〉</p>	推進			
<p>○IoT・AI等の革新技術を導入したインフラ分野数（累計） ('17) → ('22) 全12インフラ</p>	4インフラ	6インフラ	9インフラ	12インフラ
<p>● ビッグデータを活用したe-learning等のICTによる個に応じた学習を推進するとともに、プログラミング的思考等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。 〈教育〉</p>	推進			
<p>○ビッグデータ実証事業における活用者数 ('17) 140人→('22) 600人</p>	400人	460人	530人	600人
<p>● 県内の小・中・高校生に対して理数分野への興味・関心を一層高める先端技術をテーマにした体験型の講座などの機会を提供します。 また、科学技術に関し、広く県民の関心と理解を深めることにより、本県の科学技術の振興を図るため、「とくしま科学技術月間」期間を中心に科学技術関連行事を実施します。 〈政策〉</p>	推進			
<p>○徳島県内「科学技術」関連イベント数 ('17) 290回→('19) ~('22) 毎年350回</p>	350回	350回	350回	350回
<p>2 クリエイティブ関連企業の集積促進</p>				
<p>主要指標 ○情報通信関連企業（コールセンター、AI、ビッグデータ等）の奨励指定による集積数 54事業所</p>				
<p>● 全国屈指の光ブロードバンド環境をはじめとする、本県の強みを最大限に活かし、地域経済の活性化を図るため、コールセンターやAI、ビッグデータ等の情報通信関連企業の誘致を推進します。〈商工〉</p>	推進			
<p>○情報通信関連企業（コールセンター、AI、ビッグデータ等）の奨励指定による集積数 ('17) 38事業所→('22) 54事業所</p>	45事業所	48事業所	51事業所	54事業所
<p>● クリエイティブ企業やクリエイターの更なる集積を図るため、産学官が連携した人材育成に取り組むとともに、クリエイティブ企業の誘致や創業等、県内企業のデジタルコンテンツ分野への進出支援を積極的に推進します。 〈商工〉</p>	推進			
<p>○クリエイティブ関連企業数 ('17) 241社（者）→('22) 315社（者）（累計）</p>	270社	285社	300社	315社
<p>○LEDデジタルアート常設展示への支援制度の創設 ('19) 創設</p>				

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 4KやVR（ヴァーチャルリアリティ）等の優れた映像クリエイターや関連事業者を徳島へ集積させるため、「映像先進地徳島」の国内外への発信に取り組みます。＜商工＞</p>	推進			→
○4K・VR関連企業（者）数 （'17）14社（者）→（'22）24社（者）	18社	20社	22社	24社
○「徳島4K文化賞（仮称）」の創設 （'19）創設				
○4K・VR映画祭の開催 （'18）拡大→（'19）～継続				
<p>● AI、ビッグデータ等革新技術の活用が増える中、IT技術者の需要増加による県内企業の人材不足を解消するため、海外からの人材を確保する支援を行います。＜商工＞</p>	推進			→
○県内企業における外国人ICT技術者の受入れ （'20）受入れ				
<p>● 実践的なICT人材の育成や地場ICT産業の持続的な発展、徳島を拠点としたワーキングスタイルの確立につなげるため、県内最大のデジタルコンテンツ表彰を行う「ICT（愛して）とくしま大賞」や徳島の強みを活かした効果的なICTイベントを実施します。＜政策＞</p>	推進			→
○ICTとくしま大賞応募作品の利活用件数（累計） （'17）45件→（'22）135件	75件	95件	115件	135件
<p>3 進化する「スマート県庁」の展開</p> <p>主要指標 ○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ（仮称）」の開設 開設</p>				
<p>● 多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」の活用や、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。（再掲）＜監察＞</p>	推進			→
○県庁舎見学参加者数 （'17）617名→（'19）～（'22）年間680名以上	680名	680名	680名	680名
○県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」 展示等件数 （'17）40件→（'19）～（'22）年間50件以上	50件	50件	50件	50件
○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ（仮称）」の 開設 （'20）開設				
<p>● 申請・届出等の行政手続きの簡素化やオンライン対応、AI・RPA等の革新技術の活用を進めることにより、業務の効率化とともに、県民の利便性の向上を図ります。また、公文書の電子決裁化を進めることで、文書管理の適正化と行政運営の効率化を目指します。＜経営・出納＞</p>	推進			→
○電子申請利用件数 （'17）9,317件→（'22）14,000件	11,000 件	12,000 件	13,000 件	14,000 件
○電子決裁システムの利用促進 利用率（'17）84%→（'22）100%				100%
○定型業務にRPAを適用 （'19）RPA本格実装・（'20）RPA適用業務の拡充				

主要事業実施工程表（3-1 全国を先導！第4次産業革命の実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 職員の業務引継ぎ時における業務執行体制の早期確立のため「AI活用・全庁FAQシステム」を構築し、よりシームレスな県民サービスを実現します。＜経営＞	構築	推進		
○AI活用・全庁FAQシステム ('19) 構築				

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

【重点戦略2】

千載一遇！攻めのインバウンド誘客

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 「おもてなしの国とくしま」観光誘客の推進				
主要指標 ○県内への外国人延べ宿泊者数（暦年）	168,000人			
● 東アジアを重点地域として、チャーター便や定期便の誘致による観光誘客に取り組むとともに、国際スポーツ大会等の開催に合わせて、県内DMOや県域を越えた広域的なDMOと連携した周遊観光や徳島の魅力を生かしたニューツーリズムを推進することにより、外国人観光客の誘客を促進します。 また、本県を代表する伝統文化「阿波おどり」の海外公演や指導者派遣を行うことにより、徳島の認知度向上並びに「徳島ファン」の拡大を図り、本県の観光誘客に繋がります。＜商工＞	推進			→
○県内への外国人延べ宿泊者数（暦年） ('17) 102,810人→('22) 168,000人	117,000人	134,000人	151,000人	168,000人
○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演及び指導者派遣回数（累計）（再掲） ('17) 4回→('22) 30回	15回	20回	25回	30回
● 観光消費額の増加による地域経済の活性化と、住民の愛着や誇りを醸成する豊かな地域社会の実現を図るため、「鳴門の渦潮」、「阿波の土柱」などの雄大な自然や、「阿波おどり」、「お遍路」をはじめとする歴史・文化など、県東部の魅力的な地域資源を観光地経営の視点に立って活用し、国内外からの観光誘客を推進します。＜商工＞	推進			→
○一般社団法人イーストとくしま観光推進機構の日本版DMO法人への登録 ('19) 登録				
○来訪者の満足度(7段階評価中最高評価の割合) ('17) →('22) 29%	26%	27%	28%	29%
● 持続可能な観光地域づくりを実現するため、舵取り役であるDMO（一般社団法人四国の右下観光局）を核とし、地域の多様な関係者を巻き込み、国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や競技の開催を通じて訪日外国人観光客の受入態勢を充実強化し、県南の地域資源を活用した観光誘客を促進します。＜南部＞	推進			→
○一般社団法人四国の右下観光局の日本版DMO法人への登録 ('19) 登録				
○圏域内での外国人の年間延べ宿泊者数 ('17) 2,386人→('22) 11,000人	4,000人	6,000人	9,000人	11,000人
○来訪者の満足度(7段階評価中最高評価の割合) ('17) →('19) ~('22) 25%以上	25%	25%	25%	25%

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 県西部圏域（にし阿波）への欧米豪など外国人観光客の誘致を促進するため、世界水準DMOの育成や圏域内での周遊ルートづくり等に取り組むとともに、AIやデジタルマーケティングを活用した戦略的な情報発信を推進します。＜西部＞</p> <p>○「にし阿波」における外国人延べ宿泊者数（暦年） （'17）28,824人→（'22）35,000人</p> <p>○来訪者の満足度（7段階評価中最高評価の割合） （'17）20%→（'22）25%</p>	推進			→
	30,000人	31,500人	33,000人	35,000人
	22%	24%	25%	25%
<p>● 外国人向けの観光案内所の運営による情報提供や通訳人材の育成強化を図るとともに、電子決済システムの導入によるキャッシュレス環境の充実、Wi-Fi環境の整備、免税店の導入促進、多言語表記の推進など、外国人観光客の受入環境の充実を図ります。＜政策・商工＞</p> <p>○県が整備・補助した無料公衆無線LANアクセスポイント数 （'17）670アクセスポイント →（'22）1,000アクセスポイント</p> <p>○善意通訳組織「徳島GGクラブ」会員数 （'17）102人 →（'22）150人</p>	推進			→
	925 アクセス ポイント	950 アクセス ポイント	975 アクセス ポイント	1,000 アクセス ポイント
	120人	130人	140人	150人
<p>● 外国人誘客をはじめとした新たな観光需要の掘り起こしと地域活性化を図るため、宿泊施設と県内イベントとが連携した「コンセプト泊」を推進します。＜政策・商工＞</p>	推進			→
<p>● 観光地の魅力を向上させるため、主要幹線道路の整備によるアクセス向上に加え、国内外からの観光客が安心して楽しく訪問できる案内標識の整備等、観光地の魅力を向上させる新たな施策を推進します。＜県土＞</p> <p>○外国人にもわかりやすい観光・地点案内表示の県内の設置数（累計） （'17）82基→（'22）160基</p> <p>○「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」をはじめとする県内各観光地へのアクセスルート整備箇所数（累計） （'17）2箇所→（'22）20箇所</p> <p>○既存の「道の駅」における子育て応援箇所数（累計） （'17）→（'22）10箇所</p>	推進			→
	115基	130基	145基	160基
	8箇所	13箇所	17箇所	20箇所
	2箇所	5箇所	7箇所	10箇所
<p>● 県西部圏域（にし阿波）において来訪者の滞在期間の延長や滞在施設の拡充を図るため、主要な観光地とアクティビティや世界農業遺産体験などを組み合わせた体験・滞在プログラムを開発することにより、「にし阿波」への誘客を推進します。＜西部＞</p> <p>○DMOが造成した体験・滞在プログラムの参加者数 （'17）703人→（'22）1,000人</p> <p>○ホテル・旅館以外での体験型観光延べ受入泊数 （'17）5,024泊→（'22）6,000泊</p>	推進			→
	820人	880人	940人	1,000人
	5,250泊	5,500泊	5,750泊	6,000泊

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 「輝け！とくしま」観光コンテンツの充実				
主要指標 ○観光入込客数（暦年） 2,070万人				
● 旅行形態の主流となっている「個人旅行者の誘客促進」、 「東京オリンピック・パラリンピック」等を見据えた「訪日外国人の誘客促進」、多くの宿泊者が見込まれる「コンベンションの誘致促進」など、官民一体となった戦略的な取組みを推進し、観光誘客、宿泊者数の増加を図ります。 <商工>	推進			
○観光入込客数（暦年） （'17）1,951万人→（'22）2,070万人	1,995万人	2,020万人	2,045万人	2,070万人
○年間の延べ宿泊者数（暦年） （'17）230万人→（'22）300万人	255万人	270万人	285万人	300万人
○観光消費額（暦年） （'17）889億円→（'22）1,200億円	1,155億円	1,170億円	1,185億円	1,200億円
● 「徳島観光アプリ」の充実強化や地元ならではの観光、体験、食などを組み合わせた着地型旅行商品の造成を推進するとともに、IoT導入による「おもてなしタクシー」の利便性向上など二次交通の充実を図ることにより、県内における観光客の周遊と宿泊、リピーター来県を促進します。 <商工>	推進			
○「徳島観光アプリ」のダウンロード数（累計） （'17）→（'22）6万件	1.5万件	3万件	4.5万件	6万件
○「おもてなしタクシー」の指定数（累計） （'17）71台→（'22）180台	120台	140台	160台	180台
● 本県の持つ豊かな自然や食材、伝承された知恵や技術、個性ある郷土芸能など、本県ならではの地域資源を活用した体験メニューを磨きあげ、教育旅行の受入促進や特色ある地域の文化を活かしたイベントの開催などによる誘客促進を図ります。 <商工>	推進			
○体験型教育旅行における延べ受入泊数（協議会受入） （'17）4,967泊→（'22）6,000泊	5,250泊	5,500泊	5,750泊	6,000泊
○「国際“怪フォーラム”（仮称）」の開催 （'20）開催				
● 四国4県が連携して四国のグリーン・ツーリズムを推進するとともに、インターネットを活用したPRを展開し、徳島の農山漁村への入り込み客数の増加を図り、活気あるむらづくりを進めます。 <農林>	推進			
○とくしま農林漁家民宿数 （'17）49軒→（'22）75軒	60軒	65軒	70軒	75軒
○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数 （'17）3,713人→（'22）6,000人	4,800人	5,200人	5,600人	6,000人
● 国内外に向けて本県の物産・観光の情報発信を推進するため、県の「大阪・名古屋物産センター」や、「コンビニ型アンテナショップ」のさらなる展開を促進するとともに、県外の民間店舗を「阿波とくしまアンテナショップ」として認定し、活用することで効果的な情報発信に努め、県産品の販路拡大・販売促進を図ります。 <商工>	推進			
○コンビニ型アンテナショップの新規取扱商品数 （'17）510件→（'22）850件	650件	720件	790件	850件

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 映像を通じて徳島の魅力を発信するため、三好長慶の大河ドラマ化にチャレンジするなど、徳島を舞台にした映画やドラマ等のロケを誘致・支援します。＜商工＞	推進			→
○ロケ支援件数 ('17) 59件→('22) 85件	70件	75件	80件	85件
● 「関西の台所」を担う「食の宝島」、「体験型観光の先進地」としての徳島ならではの魅力を「観光とくしまブランド」として確立させ、観光誘客を促進するため、徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」の「AIを活用したFAQ」の充実を図り、観光客のニーズに即した観光情報の提供や旅行計画のサポートを行います。 また、SNSとの連携強化、API連携（外部サイトの二次利用機能）による飲食・宿泊・体験・二次交通の自動情報取得等を通じて、観光情報発信の強化を図ります。＜商工＞	推進			→
○観光情報サイト総アクセス件数 ('17) 523万件→('22) 600万件	540万件	560万件	580万件	600万件
● 吉野川を今後さらに輝かせ、全国へ誇れる「徳島ならではの」魅力あるブランドとするため、「恵みの宝庫“吉野川”創造プロジェクト」により、吉野川における新たな観光資源の創出や吉野川の歴史・文化・環境に関する講座の開催などに取り組みます。＜県土＞	推進			→
○講座の受講者数 ('17) 140人→('19)～('22) 年間150人以上	150人	150人	150人	150人
● 本県の優れた自然景観等を有する自然公園などについて、自然景観等の保護や利用の増進を図るため、関係機関と連携し、施設の効率的・効果的な整備を行います。＜県民＞	推進			→
○登山道と四国のみちの再整備ルート数 ('17) 14ルート→('22) 17ルート	15ルート	15ルート	16ルート	17ルート
○自然公園トイレの洋式化実施率 ('17) 29%→('22) 75%	31%	41%	56%	75%
● 国内外からの観光誘客を図り、地域の活性化に繋げるため、県内に架かる橋をPRする「橋の博物館とくしま」のホームページや橋梁史の英語版を作成し、橋の魅力を広く発信します。＜県土＞	推進			→
3 四季を通じたにぎわいの創出				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>○「世界阿波おどりサミット（仮称）」の開催</div> <div style="margin-left: 100px;">開催</div> </div>				
● 夏の阿波おどりはもとより、春、秋の「阿波おどり」の更なる充実や、冬の「阿波おどり」の定着、有名連の練習風景の観光資源化など、阿波おどりの通年活用に取り組むとともに、本場徳島をPRする「世界阿波おどりサミット（仮称）」を開催し、世界に発信することにより、「徳島ファン」の拡大を図り、国内外から本県を訪れる観光客の周遊と宿泊を促進します。（再掲）＜商工＞	推進			→
○「世界阿波おどりサミット（仮称）」の開催 ('19) 開催				
● 国内外から注目を集める「マチ★アソビ」を核としたアニメイベントを開催することにより、徳島ならではの魅力を活かしたにぎわいの創出や新たな地域文化の創造と発信を図ります。（再掲）＜商工＞	開催			→

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
●「アニメの聖地徳島」として、世界にアニメ文化を発信し、地域の活性化、観光誘客の促進を図るため、国内外のアニメファンが集う「マチ★アソビ」と、徳島の特色を活かした「LEDデジタルアート」との融合による「ナイトタイムイベント」の開催により、新次元の「驚きと感動体験」を実現します。〈商工〉	開催			>
○LEDデジタルアートとの融合によるナイトタイムイベントの開催 ('20) 開催				
●県内のスポーツ振興や、県民の健康増進を図るため、参加者の満足度の向上に努め、「おもてなしの心」あふれる「とくしまマラソン」を開催します。〈商工〉	開催			>
○ランナー満足度 ('17) 76.8点→('22) 85.0点	80.5点	82.0点	83.5点	85.0点
●「ナイトタイムエコノミー」の活性化を図るため、「ナイトイベント」を誘致し、宿泊者数及び夜間の観光消費額の増加を図ります。 また、ナイトイベントの開催場所として県有施設の活用を図ります。〈商工〉	促進			>
●「渦の道」、「あすたむらんど徳島」、「美馬野外交流の郷」などの交流拠点の魅力を高めるとともに、交流拠点を活用したイベントの充実を図り、また、来場者へのアンケートを実施し、意見を踏まえた取組みやサービスを提供することで満足度の向上を図ります。〈商工〉	推進			>
○「渦の道」、「あすたむらんど徳島」及び「美馬野外交流の郷」の満足度数 ('17) 70%→('22) 80%	74%	76%	78%	80%
●本県への交流人口の増加を図るため、「とくしまコンベンション誘致推進協議会」を核として積極的な誘致活動を展開することにより、コンベンション参加者の増加を促進します。〈商工〉	推進			>
○コンベンション（中四国規模以上）の参加者数 ('17) 107,764人→('22) 140,000人	11万人	12万人	13万人	14万人
●世界初となるDMVの本格営業運行を契機として、インバウンドをはじめとする県南部の観光誘客を図るため、（一社）四国の右下観光局や阿佐海岸鉄道(株)など関係機関と連携し、観光周遊ルートづくりをはじめとするDMVを活用した魅力ある観光コンテンツを開発します。〈南部〉		開発	推進	>
○DMVを活用した観光コンテンツの開発 ('20) 開発				
●「防災・健康」のリバーシブルな役割を担う西部健康防災公園を「にぎわい交流の拠点」とするため、広大なフィールドを活用した各種大会やスポーツ合宿等の誘致を行い、にぎわい創出を図ります。〈西部〉	推進			>
○「西部健康防災公園」を活用したスポーツやレクリエーションでの利用者数（再掲） ('17) 91,772人→('19) ~('22) 年間10万人以上	10万人	10万人	10万人	10万人

主要事業実施工程表（3-2 千載一遇！攻めのインバウンド誘客）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
4 ゲートウェイとくしまの加速				
主要指標 <ul style="list-style-type: none"> ○「クルーズ来県者数」（直近4年の累計） 70,000人 				
<ul style="list-style-type: none"> ● 観光消費の拡大や地域振興に大きな効果が見込まれるクルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や受入態勢の充実強化に取り組み、クルーズ来県者数の拡大を図ります。〈県土〉 	推進			
<ul style="list-style-type: none"> ○「クルーズ来県者数」（直近4年の累計） ('17) 26,636人 → ('22) 70,000人 	17,000人	35,000人	52,000人	70,000人
<ul style="list-style-type: none"> ● 2025年大阪・関西万博開催を視野に、国内外との交流拡大による本県経済の活性化を図るため、エアポートセールスを推進し、国内外との航空ネットワークの維持・充実を図ります。〈県土〉 	推進			
<ul style="list-style-type: none"> ○国内線 ('17) 東京線1日11往復、福岡線1日2往復 →('22) 維持・充実 				
<ul style="list-style-type: none"> ○国際線の誘致 ('17) チャーター便就航→('19) ~('22) 推進 (※('18) 季節定期便就航) 				
<ul style="list-style-type: none"> ● 本県の「地域経済の発展」や「国際貿易の充実・強化」につなげていくため、物流拠点である「徳島小松島港コンテナターミナル」の機能を最大限に活かし、集荷拡大に向けた利便性の高い港づくりに取り組みます。〈県土〉 	推進			
<ul style="list-style-type: none"> ○コンテナ貨物取扱量 ('17) 11,803TEU（実績量） →('22) 2017年度比12%増 	3%	6%	9%	12%
<ul style="list-style-type: none"> ● 徳島小松島港沖洲（外）地区複合一貫輸送ターミナルの利用促進のため、「港内の静穏」と「船舶航行の安全」の向上を図る、防波堤延伸整備の促進及び、アクセスを向上させる臨港道路整備を推進します。〈県土〉 	推進			
<ul style="list-style-type: none"> ○防波堤の延伸整備 ('17) 工事促進中→('19) 完成 				
<ul style="list-style-type: none"> ○徳島東ICと複合一貫輸送ターミナルとを直結し、経済活性化と防災の両面に資する臨港道路の整備 ('17) 整備中→('21) 部分供用・('22) 完成 				

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

【重点戦略3】

世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 光関連産業の新展開				
主要指標 ○LED応用製品開発支援件数（累計）	290件			
● LEDバレイ徳島の世界展開を進めるため、LED関連企業の開発・生産、ブランド化、販路開拓などを支援することにより、次世代LED産業クラスターの形成を推進します。〈商工・警察〉	推進			
○LED応用製品開発支援件数（累計） ('17) 168件→('22) 290件	200件	230件	260件	290件
○国際規格（ISO17025）適合の成績証明書を付与した製品数（累計） ('17) 6製品→('22) 35製品	20製品	25製品	30製品	35製品
○LED応用製品の海外市場開拓数（累計） ('17) 10か国→('22) 18か国	12か国	14か国	16か国	18か国
○車両用LED式信号灯器の割合（再掲） ('17) 77.0%→('22) 87%	81.0%	83.0%	85.0%	87.0%
● 地方大学・地域産業創生事業により、次世代LED等を活用した新製品を開発し、県内の光関連産業の活性化を図ることで雇用創出を推進します。 （再掲）〈政策・商工〉	推進			
○光関連産業の雇用創出数（累計） ('17) 11,200人→('22) 13,500人	12,000人	12,500人	13,000人	13,500人
○専門人材育成プログラムへの地元進学者数（累計） ('17) 20人→('22) 48人	27人	34人	40人	48人
● 省エネルギー対策を推進するため、県管理道路における道路照明灯等のLED化を推進します。〈県土〉	推進			
○あわ産LED道路照明灯（橋梁照明、トンネル照明を除く）の設置割合（累計） ('17) 12%→('22) 32%	19%	23%	27%	32%
2 「もうかる農林水産業」の実現				
主要指標 ○農畜水産物産出額	1,330億円			
● 食料の安定的な供給の確保、農林水産業及び農山漁村の振興、さらには次代への継承を図るため、人材育成、生産振興、販売力強化、基盤整備及び農山漁村の活性化に取り組み、「もうかる農林水産業」の実現を目指します。 〈農林〉	推進			
○農畜水産物産出額 ('17) 1,224億円→('22) 1,330億円	1,315億円	1,320億円	1,325億円	1,330億円

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 主食用米を中心とする水稻経営の安定化及び生産者の経営判断に基づく需要に応じた米づくりを実現するため、多収品種の導入による低コスト化、「あきさかり」をはじめ高温耐性品種の普及による高品質化、輸出用米や飼料用米など新規需要米の導入を推進します。〈農林〉</p>	推進			
○水稻の多収品種の作付面積 ('17) 780ha→('22) 2,830ha	1,780ha	2,130ha	2,480ha	2,830ha
○高温耐性品種の作付面積 ('17) 474ha→('22) 2,550ha	1,500ha	1,850ha	2,200ha	2,550ha
○県産米輸出数量 ('17) 79トン→('22) 92トン	83トン	86トン	89トン	92トン
<p>● 農林水産業の成長産業化を推進するため、アグリ、フォレスト、マリンの各サイエンスゾーンを核として、産学官連携によるオープンイノベーションを加速し、収益性の高い新たな技術開発や実践力の高い人材育成等により「もつかる農林水産業」を実現します。〈農林〉</p>	推進			
○新たなイノベーション創出による農林水産物の産出額 ('17) 71億円→('22) 103億円	93億円	97億円	100億円	103億円
<p>● 「農地中間管理機構」を活用した「徳島版・農地集積モデル」を構築するとともに、農業委員会に設置された「農地利用最適化推進委員」との連携強化や農業者の手続きを支援する機構の「現地推進員」の増員支援などを行い、担い手への農地の集積を推進します。〈農林〉</p>	推進			
○「農地中間管理機構」を活用した農地集積面積（累計） ('17) 357ha→('22) 900ha	570ha	680ha	790ha	900ha
<p>● 規模拡大や多角化により農業経営の改善・発展を図るため、農業法人の育成を推進します。また、多様な人材により労働力不足を補うため、農福連携、外国人の活用等を推進します。〈農林〉</p>	推進			
○「農福連携」マッチング数 ('17) 2件→('19) ~('22) 年間3件	3件	3件	3件	3件
○外国人活用セミナー開催数 ('17) →('19) ~('22) 年間3回	3回	3回	3回	3回
○農業法人数（累計） ('17) 291経営体→('22) 315経営体	300経営体	305経営体	310経営体	315経営体
<p>● 県西部圏域（にし阿波）が、日本の農業の原点である「世界農業遺産」や「食と農の景勝地」に認定されたことを契機に、持続力のある地域経済を実現するため、伝統食材を活用した「もつかる農業」への取組みや農泊の活性化を推進します。（再掲）〈西部〉</p>	推進			
○「世界農業遺産ブランド」認証件数（累計） ('17) →('22) 50件	20件	30件	40件	50件
○とくしま農林漁家民宿の宿泊者数（西部圏域） ('17) 2,265人→('22) 2,800人	2,500人	2,600人	2,700人	2,800人
○「世界農業遺産」戦略品目であるそば販売作付面積（累計） ('17) 28.7ha→('22) 33ha	30ha	31ha	32ha	33ha
○「世界農業遺産」戦略品目であるごうしゅいもを栽培する農林漁家民宿等の数（累計） ('17) 25戸→('22) 50戸	35戸	40戸	45戸	50戸

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 年々充実を続ける森林資源の積極的な活用を図る「林業プロジェクト」において、主伐に対応する「新林業生産システム」の更なる導入を進め、主伐から再造林、保育までの「森林サイクル」の確立による県産材の更なる増産を推進します。＜農林＞	推進			
○県産材の生産量 ('17) 37.5万m ³ →('22) 56.3万m ³	45.0 万m ³	48.0 万m ³	51.0 万m ³	56.3 万m ³
● 瀬戸内海から太平洋に至る個性豊かな本県の海域特性を踏まえた漁業振興策を推進するとともに、大学等との連携により、水産物の新養殖品種の導入、ブランド力の更なる向上など、本県水産業の成長産業化に取り組みます。＜農林＞	推進			
○大学や民間企業と連携した新養殖品種の導入 ('17) →('21) 創出・('22) 導入				
● 生産コストの低減や高品質化・ブランド化など、海外市場も視野に足腰の強い経営体への転換に取り組む畜産農家を支援します。＜農林＞	推進			
○グローバル化に対応した経営転換モデル数（累計） ('17) 6モデル→('22) 16モデル	10モデル	12モデル	14モデル	16モデル
● 農林水産業における省エネ・低コスト化を図り、石油に依存しない産地づくりを促進します。＜農林＞	推進			
○省エネ・低コスト化施設の導入件数（累計） ('17) 22件→('22) 27件	24件	25件	26件	27件
● 地域の農林水産業の振興に大きな役割を担う農業協同組合・森林組合・漁業協同組合の合併等を推進し、機能強化を図ります。＜農林＞	推進			
● 県産農産物のブランディングを図るため、食の宝庫徳島の地域資源を活用した6次産業化を推進します。＜商工・農林＞	推進			
○農工商連携等による 6次産業化商品開発事業数（累計） ('17) 273件→('22) 550件	370件	430件	490件	550件
○戦略的な販路開拓のための 展示会・商談会への出展数（累計） ('17) 241出展→('22) 540出展	360出展	420出展	480出展	540出展
○六次産業化法による 「総合化事業計画」の認定数（累計） ('17) 36件→('22) 47件	40件	42件	44件	47件
○六次産業化法に基づく「総合化事業計画」 策定事業者の売上額 ('17) 8.6億円→('22) 10.6億円	9.4億円	9.8億円	10.2億円	10.6億円
○六次産業化研究施設の利用者数 ('17) →('19) ~('22) 年間300人	300人	300人	300人	300人
● 南部圏域ならではの魚類、海藻類やキュウリ等の農水産物を活用した6次産業化を推進するため、6次産業化に取り組む女性や関係事業者等とのネットワークを構築することで、魅力ある商品の開発・販路拡大の支援を行います。＜南部＞	推進			
○新商品開発数（累計） ('17) →('22) 10商品	4商品	6商品	8商品	10商品

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
3 農林水産物のブランド戦略の展開				
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">主要指標</div> ○とくしまブランド推進機構の関与した販売金額 40億円				
●「とくしまブランド推進機構」と連携し、生産、流通、販売の総合的な支援とターゲット市場毎の戦略的なアプローチにより、県産農産物の生産拡大とブランド化の推進を図り、もうかる農業の実践に繋がります。〈農林〉	推進			
○とくしまブランド推進機構の関与した販売金額 ('17) 10億円 →('22) 40億円	25億円	30億円	35億円	40億円
○とくしまブランド推進機構の関与した産地と実需者とのマッチング件数 ('17) 16件 →('22) 90件（累計）	45件	60件	75件	90件
●首都圏における情報発信と交流の拠点「Turn Table」において、メディア、飲食、食品企業関係者などへ「阿波ふうど」の魅力や価値を発信し、県産品の認知度向上、販路拡大を図るとともに、観光や文化など本県魅力を発信し、徳島県そのもののブランディングを推進します。〈農林〉	推進			
○「Turn Table」での販売総売上額 ('17) 0.1億円→('22) 2.5億円	2.0億円	2.3億円	2.4億円	2.5億円
○「Turn Table」の利用者数 ('17) 0.6万人→('22) 3.5万人	2.8万人	3.0万人	3.2万人	3.5万人
●「阿波ふうど」の認知度向上及び県産食材の興味・関心を持つ人の増加を図るため、徳島の食を応援する「阿波ふうどスペシャリスト」の登録を推進します。また、「阿波ふうど」の魅力や価値を発信し、食を目的に、国内外から多くの観光客が本県を訪れる「阿波ふうどツーリズム」を形成するとともに「美食の街・徳島」づくりを推進します。（再掲）〈農林〉	推進			
○阿波ふうどメニューフェア飲食者数 ('17) →('22) 5千人	2千人	3千人	4千人	5千人
○阿波ふうどスペシャリスト登録数 ('17) 175件→('22) 500件	250件	350件	450件	500件
○「阿波ふうど」に関する#(ハッシュタグ)投稿件数 ('17) 214件→('22) 1,000件	300件	450件	700件	1,000件
●畜産物について、TPP11や日EU・EPA発効によるグローバル化に対応するため、GAP・HACCPの認証取得支援による輸出促進などの「攻め」、経営安定対策などの「守り」に関する取組みを展開し、阿波尾鶏をはじめとした本県畜産ブランドの生産促進、競争力強化を推進します。〈農林〉	推進			
○「阿波尾鶏」出荷羽数（地鶏肉）全国順位 ('17) 全国1位（20年連続） →('22) 全国1位（25年連続）	1位	1位	1位	1位
○牛・豚経営安定対策加入率 ('17) 84%→('22) 89%	87%	87%	88%	89%
○畜産物の海外輸出货量 ('17) 54 t→('22) 120 t	90t	108t	115t	120t
○県有和牛雄牛を用いた人工授精頭数（累計） ('17) →('22) 330頭	30頭	130頭	230頭	330頭

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 水産業の成長産業化を図るため、漁協等が行う共同利用施設の整備を支援するなど、水産物の生産・流通機能を強化する取組みを推進します。＜農林＞	推進			→
○「徳島の活鱧PRキャンペーン」参加店舗数（累計） ('17) 55店舗→('22) 400店舗	190店舗	260店舗	330店舗	400店舗
○県産水産物を使用する料理教室への参加者数（累計） ('17) 234人→('22) 1,200人	600人	800人	1,000人	1,200人
○水産物の生産・流通機能を強化する施設等の整備（累計） ('17) 11施設→('22) 16施設	13施設	14施設	15施設	16施設
● 園芸産地として日本のトップブランドの地位を確立するため、農作業の効率化や省力化、労働力の確保等、品目が抱える課題を解決することにより、産地のリノベーションを推進し、もうかる農業を実践します。＜農林＞	推進			→
○産地リノベーションを実施した園芸産地における生産額 ('17) 26億円→('22) 60億円	45億円	50億円	55億円	60億円
● 阿南・那賀地域におけるブランド品目の生産力の維持・産地強化を図るため、産地や地域住民が主体となり「担い手確保」と「もうかる農業」を実践する「農の里」づくりを推進します。＜南部＞	推進			→
○「農の里」づくりに取り組む地域数（累計） ('17) 1→('22) 4地域	1地域	2地域	3地域	4地域
● 本県農林水産業の競争力を強化し、成長産業化の実現を図るため、IoT、ビッグデータ、AIなどの革新技术を活用した超省力・低コスト化技術や気候変動にも対応した品種の開発、温暖化のメリットを生かした新品目へのチャレンジなどを推進するとともに、新技术導入促進に向けた情報収集、実演会をはじめ情報提供により、現場への速やかな普及を図ります。（再掲）＜農林＞	推進			→
○若手農林漁業者への支援創設（スマート農林水産業） ('19) 創設				
○農林水産物の新品種・新技术の開発・導入数（累計） ('17) 12件→('22) 42件	24件	30件	36件	42件
○スマート化技術導入経営体数（累計） ('17) 10経営体→('22) 60経営体	30経営体	40経営体	50経営体	60経営体
○熱帯性果樹の栽培実証経営体数（累計） ('17) 1→('22) 10経営体	1経営体	4経営体	7経営体	10経営体
● 安全安心で持続可能性の高い農産物の認知度向上と生産・販路拡大のため、エコ農産物、GAP農産物、有機農産物のエシカル農産物の認証拡大とエシカルな農業の取組みを推進します。＜農林＞	推進			→
○エシカル農産物の生産面積 ('17) 1,415ha→('22) 2,122ha	1,505ha	1,710ha	1,915ha	2,122ha
○エシカル農業を実践するための新制度の創設 ('19) 創設				
● 農業生産活動に由来する環境への負荷の低減を図り、環境に配慮したブランドを育成するため、有機農業や特別栽培に取り組む生産者を育成・支援します。＜農林＞	推進			→
○有機・特別栽培面積 ('17) 176ha→('22) 200ha	185ha	190ha	195ha	200ha

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 本県の特産品である、「藍」の振興を図るため、タデ藍の栽培における収穫・出荷調整作業の省力化、農福連携による生産体制の確立等、課題解決に向けた取組みを実践し、栽培面積の拡大に努めます。〈農林〉	推進			→
○タデ藍の栽培面積 (’17) 16ha→(’22) 25ha	17ha	25ha	25ha	25ha
● ブランド産地化を促進するため、ほ場の整備や基幹水利施設、農道などの農業基盤施設の整備を推進します。〈農林〉	推進			→
○国営事業による 基幹用水路の整備延長（累計） (’17) 73km→(’22) 82km	79km	81km	82km	82km
○ほ場の整備面積（累計） (’17) 6,862ha→(’22) 7,110ha	6,930ha	6,990ha	7,050ha	7,110ha
● 水産資源の増殖を図るため、「施工時期」、「工法」等の事前準備を行い、計画的に藻場の造成を推進します。〈農林〉	推進			→
○藻場造成箇所数（累計） (’17) 21箇所→(’22) 30箇所	26箇所	28箇所	29箇所	30箇所
4 農林水産物の海外展開の加速				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>○農林水産物等輸出金額 22億円</div> </div>				
● 世界にはばたく「とくしまブランド」の確立を目指し、「重点市場における取引量の拡大」、「新たな市場の開拓」、「輸出型園地の育成」、「物流上の技術的課題の解決」、「輸出に取り組む人材の育成」に取り組むことにより、県産農林水産物の輸出拡大を図ります。〈農林〉	推進			→
○農林水産物等輸出金額 (’17) 11.3億円→(’22) 22億円	14億円	16億円	19億円	22億円
○「とくしまブランド海外協力店」数（累計） (’17) 12店舗→(’22) 19店舗	16店舗	17店舗	18店舗	19店舗
○ハラル認証商品・サービス数（累計） (’17) 147商品・サービス →(’22) 195商品・サービス	165商品・サービス	175商品・サービス	185商品・サービス	195商品・サービス
○「とくしまブランド」輸出に取り組む事業者数（累計） (’17) →(’22) 70事業者	55事業者	60事業者	65事業者	70事業者
● 経済のグローバル化に柔軟かつ適切に対応し、本県畜産業の持続的発展を図るため、国内外から評価される安全安心な本県畜産物の輸出促進に向け、農場HACCP、JGAP家畜・畜産物等の認証取得を推進します。（再掲）〈農林〉	推進			→
○農場HACCP等認証取得件数（累計） (’17) 6件→(’22) 12件	9件	10件	11件	12件
● 成長著しい東アジアなどへの原木や付加価値の高い製品輸出を拡大するため、構造材だけでなく内装材や建具、集合住宅など輸出相手国の住環境に応じた県産木造住宅と大工等の技術者をセットで輸出することにより、県産材の輸出を促進します。〈農林〉	推進			→
○県産材の海外輸出額 (’17) 100百万円→(’22) 170百万円	120百万円	135百万円	150百万円	170百万円

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 丹生谷地域において、「G1・木頭ゆず」を原料とした新たな視点での商品開発や販路を開拓するため、6次産業化を推進します。＜南部＞	推進			
○新商品開発数（累計） ('17) →('22) 10商品	4商品	6商品	8商品	10商品
5 「林業プロジェクト」の展開				
<div style="background-color: #e1eef6; padding: 5px;"> 主要指標 ○県産材の生産量 56.3万m³ </div>				
● 人材の育成・確保を図るため、幅広い年代や技術力に合わせた人材育成戦略を展開するとともに、「林業経営体」の育成を推進し、県産材の生産量を拡大します。＜農林＞	推進			
○県産材の生産量（再掲） ('17) 37.5万m ³ →('22) 56.3万m ³	45.0万m ³	48.0万m ³	51.0万m ³	56.3万m ³
○経営委託が可能な「林業経営体」登録数（累計） ('17) →('22) 25経営体	5 経営体	10 経営体	15 経営体	25 経営体
● 主伐が主となる素材生産現場における重大な労働災害の発生を防止するため、VR等を活用した労災疑似体験やGPSシステムの構築により重大災害の発生を抑えます。＜農林＞	推進			
○VRを活用した労働安全研修の実施 ('20) 実施				
○林業位置情報システムの構築 ('22) 構築				
● 効率的かつ安全な主伐を実施するため、団地化や本県の急峻な地形に適した「主伐生産システム」の導入など生産基盤の整備を図ります。＜農林＞	推進			
○本県地形に適した「主伐生産システム」の導入数（累計） ('17) 3セット→('22) 7セット	4セット	5セット	6セット	7セット
○林内路網開設延長（累計） ('17) 7,567km→('22) 8,310km	7780km	7950km	8130km	8310km
● 県西部圏域（にし阿波）において木材生産及び造林面積を拡大し持続的な循環型林業を確立するため、「にし阿波循環型林業支援機構」と連携し、伐採後の造林を推進します。＜西部＞	推進			
○「にし阿波循環型林業支援機構」の支援による造林面積 ('17) 年間54ha*→('19) ~('22) 年間60ha以上 *過去3年平均	60ha	60ha	60ha	60ha
● 県内木材需要の拡大を図るため、「徳島県県産材利用促進条例」に基づき、県産材の利用拡大や新用途の開発、さらには幅広い世代の方々に木材利用の意義、木材に関する知識などを知ってもらう「木育」を推進し、県民総ぐるみの木づかい運動を展開します。＜農林＞	推進			
○木育拠点施設の開設 ('21) 開設				
○県内の県産木材消費量 ('17) 13.8万m ³ →('22) 18.3万m ³	15.6 万m ³	16.5 万m ³	17.4 万m ³	18.3 万m ³

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 木製ガードレール等の整備・修繕を進め、県産木材の利用促進を図ります。＜県土＞	推進			
● 県外の工務店・設計士、また大消費地の自治体・企業との連携を進め、大消費地への販路拡大に向け、展示商談会の開催やオンラインメディア等を利用した販売促進活動を展開し、県外出荷量を拡大します。＜農林＞	展開			
○県産材の県外出荷量 ('17) 25.4万m ³ →('22) 30.6万m ³	26.9万m ³	27.8万m ³	29.7万m ³	30.6万m ³
● 県産材を活用した木造住宅を普及するため、消費者への情報提供に取り組むとともに、供給側と需要側が参加する協議会等の活動を通じて相互の情報共有及び人材の育成を推進します。＜県土＞	推進			
6 県内企業の海外展開支援				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>○徳島県の輸出額(徳島県貿易・国際事業実態調査、中小企業分) (暦年) 249億円</div> </div>				
● 県内企業の海外展開・販路拡大を促進するため、新たにワンストップ相談窓口を設置するとともに、国際ビジネスの即戦力となる人材育成、商談会開催や海外見本市への支援等を通じたビジネスチャンスの創出により、県内企業のグローバル展開を支援します。＜商工＞	実施			
○徳島県の輸出額 (徳島県貿易・国際事業実態調査、中小企業分) (暦年) ('16) 175億円→('22) 249億円	212億円	224億円	236億円	249億円
○徳島県の輸出企業数 (徳島県貿易・国際事業実態調査、中小企業分) (暦年) ('16) 116社→('22) 145社	133社	137社	141社	145社
○EPA加盟国を対象にした商談会 ('19)～('22) 開催				
○海外食品フェア・機械金属見本市 ('19)～('22) 開催				
○「海外展開支援プラットフォーム(仮称)」の構築 ('19) 構築				
● 国内外における県産品の認知度向上や販路拡大を図るため、「市場調査」、「商品開発」、「情報発信」、「販路拡大・販売促進」等を柱とした「とくしま県産品振興戦略(第3期)」に基づき、新たな視点での商品開発や各種フェアの開催、見本市への出展など戦略的に施策を推進し、県産品の売り上げ向上に取り組めます。＜商工＞	推進			
○県がサポートする県外・海外商談会及びフェア における成約・売上額 ('17) 3.9億円→('22) 6.4億円	4.8億円	5.3億円	5.8億円	6.4億円
● 自由貿易圏の拡大を好機と捉え、県内企業の海外販路開拓・海外展開を支援するため、東アジア・東南アジアを重点エリアと定め、上海事務所を前線基地として活用し、商談機会の拡大や海外企業と本県企業との交流を推進します。＜商工＞	推進			
○商談会・フェア等延べ参加企業数 ('17) 101社 →('22) 150社	135社	140社	145社	150社

主要事業実施工程表（3-3 世界へ雄飛！進化する徳島ブランドの展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 大都市圏等でのフォーラムや外国語版ホームページに加え、補助金制度などの情報発信などを積極的に行うとともに、関係機関と緊密に連携し、独自の優れた技術を持つ県内企業とのコラボレーションによる製品開発などのシナジー効果が期待される外資系企業による県内への投資促進に取り組みます。〈商工〉</p>	促進			→
<p>○外資系企業の立地数（累計） ('17) →('22) 1件</p>				1件

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

【重点戦略4】

世界スタンダード！徳島未来教育の創造

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 グローバル人材の育成				
主要指標 ○高校生の留学（疑似留学体験、海外語学研修を含む）者数（7日以上） 240人				
●国際性豊かな児童生徒を育てるため、日本人としてのアイデンティティの確立や英語教育の充実を図るとともに、外国人との交流や体験活動の機会の提供及び海外留学の支援により、異文化理解やコミュニケーション能力の育成などを推進します。＜教育＞	推進			
○小学生の英語体験活動の年間参加者数（累計） ('17) 371人→('22) 995人	590人	725人	860人	995人
○小学校3、4年生対象「親子で学ぼうくわくイングリッシュデイ」の創設 ('19) 創設				
○中学生の留学、英語体験宿泊活動の年間参加者数（累計） ('17) 136人→('22) 480人	270人	340人	410人	480人
○高校生の留学（疑似留学体験、海外語学研修を含む）者数（7日以上） ('17) 174人→('22) 240人	180人	200人	220人	240人
●社会の諸課題に挑戦する高い志を持ち、社会の作り手として各分野を牽引する人材を育成するために、教科や学問分野について探究する合宿、社会や学校における課題解決を図る会議等を行い、学校の枠を超えて切磋琢磨することを通し、「ネクスト・リーダー」の育成を図ります。＜教育＞	推進			
○主要大学（スーパーグローバル大学）進学者数 ('17) 290人→('19)～('22) 毎年340人	340人	340人	340人	340人
○東京大学、京都大学進学者数 ('17) 28人→('19)～('22) 毎年44人	44人	44人	44人	44人
●学校へ日本語講師を派遣したり、研修会を開催したりすることにより、帰国・外国人児童生徒に対する教育を推進します。＜教育＞	推進			
○日本語講師派遣申請者に対する派遣充足率 ('17) 100%→('22) 100%	100%	100%	100%	100%
●併設型中高一貫教育校である城ノ内中学・高校を、本県初の中等教育学校へ移行し、学力分野のリーディングハイスクール効果を最大限に発揮する教育を推進します。＜教育＞	推進			
○本県初の中等教育学校の開校 ('20) 開校				
●徳島商業高校と「カンボジアー日本友好学園」との交流を継続・深化させ、フェアトレード商品の共同開発の拡充に取り組み、高校生による「国際貢献モデル」を確立します。＜教育＞	推進			

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 徳島ならではの教育の振興				
<p>主要指標 ○高校におけるインターンシップの実施率（全日制・定時制） 100%</p>				
<p>● 2019年度に策定する新たな教育大綱のもと、知事と教育委員で構成する「総合教育会議」において、本県教育の目指すべき方向性や教育課題について議論を重ね、「徳島ならではの」の創意工夫を凝らした教育を実践します。また、一貫した学習環境の下で学ぶ機会を選択できる中高一貫教育のさらなる充実とともに、人口減少社会に対応した新しい教育として、小規模化する学校を教育資源や地域の社会教育施設等を相互に活用することにより、多様な学びを保障する「新しい小中一貫教育（徳島モデル）」として県内に普及を図るなど、地域の特性を活かした新たな教育モデルの実践に取り組みます。＜政策・教育＞</p>	推進			
○新たな教育大綱の策定・推進（'19）策定				
○学校分散型「チェーンスクール」実施地域数（累計）（'17）6地域→（'22）9地域	7地域	8地域	8地域	9地域
○学校一体型「パッケージスクール」実施地域数（累計）（'17）2地域→（'22）4地域	3地域	3地域	4地域	4地域
<p>● 子供の学びの連続性を踏まえ、教育の質の向上を図るため、小・中学校間における教員の安定した人事交流を推進します。また、グローバル人材の育成に向け、新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るため、小学校英語専科教員の配置を推進するとともに、小・中・高・特別支援学校の教員を対象に、英語教育充実のための研修を推進します。特に、小学校の教科化を踏まえ、小学校教員の受講者数を拡大します。＜教育＞</p>	推進			
○小・中学校間における教員の安定した人事交流の推進（'17）18人→（'22）18人	18人	18人	18人	18人
○小学校英語専科教員の配置（'17）10人→（'22）16人	14人	16人	16人	16人
○英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数（累計）（'17）436人→（'22）1,580人	830人	1080人	1330人	1580人
<p>● 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、インターンシップや資格取得を促進するなど、県下全域におけるキャリア教育を推進します。＜教育＞</p>	推進			
○高校におけるインターンシップの実施率（全日制・定時制）（'17）97.6%→（'19）～（'22）100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
<p>● 小・中・高等学校のそれぞれの段階において、政治や選挙に関する理解と参加意識を高めるとともに、模擬選挙などの体験的学習を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実を図ります。同時に、保護者をはじめとする子育て世代に対する広報も実施します。＜政策・教育＞</p>	推進			

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 自らの消費行動が人や社会・環境に与える影響について理解し、持続可能な社会の実現に向けて、他者と協働して行動することができる力を育成するため、「徳島ならではの社会を創る消費者教育を推進します。（再掲）＜教育＞	推進			
○公立高校における「エシカルクラブ」設置率 ('17) 33%→('19) ~('22) 100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
● テレビ会議システム等のICTを活用した、公立学校での遠隔指導・授業や交流学習、研修、会議等を推進します。＜教育＞	推進			
○高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数 ('17) 15回→('22) 28回	22回	24回	26回	28回
● タブレット端末等を取り入れた指導ができるよう、教職員のICT活用指導力の向上を目指します。＜教育＞	推進			
○ICTを活用した授業実践の研修受講者数 ('17) 400人→('22) 440人	410人	420人	430人	440人
● ビッグデータを活用したe-learning等のICTによる個に応じた学習を推進するとともに、プログラミング的思考等の情報活用能力を育成する学習活動の充実を図ります。（再掲）＜教育＞	推進			
○ビッグデータ実証事業における活用者数 ('17) 140人→('22) 600人	400人	460人	530人	600人
● 児童生徒の様々な悩みを受け止めることができる環境づくりのため、スクールカウンセラーの配置拡充や、スクールソーシャルワーカーの増員等を図ります。また、いじめ問題を自分のこととして考え、問題解決に向け主体的に取り組み、いじめのない学校づくりに向けた態度と実践力を育成するため、「いじめ防止子ども委員会」を設置します。＜教育＞	推進			
○スクールカウンセラーの配置校数（拠点校） ('17) 78校→('22) 83校	80校	81校	82校	83校
○スクールソーシャルワーカー配置数（再掲） ('17) 22人→('22) 24人	23人	23人	24人	24人
○いじめ防止子ども委員会 ('17) →('20) 全校設置				
● 農工商教育の活性化を図るため、第2期「徳島県農工商教育活性化方針」を策定し、高校における農工商教育の活性化に取り組むとともに、農工商が連携し、徳島ならではの地域資源を十分に生かした6次産業化教育を推進します。＜教育＞	推進			
○6次産業化商品のプロデュース数（累計） ('17) 7件→('22) 22件	13件	16件	19件	22件
● 産業技術の進展や企業が求める人材の育成を図るため、産業界や大学と連携し、専門教育の充実に取り組むとともに、高校生の活動を広く県民にアピールします。＜教育＞	推進			
○高校生産業教育展における来場者数 ('17) 1,850人→('22) 2,100人	1,950人	2,000人	2,050人	2,100人

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）				
	2019	2020	2021	2022	
3 充実した学びの推進 主要指標 ○「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率 国語・算数（数学）で全国平均正答率以上					
● すべての学校・園に学力向上検討委員会を設置し、学力向上推進員を中心に児童生徒の学力向上を図るとともに、各学校の取組みを情報発信します。＜教育＞	全国平均正答率以上				→
○「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率 （'19）～（'22）調査で対象となっている国語・算数（数学）で全国平均正答率以上					
● 子どもの読書活動推進計画に基づき、子どもの主体的な読書活動を促すために、書評合戦（ビブリアバトル）を校種別に実施し、読書の喜びを体感させるとともに、学校図書館と家庭・地域及び各市町立図書館との連携、地域の図書館ボランティアの活用など読書環境の整備強化を図ります。＜教育＞	推進				→
○一日10分以上読書（新聞等を含む）をする児童生徒の割合 小5（'17）89%→（'22）94% 中2（'17）79%→（'22）89%	91% 86%	92% 87%	93% 88%	94% 89%	
● 子どもの学習意欲や確かな学力の向上につなげるとともに、中学生の主体的な進路選択に資するよう、公立高校普通科の通学区域制の在り方を見直します。＜教育＞	推進				→
○普通科高校の通学区域制の在り方の見直し （'19）見直し・（'20）一部先行実施・（'21）実施					
● 県立夜間中学を設置することにより、学び直しを必要とする者や外国籍の者など学校における就学の機会の提供を希望する者に対し義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保を図ります。（再掲）＜教育＞	推進				→
○全国初の県立夜間中学の開校 （'21）開校					
● 「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」により、幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図ります。また、幼稚園・保育所・認定こども園・家庭・地域・行政等が連携し、幼保合同の教員研修や行事の実施など総合的な幼児教育の展開を図ります。＜教育＞	促進				→

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
4 豊かな心と健やかな体の育成				
主要指標				
○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果において 全国平均を上回る種目数 毎年17種目				
● 児童生徒の実態把握をもとに、学校・家庭・地域が連携した取組みを実施し、児童生徒の体力向上を図ります。また、「元気なあわっ子憲章」のもと、子どもたちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携して取り組みます。特に、子どもたちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高校で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組むことにより、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。さらに、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組みとともに、飲酒・喫煙・薬物乱用に対する正しい知識理解を深め、望ましい行動選択ができる子どもの育成を目指します。 <教育>	推進			>
○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果において全国平均を上回る種目数 ('17) 11種目→('19) ~('22) 毎年17種目	17種目	17種目	17種目	17種目
○全ての公立学校児童生徒の学校保健情報を電子化 ('17) →('22) 運用				
○肥満傾向の児童生徒数（小中学校）（再掲） ('17) 4,979人→('22) 2017年度比6%減	1.5%減	3%減	4.5%減	6%減
○小中学校への栄養教諭の配置人数（再掲） ('17) 57人→('22) 64人	61人	62人	63人	64人
○栄養教諭・学校栄養職員による食に関する授業を半分以上の学年で実施する小・中学校の割合 ('17) 100%→('19) ~('22) 100%	100%	100%	100%	100%
○薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合 ('17) 100%→('19) ~('22) 100%	100%	100%	100%	100%
● 児童生徒が目標を持って運動に取り組むことができるよう、楽しみながら児童生徒の運動習慣の確立を図ります。 <教育>	推進			>
○小・中学生のICTを活用した手軽にできる運動のランキング判定システムの参加グループ数 ('17) 3,535グループ→('22) 4,000グループ	3,700グループ	3,800グループ	3,900グループ	4,000グループ
● 牟岐少年自然の家を活用し、地域住民の参画を得て、地域の自然や文化活動を活かした自然体験、交流体験、食育等を推進します。<教育>	推進			>
○牟岐少年自然の家を拠点とし、地元住民との交流を含む自然体験・交流体験等への参加者数 ('17) 800人→('19) ~('22) 年間900人	900人	900人	900人	900人
● 道徳教育の充実引き続き取り組むとともに、家族と一緒に話し合うなど家庭や地域と連携して道徳教育を推進します。<教育>	推進			>

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
5 地域に開かれた学校づくり 主要指標 ○「スーパーオンリーワンハイスクール事業」実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数 年間3事例				
●「地域の教育・文化の創造拠点」として、全国そして世界を目指す学校独自に企画した徳島ならではの取組みや研究活動を展開することにより、特色ある教育活動のレベルアップとグローバル人材の育成を図ります。＜教育＞	推進			➤
○「スーパーオンリーワンハイスクール事業」実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数 ('17) 3事例→('19)～('22) 年間3事例	3事例	3事例	3事例	3事例
●公立学校に「コミュニティ・スクール」を導入するために、県内外の好事例を発信し、地域に開かれた学校づくりを進めます。＜教育＞	推進			➤
○「コミュニティ・スクール」を導入した学校数（累計） ('17) 16校→('22) 20校	18校	18校	20校	20校
●子どもたちが、放課後や土曜日、休日等における多様な学習や体験活動及び地域住民との交流活動等を行う豊かな環境づくりを推進します。＜教育＞	推進			➤
○放課後や週末等における教育・体験活動の実施率 ('17) 75%→('22) 100%	90%	95%	100%	100%
●地域の小・中学校区で、読み聞かせや昔遊びなどの教育支援活動、登下校の見守り、学校施設の環境整備などを行う団体を、「学校サポーターズクラブ」として認証し、学校支援の体制づくりを推進します。＜教育＞	推進			➤
○学校サポーターズクラブの登録数 ('17) 89団体→('22) 113団体	98団体	103団体	108団体	113団体
●地域住民の積極的な参加による防犯・交通安全・防災の総合的な学校安全ボランティア活動の支援を行い、幼児・児童生徒の安全確保を図る取組みを継続的に推進します。＜教育＞	推進			➤
○学校安全ボランティア（スクールガード）数 ('17) 14,473人→('22) 12,000人以上	12,000人	12,000人	12,000人	12,000人
○小学校の通学路における危険箇所の点検の実施率 ('17) 100%→('19)～('22) 100%	100%	100%	100%	100%
●通学路等における児童・生徒の安全対策を推進するため、「子ども110番の家及び車」の支援、「自主防犯活動用自動車（青色回転灯装着車）」を活用したパトロール実施団体などのボランティアと連携し、子ども見守り活動を強化します。＜警察＞	推進			➤

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
6 特別支援教育の推進 主要指標 ○県立特別支援学校高等部卒業生のうち、就職を希望する生徒の就職率 100%				
● 障がいのある子供とない子供が、共に学ぶインクルーシブ教育システムにおける多様な学びの場の充実を図るため、ポジティブな行動支援に取り組むことにより、県下全域におけるきめ細かな特別支援教育の充実を図ります。<教育>	推進			>
○「ポジティブな行動支援」に取り組んだ園・学校の割合 ('17) →('22) 100%	40%	60%	80%	100%
● 教員が幼児・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援ができるようにするため、研修内容の充実を図ることにより、専門性の向上に取り組みます。<教育>	推進			>
○特別支援教育に関するe-ラーニング研修システムへの年間延べアクセス数 ('17) 6,271件→('22) 6,800件	6,200件	6,400件	6,600件	6,800件
● 特別支援学校生徒の働きたい想いを実現するため、生徒の職業技能や就労意欲の向上・企業の障がい者雇用への理解を推進することにより、さらなる就労支援の充実に取り組みます。<教育>	推進			>
○県立特別支援学校高等部卒業生のうち、就職を希望する生徒の就職率 ('17) 100%→('22) 100%	100%	100%	100%	100%
● 高等学校において、将来の社会的自立に向けた新たな学習内容を取り入れた教育（自立活動）を推進します。<教育>	推進			>
● 小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の充実を図るため、早期からの社会体験学習の導入や、身に付けた職業技能を生かした地域振興・地域貢献に関する活動に取り組みます。<教育>	推進			>
○地域振興等の活動に取り組んだ特別支援学校数 ('17) 5校→('22) 11校	8校	9校	10校	11校
● 特別支援学校（肢体不自由）の生徒の社会的・職業的自立を図るため、テレワークによる就労体験を導入し、新たな就労モデルの構築を推進します。（再掲）<教育>	推進			>
○テレワーク就労体験に取り組む県立特別支援学校（肢体不自由）数 ('17) →('19) 3校	3校	3校	3校	3校
7 未来を創る若者の育成 主要指標 ○若者の対話の場への参加者数（累計） 1,000人				
● 高等教育の充実・発展や地域の活性化を図るため、「とくしま産学官連携プラットフォーム」を核として、地域で必要とされる人材の育成や、県内の課題解決につながる実践的な取組みを推進します。（再掲）<政策>	推進			>
○プラットフォームを核として実施する事業数 ('17) →('19) ~('22) 年間8件	8件	8件	8件	8件

主要事業実施工程表（3-4 世界スタンダード！徳島未来教育の創造）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 高校生等を対象に、地域の有識者を交えた対話集会を開催することにより、県政の最新情報を発信するとともに、「徳島の現在・未来」について考える機会を創出し、若者意見の県政への反映に取り組みます。＜政策＞	推進			>
● 地方創生の若手リーダーを育成するため、若者が様々な立場の人と未来志向で対話する場を提供します。＜県民＞	推進			>
○若者の対話の場への参加者数（累計） ('17) 480人→('22) 1,000人	600人	700人	800人	1,000人
● 若者の政策・方針決定過程への参画を促進するため、県審議会等委員への登用を進めます。＜県民＞	推進			>
○「県審議会等委員に占める若者（40歳未満）」の割合 ('17) 11.2%→('22) 15%	12%	13%	14%	15%
● 青少年が様々な活動に主体的に参加する機会や、活動を支援する人々との交流の場を提供し、青少年リーダーや指導者を育成します。＜県民＞	推進			
● 青少年の健全育成につながる様々な青少年活動の拠点として「徳島県青少年センター」の機能を発揮させるため、青少年のニーズやライフスタイルの多様化に対応した魅力的な管理運営を行い、更なる利用を促進します。＜県民＞	推進			>
○徳島県青少年センター利用者数 ('17) 206,729人→('19) ~('22) 年間23万人	23万人	23万人	23万人	23万人

ターゲット3 「発展とくしま・革新創造」の実装

【重点戦略5】

ポスト東京オリパラ！経済好循環へ

主要事業実施工程表（3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 地域経済を牽引する企業の成長促進				
<p>主要指標 ○とくしま経済飛躍ファンドにより支援した製品の売上額（累計） 年間9,100百万円</p>				
<p>● 中小企業の販路開拓を支援するため、企業への積極的な情報提供を行い、県内のみならず、関西広域やアジアをはじめとする海外市場での展示商談会での取引支援を通じて、ビジネスマッチングを図るとともに、下請取引の適正化にも取り組みます。＜商工＞</p>	支援			
<p>○取引成立額 ('17) 202百万円→('19)～('22) 年間220百万円</p>	220 百万円	220 百万円	220 百万円	220 百万円
<p>● LEDや藍をはじめ地域資源を活用した新製品開発などの先進的な取組みを支援するため、「とくしま経済飛躍ファンド」を活用することにより、地域経済の活性化を促進します。＜商工＞</p>	推進			
<p>○とくしま経済飛躍ファンドにより支援した製品の売上額（累計） ('17) 6,717百万円→('22) 9,100百万円</p>	8,500 百万円	8,700 百万円	8,900 百万円	9,100 百万円
<p>● 県内中小企業者の資金繰りの円滑化を推進するため、民間金融機関等との適切な連携のもとで、低金利・低保証料の融資制度の充実・強化を図ります。＜商工＞</p>	充実・強化			
<p>○低利・低保証料の融資制度の充実・強化</p>				
<p>● 県内企業の技術・経営資源を次世代に引き継ぐため、県内の各支援機関等からなる事業承継ネットワークを効果的に活用し、事業承継への意識啓発や支援を行います。＜商工＞</p>	推進			
<p>○事業引継ぎ支援センター成約件数（累計） ('17) 32件→('22) 64件</p>	44件	50件	57件	64件
<p>● 商工団体等「中小企業支援機関」の相互連携の促進及び機能強化を図ることにより、中小企業・小規模企業の経営課題に対する支援の充実や、創業促進・観光振興等の取組みを通じた地域経済の活性化を図ります。＜商工＞</p>	推進			
<p>● 藍製品をはじめとする伝統工芸品について、県内イベント等における体験コーナーやスポーツとコラボレーションした展示の設置など、利用促進に向けて情報発信を強化するとともに、三大都市圏をはじめとする県外及び海外での工芸品展や見本市等への出展を積極的に支援することにより、伝統工芸品の販路拡大と産業の振興を図ります。＜商工＞</p>	推進			
<p>○伝統的工芸品の国内外の工芸品展及び見本市出展件数 ('17) 20件→('22) 25件</p>	22件	23件	24件	25件
<p>○藍産業協同組合（仮称）の設立 ('19) 設立</p>				

主要事業実施工程表（3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 知的創造サイクル（知的財産の創造→保護→活用）を循環させ、本県産業の競争力を高めるため、特許等の取得・活用を推進します。＜商工＞	推進			>
○大手企業とのマッチング支援件数 ('17) 14件→('22) 19件	16件	17件	18件	19件
● 適正な下請契約締結や代金支払の指導及び下請債権保全支援事業などにより下請対策を推進します。＜県土＞	推進			>
● Society5.0を支える社会インフラとなる「マイナンバーカード」の利便性を広く県民に周知するとともに、「自治体ポイント」を県下全域に広め、利用可能店舗やサービスの拡充を図ります。（再掲）＜政策＞	推進			>
○マイナンバーカード交付率（累計） ('17) 8.8%→('22) 50%	20%	40%	45%	50%
● 県内企業の受注機会の確保等を図るため、県内のみでは公平性を確保できないものを除き、原則、県内企業への優先発注を推進します。＜商工＞	推進			>
○県内企業への優先発注率（金額ベース） ('17) 92.1%→('22) 93%以上	91%	92%	93%	93%
○県内企業への優先発注率（件数ベース） ('17) 93.5%→('22) 93%以上	91%	92%	93%	93%
● 公共事業における県内企業の受注機会の確保等を図るため、県内企業への優先発注、県内産資材の原則使用などの取組みを推進します。＜県土＞	推進			>

主要事業実施工程表（3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 成長分野等における企業誘致の推進				
主要指標	○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数（累計） 110社			
● 地方創生の動きを更に加速させるため、全国屈指の光ファイバ環境や立地優遇制度を活かし、大都市圏等から、成長分野関連企業、情報通信関連産業、サテライトオフィス等の誘致や本社機能移転を推進し、本県経済の活性化及び雇用機会の確保を図ります。（再掲） ＜政策・商工・南部・西部＞	推進			
○本県への本社機能誘致（累計） ('17) 4社→('22) 12社	8社	9社	10社	12社
○成長分野関連企業等の奨励指定における立地数（累計） ('17) 69社→('22) 110社	92社	98社	104社	110社
● 経済状況や企業ニーズ等に対応できるよう、柔軟に補助制度を見直すこととし、「オーダーメイド型企業立地優遇制度」の効果的な活用を図ります。＜商工＞	推進			
○新たな立地支援制度の創設 ('19) 創設				
● 健康・医療関連産業の創出を図るため、これまでの産学官による研究開発成果を活用した製品・サービスの普及を促進するとともに、新たな研究開発・事業化の取組みを促進します。＜商工＞	推進			
○研究開発成果を活用した製品・サービスの売上高（累計） ('17) →('22) 26億円	5億	11億	18億	26億
○産学官による健康医療関連分野での新たな共同研究数 ('17) →('22) 9件	2件	3件	5件	9件
● 長安ロダム改造により安定した水の供給を図るなど、徳島の成長を支える社会資本整備を推進します。＜県土＞	推進			
○長安ロダムの本体改造の促進（再掲） ('17) 工事施工中→('19) 完成				
○長安ロダムの長期的堆砂対策の促進（再掲） ('17) 事業着手→('22) 工事促進中				
● 徳島小松島港津田地区において、「活性化計画」に基づき「とくしま回帰先進地」としての再生に向けた取組みを推進します。＜県土＞	推進			
○企業用地の売却率 ('17) →('22) 100%（全面積）		50%	90%	100%

主要事業実施工程表（3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
3 就労支援と職業能力開発の充実				
主要指標 <p>○テクノスクール訓練生の技能照査合格率 81.0%</p>				
<p>● 産業界との連携等により、テクノスクールの訓練内容の充実強化による実践的な産業人材の育成や、子どもの頃から「ものづくり産業」に対する職業観の醸成を図るとともに、ドイツ手工業会議所との職業訓練交流及び徳島版マイスター制度を推進します。＜商工＞</p>	推進			
○テクノスクール訓練生の技能照査合格率 ('17) 77.7%→('22) 81.0%	78%	79%	80%	81%
○離職者等に対する職業訓練の設定コース数 ('17) 39コース→('22) 47コース	41 コース	43 コース	45 コース	47 コース
○技能検定受検者数 ('17) 1,264人→('22) 1,440人	1,330人	1,360人	1,400人	1,440人
○技能五輪全国大会、技能グランプリ等への出場者数 ('17) 4人→('19) ~('22) 年間10人	10人	10人	10人	10人
○ドイツとの職業訓練交流における企業での実習日数 ('17) →('19) ~('22) 年間3日	3日	3日	3日	3日
<p>● 徳島県内における労働力不足の解消のため、「とくしまジョブステーション」や「すだちくんハローワーク」において、関係機関と連携し、若年者、中高年齢者、UIJターン希望者等を対象に職業紹介や職業相談などを行います。 また、プロフェッショナル人材戦略拠点において、地域金融機関や民間人材サービス事業者等との連携を図り、企業のニーズに応じた優秀な人材の確保に努めます。＜商工＞</p>	実施			
○「とくしまジョブステーション」及び「すだちくんハローワーク」の支援による就職率 ('17) →('19) ~('22) 45%	45%	45%	45%	45%
○プロフェッショナル人材戦略拠点における成約件数 ('17) 28件→('19) ~('22) 年間30件	30件	30件	30件	30件
<p>● 出産・育児等により離職せざるを得なかった女性の再就職準備や就労を支援するため、就職に関する情報の提供やスキルアップに向けた講座等を実施するとともに、管理職や起業を目指す女性などを対象に、キャリアアップに向けたセミナーや県内大学と連携した「ウーマンビジネススクール」を開催します。（再掲）＜商工＞</p>	推進			
○女性の再就職や就労を支援する講座等における就業率 ('17) 32%→('22) 60%以上	45%	50%	55%	60%
○「ウーマンビジネススクール」の参加者数（累計） ('17) 20人→('22) 70人	40人	50人	60人	70人

主要事業実施工程表（3-5 ポスト東京オリパラ！経済好循環へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 多様な外国人材が集う徳島の実現のため、県内在住や定住を希望する外国人に対する、就労支援、労働相談窓口の設置等、さめ細かな支援体制の整備を図ります。 また、大学等の高等教育機関、産業界、県が一体となって外国人留学生の受入れ拡大を図るとともに、留学生等を対象とした企業説明会・マッチングフェアを開催するなど、県内定着支援の強化を図ります。（再掲）＜政策・商工＞</p>	充実・実施			
○定住外国人の就労を支援する講座等における就業率（'17）24%*→（'22）40%以上 *過去3年平均	28%	32%	36%	40%
○すだちくんハローワーク「外国人労働相談窓口」の設置 （'20）設置				
○県内大学等への留学生受入数 （'17）399人→（'22）500人	425人	450人	475人	500人
<p>● 若年無業者（ニート）等の就業を促進するため、「地域若者サポートステーション」において、専門家による個別相談等を実施するとともに、国の事業と連携した進路決定者向けのフォローアップなどを行うほか、ひきこもり支援機関やハローワーク等の各関係機関と連携することにより、ネットワークを活用した支援を行います。＜商工＞</p>	実施			
○徳島県内の地域若者サポートステーションにおける新規登録者数に対する進路決定率 （'17）45.7%→（'22）60.0%	54.0%	56.0%	58.0%	60.0%
<p>● 就労意欲があるにもかかわらず就労できないひとり親家庭の親及び子に対して、技能や資格を習得するための講習会や自立支援プログラムの策定を実施し、就労を支援します。＜県民＞</p>	実施			
○「母子・父子自立支援プログラム」を活用した就職率（再掲） （'17）56%→（'19）～（'22）56%以上	56%	56%	56%	56%
<p>● 県内高校生等を対象に県南の基幹産業である漁業が体験できる講習会を開催することで、就業の機会を増やします。＜南部＞</p>	推進			
○漁業体験者数 （'17）年間20人→（'19）～（'22）年間30人	30人	30人	30人	30人
<p>● 若者の入社後の早期離職（雇用のミスマッチ）を解消するため、小学校入学時から仕事に対する興味を抱き、成長段階に応じて職業観を育成することを推進します。＜商工＞</p>	推進			
○小中高等学校の職業体験校数 （'17）5校→（'22）8校	5校	6校	7校	8校
○ものづくり体験イベントでの参加者数 （'17）940人→（'22）1,060人	980人	1,000人	1,030人	1,060人

ターゲット 4

未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装

世界に誇る「あわ文化」の深化を図り、世界に飛躍するアスリートの育成強化に取り組むとともに、県民誰もが身近に文化やスポーツに親しめる環境づくりを加速させ、文化やスポーツを通じた本県の魅力発信がひとを惹きつけ、賑わいと活力に満ちあふれた「躍動とくしま・感動宝島」の実装に向け、5つの重点戦略を展開します。

5つの重点戦略（主な「主要指標」）

主要指標	現状値('17値)	目標値('22値)
◆重点戦略1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承		
○徳島版「加チヲルオビ°アート(仮称)」の開催	—	('19)~('21)開催
○LEDデジタルアートとの融合によるナイトタイムイベントの開催	—	('20)開催
○「初」世界に誇る「世界の記憶」(記憶遺産)への申請・登録	—	('20)申請・('21)登録
◆重点戦略2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化		
○「東京2020オリンピック・パラリンピック」における事前キャンプの誘致数	—	('20)4件
○国民体育大会天皇杯順位	46位	毎年30位台
○公式オリンピック関連イベントへの県産食材提供品目数(累計)	—	('20)8品目
◆重点戦略3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承		
○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数(累計)	—	20件
◆重点戦略4 共生社会の実現！障がい者スポーツ・芸術文化の深化		
○「パラスポーツ人材バンク(仮称)」の創設	—	('20)創設
◆重点戦略5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開		
○文化の森総合公園文化施設入館者数(年間)	814,816人	81万人
○「未来型スポーツ環境創造プロジェクト」の推進	—	基本構想等策定

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

【重点戦略1】

世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 あわ文化による「文化と経済の好循環」				
<p>主要指標</p> <p>○徳島版「カルチュラルオリンピアード（仮称）」の開催 開催</p>				
<p>●「あわ文化」を大切に引き継ぎ育んできた基盤を活かし、県民一人一人が、本県の伝統・文化を学び、徳島に誇りをもって、新たな文化創造の担い手として積極的に活動する、「文化立県とくしま」を実現します。 また、本県が誇る「あわ文化」や文化財の魅力を、活力あるまちづくりに活かし、文化と経済の好循環を図ります。 <県民></p>	推進			
○「徳島県文化芸術推進基本計画」の策定（'19）策定				
<p>●「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」の「4大モチーフ」をはじめとする「あわ文化」の継承・発展に向けた取組みを進めるとともに、積極的に観光資源としても活用し、「あわ文化」の魅力を広く発信します。（再掲）<県民></p>	推進			
○徳島版「カルチュラルオリンピアード（仮称）」の開催（'19）～（'21）開催				
○「ジャパンプルー展示会（仮称）」の開催（'19）開催				
○阿波人形浄瑠璃「人形座」の海外派遣（'19）派遣				
○阿波人形浄瑠璃公演等入場者数（'17）36,343人→（'22）38,000人	36,500人	37,000人	37,500人	38,000人
<p>●観光消費額の増加による地域経済の活性化と、住民の愛着や誇りを醸成する豊かな地域社会の実現を図るため、「鳴門の渦潮」、「阿波の土柱」などの雄大な自然や、「阿波おどり」、「お遍路」をはじめとする歴史・文化など、魅力的な地域資源を観光地経営の視点に立って活用し、国内外からの観光誘客を推進します。また、本県を代表する伝統文化「阿波おどり」の海外公演や指導者派遣を行うことにより、徳島の認知度向上並びに「徳島ファン」の拡大を図り、本県の観光誘客に繋がります。<商工></p>	推進			
○観光消費額（暦年）（再掲）（'17）889億円→（'22）1,200億円	1,155億円	1,170億円	1,185億円	1,200億円
○各国大使館等と連携した「阿波おどり」の海外公演及び指導者派遣回数（累計）（再掲）（'17）4回→（'22）30回	15回	20回	25回	30回

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供するため、民間との連携を図るなど魅力ある企画展やイベントを開催します。＜教育＞	推進			→
○文化の森総合公園文化施設入館者数 ('17) 814,816人→('19) ~('22) 年間81万人	81万人	81万人	81万人	81万人
● 次代の担い手を育てるため、あわ文化や芸術作品に直接触れる機会を設けるとともに、野外かんさつ会や鑑賞教室、古文書講座等の多様な体験の機会を提供します。 ＜県民・教育＞	推進			→
○文化の森文化施設普及事業の開催回数 ('17) 328回→('19) ~('22) 年間330回以上	330回	330回	330回	330回
○文学書道館等拠点となる文化施設での講座開催回数 ('17) 125回→('19) ~('22) 年間130回以上	130回	130回	130回	130回
● 歴史的に本県に息づいてきた「邦楽・クラシック・ジャズ」の「あわ三大音楽」について、県民が主体となって音楽を演奏する機会の充実を図り、「県民主役」の取組みを推進するとともに、親子で気軽に音楽にふれあう機会を創出します。また、県民誰もが「あわ文化」に身近にふれあう機会を創出します。＜県民＞	推進			→
○「とくしま夏の音楽祭」への参加者数 ('17) →('19) ~('22) 年間2,200人以上	2,200人	2,200人	2,200人	2,200人
○「はぐくみコンサート」開催回数 ('17) 1回→('19) ~('22) 年間3回以上	3回	3回	3回	3回
○児童や生徒を対象とした人形浄瑠璃・邦楽の「体験型ワークショップ」の開催 ('20) ~('22) 開催				
2 「新たな文化」によるにぎわい創出				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>OLEDデジタルアートとの融合によるナイトタイムイベントの開催 開催</div> </div>				
● 国内外から注目を集める「マチ★アソビ」を核としたアニメイベントを開催することにより、徳島ならではの魅力を活かしたにぎわいの創出や新たな地域文化の創造と発信を図ります。（再掲）＜商工＞	開催			→
● 「アニメの聖地徳島」として、世界にアニメ文化を発信し、地域の活性化、観光誘客の促進を図るため、国内外のアニメファンが集う「マチ★アソビ」と、徳島の特色を活かした「LEDデジタルアート」との融合による「ナイトタイムイベント」の開催により、新次元の「驚きと感動体験」を実現します。（再掲）＜商工＞	開催			→
○OLEDデジタルアートとの融合によるナイトタイムイベントの開催 ('20) 開催				
● 世界的な盛り上がりを見せる「eスポーツ」を、徳島の新たな文化として積極的に活用し、地域活性化と共生社会の実現に向けた取組みを推進します。＜県民＞	推進			→
○国体「eスポーツ」への選手派遣 ('19) ~('22) 派遣				
○「eスポーツ」徳島県知事杯の創設 ('19) 創設				
○全国規模の競技会・交流会の開催 ('22) 開催				

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
3 あわ文化創生プロジェクトの推進 主要指標 ○学校への芸術家等派遣事業に参加した児童生徒数 年間1万人				
● 児童生徒が身近に芸術文化に触れる機会を充実させるとともに、児童生徒を対象に、芸術文化分野での創作活動の支援や伝統芸能分野での担い手育成を行い、地域に根ざした文化の発信活動を支援します。＜教育＞	推進			
○学校への芸術家等派遣事業に参加した児童生徒数 ('17) 10,620人*→('19)～('22) 年間10,000人 *過去3年平均	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人
● 次代を担う若者の文化芸術力を高めるため、中学生の「あわっ子文化大使」や、高校生となった「あわっ子文化大使サポーター」が活躍・交流する機会を提供し、「あわ文化教育」を推進します。＜教育＞	推進			
○あわっ子文化大使・サポーターの活動参加人数 ('17) 118人→('19)～('22) 年間130人	130人	130人	130人	130人
● 次代の「あわ文化」を担う人材を育むため、徳島県中学校文化連盟と連携して、学校や市町村の枠を越えて文化芸術に親しむ機会である中学校の文化の祭典「徳島県中学校総合文化祭」におけるワークショップや舞台発表を充実させ、中学生の文化芸術力を高めるとともに、全国に向けて発信します。＜教育＞	推進			
○「徳島県中学校総合文化祭」の来場者数 ('17) 2,138人*→('19)～('22) 年間2,500人以上 *過去3年平均	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人
○各分野で活躍する芸術家を招いての「中学生ワークショップ」の開催 ('19)～('22) 開催				
○「あわ文化野外フェスティバル（仮称）」の開催 ('19) 開催				
● 2018年に開催された近畿高等学校総合文化祭徳島大会を契機とする、県内高校生の文化芸術への気運の高まりをシカシーとして拡充・発展できるよう、地域の子どもたちを対象とした高校生による実技講習会を実施し、文化の継承・発展に取り組む次世代アーティストを育成します。＜教育＞	推進			
○名西高校「芸術サポーター制度」の創設 ('19) 創設				
4 「世界遺産」登録への挑戦 主要指標 ○ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への申請・登録 申請・登録				
● 第一次世界大戦当時、収容所での人道的配慮からドイツ人捕虜の自主的な活動が許され、ベートーヴェンの「第九」全楽章アジア初演の地となるなど、交流と文化の華が開いた「板東俘虜収容所」について、その記録物である「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への登録を目指した取組みを徳島県と鳴門市が連携して行うとともに、同資料の重要性を日本全国、さらには世界へ発信し、ふるさと徳島の魅力向上を推進します。＜県民＞	準備	申請	登録	
○ユネスコ「世界の記憶」（記憶遺産）への申請・登録 ('20) 申請・('21) 登録				

主要事業実施工程表（4-1 世界に誇る！「あわ文化」の創造と継承）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>●「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、国籍や宗教・宗派を超え誰もが巡礼できる「世界に誇る四国の財産」であり、この「かけがえのない文化資産」を人類共有の財産として将来の世代へ保存・継承していく世界遺産への登録を推進するため、四国他県や関係団体と連携し、札所寺院や遍路道を国の史跡として指定する「資産の保護措置」を進めるとともに、遍路道をはじめ、地域に根付く「四国遍路文化」の魅力を国内外へ発信する取組みを進めます。<県民></p>	推進			
○札所寺院及び遍路道の国史跡指定に向けた文化財調査箇所数（累計） ('17) 21箇所→('22) 40箇所	28箇所	32箇所	36箇所	40箇所
○クラウドファンディング（CF）の活用など 県民参加型の四国遍路文化の保存・活用事業の実施 ('17) →('19)～('22) 年間1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所
<p>●「世界三大潮流」の一つに数えられ、渦の大きさは世界最大規模と言われる「鳴門の渦潮」の魅力を全国、そして世界へ向けて発信するとともに、人類共有の財産として保存・継承していくために、徳島県、兵庫県及び関係市・団体が連携して、世界遺産登録を目指した取組みを推進します。<県民></p>	作成	提出	推進	
○「世界遺産暫定一覧表」記載資産候補提案書の作成・提出 ('19) 作成・('20) 提出				

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

【重点戦略2】

世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化

主要事業実施工程表（4-2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 スポーツ振興によるにぎわいづくり				
<p>主要指標</p> <p>○「東京2020オリンピック・パラリンピック」における 事前キャンプの誘致数 4件</p>				
<p>● 3大国際スポーツ大会のキャンプ地誘致や、県内での競技大会開催を積極的に推進し、生涯スポーツの機運醸成や県内選手の競技力向上はもとより、地域経済の活性化や国際交流の促進を図ります。〈県民〉</p>	推進			→
○「ラグビーワールドカップ2019」における事前チームキャンプ実施（'19）実施				
○「東京2020オリンピック・パラリンピック」における事前キャンプの誘致数（'17）→（'20）4件		4件		
○「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」における県内での競技大会開催（'21）開催				
<p>● 3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるように、国内外からのスポーツ大会誘致や国際スポーツ交流を実施します。（再掲）〈県民〉</p>	推進			→
○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数（累計）（'17）→（'22）20件	5件	10件	15件	20件
<p>● 東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催によって高まったスポーツ参画の機運を一過性のもので終わらせることなく、県民の誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの普及を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。〈県民〉</p>	推進			→
○成人の週1回以上のスポーツ実施率（'17）51.8%→（'22）65%	58.0%	60.0%	62.0%	65.0%
○県民向けスポーツ交流イベント参加者数（'17）1,000人→（'22）1,300人	1,000人	1,100人	1,200人	1,300人
○「全国レクリエーション大会」の開催誘致（'22）開催誘致				
<p>● 徳島ヴォルティスを通じて、次世代を担う子供たちにプロスポーツのすばらしさを体験してもらうとともに、スタジアムへの来場を促進する取組みを行い、県内にぎわいの創出を図ります。〈商工〉</p>	推進			→
○徳島ヴォルティスホームタウンデー招待者数（'17）1,732人→（'22）2,000人	1,850人	1,900人	1,950人	2,000人

主要事業実施工程表（4-2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 市町村等と連携協力し、徳島インディゴソックスを活用したスタジアムのにぎわい創出や、球団を通じた国際交流を深める取組みを展開し、県民が一丸となってスタジアムで応援する機運を醸成します。＜商工＞</p> <p>○徳島インディゴソックス年間ホームゲーム招待者数 （'17）1,655人→（'22）2,000人</p>	推進			➤
	1,850人	1,900人	1,950人	2,000人
<p>● 健康や環境にも好影響をもたらすサイクルスポーツのさらなる振興を図るため、県内ライドイベントの参加者の利便性向上につながるサイクリトレインの運行や、様々なジャンルの自転車等の展示・試乗等を行う「Tokushimaサイクルワールド（仮称）」の開催により、サイクリストの裾野拡大と自転車を通じた徳島の魅力を発信し、「自転車王国とくしま」の充実を図ります。＜県民＞</p> <p>○サイクリトレインの運行 （'19）～（'22）運行</p> <p>○「Tokushimaサイクルワールド（仮称）」の開催 （'19）開催</p>	推進			➤
<p>● サイクルツーリズムの推進により交流人口の拡大や地域活性化を図るため、兵庫県と連携し、大鳴門橋への自転車道設置を推進します。＜県土＞</p> <p>○大鳴門橋自転車道の整備 （'20）調査設計</p>	推進			➤
<p>2 徳島アスリートの育成強化</p> <p>主要指標 ○国民体育大会天皇杯順位 毎年30位台</p>				
<p>● 本県の競技力向上を図るため、ジュニア期から優れた素質を有する競技者を発掘し、トップレベルの競技者へと育てる「一貫指導システム」の構築と「トップ指導者の養成」に努めるとともに、企業や大学等のスポーツ選手強化・育成事業への支援や、元オリンピック選手等による講習会やセミナーの開催等により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の強化に取り組みます。＜県民＞</p> <p>○国民体育大会天皇杯順位 （'17）46位→（'19）～（'22）毎年30位台</p> <p>○元オリンピック選手等によるジュニア選手の指導 （'19）～（'22）実施</p>	推進			➤
	30位台	30位台	30位台	30位台
<p>● 2022年に四国で開催する全国高校総体に向け、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図ります。 また、早い段階での有力選手の発掘・育成を進めるため、活躍が期待できる競技を選考した上で中学校段階での指導体制強化を図ります。＜教育＞</p> <p>○全国高等学校総合体育大会等の入賞（団体・個人）数 （'17）47団体・個人→（'19）～（'22）50団体・個人</p> <p>○全国中学校体育大会等の入賞（団体・個人）数 （'17）5団体・個人→（'19）～（'22）13団体・個人</p> <p>○有力中学選手「高校生との合同練習会」の実施 （'17）→（'19）～（'22） 「NEO徳島トップスポーツ校」で 100%実施</p>	推進			➤
	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人
	13団体・個人	13団体・個人	13団体・個人	13団体・個人
	100%	100%	100%	100%

主要事業実施工程表（4-2 世界へ飛躍！「スポーツ王国とくしま」新次元の進化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 全国高校総体や国民体育大会において上位入賞を目指す高校生トップアスリートを育成するため、全国大会上位成績の他県強豪チームを招待し、交流試合等を実施します。トップレベルの競技力を体感することにより、チームや個人の競技力向上を推進するとともに、指導者の育成を図ります。＜教育＞	推進			→
● スポーツ拠点校である鳴門渦潮高校の「スポーツ科学科」の充実した施設・設備を活用し、より高度で質の高いスポーツ教育を行い、本県スポーツ科学の普及・振興を図ります。＜教育＞	推進			→
● 世界で活躍する徳島アスリートの育成強化と、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の地元機運醸成および出場機会の創出を図るため、地元小学生等を対象にした「サーフィンスクール」を開催するほか、トップアスリートによる実技講習を開催します。＜南部＞	開発	推進		→
○小学生を対象にしたサーフィンスクールの実施回数（累計） （'17）→（'22）5回	2回	3回	4回	5回
○トップアスリートによる実技講習の実施（累計） （'17）1回→（'22）6回	3回	4回	5回	6回
3 国際スポーツ大会「フードレガシー」の創出				
<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"> 主要指標 ○公式オリパラ関連イベントへの県産食材提供品目数（累計） 8品目 </div>				
● 大型国際スポーツ大会の開催を産地づくりのターニングポイントと位置付け、次世代につながる「安全安心なフードレガシー」を創出します。＜農林＞	推進			→
○GAP認証取得「ステップアップフォーラム（仮称）」の開催 （'19）～（'22）開催				
○農林水産省GAPガイドライン準拠以上の認定件数（累計） （'17）35件→（'22）70件	50件	60件	65件	70件
○公式オリパラ関連イベントへの県産食材提供品目数（累計） （'17）→（'20）8品目	4品目	8品目		
○ホストタウン対象国メニュー開発数（累計） （'17）→（'20）8メニュー	4メニュー	8メニュー		

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

【重点戦略3】

目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承

主要事業実施工程表（4-3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 スポーツ施設の世界標準化				
<p>主要指標 ○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数（累計） 20件</p>				
<p>● 3大国際スポーツ大会におけるキャンプ地誘致や競技大会開催を通じて創造される「レガシー」を県民の誰もが実感できるように、国内外からのスポーツ大会誘致や国際スポーツ交流を実施します。また、誘致を見据え、鳴門・大塚スポーツパーク（鳴門総合運動公園）等の施設の充実を図り、受入環境を整えます。 （一部再掲）〈県民・県土・教育〉</p>	推進			
○国際的及び全国的スポーツ大会や合宿、交流会の県内開催件数（累計） ('17) →('22) 20件	5件	10件	15件	20件
○県立中央武道館空調設備の設置及び受電設備の改修 ('19) 完了				
○鳴門・大塚スポーツパーク第2陸上競技場の走路改修 ('19) 完成				
○ポカリスエットスタジアムの走路改修 ('21) 完成				
○JAバンクちょきんぎょプール(50mプール)の改修 ('19) 完成				
○JAバンクちょきんぎょプール(観客席スタンド)の改築 ('19) 設計着手				
○徳島科学技術高校「アーチェリー場・ウエイトリフティング場・弓道場」の改築 ('19) 完成				
○阿南光高等学校の多目的球技場整備 ('20) 完成				

主要事業実施工程表（4-3 目指すは世界標準！「スポーツレガシー」の創造と継承）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会の開催によって高まったスポーツ参画の機運を一過性のもので終わらせることなく、県民の誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツの普及を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。また、生涯スポーツの拠点づくりのため、運動公園等の整備を推進します。（一部再掲）〈県民・県土〉</p>	推進			
○成人の週1回以上のスポーツ実施率 ('17) 51.8%→('22) 65%	58.0%	60.0%	62.0%	65.0%
○県民向けスポーツ交流イベント参加者数 ('17) 1,000人→('22) 1,300人	1,000人	1,100人	1,200人	1,300人
○「全国レクリエーション大会」の開催誘致 ('22) 開催誘致				
○南部健康運動公園の陸上競技場の整備 ('17) 整備中→('20) 完成				
○JAバンク蔵本公園の体育ホール空調の整備 ('17) →→('19) 完成				
○JAバンク徳島スタジアムの防球ネット改修及び両翼拡張 ('17) →→('21) 完成				
○橋港小勝・後戸地区の緑地整備 （スポーツ・レクリエーション振興ゾーン） ('17) 整備中→('20) レクリエーション施設の概成				
<p>● 自然エネルギー・環境学習による人材育成や川口ダム湖畔を中心とした「スマート回廊」のにぎわい創出のため、「川口ダム湖畔活性化構想」（2019年度策定）に基づき、川口エネ・ミューを核として、カヌー・SUP等の湖面スポーツに親しめる環境整備や、森林体験エリアの活用を地域と共に進め、地方創生へと繋げます。〈企業〉</p>	推進			
○「カヌー・SUP（アウトドアパドル）」の拠点整備 ('21) 整備・('22) 開設				
○川口エネ・ミュー年間延べ体験者数 ('17) 17,370人→('22) 18,500人	17,500人	17,800人	18,100人	18,500人

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

【重点戦略4】

共生社会の実現！障がい者スポーツ・芸術文化の深化

主要事業実施工程表（4-4 共生社会の実現！障がい者スポーツ・芸術文化の深化）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 障がい者スポーツ・芸術文化の振興				
主要指標 ○「パラスポーツ人材バンク（仮称）」の創設 創設				
●「障がい者交流プラザ」を活用し、障がいのある人もない人もスポーツや芸術・文化活動等を通じて、社会参加と交流を促進します。＜保健＞	推進			
○「障がい者交流プラザ」の利用者数 ('17) 138,511人→('19)～('22) 年間14万人	14万人	14万人	14万人	14万人
●障がい者スポーツの裾野の拡大と次世代パラアスリートの発掘・育成を図るため、障がい者スポーツ実施のための環境や、幼少期からスポーツに参画する機会を創出し、障がい者スポーツ活動の活性化を図ります。＜保健＞	推進			
○パラアスリート育成「トップアスリート・スクーリング（仮称）」参加者数 ('17) →('22) 60人	30人	40人	50人	60人
○「ジュニア・アカデミー（仮称）」参加者数 ('17) →('22) 100人	70人	80人	90人	100人
○特別支援教育「ユニバーサル運動プログラム（仮称）」の作成 ('19) 作成				
○「パラスポーツ人材バンク（仮称）」の創設 ('20) 創設				
●障がい者芸術文化活動のさらなる振興を図るため、障がい者の芸術文化活動のための環境づくりや障がい者アーティストの発掘、活動を支援する人材の育成を行うとともに、芸術文化活動やその作品を通じて障がいへの理解を促進し、共生社会の実現への取組みを推進します。＜保健＞	推進			
○障がい者芸術の全県展開「共生アートプロジェクト」の創設 ('20) 創設				
○障がい者アート常設展の開設 ('20) 開設				
○特別支援学校の生徒による表現活動の実践と発表の場の創設 ('19) 創設				
●障がい者の生涯を通じた多様な学習や活動を支援し、特別支援学校等卒業後の学びや交流の機会を創出します。＜教育＞	推進			

ターゲット4 「躍動とくしま・感動宝島」の実装

【重点戦略5】

新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開

主要事業実施工程表（4-5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 史跡・文化財の活用				
主要指標 <ul style="list-style-type: none"> ○埋蔵文化財総合センター利用者数 年間12,000人 				
<ul style="list-style-type: none"> ● 徳島県内出土の埋蔵文化財を蓄積している埋蔵文化財総合センターを文化財の公開・活用の拠点として整備し、地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、素晴らしさを発信します。〈県民〉 	推進			>
<ul style="list-style-type: none"> ○埋蔵文化財総合センター利用者数 ('17) 11,902人→('19) ~('22) 年間12,000人 	12,000人	12,000人	12,000人	12,000人
<ul style="list-style-type: none"> ● 史跡・埋蔵文化財についての講演会・展示会・ウォーキング等を開催し、県民の文化財保護意識を醸成するとともに、県民による文化財の活用を進めます。〈県民〉 	推進			>
<ul style="list-style-type: none"> ○史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加人数 ('17) 470人→('22) 年間600人 	470人	500人	550人	600人
<ul style="list-style-type: none"> ● 改正文化財保護法で規定された文化財保存活用大綱を策定し、県民総がかりで文化財の保存と継承に取り組みます。〈県民〉 		策定	推進	>
<ul style="list-style-type: none"> ○文化財保存活用大綱の策定 ('20) 策定 				
<ul style="list-style-type: none"> ● 阿南市「加茂宮ノ前遺跡」の出土品「水銀朱関連遺物」をはじめ、県内各地から出土した重要遺物の再整理・調査研究を進め、本県を代表する埋蔵文化財として未来への継承を図るため、県内外へ情報を発信します。〈県民〉 	推進			>
<ul style="list-style-type: none"> ○「加茂宮ノ前遺跡」出土品速報展の開催 ('19) 開催 				
<ul style="list-style-type: none"> ● 映像を通じて徳島の魅力を発信するため、三好長慶の大河ドラマ化にチャレンジするなど、徳島を舞台にした映画やドラマ等のロケを誘致・支援します。（再掲）〈商工〉 	推進			>
<ul style="list-style-type: none"> ○ロケ支援件数 ('17) 59件→('22) 85件 	70件	75件	80件	85件

主要事業実施工程表（4-5 新次元！文化スポーツ施設「グレードアップ戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 「文化の森総合公園」の新事業展開				
主要指標 ○文化の森総合公園文化施設入館者数	年間81万人			
● 広く県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供するため、民間との連携を図るなど魅力ある企画展やイベントを開催します。（再掲）＜教育＞	推進			
○文化の森総合公園文化施設入館者数 ('17) 814,816人→('19) ~('22) 年間81万人	81万人	81万人	81万人	81万人
○恐竜化石含有層の発掘及び調査 ('19) 本格実施				
○恐竜化石専用コーナー「徳島恐竜コレクション」の開設 ('21) 開設				
○博物館60周年記念展 「とくしまタイムトラベル（仮称）」の開催 ('19) 開催				
○「文化の森デジタルアーカイブ（仮称）」の公開 ('20) 構築・公開				
○自然災害関係古文書及び歴史的公文書のデジタル化 ('20) 完了・公開				
○「ドイツ・ニーダーザクセン州友好展覧会」の開催 ('20) 開催				
○文化の森総合公園「県立博物館」グランドオープン ('21) グランドオープン				
○文化の森総合公園「野外彫刻展（仮称）」の開催 ('20) 開催				
3 新次元文化スポーツ環境の創造				
主要指標 ○「未来型スポーツ環境創造プロジェクト」の推進	基本構想等策定			
● 少子高齢化や地球温暖化、大規模災害への対応が求められる中、快適で安全なスポーツ環境を確保し、子育て世代、高齢者、障がい者等あらゆる人々が様々なスポーツやイベントを楽しむことができることともに、発災時には拠点避難所にもなる複合型スポーツ施設の整備により、地方都市としての賑わいを創出し、まちの活性化につなげる、本県ならではの「未来型スポーツ環境創造プロジェクト」を推進します。＜県民＞	推進			
○「未来型スポーツ環境創造プロジェクト」の推進 ('22) 基本構想等策定				
● 急速な人口減少・少子高齢化に伴い、施設の利用需要も変化する中で、地域の実情に応じた既存の文化・スポーツ施設の有効活用と更なる機能向上により、地域の文化・スポーツ環境の整備を図ります。＜政策・県民・県土＞	推進			
● 本県の競技力向上につなげるため、国際スポーツ大会を契機として国内に蓄積された最先端の医科学知見に基づくサポートに関するノウハウを積極的に導入し、アスリート・医科学サポート体制の強化を推進します。＜県民＞	推進			
○アスリート・医科学サポートに関する講習会等の開催件数 ('17) →('22) 15件	12件	13件	14件	15件

ターゲット 5

未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

「エシカル消費」をはじめ、脱炭素社会の実現に向けた「緩和策」と「適応策」の推進や、自然エネルギーの導入拡大に向けた取組みを加速するとともに、人口減少時代における「新しい自治体像」の構築に取り組むなど、持続可能な社会を未来へと継承する「循環とくしま・持続社会」の実装に向け、5つの重点戦略を展開します。

5つの重点戦略（主な「主要指標」）

主要指標	現状値('17値)	目標値('22値)
◆重点戦略1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進		
○「とくしまEコ-パートナー」の協定締結企業・団体数(累計)	5企業・団体	30企業・団体
○「公的管理森林」面積(累計)	6,152ha	12,300ha
○「食品ロス削減モデル」の構築	－	('21)構築
◆重点戦略2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装		
○自然エネルギーによる電力自給率	26.7%	30.5%
○「燃料電池バス」の本県導入	－	('20)導入
◆重点戦略3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開		
○プラスチックごみの資源循環に積極的に取り組む市町村数	－	全市町村
○污水处理人口普及率	60%	72%
○「コウトリ里親センター(仮称)」の設立	－	('21)設立
◆重点戦略4 徳島発！持続可能な行政手法の発信		
○地方創生を実現する「政策提言」の実現比率	77%	70%以上
○実質公債費比率	14.6%	('19)13.0%程度
○既存ストック有効活用事例数(累計)	33件	38件
◆重点戦略5 近未来とくしま！「東京オリパラ」から「大阪・関西万博」へ		
○阿佐東線へのDMV導入	－	('20)導入

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略1】

脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進

主要事業実施工程表（5-1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 地球にやさしいライフスタイルへの転換				
主要指標 ○「とくしまエコパートナー」の協定締結企業・団体数（累計） 30企業・団体				
●「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」に基づく「徳島県地球温暖化対策推進計画」や「徳島県気候変動適応戦略」により、緩和策と適応策を両輪とした気候変動対策の推進を図ります。〈県民〉	推進			→
○「とくしまエコパートナー」の協定締結企業・団体数（累計） （'17）5企業・団体→（'22）30企業・団体	15企業・団体	20企業・団体	25企業・団体	30企業・団体
○「気候変動アワード」の表彰数（累計） （'17）2件→（'22）16件	7件	10件	13件	16件
○「地域気候変動適応センター（仮称）」の開設 （'19）開設				
●県が率先して庁舎の省エネルギー対策を推進するなど、環境にやさしい行政運営の徹底を図るとともに、「徳島夏・冬のエコスタイル」等の展開を通じて、エコでエシカルなライフ・ビジネススタイルへの転換を推進します。〈県民〉	促進			→
○県の事務及び事業に伴い 排出される温室効果ガス総排出量 2018年度比（2024年度 5%削減）	△1%	△2%	△3%	△4%
●パークアンドライドをはじめ、交通結節点の整備などによる利用環境の改善により、マイカー利用から公共交通利用への転換を促進します。〈県土〉	促進			→
○交通結節点の整備実施箇所数（累計）（再掲） （'17）4箇所→（'22）10箇所	7箇所	8箇所	9箇所	10箇所
●省エネルギー・長寿命など環境配慮型の車両用LED式信号灯器の計画的な整備を進めるとともに、建物の省エネ対策の推進のため、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）やネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）等の普及を図ります。〈県民・警察〉	推進			→
○ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の啓発活動の実施数（累計） （'17）4件→（'22）14件	8件	10件	12件	14件
●省エネルギー対策を推進するため、県管理道路における道路照明灯等のLED化を推進します。（再掲）〈県土〉	推進			→
○あわ産LED道路照明灯（橋梁照明、トンネル照明を除く）の設置割合（累計） （'17）12%→（'22）32%	19%	23%	27%	32%

主要事業実施工程表（5-1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
2 県民総ぐるみによる森林づくり				
<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;"> 主要指標 ○「公的管理森林」面積（累計） 12,300ha </div>				
●「徳島県豊かな森林を守る条例」に基づき、水源をはじめとする環境や防災面で重要な森林について、所有者の管理放棄や目的が明らかでない森林買収などに対応するため、県民共通の財産として、取得や公的機関による管理を進め、適正な保全を推進します。＜農林・企業＞	推進			→
○「公的管理森林」面積（累計） ('17) 6,152ha→('22) 12,300ha	8,100ha	9,150ha	10,725ha	12,300ha
○うち「とくしま県版保安林」の指定面積（累計） ('17) 265ha→('22) 600ha	375ha	450ha	525ha	600ha
○「とくしま森林バンク（仮称）」の創設 ('19) 創設				
○うち県営水力発電の水源かん養に資するダム水源地での公有林化の支援（累計） ('17) 418ha→('22) 882ha	582ha	682ha	782ha	882ha
●人材の育成・確保を図るため、幅広い年代や技術力に合わせた人材育成戦略を展開するとともに、「林業経営体」の育成を推進し、県産材の生産量を拡大します。（再掲）＜農林＞	推進			→
○県産材の生産量 ('17) 37.5万m ³ →('22) 56.3万m ³	45.0万m ³	48.0万m ³	51.0万m ³	56.3万m ³
○経営委託が可能な「林業経営体」登録数（累計） ('17) →('22) 25経営体	5経営体	10経営体	15経営体	25経営体
●森林の持つ公益的機能を維持し、適切に管理・保全していくため、保安林の指定による公的管理や適正な管理を推進します。＜農林＞	推進			→
○保安林指定面積（民有林）（累計） ('17) 97,634ha→('22) 98,900ha	98,300ha	98,500ha	98,700ha	98,900ha
●「健全な森林」、「豊かな森林」をつくるため、コンテナ苗木の採用・省力化などの効率的な造林や間伐、針広混交林・複層林への誘導、広葉樹林の整備を推進します。＜農林＞	推進			→
○人工造林面積 ('17) 100ha→('22) 160ha	110ha	130ha	150ha	160ha
○間伐等森林整備面積（累計） ('17) 24,552ha→29,000ha	26千ha	27千ha	28千ha	29千ha
●豊かな森林を活用し、森林体験や学習の場を創出することで、将来の担い手の確保や森林への意識の醸成を図ります。＜農林＞	推進			→
○大学等の体験林「フォレストキャンパス」の利用者数（累計） ('17) →('22) 700人	150人	320人	500人	700人

主要事業実施工程表（5-1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 森林の重要性をPRするとともに、「とくしま森林づくり県民会議」を中心に、ボランティアや企業・県民と協働した森づくり活動や、森林のCO ₂ 吸収量・CO ₂ 固定量を活かした排出量取引制度の導入を推進します。〈農林〉	推進			→
○国内森林吸収源「とくしま型認証制度」の創設（'20）創設				
○カーボン・オフセットに基づく森づくり企業・団体数（累計）（'17）137企業・団体→（'22）160企業・団体	145 企業・ 団体	150 企業・ 団体	155 企業・ 団体	160 企業・ 団体
○木製品等によるCO ₂ 固定事業の認定企業・団体数（累計）（'17）→（'22）10企業・団体	2 企業・ 団体	4 企業・ 団体	7 企業・ 団体	10 企業・ 団体
3 食品ロス対策の加速				
<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"> 主要指標 ○「食品ロス削減モデル」の構築 構築 </div>				
● 「環境首都とくしま・未来創造憲章」に掲げる行動指針「食物の恵みに感謝し、食材を無駄なく使い、食べ残しはやめましょう」に基づき、「食品ロスの削減」に向けた取組みを推進します。〈県民〉	推進			→
○「食品ロス削減全国大会」の開催（'19）開催				
○食品ロス削減の啓発活動の実施数（累計）（'17）11件→（'22）60件	30件	40件	50件	60件
○「おいしい徳島！とくしま食べきり運動協力店」登録店舗数（累計）（'17）→（'22）35店舗	20店舗	25店舗	30店舗	35店舗
○「食品ロス削減モデル」の構築（'21）構築				
4 しなやかな「適応策」の実装				
<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"> 主要指標 ○水稻の高温耐性品種の作付面積 2,100ha </div>				
● 適応策の実践拡大のため、研究機関や関係団体等と連携し具体的な取組みを加速するとともに、県民への情報提供や普及啓発を推進します。〈県民〉	開設	推進		→
○「地域気候変動適応センター（仮称）」の開設（再掲）（'19）開設				
● 園芸産地として日本のトップブランドの地位を確立するため、農作業の効率化や省力化、労働力の確保等、品目が抱える課題を解決することにより、産地のリノベーションを推進し、もつかる農業を実践します。（再掲）〈農林〉	推進			→
○産地リノベーションを実施した園芸産地における生産額（'17）26億円→（'22）60億円	45億円	50億円	55億円	60億円

主要事業実施工程表（5-1 脱炭素社会実現へ！「緩和策」と「適応策」の推進）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 本県農林水産業の競争力を強化し、成長産業化の実現を図るため、気候変動に対応した品種の開発、温暖化のメリットを生かした新品目へのチャレンジなどを推進するとともに、新技術導入促進に向けた情報収集、実演会をはじめ情報提供により、現場への速やかな普及を図ります。 （一部再掲）＜農林＞</p>	推進			
○農林水産物の新品種・新技術の開発・導入数（累計） （'17）12件→（'22）42件	24件	30件	36件	42件
○熱帯性果樹の栽培実証経営体数（累計） （'17）→（'22）10経営体	1 経営体	4 経営体	7 経営体	10 経営体
<p>● 水稲経営の安定化を図るため、「あきさかり」をはじめ高温耐性品種の導入を推進します。（一部再掲）＜農林＞</p>	推進			
○高温耐性品種の作付面積 （'17）474ha→（'22）2,550ha	1,500ha	1,850ha	2,200ha	2,550ha
<p>● 瀬戸内海から太平洋に至る個性豊かな本県の海域特性を踏まえた漁業振興策を推進するとともに、大学等との連携により、水産物の新養殖品種の導入、ブランド力の更なる向上など、本県水産業の成長産業化に取り組みます。 （再掲）＜農林＞</p>	推進			
○大学や民間企業と連携した新養殖品種の導入 （'17）→（'21）創出・（'22）導入				

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略2】

新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装

主要事業実施工程表（5-2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 「地産地消」推進プロジェクトの推進				
主要指標 ○自然エネルギーによる電力自給率 30.5%				
●「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、温室効果ガス排出削減や分散型エネルギーによる災害対策、地域の活性化等を目的として、「自然エネルギー」の導入を促進します。（再掲）〈県民〉	推進			→
○自然エネルギーによる電力自給率 ('17) 26.7%→('22) 30.5%	28.1%	28.9%	29.7%	30.5%
●地域防災力の向上を目指し、災害時の切り札となる自然エネルギーを活用した「自立・分散型電源」導入支援制度を創設します。（再掲）〈県民〉	推進			→
○「自立・分散型電源」導入支援制度の創設 ('19) 創設				
●地球温暖化対策や平時における電力の地産地消の推進、さらには災害時の非常電源として活用が期待できる水力発電の普及を図るため、溪流に設置可能なピコ水力発電機の実証実験や、先導的モデルとなる小水力発電所の整備に取り組みます。 これらの取組みや実験データを公表することによって、自然エネルギーの普及促進を図ります。（再掲）〈企業〉	推進			→
○自立・分散型エネルギーの普及拡大 ('19)～('22) 小水力発電所の整備・運用				
○自然エネルギー地産地消モデルの普及促進 ('19)～('21) ピコ水力発電機の実証実験(2箇所)・('22) 説明会の実施				
○自然エネルギー導入促進のための技術支援 ('19)～('22) 相談窓口による支援				
●本県の特性を活かし、未利用木質資源などバイオマスの生産・利用を担う環境関連産業の創出や、関連技術を活用した地域づくりに取り組みます。〈農林〉	推進			→
○バイオマス利活用モデル地区数（累計） ('17) 37地区→('22) 41地区	38地区	39地区	40地区	41地区
●農村地域において、自然エネルギーを有効活用するため、農業水利施設を活用し、「クリーンエネルギーの地産地消」を促進することにより、地域の活性化を図ります。〈農林〉	推進			→
○小水力発電施設整備モデル地区数（累計） ('17) →('22) 4地区	1地区	2地区	3地区	4地区

主要事業実施工程表（5-2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>●「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、産学官金による自然エネルギーの推進体制として、「自然エネルギー活用プロジェクトチーム（仮称）」を創設します。〈県民〉</p>	推進			→
<p>○「自然エネルギー活用プロジェクトチーム（仮称）」の創設 ('19) 創設</p>				
<p>●自然エネルギーを活用した「SDGs イベント」を民間と協力して開催し、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進します。〈県民〉</p>	推進			→
<p>○「SDGs イベント」の開催 ('19) 開催</p>				
<p>●「自然エネルギー立県とくしま推進戦略」に基づき、自然エネルギーによる地域の活性化や地元雇用の創出を目的として、自然エネルギー導入を進める地域人材の育成を図ります。〈県民〉</p>	推進			→
<p>○地域人材を育成する講座の受講者数 ('17) →('19) ~('22) 年間20人</p>	20人	20人	20人	20人
<p>●先進的な自然エネルギー導入の意見交換を行うとともに、本県から環境の取組みを国際社会に発信するため、環境先進国ドイツ・ニーダザクセン州と自然エネルギー分野における国際交流を推進します。〈県民〉</p>	推進			→
<p>2 水素エネルギーの社会実装</p>				
<p>主要指標 ○「燃料電池バス」の本県導入 導入</p>				
<p>●水素社会の早期実現を目指し、「水素グリッド構想」の具現化を図るため、「燃料電池自動車（FCV）」や「燃料電池バス」をはじめ多様な水素モビリティの導入を促進するなど、地球温暖化対策の切り札となる「水素エネルギー」の普及拡大を推進します。（一部再掲）〈県民〉</p>	推進			→
<p>○「燃料電池バス」の本県導入 ('20) 導入</p>				
<p>○「燃料電池船」の試験導入 ('21) 試験導入</p>				
<p>●県内工場で生成される水素を有効活用した地産地消エネルギーによる広域的なサプライチェーン構築を図るため、戦略的な取組みを展開します。〈県民〉</p>	推進			→
<p>○新たな水素供給拠点の整備 ('20) 整備</p>				
<p>●水素社会の実現に向けて、水素に対する県民の理解を深めるため、あらゆる場面を活用した積極的な普及啓発を行います。〈県民〉</p>	推進			→
<p>○「水素社会啓発・体験ゾーン」等での環境学習参加者数 ('17) 335人 → ('22) 700人</p>	400人	500人	600人	700人
<p>●水素エネルギーの普及拡大を図り、新たな水素関連産業のビジネスモデル構築を促進するため、産学官の連携による「とくしま水素ビジネス研究会」の開催をはじめ、民間事業者の取組みを積極的に支援します。〈県民〉</p>	推進			→

主要事業実施工程表（5-2 新時代を先導！再生可能エネルギーの社会実装）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 次世代エコカー（EV、FCV、PHV等）の優れた蓄電・発電機能が災害時の非常用電源として有効活用できることについて、広く県民の理解を深め、普及拡大に繋げるため、積極的な取組みの推進を図ります。（再掲）〈県民〉	推進			→
○ イベントにおけるエコカーを活用した給電に関する啓発活動の実施数（累計） ('17) 4件→('22) 30件	15件	20件	25件	30件

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略3】

自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開

主要事業実施工程表（5-3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 持続可能な社会に向けた廃棄物対策の推進				
主要指標 <p>○プラスチックごみの資源循環に積極的に取り組む市町村数 全市町村</p>				
● 廃棄物の発生抑制・リサイクルを促進するため、普及啓発活動等を行います。〈県民〉	推進			
○リサイクルの啓発に積極的に取り組む産業廃棄物処理事業所数（累計） ('17) 18事業所→('22) 36事業所	30 事業所	32 事業所	34 事業所	36 事業所
○プラスチックごみの資源循環に積極的に取り組む市町村数 ('17) →('22) 全市町村	15 市町村	18 市町村	21 市町村	24 市町村
○リサイクル製品の認定数 ('17) 50製品→('22) 60製品	54製品	56製品	58製品	60製品
● プラスチックごみ削減を推進するため、「とくしま環境県民会議」を中心に市町村や民間企業等と連携して、「マイバッグ」や「マイボトル」の普及促進を図るとともに、食品トレイを廃止した計り売りの実施など、プラスチックごみ削減に積極的な店舗をモデル店舗として認定することにより事業者意識の改革を図ります。〈県民〉	推進			
○マイ「バック&ボトル」キャンペーン参加人数（累計） ('17) 7,920人→('22) 12,500人	9,500人	10,500人	11,500人	12,500人
○プラスチックごみ削減協力店舗数（累計） ('17) →('22) 11店舗	5店舗	7店舗	9店舗	11店舗
● 環境物品（環境負荷の低減に資する物品や役務）等の調達については、原則、「徳島県グリーン調達等推進方針」に基づくとします。〈県民〉	推進			
○環境物品等の調達率 ('17) 99%→('19) ~('22) 100%（全分野）	100%	100%	100%	100%
● 家畜排せつ物を良質堆肥やバイオマス資源として利用する資源循環型の畜産を推進します。〈農林〉	推進			
○家畜排せつ物の再利用率 ('17) 100%→('19) ~('22) 100%	100%	100%	100%	100%
● 循環型社会経済システムの構築に向けて、「建設リサイクル推進計画」に基づき建設廃棄物のリサイクルを推進します。〈県土〉	推進			

主要事業実施工程表（5-3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 不法投棄の早期発見や大規模化を防止するため、不法投棄が絶えない箇所のパトロールを強化するとともに、県民との協働によるぎめ細やかな対策を進めます。＜県民＞</p>	推進			
○重点監視地区の夜間パトロール実施数 ('17) 4回→('19)～('22) 年間12回	12回	12回	12回	12回
○不法投棄監視協力企業・団体数（累計） ('17) 24企業・団体→('22) 34企業・団体	28 企業・ 団体	30 企業・ 団体	32 企業・ 団体	34 企業・ 団体
● 優良な産業廃棄物処理業者の育成を図るため、業者に対する法知識・処理技術の研修を行います。＜県民＞	推進			
○産業廃棄物適正処理講習会受講者数（累計） ('17) 1,509人→('22) 2,000人	1,700人	1,800人	1,900人	2,000人
● 南海トラフ巨大地震や集中豪雨等で発生する災害廃棄物について、県及び市町村の職員の対応能力を養うため、継続的に専門的な教育訓練を実施します。＜県民＞	推進			
○講習会、訓練等の実施回数（累計） ('17) 1回→('22) 8回	2回	4回	6回	8回
● 海岸の良好な景観や環境の保全を図るため、海岸におけるプラスチックごみ等の漂着物の状況を的確に把握し、市町村や海岸管理者との迅速な連携による円滑な回収・処理を推進します。＜県民＞	強化・ 推進			
<p>2 次世代へ繋ぐ豊かな環境づくり</p> <p>主要指標 ○「とくしま環境学講座」及び「親子環境学習教室」受講者数（累計） 9,100人</p>				
● 環境に関する高い意識と行動規範・実践力を持つ人材を養成するため、幼児から大人までの幅広い世代の県民を対象とし、「環境首都とくしま・未来創造憲章」及び「キッズバージョン」を積極的に活用した環境教育・環境学習等を実施します。＜県民＞	推進			
○「とくしま環境学講座」及び「親子環境学習教室」受講者数（累計） ('17) 2,749人→('22) 9,100人	5,500人	6,700人	7,900人	9,100人
● 県民主体の環境活動拠点である「エコみらいとくしま（環境首都とくしま創造センター）」の取組みを核として、県民一人ひとりが高い環境意識を持って行動できるよう、広域的かつ先導的な実践活動を推進します。＜県民＞	推進			
○「エコみらいとくしま」で実施する実践活動の回数（累計） ('17) 40回→('22) 140回	95回	110回	125回	140回
● 県南部の海を中心とする美しく豊かな自然を次世代に継承するため、地域住民等と連携した保全活動を行うとともに、若年層を対象に、環境について考え、行動する機会を創出します。＜南部＞	推進			
○環境啓発イベント等に参加し、具体的な環境行動を宣言する人数（累計） ('17) →('22) 400人	100人	200人	300人	400人
○「みなみから届ける環づくり会議」の「環境ボランティア活動証明制度」を活用した環境ボランティア受入団体数 ('17) →('22) 5団体	3団体	3団体	4団体	5団体

主要事業実施工程表（5-3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>● 生命や自然を大切に、地域の環境を守るために行動できる、郷土を愛するモラルの高い児童・生徒の育成を目指した公立小中高等学校及び特別支援学校の「新学校版環境ISO」の取組みを推進します。〈教育〉</p>	推進			
<p>○「新学校版環境ISO」認証を取得した学校の割合 ('17) 84%→('22) 88%</p>	86.5%	87.0%	87.5%	88.0%
<p>● 県民の環境保全に対する意識をさらに高め、県民一人ひとりの自主的・積極的意欲を増進させることにより、県民一人ひとりの自主的・積極的な環境行動・活動を促進するため、地域における団体等の環境学習の取組みを支援します。〈県民〉</p>	推進			
<p>○環境アドバイザー派遣件数（累計） ('17) 747件→('22) 1,100件</p>	890件	960件	1,030件	1,100件
<p>● 「徳島県公共事業環境配慮指針」、「徳島県田園環境配慮マニュアル」等に基づき、自然環境に配慮した公共事業を推進します。〈農林・県土〉</p>	推進			
<p>○自然環境調査に基づく事業計画策定地区数（累計） ('17) 61地区→('22) 66地区</p>	63地区	64地区	65地区	66地区
<p>● 「日本の宝」剣山国定公園の豊かな自然を次世代に継承するため、地域が一体となった環境保全活動や自然保護を担う新たな人材の育成を行うとともに、「山の日」の制定や健康志向への高まりを受けて増加する登山者に対して、自然保護や登山マナーの向上に向けた啓発活動を推進します。〈西部〉</p>	推進			
<p>○「剣山サポータークラブ」の会員数（累計） ('17) 621人→('22) 800人</p>	650人	700人	750人	800人
<p>○希少野生植物の調査や保護を担う人材の育成（累計） ('17) →('22) 20人</p>	5人	10人	15人	20人
<p>○自然保護や登山マナー向上に向けた啓発等活動実施回数 ('17) 4回→('22) 8回</p>	5回	6回	7回	8回
<p>● 本県の優れた自然景観等を有する自然公園などについて、自然景観等の保護や利用の増進を図るため、関係機関と連携し、施設の効率的・効果的な整備を行います。（再掲）〈県民〉</p>	推進			
<p>○登山道と四国のみちの再整備ルート数 ('17) 14ルート→('22) 17ルート</p>	15ルート	15ルート	16ルート	17ルート
<p>○自然公園トイレの洋式化実施率 ('17) 29%→('22) 75%</p>	31%	41%	56%	75%
<p>● 継続的な農業生産活動による耕作放棄地の発生防止や、集団的かつ持続可能な体制整備、農地・農業用水の保全の取組みにより、農業・農村が有する国土保全や景観維持等の多面的機能の確保を図ります。〈農林〉</p>	支援			
<p>○多面的機能支払交付金により保管理された農用地面積 ('17) 9,888ha→('22) 9,900ha</p>	9,900ha	9,900ha	9,900ha	9,900ha
<p>● 漁場環境に配慮した藻場の造成を「施工時期」、「工法」等の事前準備を行い、計画的に推進します。（再掲）〈農林〉</p>	推進			
<p>○藻場造成箇所数（累計） ('17) 21箇所→('22) 30箇所</p>	26箇所	28箇所	29箇所	30箇所

主要事業実施工程表（5-3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 花を通して来訪者の心を癒し、美しい魅力あふれる都市公園となるよう、官民協働で公園内の花壇づくりを推進します。〈県土〉	推進			>
○都市公園における 官民協働による花壇区画の設置数（累計） ('17) 12区画→('22) 30区画	27区画	28区画	29区画	30区画
● 住民と行政が協働で道路景観の向上を図り、地域の歴史・文化や自然を活かした地域づくりを支援する「とくしま風景街道」の取組みを推進します。〈県土〉	推進			>
● 地域の自然環境やまちなみと調和した良好な地域景観が形成されるよう、景観に配慮した公共事業を実施します。〈県土〉	推進			>
○無電柱化した県内の道路の延長（累計）（再掲） ('17) 31.4km→('22) 34.4km	33.9km	34.0km	34.0km	34.4km
● 新町川の護岸修景や周辺の既存観光資源を活用した川の魅力発信により、中心市街地の活性化及び観光振興を促進します。〈県土〉	促進			>
3 きれいな水環境づくりの推進				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 10px;">主要指標</div> <div>○汚水処理人口普及率 72%</div> </div>				
● 全国に誇れる「徳島きれいな水環境」の創造に向け、生活排水対策を推進します。〈県土〉	推進			>
○汚水処理人口普及率 ('17) 60%→('22) 72%	66%	68%	70%	72%
○市町村設置型浄化槽の設置基数（累計） ('17) 868基→('22) 1,400基	1,080基	1,190基	1,290基	1,400基
○県管理施設の合併処理浄化槽転換基数（累計） ('17) →('22) 81基	41基	54基	72基	81基
○下水道へのし尿投入事業着手市町村数（累計） ('17) →('22) 4市町村	1市町村	2市町村	3市町村	4市町村
○農業集落排水処理施設の 保全（機能強化）着手地区数（累計） ('17) 13地区→('22) 19地区	14地区	15地区	17地区	19地区
● 海・川における良好な水質環境を維持するとともに、生物の多様性・生産性が確保された豊かな海（里海）を創出し、次世代に継承していくため、県民への意識啓発や地域における自主的な活動の核となる人材の育成等を図り、「とくしまのSATOUMI（里海）」の実現に向けた施策を推進します。〈県民〉	推進			>
○水質環境基準の達成率（河川・海域） ('17) 100%→('19) ~('22) 100%	100%	100%	100%	100%
○とくしまSATOUMIリーダー認定数（累計） ('17) →('22) 100人	25人	50人	75人	100人
● 土砂等の埋立て等による土壌汚染及び水質汚濁並びに災害の発生を防止するため、開発行為等に伴って発生する土砂等の埋立て等について、許可制などの規制を行います。〈県民〉	推進			>
● 漂流・海底ゴミ等の回収・処理等により、生産力が高く美しい徳島の海づくりを推進します。〈農林〉	推進			>

主要事業実施工程表（5-3 自然との共生！「生物多様性とくしま戦略」の展開）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● 河川を対象とした環境学習やフィールド講座の実施により、河川環境保全への意識啓発を行うとともに、「徳島のみずべ」の魅力を発信します。〈県土〉	推進			
○環境学習、フィールド講座の参加人数 ('17) 536名→('19)～('22) 年間500人以上	500人	500人	500人	500人
4 良好な生活環境の保全				
主要指標	○大気汚染に係る環境基準達成状況（二酸化窒素）			100%
● 本県の良好な大気環境を保全するため、事業所等の監視・測定を機動的・効率的に実施します。〈県民〉	推進			
○大気汚染に係る環境基準達成状況（二酸化窒素） ('17) 100%→('19)～('22) 100%	100%	100%	100%	100%
○工場・事業場等のばい煙排出規制の適合状況 ('17) 100%→('19)～('22) 100%	100%	100%	100%	100%
● 大気環境中へのアスベストの飛散を防止するため、アスベスト除去等工事に対する事前指導を徹底するとともに、工事現場への立入指導等を実施します。〈県民〉	推進			
● 化学物質による環境リスクを低減するため、事業者による化学物質の排出削減と適切な自己管理を促し、有害な化学物質の環境中への排出量の削減を図ります。〈県民〉	推進			
○ダイオキシン類濃度の環境基準の達成状況 ('17) 100%→('19)～('22) 100%	100%	100%	100%	100%
● 災害時等における有害化学物質による二次被害の発生を防止するため、化学物質の漏洩防止や危機管理体制の構築など、大規模事業所等を中心に整備が進められた災害時対策について、継続的な見直しを促します。〈県民〉	推進			
5 生物多様性戦略の推進				
主要指標	○「コウノトリ里親センター（仮称）」の設立			設立
● 生物多様性について広く普及・浸透を図り、「生物多様性とくしま戦略」を着実に実施していくため、普及啓発や保全活動の担い手の中心となる人材の育成を行います。〈県民〉	推進			
○生物多様性アドバンスリーダーによる普及啓発活動回数 ('17) →('22) 20回	5回	10回	15回	20回
● 希少野生動植物を保護し良好な自然環境を保全するため、県民主体による指定希少野生生物の生息・生育環境の保全、回復等に関する取組みの推進を図ります。〈県民〉	推進			
○「とくしま生態系レッドリスト（仮称）」の公表 ('21) 公表				
● 負傷により緊急的な措置として捕獲されたコウノトリの治療や一時保護先の確保を目的とした「コウノトリ里親センター（仮称）」を設立し、コウノトリを県内生物多様性のシンボルとして、普及啓発の取組みを推進します。〈県民〉	推進			
○「コウノトリ里親センター（仮称）」の設立 ('21) 設立				

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略4】

徳島発！持続可能な行政手法の発信

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 「課題解決先進県とくしま」の推進				
<div style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"> 主要指標 </div>				
○地方創生を実現する「政策提言」の実現比率 70%以上				
● 徳島発の提言が未知の世界を切り拓く「全国モデル」として、国の新たな制度や施策に反映され、「地方創生」から「日本創生」へと繋がるよう、国への積極的な政策提言を実施します。＜政策＞	推進			
○地方創生を実現する「政策提言」の実現比率 ('17) 77%→('22) 70%以上	70%	70%	70%	70%
● 全国で唯一の県域を越えた意思決定機関である「関西広域連合」のチャーターメンバーである徳島が先導役となり、徳島、関西さらには日本全体の発展に繋がる「広域プロジェクト（取組）」（ワールドマスターズゲームズ2021 関西、大阪・関西万博等）を推進します。＜政策＞	推進			
○「広域プロジェクト（取組）」数（累計） ('17) 2件→('22) 12件	6件	8件	10件	12件
● 全国知事会議や四国をはじめとする各ブロック知事会議を活用し、医療、文化・観光、環境、防災をはじめ、国家的な課題の解決に向けた施策を提案し、「いずれの地域においても夢を実現することができる『この国のあるべき姿』」を目指す取組みを進めます。＜政策＞	推進			
○知事会議による国等への提言件数（累計） ('17) 10件→('22) 60件	30件	40件	50件	60件
● 本県の「75歳以上」人口がピークとなる「2030年」における自治体のあるべき姿を描き、地域の実情やニーズを踏まえた「規制緩和」や「制度創設」などの政策提言を実施するとともに、「とくしま自治体戦略2030構想（仮称）」を策定し、新たな「公共私」の相互間における協力関係を構築します。＜政策＞	研究会設置	提言		策定
○自治体行政に関する「規制緩和」や「制度創設」の政策提言等の実施 ('20) ('21) 提言				
○「とくしま自治体戦略2030構想（仮称）」の策定 ('22) 策定				
○新たな「公共私」相互間の協力関係の構築 ('17) →('22) 3件		1件	2件	3件

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
●「徳島県過疎対策研究会」において、過疎地域の現状と課題の分析を行うとともに、地域の実情に即した過疎対策を検討し、「新過疎法」制定に向けた取組みを推進します。 ＜政策＞	推進			→
○「徳島県過疎対策研究会」報告書取りまとめ ('19) 報告書				
○「新過疎法制定」に向けた政策提言等の実施 ('19) ('20) 提言				
2 進化する広報広聴活動の展開				
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">主要指標</div> ○「徳島県SNS」利用登録数 16万件				
●徳島の注目度をアップさせ、県勢の発展につなげるため、時代に即した利便性の高い広報媒体を有機的・効果的に活用し、県民はもちろん国内外の方に魅力的な情報発信を展開します。 また、県民からの提言等を積極的にくみ取り、県の施策に反映します。＜経営＞	推進			→
○「徳島県SNS」利用登録数 ('17) 130,000件→('22) 160,000件	142,000 件	148,000 件	154,000 件	160,000 件
○外国語コンテンツの充実発信 ('19) 実施				
○海外向けSNS広告の導入 ('19) 導入				
○県民密着型テーマによるケーブルテレビ番組の制作・放送 ('19) 制作・放送				
●県民参加による公正で開かれた県政を実現するため、県民が県政に関する情報を迅速かつ容易に入手できるよう積極的な公表を図るなど、情報公開を総合的に推進します。 ＜監察＞	推進			→
○「情報提供施策の推進に関する要綱」に基づく「公表推進情報」の「県ホームページ」上での公表件数 ('17) 290件→('22) 340件	310件	320件	330件	340件
●多くの県民に県政を身近に感じ、親しみを持ってもらうとともに、県民からの意見・提言等を積極的に県政に反映させるため、県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」の活用や、AIを活用した多言語対応の全庁的なFAQシステムの開設により、県政情報の効果的な発信などに取り組みます。（再掲）＜監察＞	推進			→
○県庁舎見学参加者数 ('17) 617名→('19) ~('22) 年間680名以上	680名	680名	680名	680名
○県庁ふれあいセンター「すだちくんテラス」展示等件数 ('17) 40件→('19) ~('22) 年間50件以上	50件	50件	50件	50件
○「とくしま丸ごとAIコンシェルジュ（仮称）」の開設 ('20) 開設				

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>3 未来志向の行財政改革</p> <p>主要指標</p> <p>○実質公債費比率 13.0%程度</p>				
<p>● 財政の健全化を図るため、「実質公債費比率の改善」をはじめとする、「財政構造改革基本方針」の目標達成に向けた取組みを推進します。＜経営＞</p>	推進			→
<p>○実質公債費比率 ('17) 14.6%→('19) 13.0%程度</p>	13.0%程度			
<p>○公債費（一般会計決算ベース、臨時財政対策債を除く） ('17) 514億円→('19) 500億円未満</p>	500億円未満			
<p>○県債残高（一般会計決算ベース、臨時財政対策債を除く） ('17) 5,011億円→('19) 5,000億円未満</p>	5,000億円未満			
<p>○財政調整的基金残高（一般会計決算ベース） ('17) 720億円→('19) 800億円</p>	800億円			
<p>● 徳島から各種行政課題の解決に向けた処方箋を生み出すべく、ワーク・ライフ・バランスを実現する働き方改革をはじめ、さらなる職員の能力向上、業務効率化を進めるとともに、若年層が少ない年齢構成の適正化を図り、将来に渡る「挑戦の気概溢れるバランスのとれた組織・体制づくり」を目指します。＜経営＞</p>	推進			→
<p>○県職員「新規採用枠」 ('17) 100人以上→('19) ~('22) 年間100人以上</p>	100人	100人	100人	100人
<p>● 新たな歳入を確保するため、「クラウドファンディング」や民間との協働による「スポンサー型広告」など工夫を凝らした歳入対策を推進します。＜経営＞</p>	推進			→
<p>● 徳島ファンの輪を広げるため、「ふるさと納税制度」や「企業版ふるさと納税制度」を通じて、県内外に「ふるさと徳島」の魅力をより積極的にアピールするとともに、県出身者など本県ゆかりの方々や企業との連携を一層強化し、活力と魅力あふれる徳島づくりを進めます。また、クラウドファンディングを活用し、事業の明確化を図り、新たな寄附者の開拓に取り組みます。（再掲）＜政策＞</p>	推進			→
<p>○クラウドファンディング型ふるさと納税の活用事業数（累計） ('17) →('22) 20件</p>	8件	12件	16件	20件
<p>● 時代の流れに対応し、持続可能な行政サービスが提供できる「行財政基盤」を構築するため、「新とくしま行革プラン（仮）」を策定し、行財政改革を推進します。＜経営＞</p>	策定・推進			→
<p>○「新とくしま行革プラン（仮）」の策定 ('19) 策定・推進</p>				
<p>● 施策の推進には予算が伴うという「固定概念」から脱却する「ゼロ予算の理念」のもとに、「未知の世界」を創意工夫により切り拓く「徳島発！スマート予算事業」を推進します。＜経営＞</p>	推進			→

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● EBPM（証拠に基づく政策立案）の手法を用いた質の高い行政サービスを提供するため、データ分析手法の研究を行い、そのノウハウを蓄積するとともに、得られた知識やスキルを共有することで、県・市町村職員のデータ活用能力のレベルアップを図り、徳島を牽引するデータ活用人材の育成を強力に推進します。＜政策＞	研究		推進	
● 県債の信用力を確保し、公債費の縮減につなげるため、格付け機関による格付け「全国上位クラス」を堅持します。＜経営＞	堅持			
● 財務状況をより分かりやすく情報発信するため、「統一的な基準による地方公会計」に基づく財務書類について、全国との比較・分析を行い、予算編成や資産管理等への戦略的な活用・公表を推進します。＜経営・出納＞	推進			
● 公用車の一元管理による「カーシェアリング」により、利便性を向上させ職員の「働き方改革」に資するとともに、併せて「安全性の向上」や「脱炭素化の推進」にも取り組み、さらなる公用車の最適化を推進します。＜経営＞	実証 実験			実施
○公用車の一元管理によるカーシェアリングの実施 ('19) 実証実験・('22) 実施				
● 職員の業務引継ぎ時における業務執行体制の早期確立のため「AI活用・全庁FAQシステム」を構築し、よりシームレスな県民サービスを実現します。（再掲）＜経営＞	構築	推進		
○AI活用・全庁FAQシステム ('19) 構築				
● 効率的かつ効果的な公共施設等の整備等を進めるとともに、新たな事業機会の創出や民間投資の喚起による経済成長を実現していくため、多様なPPP/PFI手法の積極的な検討と適切な活用を図ります。＜経営＞	推進			
○PPP/PFI手法による施設整備（累計） ('17) 3件→('22) 7件	6件	6件	7件	7件
● 多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応し、住民サービスの向上と施設の有効活用を図るため、県立施設の管理運営に民間等の活力の導入を推進します。＜経営＞	推進			
● 利用者サービスの向上と事業コストの削減を図るため、民間活力を導入することにより、県営住宅の整備を推進します。＜県土＞	推進			
○PFI方式による県営住宅新浜町団地の建替 ('17) →('21) 完成・('22) 維持管理				
● 県税の収納方法について、納税者が県税を納付しやすい環境を整備するため、ICT等の技術を活用した多様な納税手段（クレジット収納、電子収納など）を導入することで、県民の利便性の向上を図ります。＜経営＞	推進			
○多様な納税手段の延べ税目数 ('17) 2税目→('22) 10税目以上	4税目	6税目	8税目	10税目
● 県南部・県西部の住民にも運転免許更新時における「即日交付」の利便性を拡充するため、阿南市及び阿波市に「運転免許センター」を整備します。（再掲）＜警察＞	整備	開設	推進	
○運転免許センター（阿南市、阿波市）の開設 ('20) 開設				

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
<p>4 「リタイアインフラ」による新価値創造</p> <p>主要指標 ○既存ストック有効活用事例数（累計） 38件</p>				
<p>● 公有財産の有効活用を図り、地域の社会貢献活動や経済活動に資するため、「県有施設空きスペース」の貸付や「未利用財産」の公募による貸付、既存施設の「転用」や「再生」による利活用を行います。＜経営＞</p>	推進			
<p>○既存ストック有効活用事例数（累計） ('17) 33件→('22) 38件</p>				38件
<p>● 役割を終えた公共施設や旧道敷などの社会インフラを利活用し、新たな価値を創造します。＜県土＞</p>	推進			
<p>○役割を終えたインフラの活用数（累計） ('17) →('22) 9回</p>	3回	5回	7回	9回
<p>○「旧道敷利活用モデル」の展開 ('21) 展開</p>				
<p>● 万代中央ふ頭において更なる地域活性化等を図るため、「旧タクシーメーター検査場等」を民間事業者と連携して有効活用することにより、リタイアインフラから新たな価値を創造し、地域の「にぎわいづくり」の新展開につなげます。＜県土＞</p>	推進			
<p>● 旧果樹研究所を利活用し、カンキツ産地の強化に向けた即戦力人材を育成する「徳島かんきつアカデミー」の充実を図るとともに、地域内外の人々が集う「にぎわい交流」を推進します。＜農林＞</p>		開設	推進	
<p>○「旧果樹研究所」の利活用による「人材育成」・「にぎわい交流」拠点の開設 ('20) 開設</p>				
<p>● 「とくしま回帰」の流れを加速させるため、「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターを核として、空き家に対する「意識啓発」「掘り起こし」「マッチング」「リノベーション」の各ステージに応じた支援を行い、空き家の有効活用を促進します。（再掲）＜県土＞</p>	推進			
<p>5 NPO・ボランティアとの連携・協働</p> <p>主要指標 ○「とくしま県民活動プラザ」の登録団体数 550団体</p>				
<p>● NPO・ボランティア活動など県民の参加と協働による共助社会の実現に向け、「とくしま県民活動プラザ」を拠点とした社会貢献活動に対する総合的な支援や各種取組みを推進します。＜県民＞</p>	推進			
<p>○「とくしま県民活動プラザ」の登録団体数 ('17) 532団体→('22) 550団体</p>	535 団体	540 団体	545 団体	550 団体
<p>○「ゆめバンクとくしま」への寄附金を活用した助成件数 ('17) 10件→('19) ~('22) 年間10件</p>	10件	10件	10件	10件
<p>○アドプト・プログラム登録団体数 ('17) 729団体→('19) ~('22) 730団体以上</p>	730 団体	730 団体	730 団体	730 団体

主要事業実施工程表（5-4 徳島発！持続可能な行政手法の発信）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
● NPO等による社会貢献活動を強化するため、県民の寄附意識の醸成を図るとともに、資金調達機能の強化や認定NPO法人化の促進などによりNPO等の自立的活動を支援します。〈県民〉	推進			→
○認定NPO法人数 ('17) 6団体→('22) 10団体	8団体	8団体	9団体	10団体
● 共助社会づくりを推進するため、住民団体や企業等との協働による公共施設の新たな維持管理への取組みを進めます。〈県土〉	推進			→
○官民協働型維持管理の参加団体数（累計） ('17) 79団体→('22) 95団体	83団体	87団体	91団体	95団体
● 「農山漁村（ふるさと）は県民の宝物」との考えに立ち、“まちとむら”の「協働」による農山漁村の保全・活性化を促進します。〈農林〉	支援			→
○農山漁村（ふるさと）協働パートナーの協定締結数（累計） ('17) 63協定→('22) 78協定	69協定	72協定	75協定	78協定

ターゲット5 「循環とくしま・持続社会」の実装

【重点戦略5】

近未来とくしま！「東京オリパラ」から「大阪・関西万博」へ

主要事業実施工程表（5-5 近未来とくしま！「東京オリパラ」から「大阪・関西万博」へ）

主要施策・主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）			
	2019	2020	2021	2022
1 夢と希望の新交通ネットワークの構築				
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">主要指標</div> ○阿佐東線へのDMV導入 導入				
● 阿佐東地域における住民の移動手段確保や観光交流の促進を図るため、阿佐東線において、DMVの導入を推進します。（再掲）〈県土〉	推進			→
○阿佐東線へのDMV導入（'20）導入				
● 交流人口の拡大に向け、2025年大阪・関西万博を展望し、「徳島阿波おどり空港」をはじめ、大阪湾ベイエリア5空港7滑走路の有機的連携によるストック効果を発揮させるため、会場となる「夢洲」や「関西国際空港」と本県をつなぐ、新たな「海上交通」の導入を研究します。〈県土〉	推進			→
○新たな「海上交通」の導入に向けた取組み（'19）導入研究				
● 2025年大阪・関西万博開催を視野に、国内外との交流拡大による本県経済の活性化を図るため、エアポートセールスを推進し、国内外との航空ネットワークの維持・充実を図ります。（再掲）〈県土〉	推進			→
○国内線（'17）東京線1日11往復、福岡線1日2往復 →（'22）維持・充実				
○国際線の誘致（'17）チャーター便就航→（'19）～（'22）推進（※'18）季節定期便就航）				
● 「大阪湾ベイエリア5空港・7滑走路」の有機的連携によるストック効果を発揮させ、急増するインバウンドの受入態勢強化や日本全体の「リダンダンシー」の確保・「二眼レフ構造」の国土構築など、地方創生に向け、機運醸成の取り組みを通じて、四国新幹線の実現を目指します。〈県土〉	推進			→

4 計画の進行管理と見直し

県民ニーズや社会・経済・財政の様々な事情の変化に的確に対応し、計画の円滑な推進を図るためには、計画の進捗状況を把握し、適切な進行管理を行う必要があります。

このため、

- 点検評価サイクル（いわゆる「P D C Aサイクル」）による政策評価の手法を活用し、事業の「必要性」（県民ニーズの状況、廃止・休止した場合の影響）や「目的妥当性」（県が取り組む妥当性があるかどうか）等の観点から見直しを行うとともに、
- 高校生等との対話集会を通じて寄せられた「若者意見」を積極的に県政に反映するなど、
- 計画策定以降の「急激な環境変化」や「新たな課題」に対しても、常に「進化する計画」として、大きく修正や追加すべき必要な点は、見直しの中で新たに盛り込み、「実効性のある計画」として県民ニーズに即応していきます。

P D C Aサイクル

具体的な目標を定め（**P**lan：企画）

それに沿った活動を行い（**D**o：実施）

その結果を目標と照らし合わせて点検し（**C**heck：評価・検証）

次年度の新たな企画立案に反映していく（**A**ction：改革・改善）

併せて、第三者機関である「県政運営評価戦略会議」等において、計画に位置づけられた施策や数値目標の達成状況などについて、「より県民目線に立った客観的な評価」を行っていただきながら、毎年度、計画の改善見直しを行います。

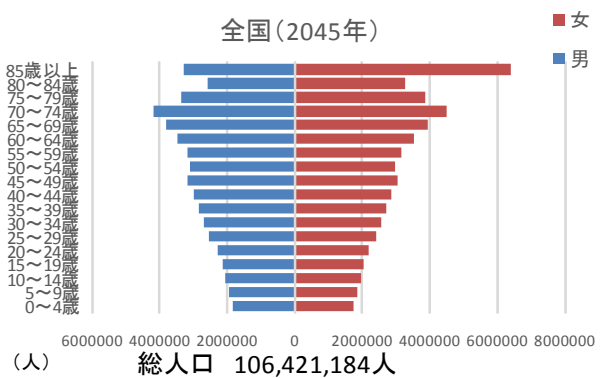
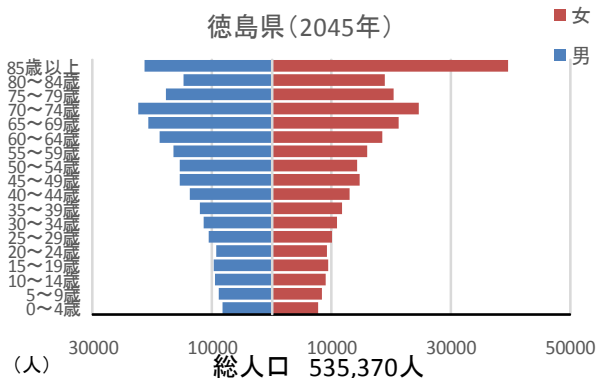
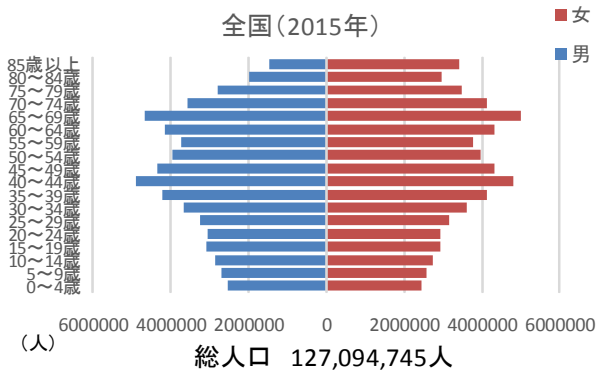
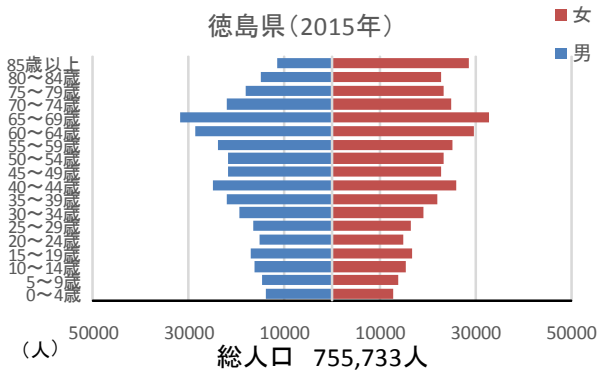
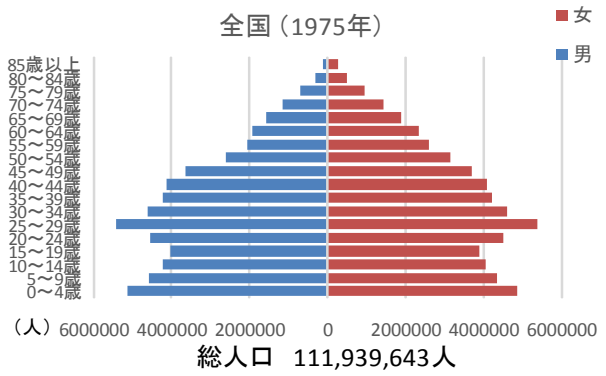
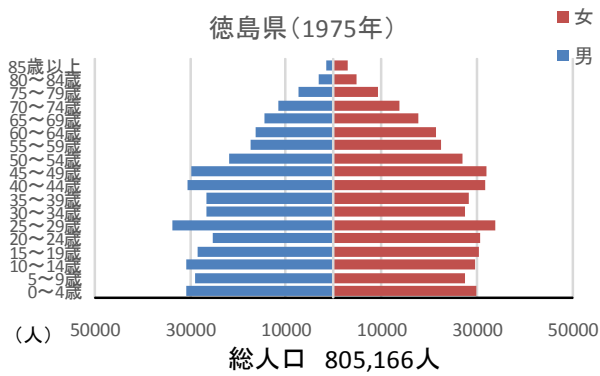
参 考 資 料 編

- 1 徳島県の現状と課題（データで見る徳島）**
- 2 県民意見の反映**
 - （1）パブリックコメント
 - （2）若者からのご意見・ご提言

1 徳島県の現状と課題（データで見る徳島）

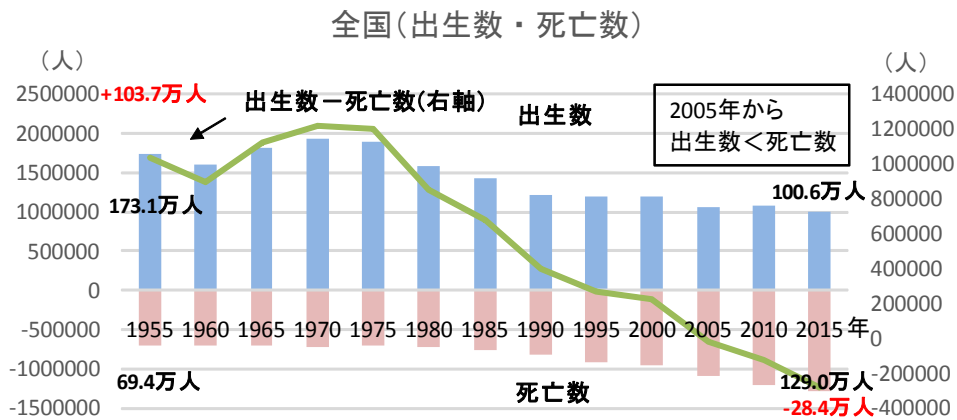
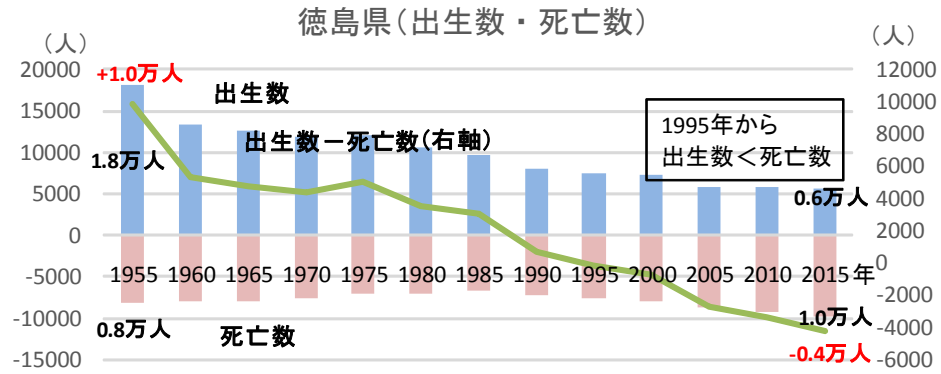
(1) 人口減少・超高齢社会の到来

■人口ピラミッドの変化(徳島県・全国)



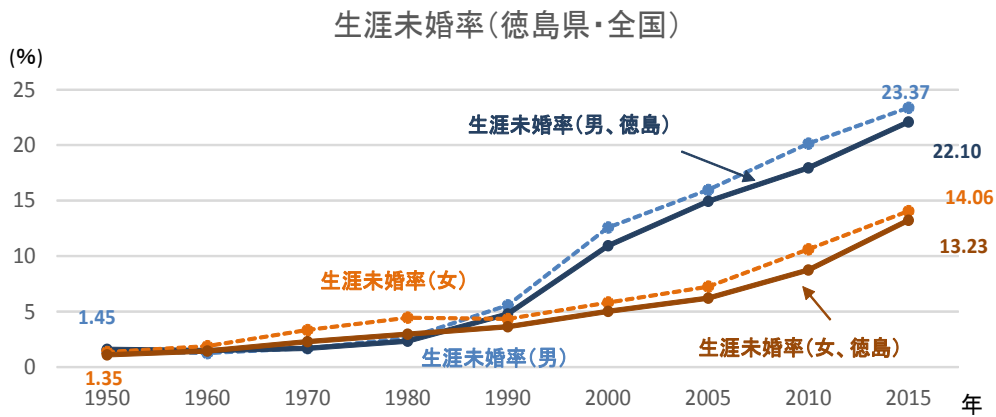
(出典)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」、
「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

■ 出生数・死亡数の推移(徳島県・全国)

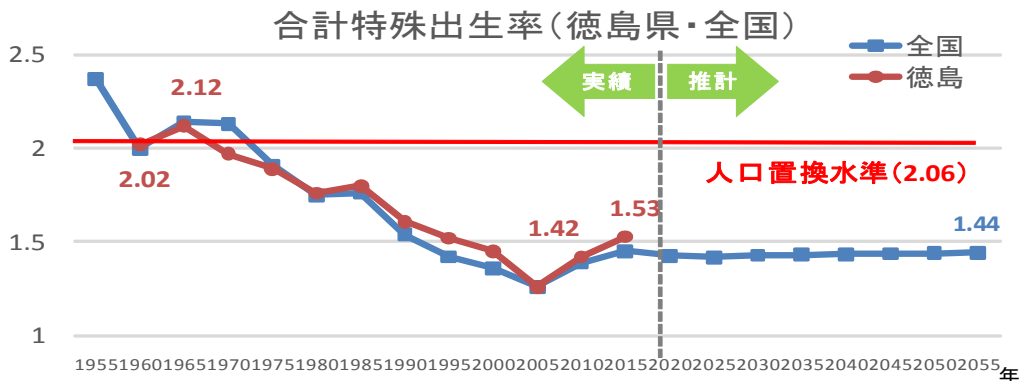


(出典)厚生労働省「人口動態統計」

■ 結婚・出生率の推移(徳島県・全国)

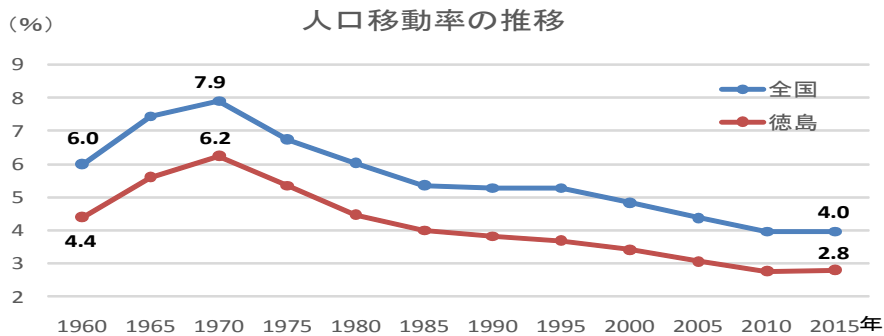
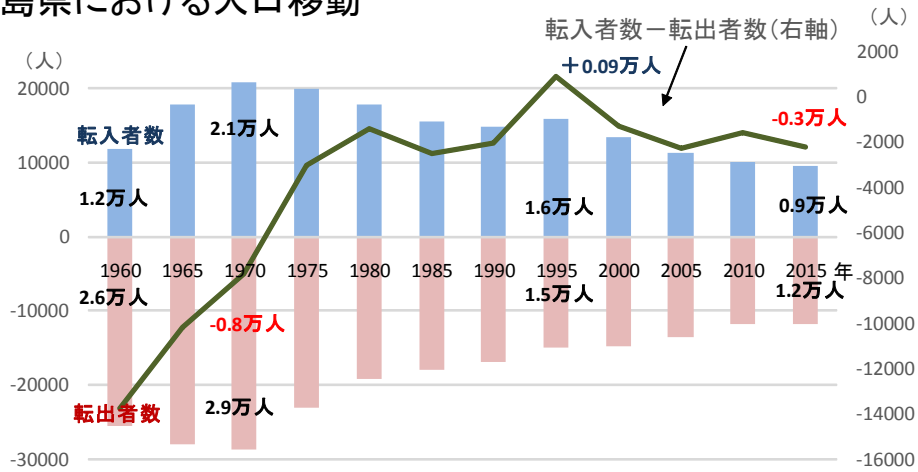


(出典)総務省「国勢調査」



(出典)厚生労働省「人口動態統計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」

徳島県における人口移動

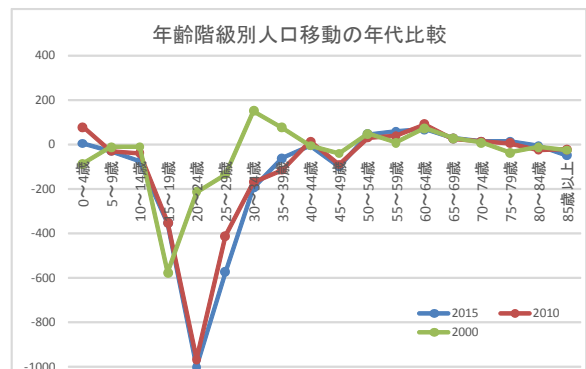
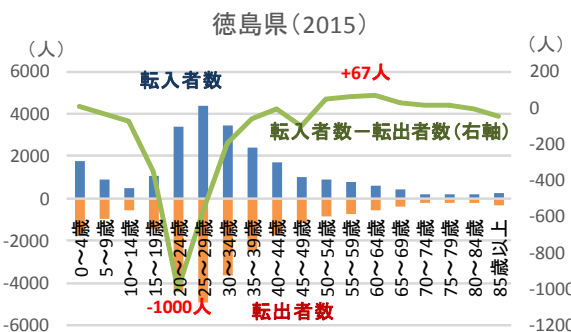
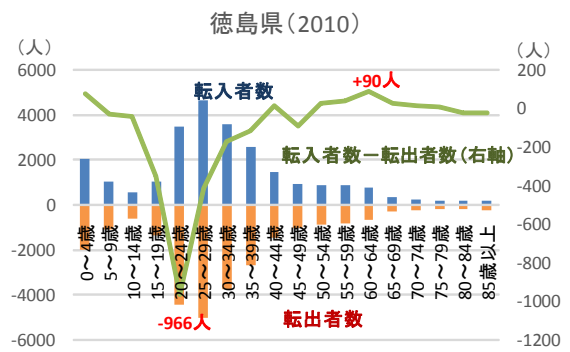
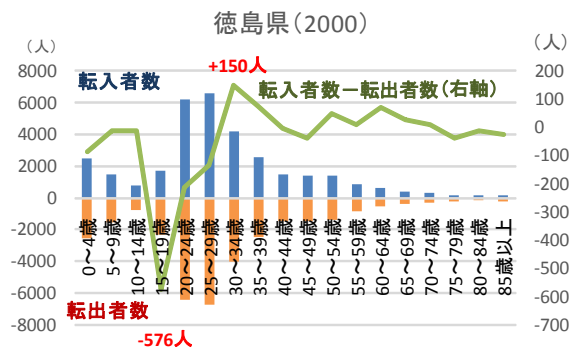


注1: 全国における人口移動率とは、都道府県内移動者数+他都道府県からの転入者数または他都道府県への転出者数を人口で割った値をいう。

注2: 徳島県における人口移動率とは、転入者、転出者の総数を人口で除した値をいう。

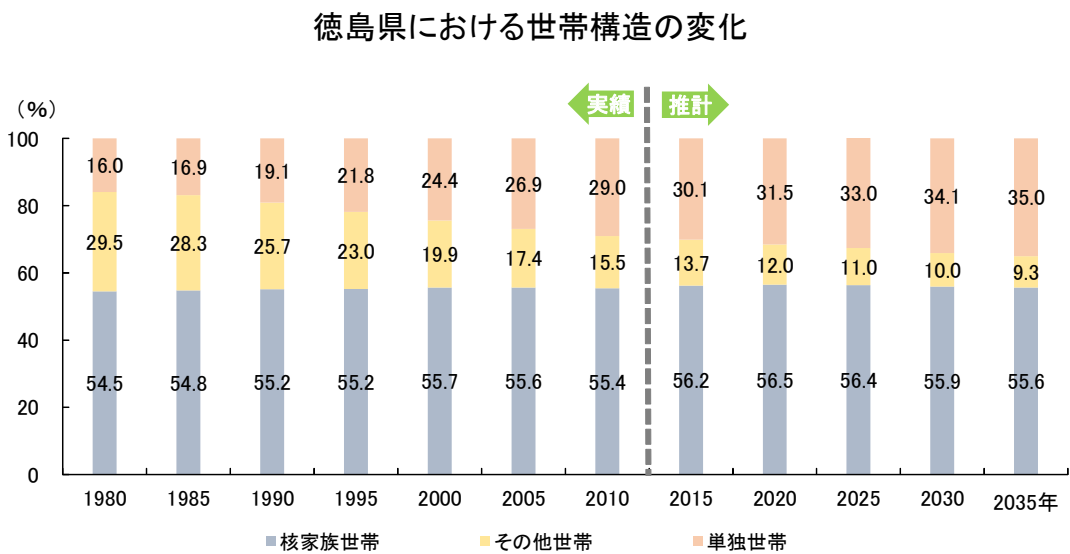
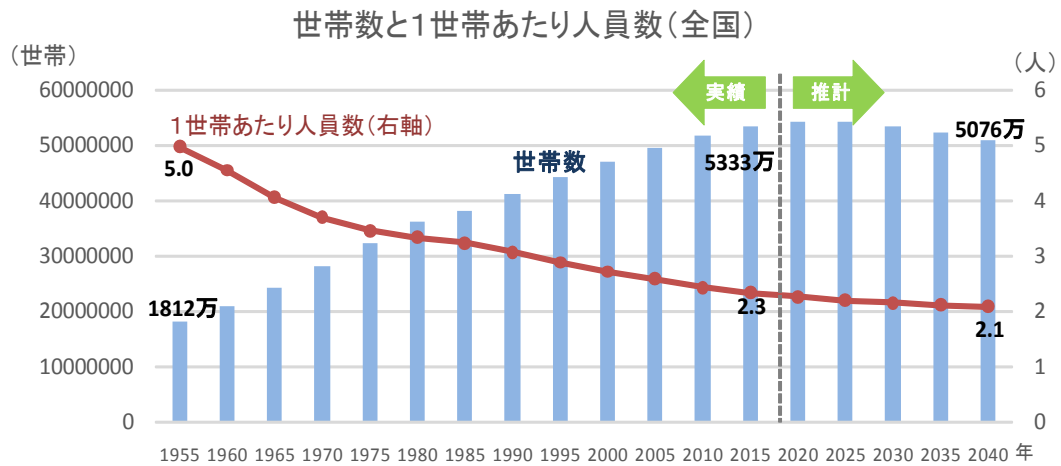
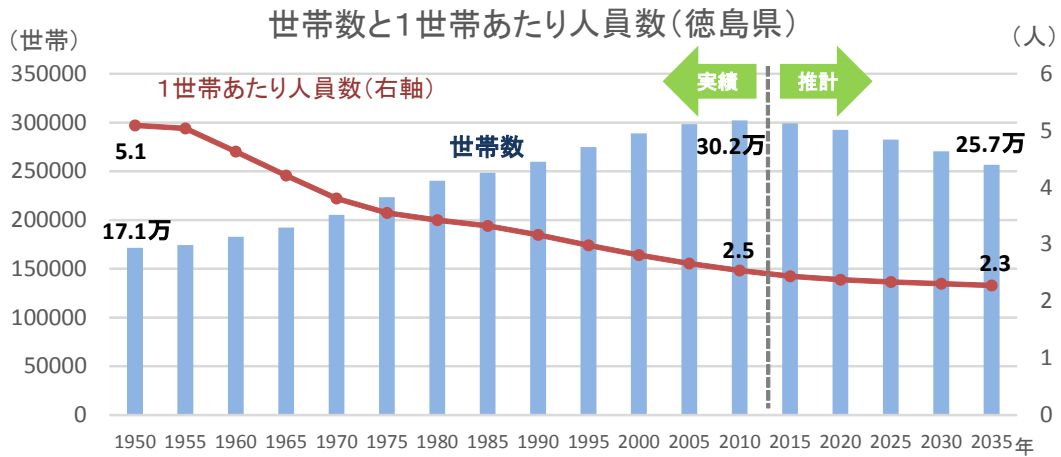
(出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」、徳島県統計戦略課「徳島県人口移動調査」

年齢階級別人口移動の変化(徳島県)



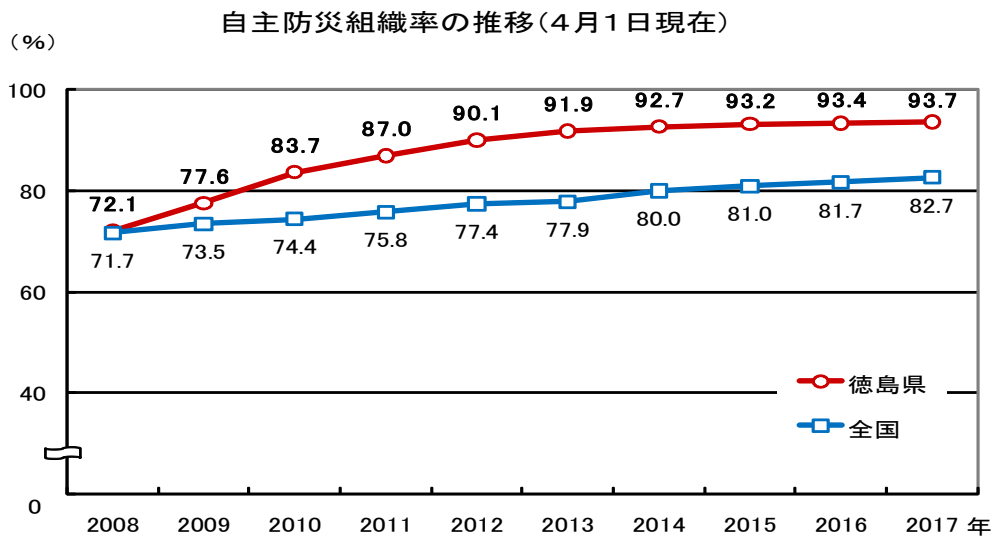
(出典)総務省「住民基本台帳人口移動報告」、徳島県統計戦略課「徳島県人口移動調査」

■世帯数の推移(徳島県・全国)



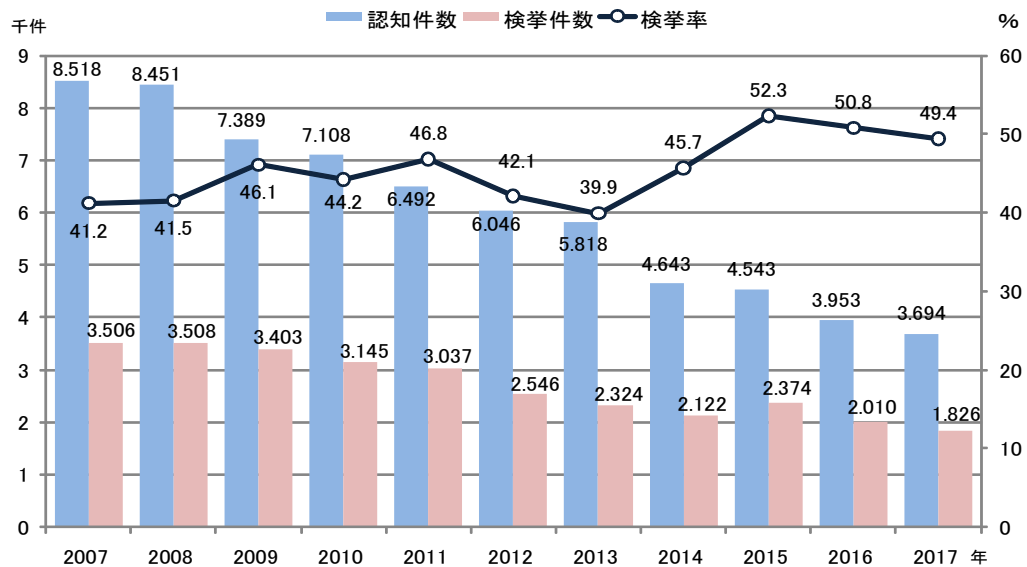
(出典)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」、
「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」

(2) 安全・安心、健やかな県民生活



(出典)総務省消防庁「消防白書」

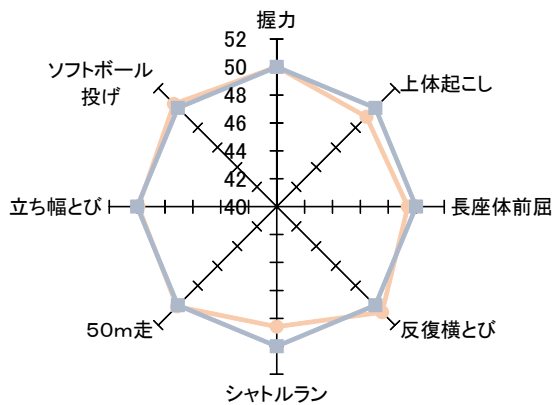
刑法犯認知及び検挙件数・検挙率の推移



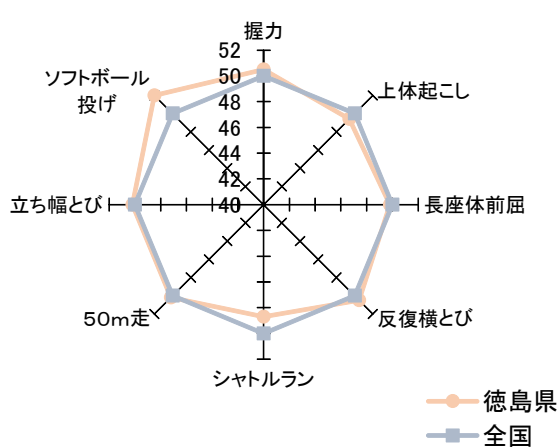
(出典)徳島県警察本部「犯罪統計」

徳島県児童の体力・運動能力(平成30年度)

小5(男子)

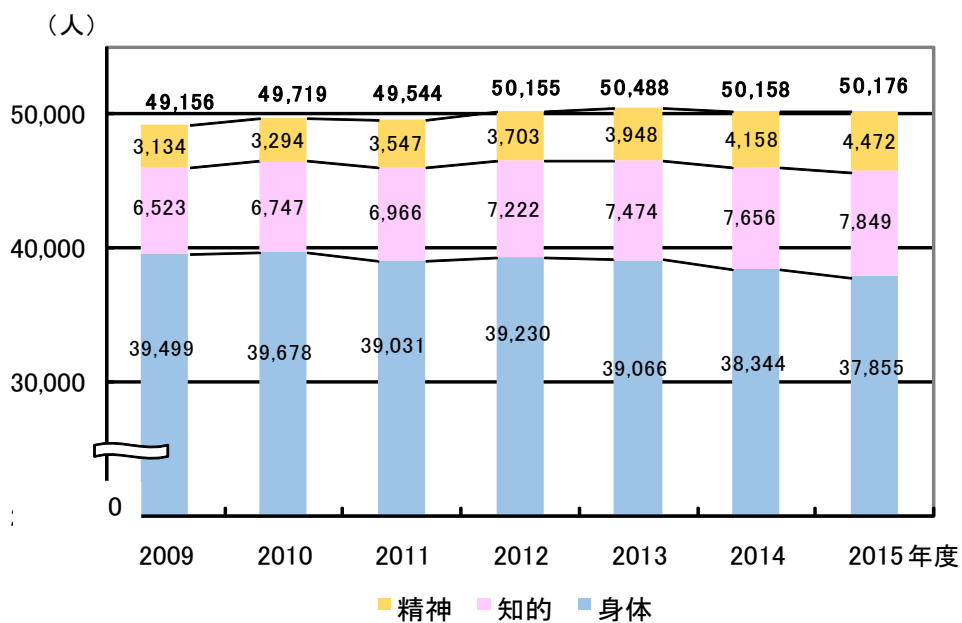


小5(女子)



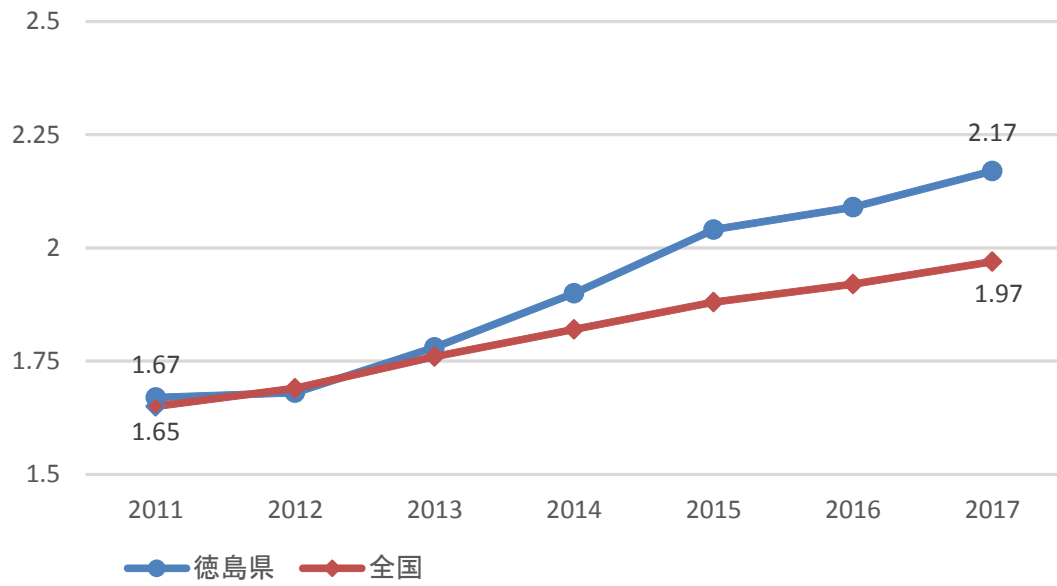
(出典)文部科学省「平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

障がい者手帳所持者数の推移



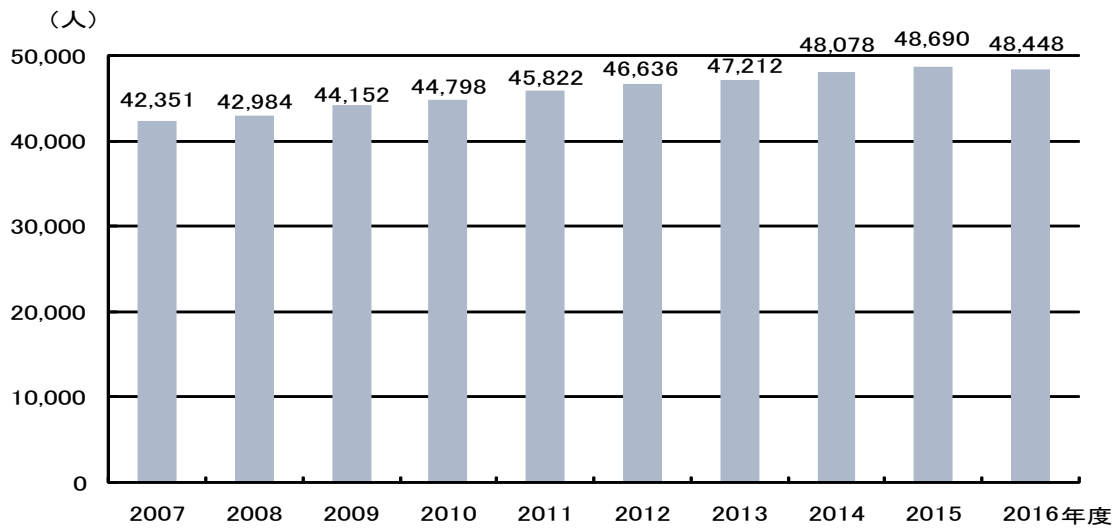
(出典)徳島県資料

民間企業における障がい者の実雇用率(徳島県・全国)



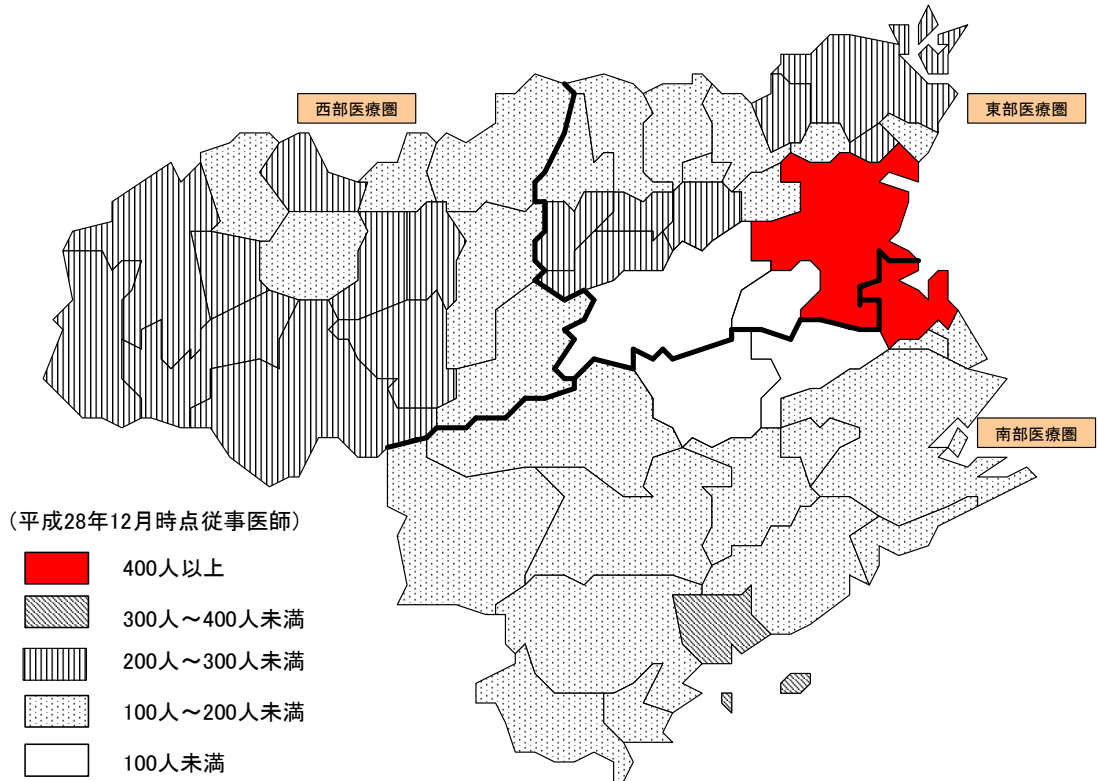
(出典)厚生労働省「障害者雇用状況の集計結果」

要介護(要支援)認定者数の推移



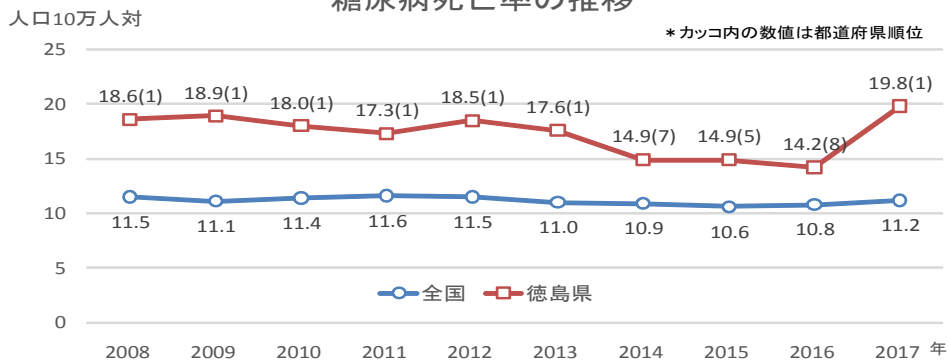
(出典)徳島県「介護保険事業状況報告」

徳島県内の医師分布(人口10万人対)



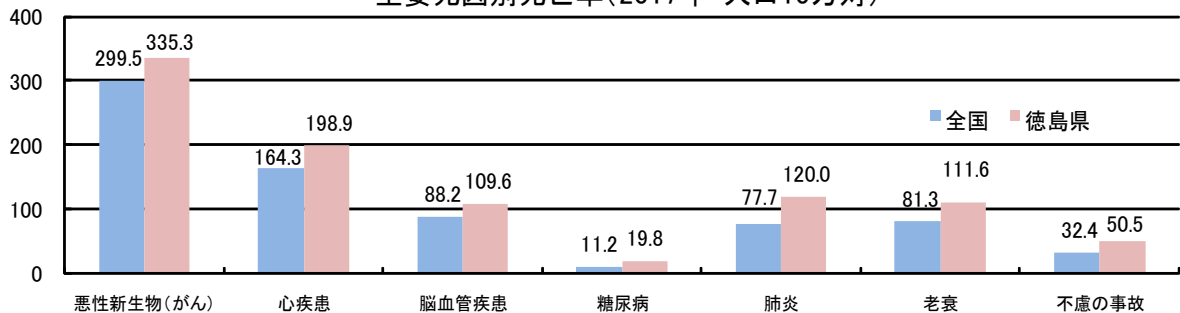
(出典)厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

糖尿病死亡率の推移



(出典)厚生労働省「人口動態調査」

主要死因別死亡率(2017年・人口10万対)



(出典)厚生労働省「人口動態調査」

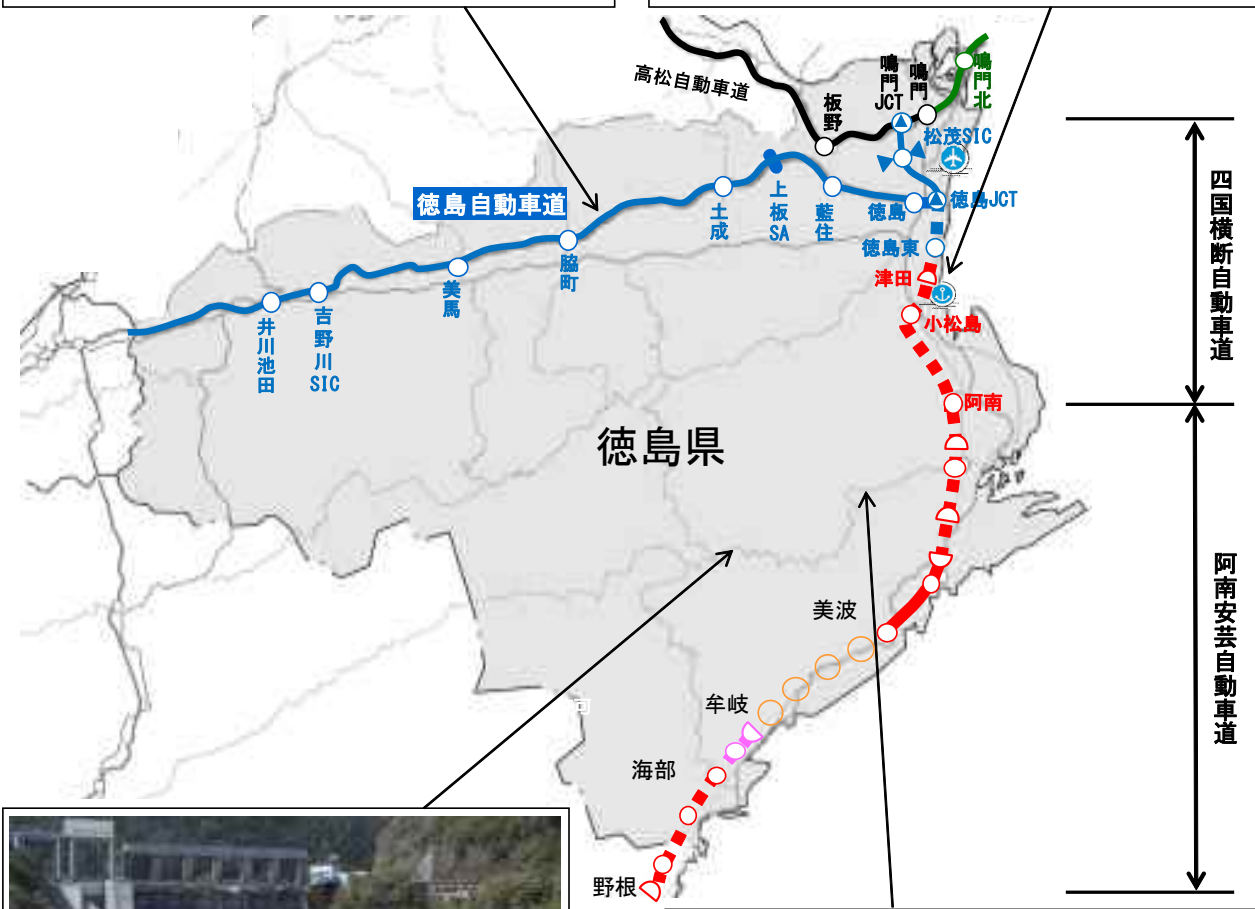
安全安心を支える社会基盤整備



徳島自動車道
4車線化(付加車線設置)の促進



徳島小松島港津田地区
令和元年度 埋立地の分譲開始



長安口ダム改造事業
新設洪水吐ゲート 令和元年度完成予定

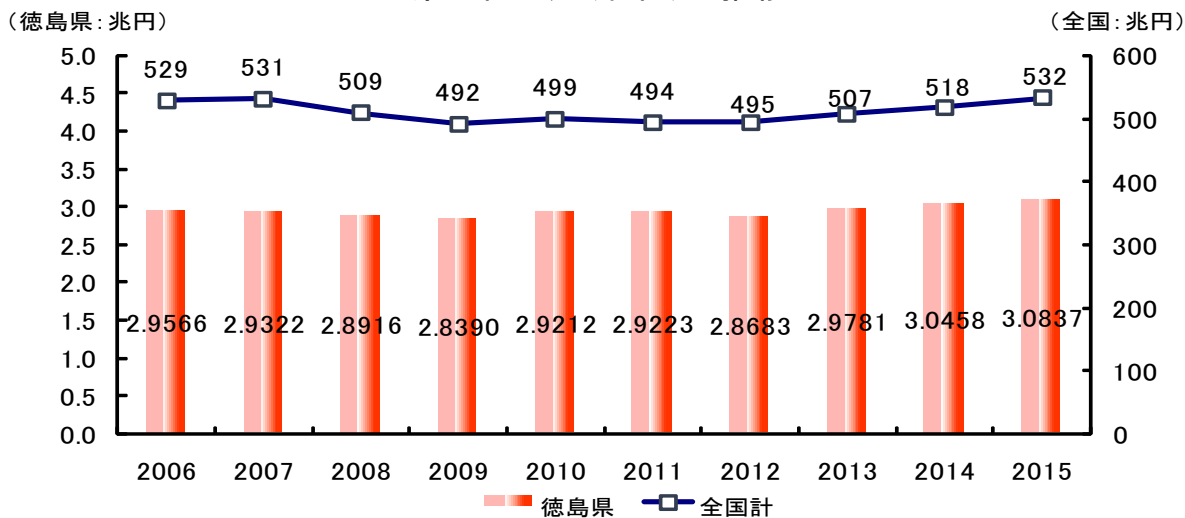


那賀川床上浸水対策特別緊急事業(和食・土佐地区)
河川堤防 令和2年度完成予定

(3) 本県経済を牽引する多彩な産業

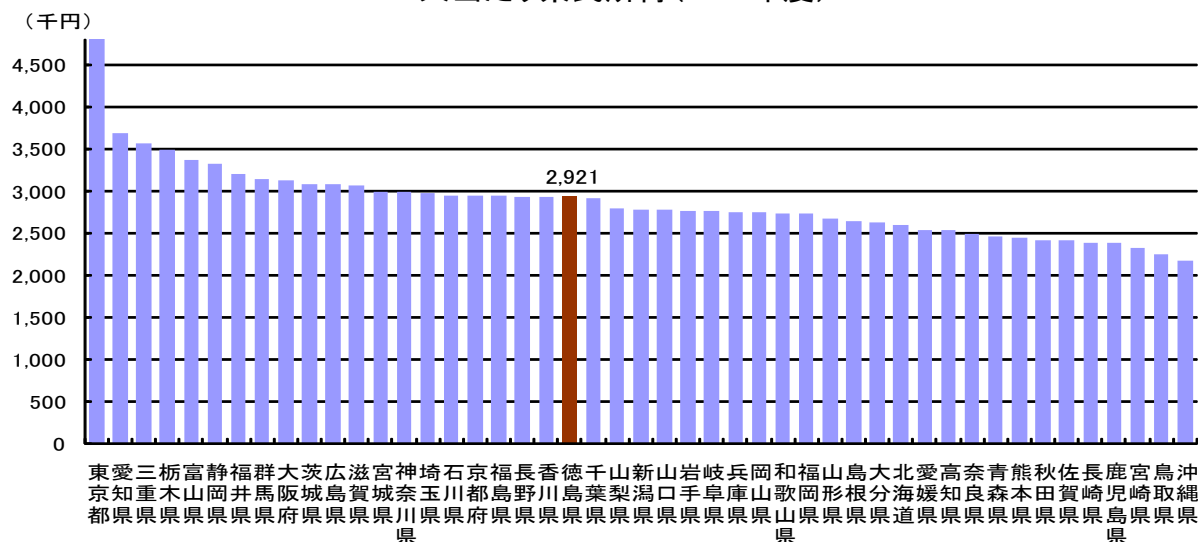
産業全般の姿

県内総生産(名目)の推移



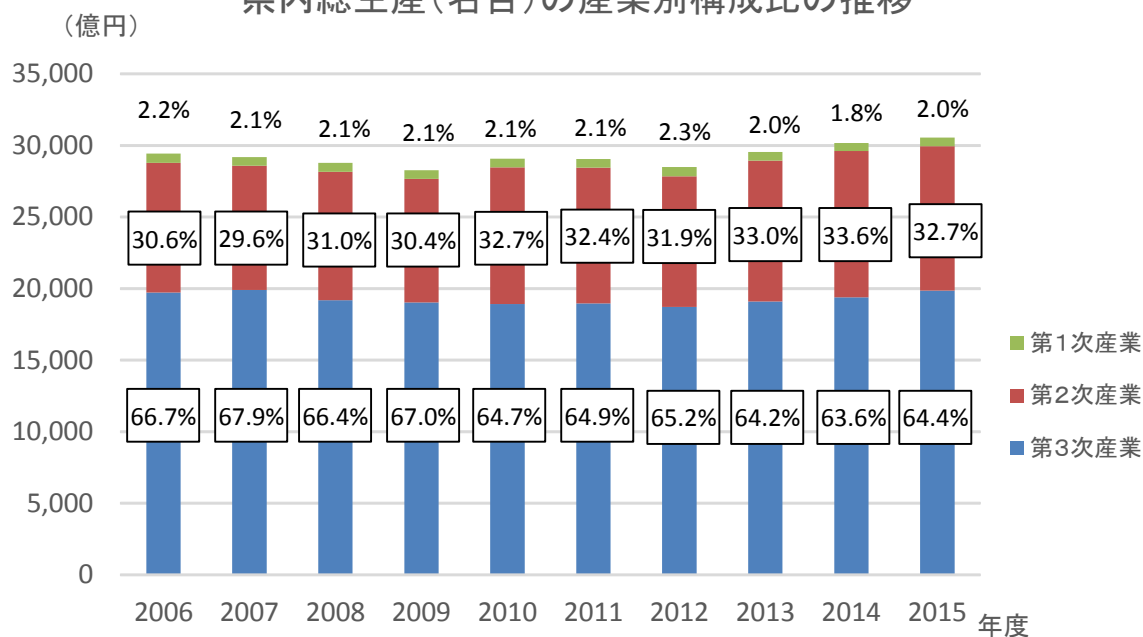
(出典) 徳島県「平成27年度 県民経済計算年報」

1人当たり県民所得(2015年度)



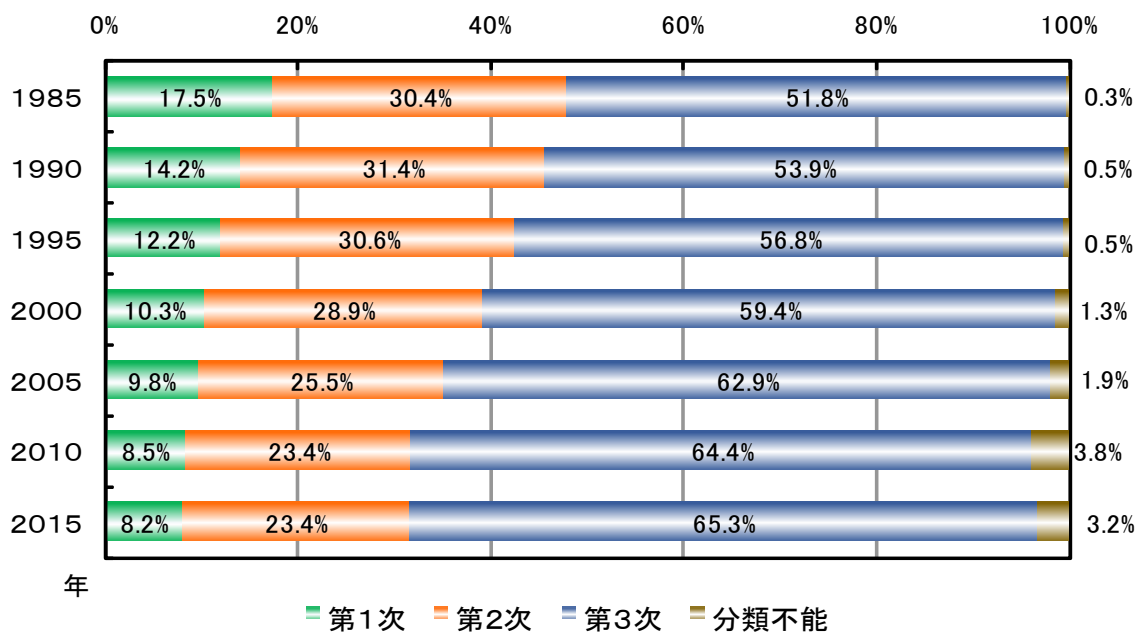
(出典) 内閣府「県民経済計算」

県内総生産(名目)の産業別構成比の推移



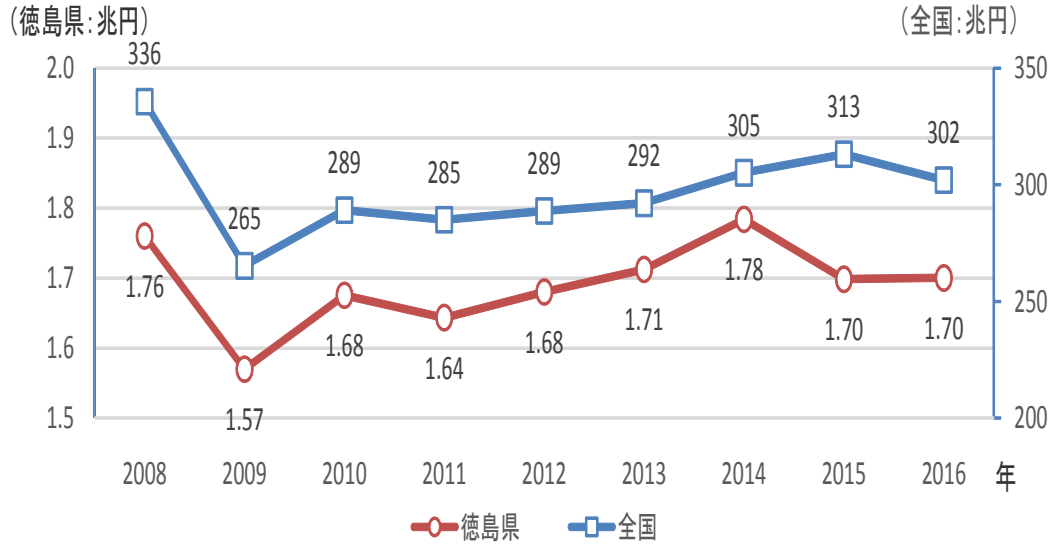
(出典) 徳島県「平成27年度 県民経済計算年報」

産業(3部門)別就業者数の推移(徳島県)



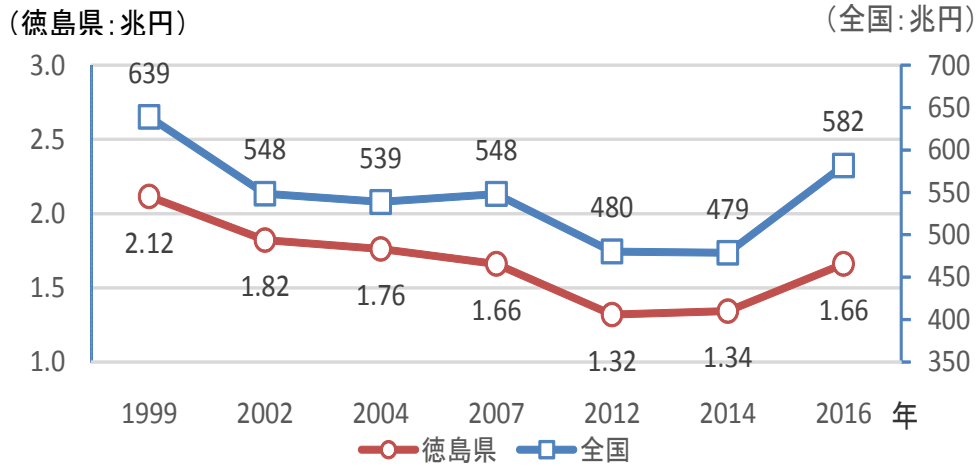
(出典) 総務省「国勢調査」

製造品出荷額等の推移



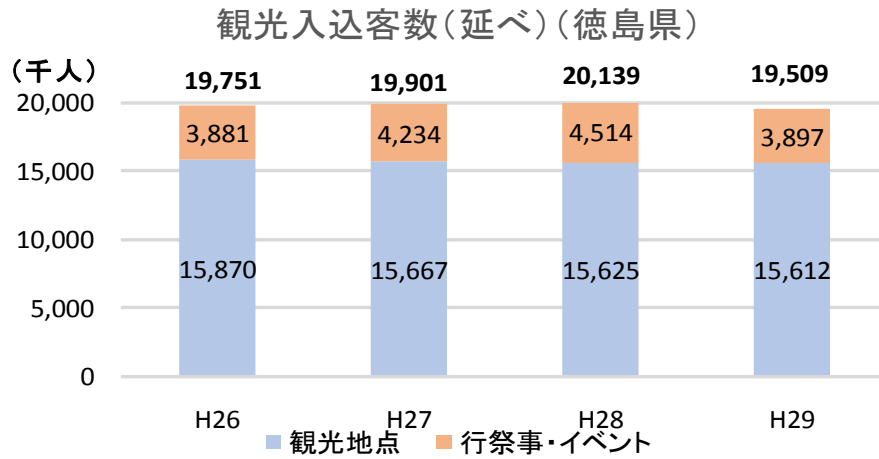
(出典) 経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

年間商品販売額の推移

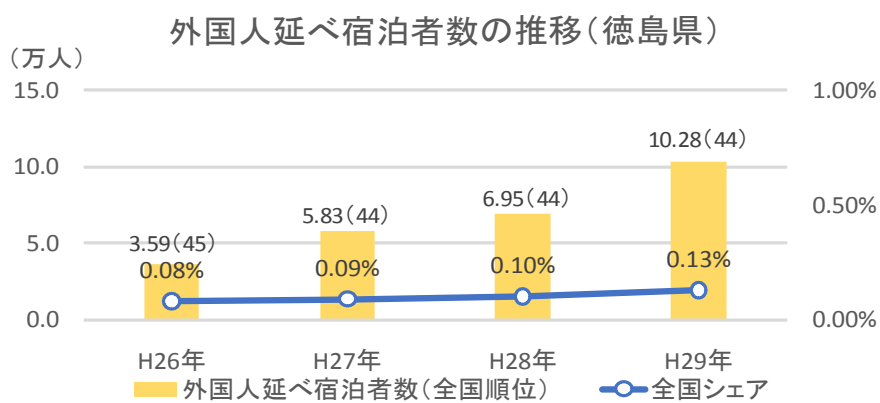
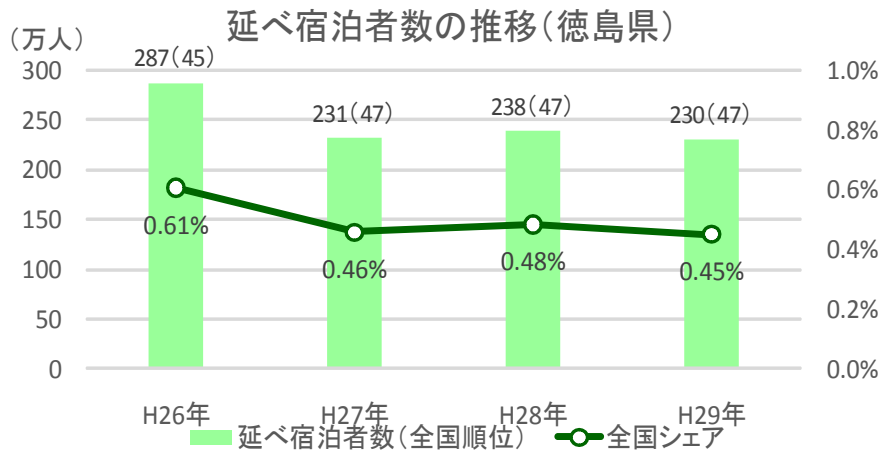


(出典) 経済産業省「商業統計調査」、総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」

観光業

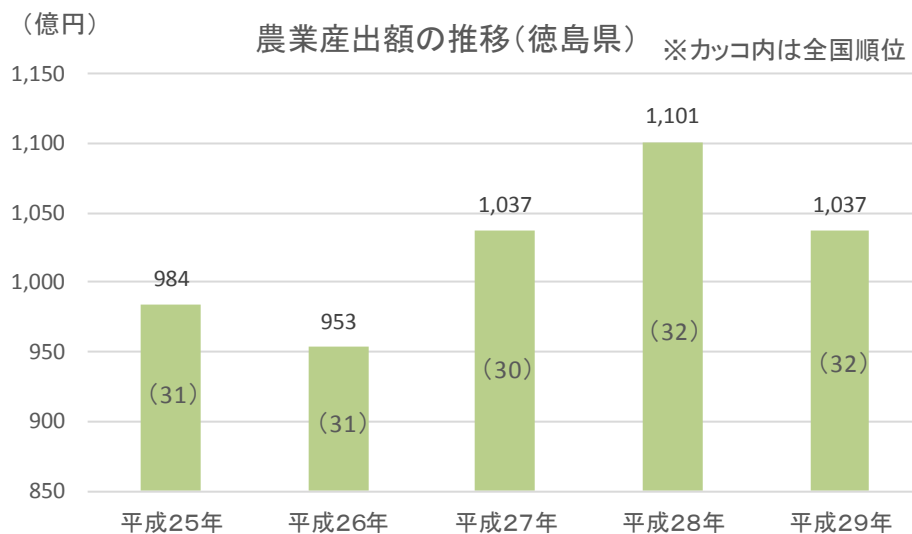


(出典)観光庁「全国観光入込客統計」

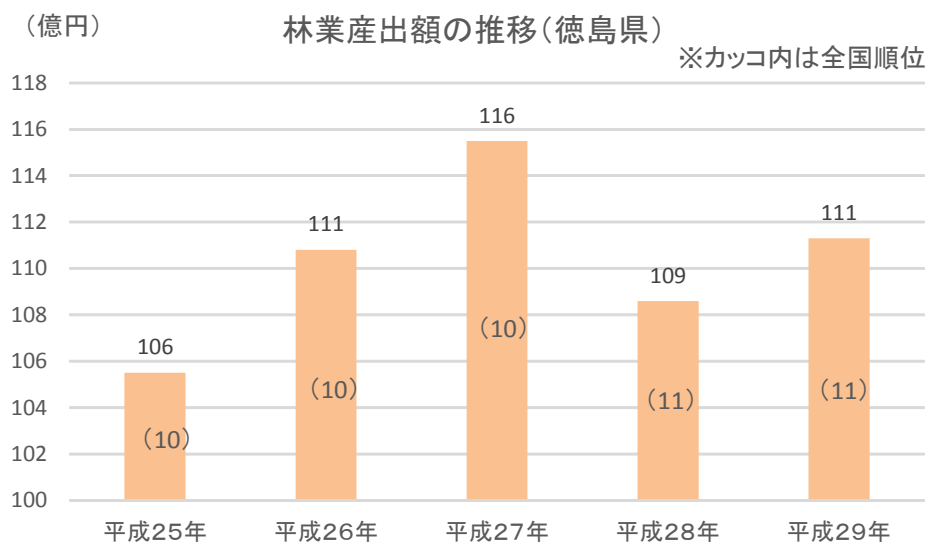


(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」

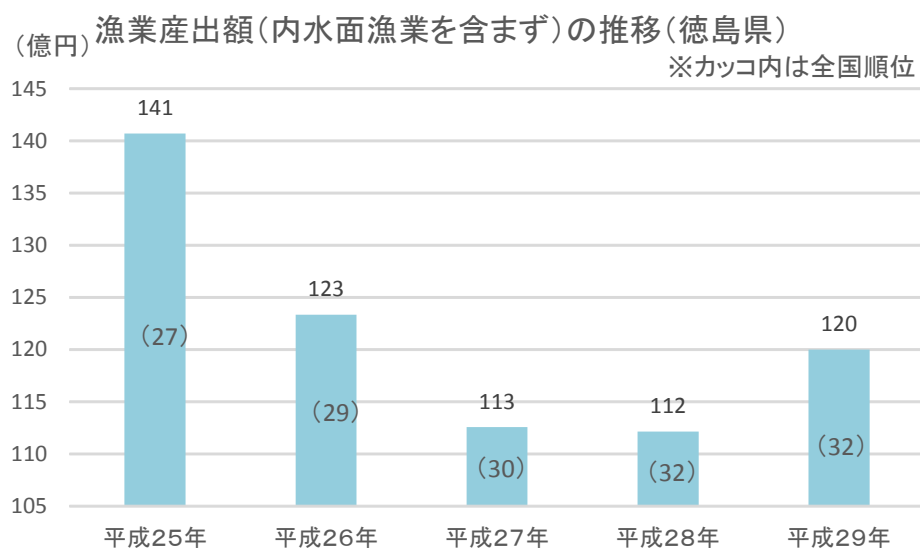
農林水産業



(出典)農林水産省「生産農業所得統計」



(出典)農林水産省「生産林業所得統計」



(出典)農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

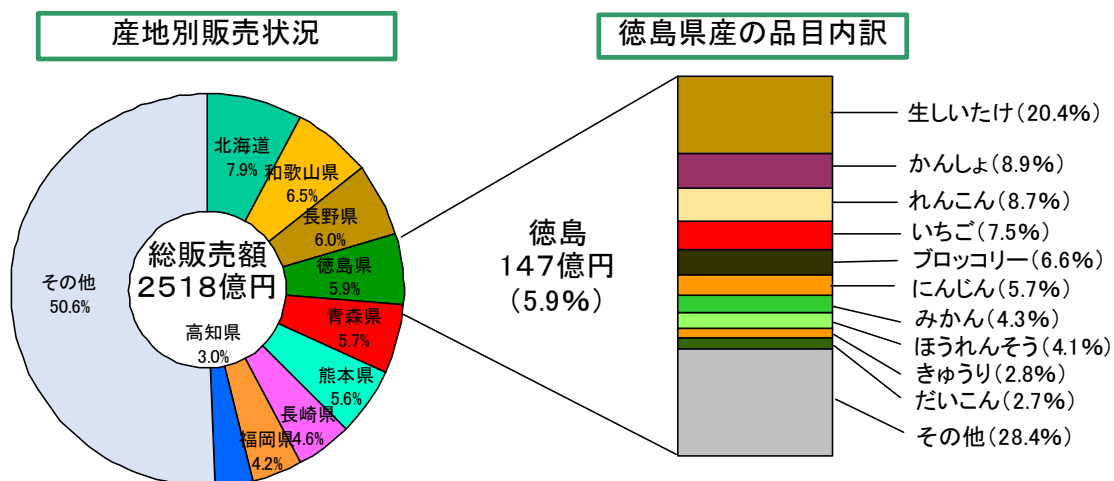
主な農畜水産物の出荷量

項目	単位	年次	徳島県	全国	全国シェア(%)	順位
春夏にんじん	トン	H29	49,700	153,700	32.3	1
れんこん	トン	H29	5,650	51,600	10.9	2
かんしょ	トン	H29	30,300	807,100	3.8	5
カリフラワー	トン	H29	1,850	17,000	10.9	2
ブロッコリー	トン	H29	8,120	130,200	6.2	6
なす	トン	H29	6,480	241,400	2.7	11
すだち	トン	H27	4,184.0	4,274.9	97.9	1
ゆず	トン	H27	2,658.8	21,020.9	12.6	3
生しいたけ	トン	H29	8,150.4	69,638.7	11.7	1
洋ラン類(切り花)	千本	H29	2,100	15,400	13.6	2
ブロイラー	千羽	H29	17,813	689,230	2.6	6
わかめ類(養殖)	百トン	H29	49.92	511.14	9.8	3
あゆ(養殖)	トン	H29	210	5,053	4.2	6

(出典) 農林水産省「野菜生産出荷統計」、「作物統計調査」、「特産果樹生産出荷実績調査」、
「特用林産物生産統計調査」、「花き生産出荷統計」、「畜産統計調査」、「漁業・養殖業生産統計年報」
独立行政法人家畜改良センター兵庫牧場「都道府県等における地鶏、銘柄鶏の生産利用状況」
ブロイラーについては平成29年2月1日から平成30年2月1日までの出荷羽数
かんしょ、わかめ類(養殖)、あゆ(養殖)については収穫量、生しいたけは生産量

大阪中央卸売市場での県産青果物の位置(2017年)

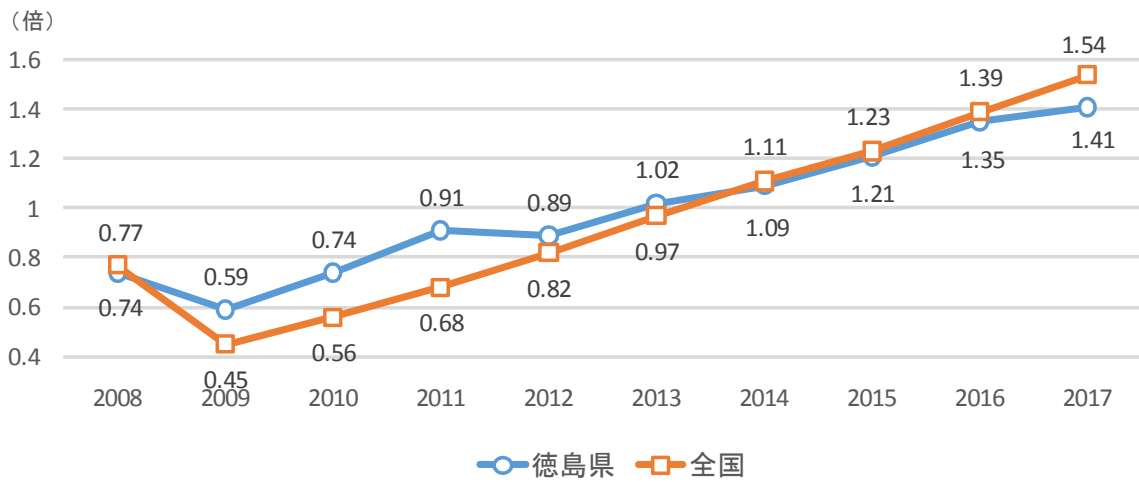
大阪中央卸売市場での県産青果物の位置(2017年)



(出典) 大阪市中央卸売市場年報、大阪府中央卸売市場年報

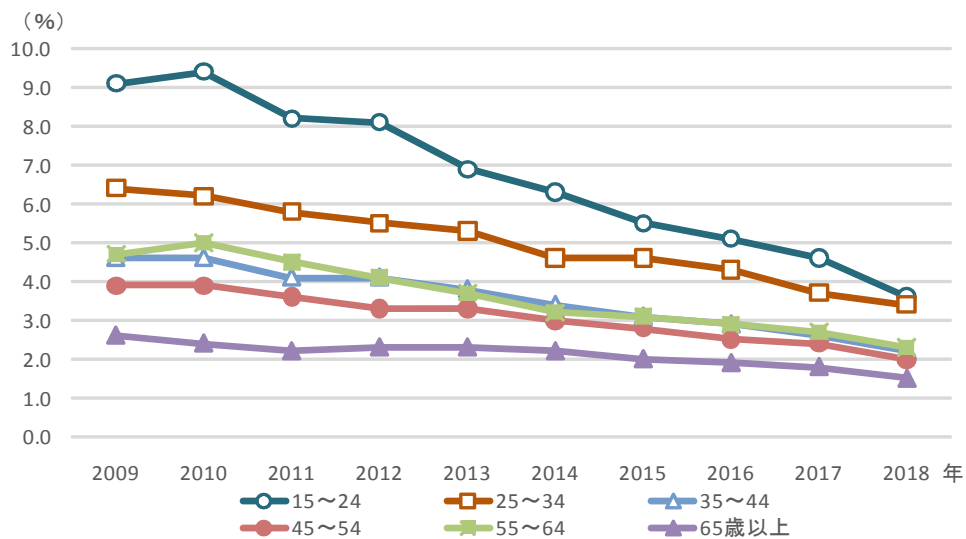
雇用の状況

有効求人倍率の推移



(出典)厚生労働省「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」

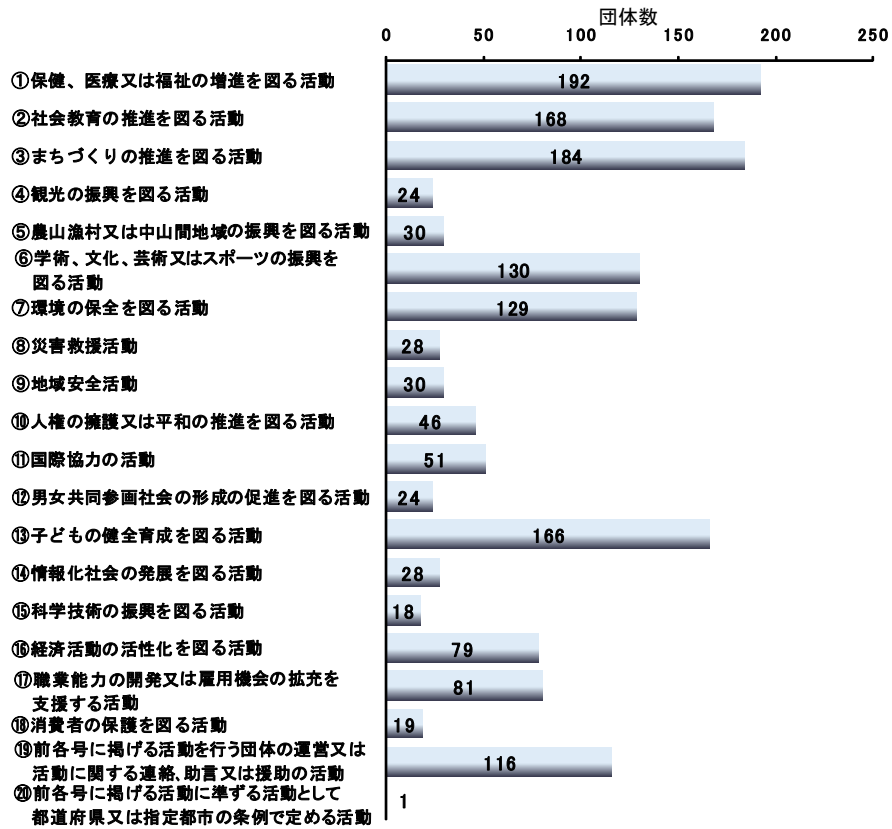
年齢階級別完全失業率の推移(全国)



(出典)総務省「労働力調査」

(4) 多様な主体による地域づくり

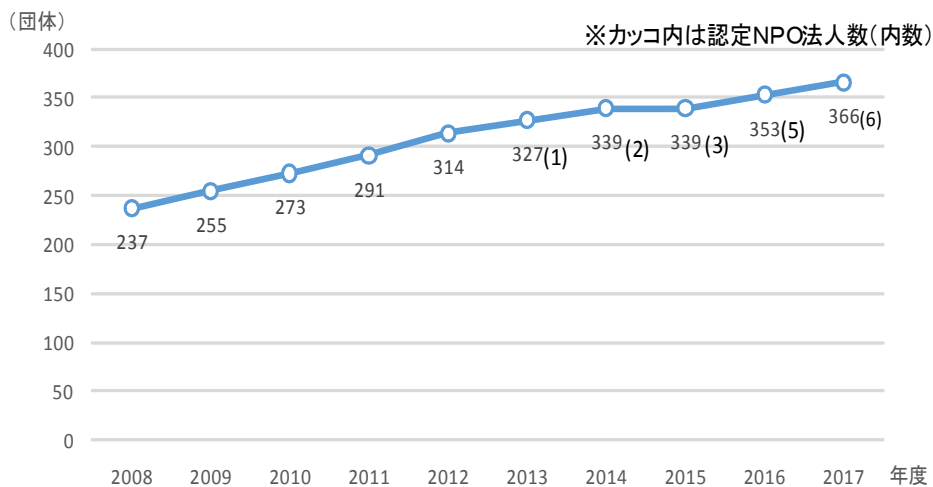
県内NPO法人(認証済み366団体)の活動分野別団体数
(平成30年3月31日現在)



※活動分野が複数の場合有り

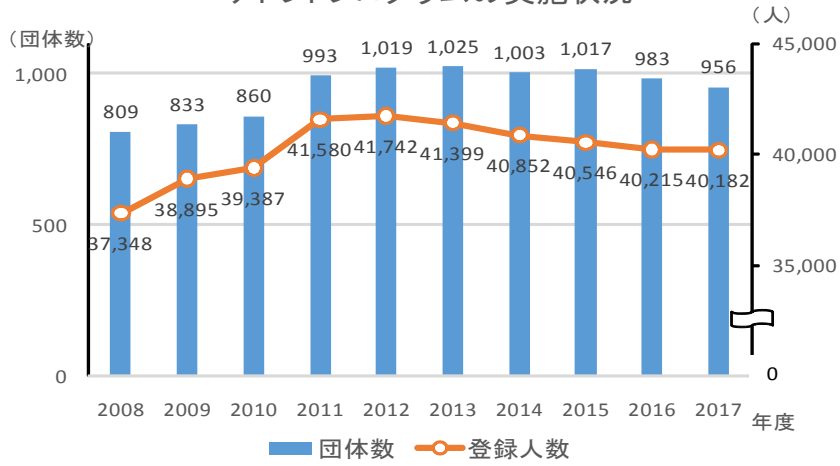
(出典) 徳島県資料

NPO法人認証数の推移



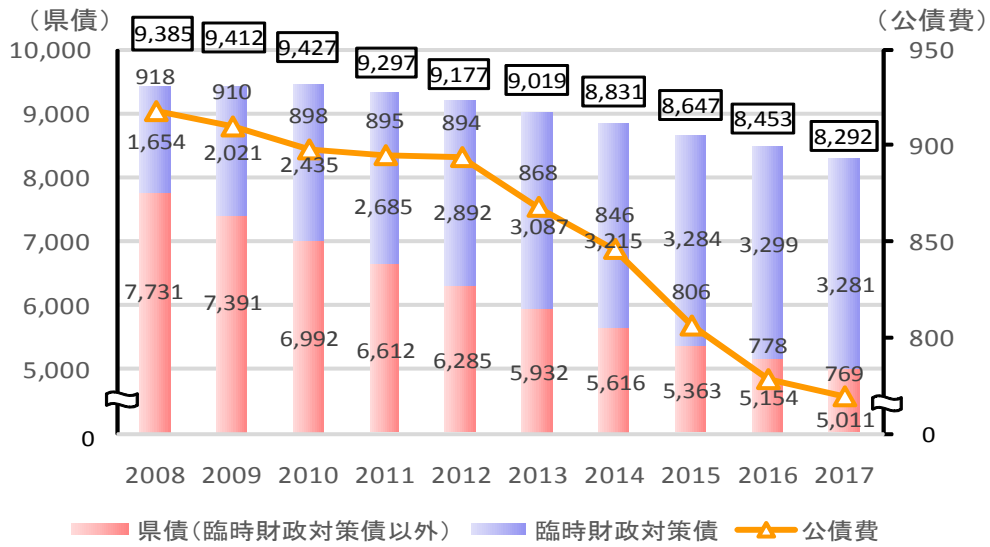
(出典) 徳島県資料

アドプトプログラムの実施状況



(出典) 徳島県資料

県債残高と公債費の推移(億円)



(出典) 徳島県資料

2 県民意見の反映

(1) パブリックコメント

【パブリックコメント（アイデア募集型）】

- ・ 募集名称 「私が描く“とくしまの未来の姿”」
- ・ 募集期間 平成30年5月9日～6月30日
- ・ 募集内容 2060年頃（長期ビジョン）と2030年頃（中期プラン）の「とくしまの未来の姿」（徳島県の将来像）。テーマは自由。
- ・ 意見数 106件

【パブリックコメント】

- ・ 募集期間 令和元年5月17日～6月13日
- ・ 募集内容 素案に対する意見・提案を募集
- ・ 意見数 83件

(2) 若者からのご意見・ご提言

徳島県総合計画審議会・若者クリエイイト部会（若者意見取りまとめ）

<若者意見取りまとめにあたっての取組み ①>

【高校生・大学生アンケート】

- ・ 実施期間 ・ 平成30年5月22日～6月8日（全日制，定時制）
・ 平成30年11月5日～11月12日（特別支援）
- ・ 実施内容 「2060年頃に希望する徳島像」、「徳島県の良いところ・良くないところ」等について調査。
- ・ 意見数 1,486人

【大学生アンケート】

- ・ 実施期間 平成30年5月30日～6月30日
- ・ 実施内容 「2060年頃に希望する徳島像」、「徳島県の良いところ・良くないところ」等について調査。電子アンケートで実施。
- ・ 意見数 454人

徳島県に関する高校生・大学生アンケート結果概要

	県内高校生・特別支援学校生	県内大学生
回答数	1,486人	454人 ※本県出身者50%
◆徳島県への定住指向 ・ずっと住みたい ・県外に出ても戻って住みたい ・住みたくない	15.5% 30.2% 23.1%	20.0% 11.0% 25.6%
◆定住したい理由	①人のつながり ②豊かな自然 ③治安がよい ④阿波おどりや方言に愛着	①人のつながり ②豊かな自然 ③阿波おどりや方言に愛着 ④希望する就職先がある
◆定住したくない理由	①都会に興味 ②公共交通の便が悪い ③娯楽・レジャー施設がない ④希望する大学等がない	①その他 ②公共交通の便が悪い ③希望する就職先がない ④娯楽・レジャー施設がない
◆定住したくない場合の希望する居住地	①近畿圏 41.9% ②首都圏 31.1% ③徳島以外の地 15.1% ④中京圏 6.7%	①近畿圏 35.3% ②徳島以外の地 34.5% ③首都圏 21.6% ④中京圏 4.3%
◆将来希望する仕事	①医療・福祉（保育所含む） ②分からない ③教育・学習支援 ④学術研究、専門・技術サービス ⑤公務	①医療・福祉（保育所含む） ②公務 ③分からない ④教育・学習支援 ⑤学術研究、専門・技術サービス
◆結婚したい時期	①20代後半 40.6% ②20代前半 33.4% ③分からない 13.8%	①20代後半 54.8% ②20代前半 21.1% ③分からない 9.7%
◆子どもを持ちたい時期	①20代後半 45.5% ②分からない 17.4% ③30代前半 13.3%	①20代後半 53.7% ②30代前半 16.3% ③分からない 10.6%
◆徳島県の良いところ（自由回答）	豊かな自然、阿波おどり、伝統文化が素敵、優しい人が多い、近所づきあいが良い、地域のつながりが深い、治安、食べ物、住みやすい、静かで落ち着いている、買い物に困らない、マチ☆アソビがある、保育施設・病院が充実	
◆徳島県の良くないところ（〃）	公共交通の便（車がないと動けない）、交通マナー、レジャー施設等がない、田舎すぎる、南海トラフ巨大地震、高校入試に学区制がある、希望する就職先がない	
◆2060年頃に希望する徳島像	①大規模災害への備えが万全 ②若い世代が安心して働き、結婚、出産、子育てが可能 ③治安が良く、安全・安心 ④日常生活に必要な買い物や移動手段が確保 ⑤自然や故郷の風景が継承	①若い世代が安心して働き、結婚、出産、子育てが可能②大規模災害への備えが万全 ③高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生活 ④治安が良く、安全・安心 ⑤自然や故郷の風景が継承

<若者意見取りまとめにあたっての取組み ②>

【対話集会「新未来セッション」】

- ・開催日、会場 （東部）平成30年7月12日（木）城ノ内高等学校
（南部）平成30年7月13日（金）富岡東高等学校
（西部）平成30年7月17日（火）池田高等学校
- ・参加者 県内高校生、大学生、地域で活躍されている方々、
若者クリエイト部会員 計133人
- ・内容 「地方創生の取組み」を動画で紹介した後、参加者間でのディスカッションや「インターネット投稿掲示板」を活用し、意見を受付。



東部圏域（会場：城ノ内高等学校）



南部圏域（会場：富岡東高等学校）



西部圏域（会場：池田高等学校）

<アンケート、新未来セッションでの主な意見>

※徳島県総合計画審議会・若者クリエイティブ部会 平成30年度「若者意見取りまとめ」より抜粋

◆ポジティブな意見

- 豊かな自然がある、阿波おどりや伝統文化が素敵、地域のつながりが深い、保育施設が充実

◆ネガティブな意見

- 公共交通の便が悪い(車がないと動けない)、レジャー施設等がない、希望する就職先がない

◆希望する徳島像

- 地域のつながりがあり、子育てしやすい地域であってほしい
- 出産・子育て・就業等、社会全体で若者を育むことができる安定した社会であってほしい
- 徳島県人がもっと地域（徳島）のことや魅力を知る必要がある
- 徳島県人が徳島にもっと誇りを持つべき
- 多様な仕事があり、子どもから高齢者まで、全ての人が生きがいを持って生活できる社会

特に注力してほしい4分野

- ① 阿波で育てる
- ② 阿波を知る
- ③ 阿波で働く
- ④ 阿波を活かす

<今後に向けた提言>

※徳島県総合計画審議会・若者クリエイティブ部会 平成30年度「若者意見取りまとめ」より抜粋

◆県政に若者意見を取り入れるための仕組みづくりとして、「新未来セッション」スタイルの導入

今回実施した「新未来セッション」での若者の声を踏まえ、新たな意見聴取の仕組みとして、現在の審議会・部会での議論に加え、新未来セッションのような“若者との対話集会”スタイルの取り入れを提案。